

福岡県立大学 中期計画に関わる 自己点検・評価報告書

令和3年6月

公立大学法人福岡県立大学

法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人福岡県立大学
所在地	福岡県田川市大字伊田4395番地
設立の根拠となる法律	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	8,530,220,100円(全額 福岡県出資)
沿革	<p>昭和20年(1945)4月 福岡県立保健婦学校開設</p> <p>昭和27年(1952)7月 福岡県立保育専門学院開設</p> <p>昭和42年(1967)4月 福岡県社会保育短期大学(保育科、社会福祉科)開学</p> <p>平成 4年(1992)4月 福岡県立大学(人間社会学部)開設</p> <p>平成 9年(1997)4月 大学院人間社会学研究科(修士課程)開設</p> <p>平成15年(2003)4月 看護学部開設</p> <p>平成18年(2006)4月 公立大学法人福岡県立大学に移行</p> <p>平成19年(2007)4月 大学院看護学研究科(修士課程)開設</p>
法人の目標	<p>公立大学法人福岡県立大学は、地(知)の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを使命とする。</p> <p>理事長のリーダーシップの下、魅力ある大学づくりを一層推進し、社会から高く評価される大学となるために、以下について取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成する。 ・地域の保健・医療・福祉の発展や大学の特色ある教育に有用な研究を重点的に推進するとともに、地域社会のニーズを踏まえた実践的な研究に取り組む。 ・大学の特色を生かして、社会人のリカレント教育の充実や、県民の生涯学習を推進するとともに、地域の教育活動を支援する取組や保健・福祉の向上に貢献する取組を積極的に実施する。 <p>1 教育:(1)特色ある教育の展開、(2)教育活動の活性化、(3)意欲ある学生の確保、(4)学生支援の充実</p> <p>2 研究:(1)特色ある研究の推進、(2)研究の実施体制等の整備</p> <p>3 地域貢献及び国際交流:(1)地域社会への貢献、(2)国際交流の推進</p> <p>4 業務運営の改善及び効率化:(1)大学運営の改善、(2)事務等の効率化・合理化、(3)社会的責任・安全管理の徹底</p> <p>5 財務内容の改善:(1)財務基盤の強化、(2)経費の節減</p> <p>6 自己点検評価及び情報の提供:(1)自己点検・評価、(2)情報公開・広報</p>
法人の業務	<p>1 福岡県立大学を設置し、これを運営すること。</p> <p>2 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。</p> <p>3 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。</p> <p>4 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。</p> <p>5 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。</p> <p>6 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。</p>

2. 組織・人員情報			
(1) 役員			
役員の数、公立大学法人福岡県立大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また、役員任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。			
役職	氏名	任期	主な経歴
理事長(学長)	柴田 洋三郎	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	昭和46年 3月 九州大学医学部卒業 昭和56年 7月 シカゴ大学客員准教授 昭和63年 9月 九州大学教授 平成 8年 9月 九州大学学生部長 平成 9年 4月 九州大学副学長(～平成14年3月) 平成15年10月 九州大学副学長 平成16年 4月 九州大学理事・副学長 平成22年 4月 独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括官 平成24年 4月 公立大学法人 福岡県立大学 理事長・学長
常務理事(事務局長)	吉村 静男	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	昭和53年 4月 福岡県採用 平成15年 4月 漁政課長 平成23年 4月 人事委員会次長 平成25年 4月 水資源対策長 平成27年 4月 公立大学法人福岡県立大学 常務理事(事務局長)
理事(学外)	古野 金廣	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	昭和47年 5月 麻生セメント(株)入社 平成 元年 4月 麻生教育サービス(株)代表取締役社長 平成19年 7月 学校法人麻生塾副理事長 平成19年12月 麻生レコードマネジメント(株)代表取締役 社長 平成28年 6月 公立大学法人福岡県立大学理事 令和 2年 4月 学校法人福岡双葉学園副理事長
理事(学外)	芳賀 晟壽	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	昭和51年 1月 (社)北九州青年会議所理事長 昭和56年 8月 (株)芳賀代表取締役社長・会長 昭和56年12月 芳賀教育文化振興会理事長 昭和62年10月 福岡県教育委員会委員・委員長 平成 2年11月 社会福祉法人年長者の里理事長 平成 3年 7月 北九州商工会議所常議員 平成14年10月 (社)北九州高齢者福祉事業協会会長 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学理事 平成20年 4月 北九州市社会福祉協議会会長

理事(学内)	上野行良	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	平成 6年 3月 東京都立大学人文科学研究科 博士課程単位取得退学 平成 5年10月 福岡県立大学講師 平成10年 2月 福岡県立大学助教授 平成19年 4月 福岡県立大学准教授 平成20年 4月 福岡県立大学教授 平成30年 4月 福岡県立大学人間社会学部長 兼人間社会学研究科長 令和 2年 4月 福岡県立大学教員兼務理事
理事(学内)	松浦賢長	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	平成 2年3月 東京大学医学系研究科博士課程修了 平成 3年3月 カリフォルニア大学バークレー校研究助手 平成 5年4月 京都教育大学教育学部助教授 平成 9年3月 カリフォルニア大学バークレー校客員研究員 平成15年4月 福岡県立大学看護学部教授 平成20年4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属図書館長 平成22年4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属研究所長 平成25年4月 福岡県立大学教員兼務理事
監事	井上道夫	平成30年4月1日～令和3年度の 財務諸表の承認の日	平成 元年 4月 弁護士開業 平成 6年 4月 井上法律事務所開設 平成30年 4月 公立大学法人福岡県立大学監事
監事	梅田久和	平成30年4月1日～令和3年度の 財務諸表の承認の日	昭和60年 4月 麻生セメント入社 平成 7年10月 センチュリー監査法人入所 平成17年 6月 新日本監査法人マネージャー 平成17年 7月 梅田公認会計事務所開設 平成28年 4月 公立大学法人福岡県立大学監事

(2)教員

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
教員数	常勤(正規)	104人	108人	113人	112人	111人	106人	
	内訳	教授	23人	21人	25人	24人	25人	25人
		准教授	32人	34人	31人	32人	32人	29人
		講師	23人	24人	25人	24人	22人	23人
		助教	21人	21人	20人	22人	23人	20人
		助手	5人	8人	12人	10人	9人	9人
	非常勤講師	70人	68人	63人	63人	56人	57人	
合計	174人	176人	176人	175人	167人	163人		

教員数増減の主な理由

--

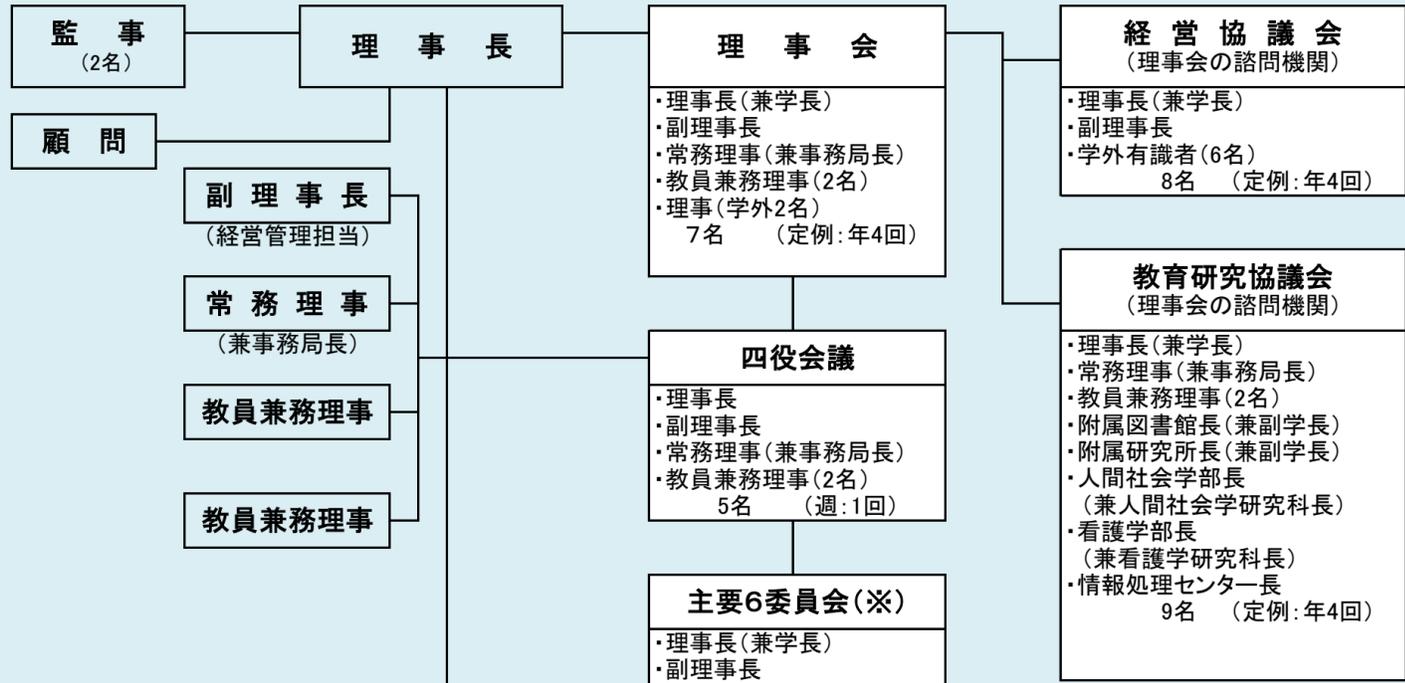
(3)職員										
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度			
職員数	事務局長	1人	1人	1人	1人	1人	1人			
	正規職員	県派遣	13人	14人	14人	13人	13人	13人		
		プロパー	7人	7人	7人	8人	8人	8人		
		他団体派遣	0人	0人	0人	0人	0人	0人		
		その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人		
		計	20人	21人	21人	21人	21人	21人		
	嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	13人	15人	13人	14人	14人	15人			
合計	34人	37人	35人	36人	36人	37人				
職員数増減の主な理由										
(4)法人の組織構成										
別紙のとおり										
3. 学生に関する情報										
関連する学部・大学院	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a)×100	定員充足率の推移 (%)					
					27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
人間社会学部	計	630人	692人	110%	113	112	112	114	112	110
内訳	人間社会学部	600人	664人	111%	115	112	114	115	113	111
	公共社会学科	200人	217人	109%	116	113	111	113	109	109
	社会福祉学科	200人	220人	110%	118	113	116	117	114	110
	人間形成学科	200人	227人	114%	110	112	114	114	115	114
大学院	人間社会学研究科	30人	28人	93%	90	97	83	93	100	93
看護学部	計	384人	413人	108%	100	101	98	105	110	109
内訳	看護学部	360人	388人	108%	101	101	98	106	110	108
	看護学科	360人	388人	108%	101	101	98	106	110	108
	大学院 看護学研究科	24人	25人	104%	92	100	100	96	121	104
収容定員と収容数に差がある場合の主な理由										
看護学部の定員充足率が100%を超えている主な理由は、入学者数が定員を超過しているため。										

4. 審議機関情報			
(1)経営協議会			
区分	氏名	任期	現職
理事長	柴田洋三郎	令和2年4月1日～令和4年3月31日	公立大学法人福岡県立大学理事長
学外委員	二場公人	令和2年4月1日～令和4年3月31日	田川市長
	齋藤明	令和2年4月1日～令和4年3月31日	前 独立行政法人大学入試センター 監事
	亀川寿	令和2年4月1日～令和4年3月31日	田川商工会議所 会頭
	秋吉一明	令和2年4月1日～令和4年3月31日	福岡県立大学と共に歩む会 会長
	野口久美子	令和2年4月1日～令和4年3月31日	福岡県立大学同窓会 会長
	八色俊之	令和2年4月1日～令和4年3月31日	福岡県立田川高等学校 校長
(2)教育研究協議会			
区分	氏名	任期	現職
学長(理事長)	柴田洋三郎	令和2年4月1日～令和4年3月31日	公立大学法人福岡県立大学理事長
学部長	池田孝博	令和2年4月1日～令和4年3月31日	人間社会学部長兼人間社会学研究科長
	江上千代美	令和2年4月1日～令和4年3月31日	看護学部長兼看護学研究科長
学内組織の長	小池祐子	令和2年4月1日～令和4年3月31日	副学長兼附属図書館長
	石崎龍二	令和2年4月1日～令和4年3月31日	副学長兼附属研究所長、情報処理センター長
	上野行良	令和2年4月1日～令和4年3月31日	教員兼務理事
	松浦賢長	令和2年4月1日～令和4年3月31日	教員兼務理事
	吉村静男	令和2年4月1日～令和4年3月31日	事務局長

公立大学法人福岡県立大学組織図

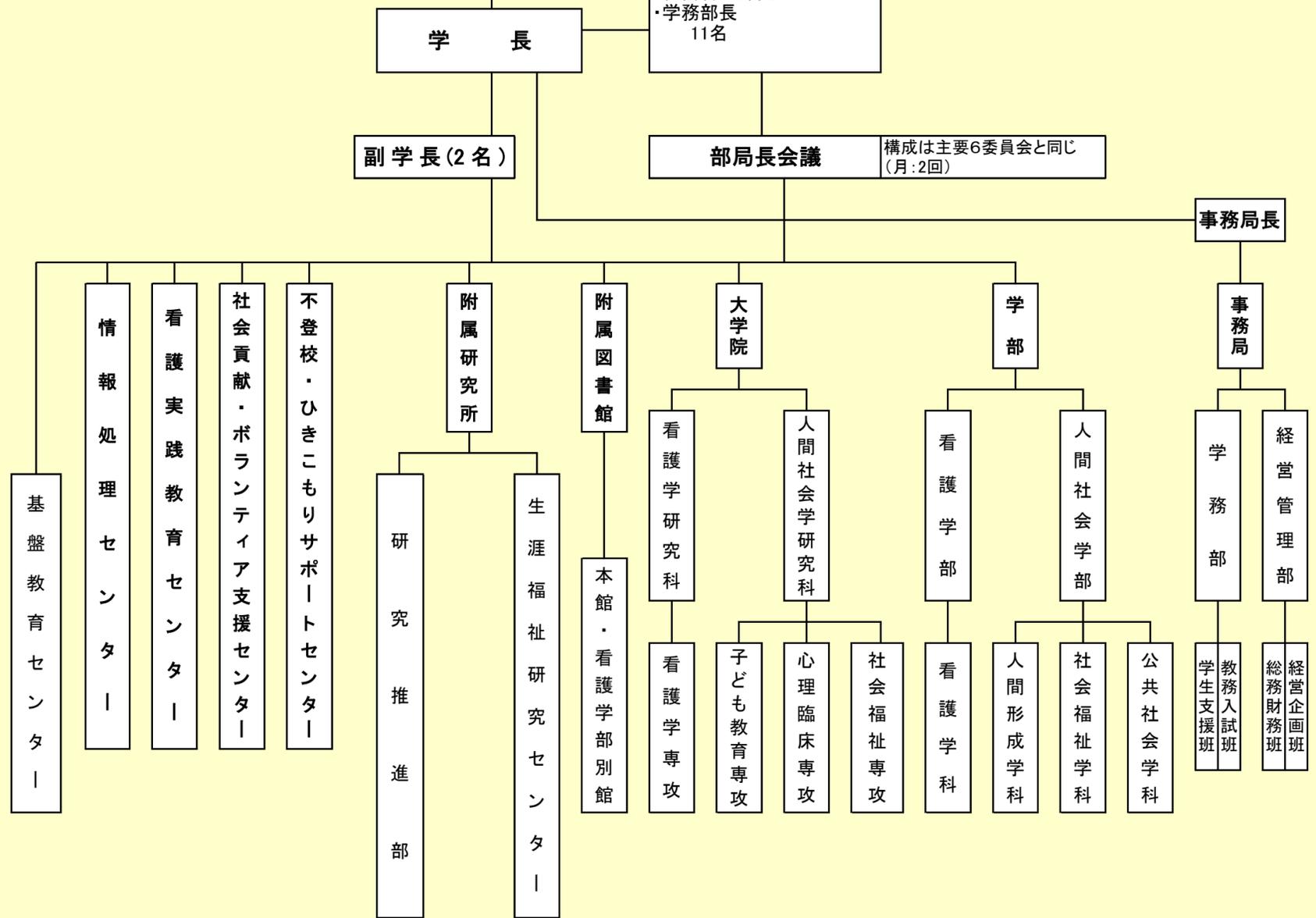
令和2年4月1日現在

法人



(※)改革推進、総務人事、予算、教務入試、学生、地域連携
注 令和2年4月1日現在 副理事長は欠員

大学



全体評価

中期目標項目	法人自己評価
I 全体	<p>【令和2年度】</p> <p>公立大学法人である本学は、福祉系の公立大学として保健・医療・福祉の高度な専門的人材の養成、地域に貢献する研究及び社会活動の推進の役割を担っています。</p> <p>第3期中期計画期間の3年目となる令和2年度は、第2期中期計画期間に引き続き、学長のリーダーシップのもと、大学改革を推進し、特に内部質保証と内部統制の強化・向上に努めました。</p> <p>年度初めからのコロナ禍において、臨機応変に対応する高い“機動力”が必要となりましたが、学長主導のもと、内部統制・ガバナンスを向上させ“機動力”を磨くことにより、教育研究におけるコロナ禍の影響を最小限に留めることができました。特に、福岡県の全面的な財政支援により、年度当初にいち早く遠隔授業に対応する環境を整備しました。同時に新入生に対する遠隔授業研修会も実施し、その結果、学年暦どおりに授業を開始することができました。</p> <p>内部質保証と内部統制の強化・向上については、まず組織の見直しを行いました。これまで内部質保証を担ってきたIR推進室に加え、内部質保証・サイクル推進会議を設置し運用を開始しました。内部質保証・サイクル推進会議は、内部質保証の観点から大学活動のPDCAサイクル推進について絶えず取り組み、IR推進室によるPDCAサイクル評価を受けて、大学活動の改善を行うことを目的としています。さらに、IRサイクル総合会議を設置しました。IRサイクル総合会議は、内部質保証サイクル推進についての進捗管理及び随時評価を行い、大学活動の改善を行うことを目的としています。これらの重層的な組織改編により、内部質保証の取り組みが偏ることのないよう進められました。また、これら3つの組織が共同で大学改革セミナーを2回開催し、全学の教職員に内部質保証の取り組みへの参画を促しました。</p> <p>入口管理は、教職協働体制のもと、初めてオンラインにてオープンキャンパスを2回実施することができました。約850人の参加を得るとともに、受験直前の3年生の参加が増えたこと、並びに遠方からの参加ができたことにより、従来あまり見られない地域からの合格者が見られたという成果につながりました。また、高校生にも門戸を広げた学部の授業参観ウィークを一部オンラインにて実施しました。これらの結果、学部・一般入試の志願倍率が目標とする4倍を大きく上回り7倍となりました。</p> <p>出口管理は、学生委員会の下に置かれた進路・生活支援部会を中心に国家試験対策に取り組み、新卒者における国家試験合格率は、看護師99%、保健師100%、助産師100%、社会福祉士67%、精神保健福祉士100%といずれも全国平均を上回る合格率を達成することができました。就職対策については、組織改編の一環として就職・キャリア支援業務を一体化することにしました。学生支援班のキャリア支援担当、就業力向上支援室、キャリアサポートセンターの3部署を統合した「キャリアオフィス」を学生支援班に設置し、2号館2階地域文化資料室跡を業務場所として令和3年4月から業務を実施するための準備を行いました。</p> <p>教育は、全学横断型教育プログラムの保健福祉情報プログラムとキャリア支援プログラムに関連して、「学修証明書(データサイエンス)(キャリアマネジメント)」を発行する仕組みを開始しました。また、緊急事態宣言等の発出に合わせ、対面授業と遠隔授業を切り替えながら教育を進めるにあたり、その間の学生ニーズを把握するために、学生生活総合調査を2回行いました。学生調査の結果は、学修面と生活面の両面から迅速に評価され、部局長会議等で共有しました。それにより、教育の質向上と生活支援の各種取り組みにつながることができました。e-ラーニングシステムの利用については、375コースを開設し、学生の利用率は99%となりました。経済的に修学が困難な学生に対する支援については、修学支援新制度に基づく授業料減免、大学独自の授業料減免、分割納付による学生支援を実施しました。また、新たに整備された真島・市場特別奨学金による支援を3人に実施しました。その他、国の追加支援を積極的に周知・活用することにより、補助申請ができる範囲をほぼ満たすことができました。これにより、経済的理由による就学困難者の発生を防ぐことができました。</p> <p>研究は、積極的に外部研究資金の導入を推進しました。外部研究資金の応募件数は55件、獲得件数は42件と目標を大きく上回りました。研究倫理の徹底については、対面会議方式でおこなった研修・説明会を動画撮影し、全学教職員が随時視聴できるようにしました。研究果の公表については、附属研究所と図書館が連携し、附属研究所研究奨励交付金の令和2年度の成果報告書を機関リポジトリに収録することとしました。</p> <p>地域連携に基づく活動は、コロナ禍の影響を受け、活動実数は減少しましたが、各センターを中心に着実に行うことができました。特に、不登校・ひきこもりサポートセンターは、オンライン機器を利用した新たな不登校支援の取り組みをはじめました。</p> <p>国際交流については、コロナ禍の影響を受け、受入留学生は3名、派遣留学生が1名となりました。令和元年度派遣留学生7名を国際交流チューターに委嘱し、コロナ禍における取組として、国際交流チューター自身の留学体験の紹介動画を作成しました。協定締結校との教員交流については実施を見合わせました。</p> <p>総合的にはコロナ禍の影響を受け、大学の基礎体力と柔軟性、そして機動力が試される年となりました。これらについては、学長のリーダーシップのもと、内部質保証と内部統制・ガバナンスの強化・向上を図り、組織体制を常に見直しながら、乗り切ることができたと自己評価しています。危機に強い大学として、平時の基礎体力と柔軟性を常に見直し、向上させていく重要性が教職員に共有された年となりました。</p>

II 中期目標	【令和2年度】
項目別	1 専門的支援力の養成等 特色ある体系的な教育課程の編成については、カリキュラムマップに従い、各科目と「DP」との関係を示シラバスで明示し、その授業目標に基づいて評価を行ないました。令和2年度はコロナ禍に対応して遠隔授業や、面接授業と遠隔授業のハイブリッド型授業を行うなど、状況に応じた教育方法を取り入れました。
1 教育	<p>教養教育の充実として、導入教育科目を遠隔授業形式で実施し、他の授業科目を学習する基盤を維持することができました。また、オリジナル書籍として発刊している教養演習教科書にはオンライン授業受講のための新章を加え、新型コロナ禍における導入教育に貢献できました。</p> <p>人間社会学部における専門教育の充実については、コロナ禍を踏まえてすべての資格免許の実習科目でコロナ対策ガイドラインを策定し、コロナ対策を講じつつ学修を問題なく進めることができました。全学横断型教育プログラムの「保健福祉情報教育プログラム」と「キャリア形成支援プログラム」の名称をそれぞれ「データサイエンス・プログラム」と「キャリアマネジメント・プログラム」に変更し、所定の条件を満たす学生には学修証明書を交付することにしました。</p> <p>看護学部における専門教育の充実については、新型コロナ感染症拡大のため臨地実習を学内実習に変更しました。学内に模擬病室を整備し、学内実習の学生実習スケジュールを変更し、科目間連携による全教員での指導体制を作りました。さらに、シミュレーターや模擬患者と家族によるリアリティのある事例、模擬患者の電子カルテの作成、遠隔地(学内・学外)にいる臨床指導者から直接、実習指導を受けるためにZOOMを活用した臨床指導・カンファレンス等を組み入れました。</p> <p>各種の国家試験合格率(看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士)は、全国平均を上回りました。</p>
	<p>2 高度専門職業人の人材育成 人間社会学研究科における体系的な教育課程の編成については、学修・研究指導の実態や1年での修了に対応するため、「特別研究」(2年4単位)の「特別研究Ⅰ」(通年4単位)、「特別研究Ⅱ」(通年4単位)への見直しを実施しました。</p> <p>看護学研究科においては、改訂したCPIに基づく教育課程の検討を行い、そのうち「課題研究(4単位)」「特別研究(8単位)」について単位に見合った教育内容、教育方法に見直しを行いました。</p> <p>連合大学院構想の他大学との調整については、令和2年度は緊急事態宣言(2月)終了後に、久留米大学医学部に説明を行いました。</p> <p>大学院の学修成果検証については、9月に在学中の大学院生の満足度調査を実施し、その結果を10月の研究科委員会で報告しました。11月に開催した座談会を経て、大学院生からの意見に対応した結果、2月の修了時の満足度調査の結果では、「学術的知識の習得ができた」が88%、「地域や社会への発展に関与できる力がついた」が88%、以上、全面改訂したシラバスも含めて、「総合的な学修成果の満足度」は、高い評価を得ることができました。</p>
	<p>3 教育活動の活性化 効果的なFDについては、対面とオンラインのハイブリッド型による学部の授業参観を実施しました。これまでで最も多くの教員が参加することができました。また、大学院の授業参観も実施しました。研究科教員が各自の専門領域以外の授業を聴講したことにより、他の教員の授業方法や他領域の研究内容を知ることができ、自らの教育方法をよりよくするための契機とすることができました。</p> <p>「学生生活総合アンケート」を10月20日(377人の回答)、2月17日(200人の回答)に実施しました。アンケートでは、コロナ禍における大学生生活の変容によるキャンパス内外での新たなストレスやニーズ等について問いました。調査結果から、遠隔授業は学生の受講上の利便性等を考慮し、オンデマンド方式(非同期型授業)による実施が必要であることが判明し、その後の授業方針に反映することができました。</p> <p>教育活動の定期的・多角的な評価の実施については、教務・共通教育部会において成績評価が適正に行われていることを確認するために学生によるフィードバックを求める「成績評価アンケート」を新たに作成し、4年生は卒業時に実施、1～3年生は成績評価通知後の令和3年度4月に実施する準備を整え、令和3年度に教員に還元しました。</p>
	<p>4 アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保 入学者のAP認知率は目標を上回る84%となりました。オープンキャンパスは初の全面オンライン開催とし、高評価を得ました。オンライン開催による効果としては、高校3年生の参加数増加と遠隔地からの参加数増加が見られました。</p> <p>学部・一般入試の志願倍率が目標とする4倍を大幅に上回り7倍となりました。学校推薦方選抜においては、アドミッション・ポリシーに対応するために、新たに調査書記載事項について本学アドミッション・ポリシーとの適合性から評価、また推薦書に本学アドミッション・ポリシーへの適性評価項目を追加、ともに評点に加えました。一般選抜試験についても調査書の記載項目評価を追加し、アドミッション・ポリシーに合った学生の確保に努めました。</p> <p>高校生向けセミナーであるオータムスクールは秋のオープンキャンパスと同時開催とし、オンライン形式にて実施し、高評価を得ました。</p>
	<p>6 キャリア支援 学生のキャリア支援体制の充実・強化については、就職・キャリア支援業務を一体化するため、学生支援班のキャリア支援担当、就業力向上支援室、キャリアサポートセンター上記の3部署を統合した「キャリアオフィス」を学生支援班に設置し、2号館2階の旧地域文化資料室を業務場所として令和3年度から業務を実施するための準備を行ないました。学生の就職・キャリア支援を行う統一的な活動主体を、学生及び外部者からわかりやすい形で整備することができました。就職率は98.7%(人間社会学部97.8%、看護学部100%)でした。</p> <p>県内の産業界等との連携強化については、プレ・インターンシップをリモートと通常の併用により実施したことで、地元の産業界から高い評価を得ることができました。</p>
	<p>実施事項別評価は、Aを7項目、Bを13項目とします。</p>
	<p>5 学生の学修支援と生活支援 学生の学修環境の整備については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全学的な遠隔授業の実施に対応するために、eラーニングシステムの増強、リアルタイム型の授業を行うためのZoomの有償契約、大容量の動画データを配信するためのVimeoの有償契約を行うことなどで対応しました。年間を通して遠隔授業を実施するためのシステム運営を行い、eラーニングコース開設数が前年度の142から375と大幅に増加し、学生の利用率も89%から99%と上昇しました。</p> <p>連携する7大学共同の学生コンソーシアムについては、本年度の本学学生委員は3年生2名、1年生6名の計8名が活動しました。学生コンソーシアム会議は計10回あり、2回目以降はオンラインにて開催しました。学生フェスティバル(かんたま祭)は、オンライン形式にて開催し、参加者は101名(内高校生は17名)でした。</p> <p>経済的に修学が困難な学生に対する支援については、学修支援新制度に基づく授業料減免、大学独自の授業料減免、分割納付による学生支援を実施しました。外部資金等を活用した本学独自の支援策については、真島・市場特別奨学金による支援を3人に実施したほか、「学びの継続」のための「学生支援緊急給付金」申請を受け付け、計三次におよび255人を給付対象として日本学生支援機構に申請するに至り、補助申請ができる範囲をほぼ満たすことができました。結果として、昨年度の授業料減免と比較して、大幅に採用人数を増やすことができ、経済的理由による就学困難者の発生を防ぐことができました。この成果は、学生生活総合アンケートにおいて、経済的な理由により就学継続が「非常に困難だと感じる」との回答割合が1.0%であったことから読み取ることができました。</p>

2 研究	<p>【令和2年度】</p> <p>1 特色ある研究の推進 学際的研究プロジェクトである重点領域研究を公募し、「地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データのGIS分析による地域診断モデルの開発」「子どもの健康と保育に関する専門職連携の模索―福岡県の医療及び保育の現場での実態調査と養成校の実践―」の2件を採択しました。また、三者連携協定を締結している福智町との共同研究を開始しました。</p> <p>2 研究の実施体制等の整備 附属研究所研究推進部を中心に、積極的に外部研究資金の導入を推進しました。外部研究資金の応募件数は55件、獲得件数は42件と目標を大きく上回りました。研究倫理の徹底については、対面会議方式でおこなった研修・説明会を動画撮影しました。それを全学教職員が視聴可能なクラウドサーバー上にアップロードし、オンデマンド聴講を可能にしました。</p> <p>3 研究水準向上と成果の公表 研究水準向上のための取り組みについては、附属研究所調整部会と研究奨励交付金審査委員会が連携して推進しました。重点領域研究の強化指定課題の1つを「医療福祉連携研究」から「医療福祉情報研究」に変更し、情報通信技術やデータを活用した保健・医療・福祉分野の課題解決を目的とした研究を奨励しました。それに合わせ、助成期間を1年間から2年間に延ばしました。研究成果の公表については、附属研究所と図書館が連携し、附属研究所研究奨励交付金の令和2年度の成果報告書から機関リポジトリに収録し、公表することとしました。</p> <p>実施事項別評価は、Bを8項目とします。</p>
3 地域貢献 及び国際交流	<p>【令和2年度】</p> <p>1 地域社会との連携 公開講座を4回実施しました。すべてオンライン講座としましたが、参加人数が昨年度から大幅に増加し、762人となりました。リカレント教育については、現役の看護師を対象とした「看護師の特定行為研修」を令和3年度から開講するにあたり、令和2年度は、研修計画の策定、協力医療施設との調整、研修室等の施設整備及び研修に必要なシミュレータ等の機器整備等を行いました。また、福岡県立大学社会福祉学会及び日本ソーシャルワーク教育学校連盟九州ブロックとの共催で、本学の卒業生や県内の社会福祉士・精神保健福祉士等を対象に研修会を実施しました。</p> <p>2 地域活性化への支援 不登校・ひきこもりサポートセンターの県大子どもサポーター派遣事業では実人数202名、延べ1,119名の学生が活動しました。フリースクール事業では、延べ1,454名の児童生徒が通級しました。登校開始率は74.1%でした。社会貢献ボランティア支援センターでは、外部ボランティア団体・機関と学生とのコーディネートを実施し、団体登録が227件、活動学生数が延べ124人となりました。福岡県重点課題授業「土曜の風」(地域学習支援事業)を開始し、延べ1,407名の学生派遣を行いました。ペアレントトレーニング事業については、10回開催し、延べ30人が参加しました。また昨年度参加者のフォローとして秋季クラスを開催し、6名が参加しました。</p> <p>3 国際交流の推進 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、令和2年度の交換留学生の受け入れを中止する決定をし、感染リスクのため通常の国際交流事業の実施を自粛しました。令和2年度は令和元年度派遣留学生7名が国際交流チューターに委嘱され、国際交流支援として、留学に興味を持つ学生の支援および一般学生の異文化理解促進の目的で、国際交流推進部会員支援のもと、国際交流チューター自身の留学体験の紹介動画を作成しました。協定締結校との国際交流については新型コロナウイルス感染症の影響を受け、教員の交流はできませんでした。留学生の支援体制の充実については、令和元年度9月に来日した中国からの交換留学生3名(令和2年9月帰国)については、日本文化探訪を1回(8月実施)実施することができました。</p> <p>実施事項別評価は、Bを4項目、Cを1項目とします。</p>
4 業務運営の 改善及び効率化	<p>【令和2年度】</p> <p>1 組織運営の改善・強化 学内組織や学内資源の配分見直しについては、特定行為指定研修機関の指定を8月に受け、研修施設の場所も附属研究所2階、ヘルスプロモーション実践研究センター跡に設置することを決定しました。また、看護学部においてもコロナ禍における学内実習を充実させるため、ヘルスプロモーション実践研究センター跡に真島・市場総合シミュレーションルームを併設しました。生涯福祉研究センター跡については、人間社会学部のこども教育の研究拠点として、保育・幼児教育ルームに活用することを決定しました。教員の士気を高めるための教育環境整備については、ベストティーチャー表彰を行いました(1名)。SD等の推進については、九州大学主催のSD研修(新任課長級)に1名、事務担当等職員に対する会計研修には3名参加しました。また、NPO法人学校経理研究会主催の公立大学法人会計セミナーに2名参加し、業務遂行能力の向上に努めました。今年度の取組としてFD部会規則にSDに関する規定を追加し、SD・FD部会規則と名称を改めるとともに、部会メンバーにプロパー職員を新たに加えるなど、事務局職員自らが積極的に自己研鑽に取り組める体制づくりを整備しました。</p> <p>2 事務事業等の効率化 事務処理省力化については、授業評価アンケートの集計業務を委託していたものを、教務システムの改修により、教務システムで集計できるよう改善を行いました。外部委託化については、地場企業の「たがわ情報センター」にITに関する学生及び教職員からの相談対応業務、WEB授業に利用する著作物に関する講習会の実施、遠隔授業に関する学生アンケート実施の業務委託を行い、教職員の業務軽減及び業務の効率化を図りました。</p> <p>3 人権尊重、法令遵守の徹底及びリスクマネジメント体制の整備 人権尊重等の徹底については、今年度は本学独自の研修として新たにハラスメント防止・対策職員研修及びLGBTIに関する人権研修会を開催し、人権意識に対する認識を深めることができました。リスクマネジメント体制の整備等については、①コロナ禍における本学の取り組みの学内外への発信、②附属図書館危機管理マニュアルの改正、③AEDの操作研修、④災害確認アプリ「ANPIC」の導入及び⑤情報システム・インシデントフローの作成など、リスクマネジメント体制の整備・確率に積極的に取り組むことができました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを6項目、Bを2項目とします。</p>

<p>5 財務内容の改善</p>	<p>【令和2年度】</p> <p>1 自己収入の積極的確保 外部研究資金公募情報をホームページに掲載し、全教員にメールを発信するとともに、科研費獲得のための研修会を実施しました。寄付金の受け入れについては、常時ホームページに掲載するとともに、大学広報誌に掲載するなどの広報活動を実施しました。外部資金の獲得額は、5,822万円となり、目標を上回りました。コロナ禍により大学施設の利用を制限することになったことから、ホームページで速やかに周知を行いました。</p> <p>2 業務効率化による経費の節減 随時、既設の電灯管をLEDに更新しました。大講義室の老朽化した映像設備については更新を図り、省エネ対策を推進しました。教務システムの改修を行い、授業評価アンケートの集計業務を教務システムで集計できるようにするなど、業務の効率化に取り組みました。除草の業務委託を非常勤職員任用に切り替え、経費を削減することができました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを3項目とします。</p>
<p>6 自己点検・評価及び情報の提供</p>	<p>【令和2年度】</p> <p>1 内部質保証システムによる大学の質の維持・向上 大学認証評価(大学教育質保証・評価センター)を受けるための組織体制の整備を行い、評価項目である基準1から基準3について、現状で自己評価できる点を基準1のポートフォリオとしてとりまとめ、法令適合性(基準1の観点)について確認しました。その作業過程において、ホームページ等に公表されていない情報については、適宜情報公開に踏み切りました。内部質保証体制を強化するための大学改革セミナーを2回開催しました。認証評価と法人評価に対応できるわかりやすい記載・表現を教職員に対して改めて周知・依頼しました。その結果、本年度の活動に対する記載内容については、必要に応じて背景も含め現状を過不足なく記載することができました。これによって、担当者以外からも取り組みの概要と課題を把握することができました。</p> <p>2 県大ブランドイメージの醸成 大学開設以来初めてとなるオンラインによるオープンキャンパスの開催は、約850人の参加を得るとともに、受験直前の高校3年生の参加が増えたこと、並びに遠方からの参加ができたことにより、従来あまり見られない地域からの合格者が見られたという成果につながりました。また、学生や地域住民に向け、新型コロナウイルス感染症関連情報を発信するなど、学内情報のオープン化に努めた結果、学内活動による感染者ゼロに結び付けることができました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを2項目、Bを2項目とします。</p>

年度計画項目別評価

<p>中期目標 1 教育に関する目標</p>	<p>(1) 特色ある教育の展開 ア 学士課程 人間と社会とを総合的に理解し、他の専門職と協働して問題解決に取り組み、福祉社会の実現を目指す人材を育成する。 また、看護の専門職としての確かな判断力と実践能力を備え、他の専門職と協働し、健康上の課題に主体的・創造的に対応できる人材を育成する。 イ 大学院課程 地域社会、福祉政策、対人援助の専門知識を持ち、高度福祉社会の実現に貢献できる人材を育成する。 また、地域の保健・医療・福祉分野の施策展開を推進できる高度な職業人としての看護職者や、看護学の創造と発展に貢献できる研究者・教育者を育成する。</p> <p>(2) 教育活動の活性化 教育活動を定期的・多角的に評価するとともに、効果的なファカルティ・ディベロップメント等の組織的な取組を推進し、授業内容・方法の改善など全学的な教育力の向上を図る。</p> <p>(3) 意欲ある学生の確保 明確な入学受入れ方針の下、効果的・戦略的な広報活動の展開、高等学校との連携強化を図り、大学の魅力を広く伝えるとともに、入学選抜改革を推進し、大学が求める資質・能力を持った学ぶ意欲の高い学生を確保する。</p> <p>(4) 学生支援の充実 ア 学修支援・学生生活支援 留学生や障がいのある学生を含め、多様な学生が自主的・多面的な学修を行い、健康で充実した学生生活を送るため、学修環境の整備や学修・学生生活支援体制の充実・強化を図るとともに、経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援を行う。 イ キャリア支援 学生の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育に取り組み、就職に関する相談や企業を知る機会の拡充など、就職支援の充実・強化を図る。 また、県内の産業界等との連携強化や進学等の希望に対応する支援を行う。</p>
----------------------------	---

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
1 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成	<p>福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力を養成する教育内容や多様なニーズに包括的に対応できる人材を育成する教育内容の充実を図る。</p>	<p>1【令和2年度計画】 【特色ある体系的な教育課程の編成】</p> <p>①H31(2019)年度に作成したディプロマ・ポリシー案、カリキュラム・ポリシー案を確定し、導入する。 ②ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと整合したコースツリー、カリキュラム マップの検討を行う。また、定期的な点検・見直しを実施する。 ③ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づいた適切な教育方法を検討し、実施する。 ④保健・医療・福祉各分野の専門的知識を包括的に学べる専門教育プログラムを導入する。 ⑤社会の変化に対応できる汎用的な資質・能力を育成する全学横断型教育プログラムの充実を図る。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・教育に係る3つのポリシー改訂 : H32年度の実施 ・体系的な教育課程の編成 : H33年度の実施 ・包括的な専門教育プログラムの導入 : H34年度の実施</p>	2	<p>【令和2年度の実施状況】 【特色ある体系的な教育課程の編成】</p> <p>①【組織状況】 教務・教育共通部会でディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを見直し、修正案を立て、教授会を経て、教務入試委員会で決定した。 【実施状況】 R2年度は各学部学科において軽微な見直しを行い、小修正を行った。また、R3年度から適用されるDPIに沿った新しいAPIに基づいて入試を行った。 ②【組織状況】 教務・共通教育部会において各学科・コース等のカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを検討し、作成した。また各学科・コース等において確認作業を行った。 【実施状況】 各学科・コース等の新たなディプロマ・ポリシー並びにカリキュラム・ポリシーに対応したカリキュラム・マップ、カリキュラムツリーを検討、作成し、カリキュラムの整合性を確認した。 ③【組織状況】 教務・共通教育部会において、DP及びCPIに基づいた適切な教育方法が実施されるよう、カリキュラムマップの作成やシラバスの確認を行った。 【実施状況】 カリキュラムマップに従い、各科目と「DP」との関係性をシラバスで明示し、その授業目標に基づいて評価を行なった。またR3年度も新しいDPに合わせて同様にシラバスを作成した。なおR2年度はコロナ禍に対応して遠隔授業や、面接授業と遠隔授業のハイブリッド型授業を行うなど、状況に応じた教育方法を取り入れた。その際も到達目標に沿う授業と評価を行うことを教員に周知した。教員の教育活動についてのサンプル調査(通し番号12①)によると、ほとんどの科目が授業方法を変更してもDP,CPIに基づいて授業を行うことができていた。</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		1

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成の続き	1 ※【特色ある体系的な教育課程の編成】の続き	1 ※【特色ある体系的な教育課程の編成】の続き		<p>④【組織状況】 教務共通教育部会において検討を行った。</p> <p>【実施状況】 教務共通教育部会において、包括的な専門教育プログラムに必要な授業科目を選定した。ただし、看護学科においてR4年度に向けてカリキュラムの大幅な変更があるため、R3年度に看護学科の科目が決定するのを待ち、プログラムの科目選定を決定することとなった。また、両学部で同じ科目を受講し、単位が与えられるように、プログラムの科目の決定と同時に、学部履修規則の変更をする準備を行なった。</p> <p>⑤【組織状況】 2 基盤教育センターが中心となり、人間社会学部総合人間社会コース担当者会議と連携して取り組んだ。</p> <p>【実施状況】 R2年度前期に「ビジネス倫理」、後期に「組織マネジメント」「個人情報法制」という新規科目を開発し授業を行った。</p> <p>○目標実績 教育に係る3つのポリシーの改訂を実施した。</p>	B			1

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成の続き	<p>2【教養教育の充実】</p> <p>①導入教育の充実により、大学教育への円滑な移行を図る。</p> <p>②教養科目において導入教育の中心となっている「教養演習」の授業内容及び方法を継続的に改善する。</p> <p>③語学教育科目の充実を図る。</p> <p>④科目区分の再編により、社会変化に柔軟に対応可能な教養教育カリキュラムを構築する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入教育科目の新設 :2科目(既存科目の改編を含む)(期末) ・科目区分の再編 :1回以上(期末) 	<p>2【令和2年度計画】</p> <p>【教養教育の充実】</p> <p>①既存の導入教育科目を、改善しながら実施する。</p> <p>②教養演習実施後の改善点を踏まえて、教養演習テキストの改訂及び授業計画について改善を行う。</p> <p>③語学教育を強化し、内容の充実を図る。</p> <p>④教養教育カリキュラムの改善に向けて、既存科目の見直し案を学部教務部会に提案する。</p>	1	<p>【令和2年度の実施状況】</p> <p>【教養教育の充実】</p> <p>①【組織状況】</p> <p>基盤教育センターが中心となり実施した。</p> <p>【実施状況】</p> <p>R2年度は、新型コロナウイルスへの対応が全ての科目で必要とされ、「低学年次の授業が多い」「受講人数が多い」「全学科の学生が受講する」等、全学共通科目の特性に対応するため、各科目の進捗状況を随時確認・情報の共有を進め、全ての全学共通科目において、遠隔授業を実施した。特に1年生に対しては、遠隔授業実施に必須となる、Eラーニングシステム及び情報処理機器操作に関する授業自体を遠隔授業により行う必要があり、4月のオリエンテーションで、機器・システムの最低限の使用方法について指導した。</p> <p>②【組織状況】</p> <p>基盤教育センターが中心となり取り組んでいる。担当教員のフィードバックや、教養演習テキスト学生編集委員の意見を取り入れ、授業実施内容の改善、テキストの改訂・出版を行った。</p> <p>【実施状況】</p> <p>教養演習をオンラインで実施するため、オンライン授業の受講方法やインターネット活用する方法等について、教養演習テキストに新しい章を加え新型コロナ禍に則した改訂を行った。さらに、デジタル技術を活用し、テキスト内の全イラストをリニューアルすることにより、学生にとって親しみやすい内容とした。また、Microsoft Teamsに教養演習担当教員掲示板を作成し、初めてのオンラインでの教養演習を円滑に実施するための方法について、担当教員が検討し、これを全教員で共有することにより、オンラインでの授業を円滑に実施することができた。</p> <p>③【組織状況】</p> <p>基盤教育センター所属の語学教員により指導方法および課題解決に取り組んだ。</p> <p>【実施状況】</p> <p>英語科目の人数・習熟度問題解決のため、全学共通習熟度別クラス編成案を作成した。コリア語教育および中国語教育では、検定・資格試験にも対応できるよう取り組んだ。中国語教育では、中国語学能力試験(HSK)を受験する学生の指導を行い、R2年度に初めて1名がHSK4級(中国の大学で母語話者と一緒に授業受講が可能なレベル)に合格した。コロナ禍の語学教育においては、オンラインによる指導方法を検討し、動画等を活用したオンデマンド型及び同時双方向型の授業を実施した。なお、オンデマンド型授業は、学生が反復学習できることから、学生の習熟度が高まった。</p> <p>④【組織状況】</p> <p>基盤教育センターが中心となり実施した。</p> <p>【実施状況】</p> <p>全学共通科目(基礎科目)選択外国語に位置付けられていた「Introduction to studying in English」を、全学共通科目(基礎科目)の選択「基礎ゼミ」に移動し、両学部共通の選択基礎ゼミに変更した。</p>	A	<p>【高く評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入教育科目を遠隔授業形式で実施し、他の授業科目を学習する基盤を維持することができた。 ・R2年度版教養演習テキストにはオンライン授業受講のための新章を加え、新型コロナ禍での導入教育に大いに貢献できた <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		2

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成の続き	<p>3【専門教育の充実(人間社会学部)】</p> <p>①カリキュラムと科目内容の見直しにより、社会福祉・保育・心理等の分野で求められる対人援助力等を養成する教育を推進する。</p> <p>②総合人間社会コースの保健福祉情報教育プログラム等の充実により、多様なニーズに包括的に対応できる専門的実践力を強化する教育を推進する。</p> <p>③他大学との連携による教育を充実する。(県内福祉系大学とのボランティア教育に関する連携に向けた検討)</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・カリキュラムと科目内容の見直し・改善 :全専門科目(期末)</p>	<p>3【令和2年度計画】 【専門教育の充実(人間社会学部)】</p> <p>①幼稚園教諭一種免許・保育士資格、新教職課程(以上H31(2019)開始、R4年度完成)、公認心理師資格(H30開始、R3年度完成)のための新カリキュラムを実施する。 また、対人援助に関わる社会福祉科目の充実を検討する。</p> <p>②保健福祉情報教育プログラム・キャリア形成支援プログラム等の充実により、多様なニーズに包括的に対応できる専門的実践力を強化する教育を推進する。</p> <p>③他大学とのボランティア教育に関する連携を検討する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・カリキュラムと全科目の科目内容を点検する。</p>	1	<p>【令和2年度の実施状況】 【専門教育の充実(人間社会学部)】</p> <p>①【組織状況】 幼免・保育士はこどもコース会議、中高教職課程は地域社会コース会議と教職課程部会、公認心理師は心理コース会議、社会福祉士・精神保健福祉士は各養成課程の担当教員および社会福祉コース会議と、それぞれ学部教務部会が連携して対応した。</p> <p>【実施状況】 コロナ禍を踏まえてすべての資格免許の実習科目でコロナ対策ガイドラインを策定した。幼免・保育士では、実習ごとに担当教員を配置した。コロナ禍に伴う実習先からの要請による実習計画の変更や一部科目を次年度対応とする等、履修計画を変更した。中高教職課程は2年次まで、公認心理師も、心理演習を含む3年次までのカリキュラムの学修が、コロナ対策を講じつつ問題なく実施された。社会福祉士・精神保健福祉士の新カリキュラムは実習・演習を充実させ、厚生労働省及び九州厚生局への申請を行った。次年度の各資格免許の実習も新たに策定したコロナ対策ガイドラインに基づいた実施計画を策定した。</p> <p>②【組織状況】 「キャリア」と「情報教育」の充実および専門的実践力強化の検討は、人間社会学部の総合人間社会コース担当者会議と全学の基盤教育センターの連携によって取り組んだ。</p> <p>【実施状況】 「キャリア」の新規科目(「ビジネス倫理」「組織マネジメント」「個人情報法制」)を開講した。また、学修内容の充実と、履修学生が内容を理解しやすくするため、「キャリア」と「情報教育」のプログラム名をそれぞれ、「キャリアマネジメント・プログラム」「データサイエンス・プログラム」に変更した。さらに、所定の条件を満たす学生には「学修証明書」を交付することとした。</p> <p>③【組織状況】 福岡県内の福祉系大学とボランティア教育に関する情報交換を行い、各大学の現状及び課題を把握している状況である。</p> <p>【実施状況】 社会福祉コースのブラッシュアップセミナー(2021年3月16日)にて、西南女学院大学の今村浩司先生による「西南女学院大学における地域貢献活動とボランティア教育」をテーマとした研修と意見交換を行った。この中でボランティア教育の大学間連携の方法、特に、継続的なボランティア活動を実践するための大学間の連携の在り方について検討した。</p> <p>○目標実績 ・カリキュラムと全科目の科目内容を点検した。</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		3

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成の続き	<p>4【専門教育の充実(看護学部)】</p> <p>①看護技術強化のための統合科目を開設する。 ②看護実践力強化のための臨地実習教育を充実させる。 ③他大学との連携による教育を充実させる。 (ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムによる連携)</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・カリキュラムと科目内容の見直し・改善 :全専門科目(期末) ・モデル・コア・カリキュラムを参考にしたカリキュラムの改訂 :H31年度の実施 ・看護技術統合科目の開設 :H35年度の実施</p>	<p>4【令和2年度計画】 【専門教育の充実(看護学部)】</p> <p>①看護技術を強化するために、専門科目の見直しを行う。 ②看護実践力強化のために、臨地実習での教育内容を検討する。 ③他大学との連携による講義の相互受講システムの課題を検証し、改善を行う。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・カリキュラムと全科目の科目内容を点検する。</p>	1	<p>【令和2年度の実施状況】 【専門教育の充実(看護学部)】</p> <p>①【組織状況】 授業(専門科目の演習)における看護技術に関する教育内容の現状把握の調査を教務部会(看護技術WG)で行い、カリキュラムWGを立ち上げ、看護技術を強化するための教育内容と方法について検討を行った。 【実施状況】 ・看護師として必要な技術を修得するための演習項目のうち、より高度な看護技術を強化するために必要となる演習項目の選定を行い、これらの演習を実施するために必要なモデル人形等の教材を購入し、演習等で活用した。 ・看護技術の強化のために、シミュレーター、ObjectiveStructuredClinical Examination(OSCE)も用いて、専門科目の演習での看護技術強化(3年次)を図るとともに、統合実践演習科目(4年次)の設置を行った。 ・主体的な学習の場として、「看護技術究め隊」を発足し、1年生から4年生の希望者を募り、看護技術を学びあう場を設けた(10月から1回/月)。なお、学生の希望調査から移動、移送等の学びあいを行った。さらに、学生からはいつでも練習できる部屋と看護技術物品、学年交流の場の要望が得られた。</p> <p>②【組織状況】 今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、臨地実習を学内実習に変更し、看護教育を充実できるように教務部会、実習運営部会、科目責任者で学内実習について検討した。 【実施状況】 学内に模擬病室を整備し、ベーシックな学びから授業開始できるように学内実習の学生実習スケジュールを変更し、科目間連携による全教員での指導体制をつくった。さらに、シミュレーターや模擬患者と家族によるリアリティのある事例、模擬患者の電子カルテの作成、遠隔地(学内・学外)にいる臨床指導者から直接、実習指導を受けるためにZOOMを活用した臨床指導・カンファレンス等を組み入れた。また、真島・市場の寄付金を活用し、シミュレーションルームの整備を開始した。</p> <p>③【組織状況】 本学戦略連携室が特別聴講学生募集要項を作成し、連携各大学教務等やコンソーシアムホームページにて配信し募集を行った。 【実施状況】 本年度前期は、8科目を開講したが受講生は無かった。後期は9科目を開講し、コンソーシアムオリジナルVOD科目「キャリア像確立講義Ⅰ」を12名が受講した。コンソーシアム連携作成VOD科目「災害看護学」は92名が受講した。「キャリア像確立講義Ⅰ」「キャリア像確立講義Ⅱ」の2科目に関して、今年度からケアリング・アイランド大学コンソーシアム連携推進会議にて授業内容(テーマや講師)の再構築検討を開始した。</p> <p>○目標実績 ・カリキュラムと全科目の科目内容を点検した。</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.20 「大学間連携」	4

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成の続き	5【学修成果の検証】 各種データを用いた学修成果の検証を行う。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・授業の学修到達目標に対する達成度(授業評価アンケート) : 全学平均3以上(4段階評定)(単年) ・DP到達度(卒業時アンケート) : 全学平均4以上(5段階評定)(単年) ・国家試験合格率 : 看護師 98%以上(単年) 保健師 90%以上(単年) 社会福祉士65%以上(単年) 精神保健福祉士70%以上(単年)	5【令和2年度計画】 【学修成果の検証】 ①各種データ(授業評価・卒業時・卒業生・就職先アンケート等)を用いて学修成果を検証するとともに学修成果の評価の方針を検討する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・授業の学修到達目標に対する達成度(授業評価アンケート) : 全学平均3以上(4段階評定) ・DP到達度(卒業時アンケート) : 全学平均4以上(5段階評定) ・国家試験合格率 : 看護師 98%以上 保健師 90%以上 社会福祉士65%以上 精神保健福祉士70%以上	1	【令和2年度の実施状況】 【学修成果の検証】 【組織状況】 教務共通教育部会において卒業時アンケートを、進路生活支援部会において卒業生就職先アンケートを、FD部会において授業評価アンケートを、学部において国家資格等合格率の把握を、それぞれ実施した。また、教務共通教育部会においてアセスメント・プランの強化に取り組んだ。 【実施状況】 教務共通教育部会においてR1年度卒業時アンケートについて調査結果をまとめ、各コース等に通知した。学部FD部会において授業アンケートを実施し、結果を教員に通知した。進路生活支援部会にてR2年度卒業生・就職先アンケートを実施し、各学科に通知した。また、学修成果の評価の方針としてアセスメント・プランを教務共通教育部会にて原案を作成し、教授会を経て教務入試委員会で決定した。 ○目標実績 ・授業の学修到達目標に対する達成度(授業評価アンケート) : 全学平均3.6(4段階評定) ・DP到達度(卒業時アンケート) : 全学平均4.2(5段階評定) ・国家試験合格率 : 看護師99.0%(98名/99名) 保健師100.0%(13名/13名) 社会福祉士67.3%(35名/52名) 精神保健福祉士100.0%(10名/10名)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.7 「資格試験合格率、免許の種類」 No.8 「学生による授業評価」	5

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※2 高度専門職業人の人材育成の続き	<p>2【専門教育の充実(人間社会学研究科)】</p> <p>高度福祉社会の実現に貢献できる職業人育成を目的とした、カリキュラムと科目内容の見直し、実習等の充実を図る。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・カリキュラムと科目内容の見直し・改善 :全科目(期末)</p>	<p>2【令和2年度計画】 【専門教育の充実(人間社会学研究科)】</p> <p>〈心理臨床専攻〉 H30年度に開始した公認心理師のためのカリキュラムについて実習を中心に点検しつつ、滞りなく実施する。</p> <p>〈社会福祉専攻〉 社会福祉専攻の論文指導体制を強化する。</p> <p>〈子ども教育専攻〉 H31(2019)年度に開始した新しいカリキュラムについて実習を中心に点検しつつ、滞りなく実施する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・カリキュラムと科目内容の見直し・改善</p>	1	<p>【令和2年度の実施状況】 【専門教育の充実(人間社会学研究科)】</p> <p>〈心理臨床専攻〉 【組織状況】 定期的に関行される専攻会議の中で、学務部会員を中心にカリキュラムの点検を行った。 【実施状況】 学内実習機関である心理教育相談室の活動を充実し、実習機会の確保につなげるために非常勤相談員の委託制度を開始した。また、新型コロナウイルス感染症対応の実習ガイドラインを作成した。新型コロナウイルス感染症の影響により、福祉領域3ケース分を実施できなかったため、代替の取組として学内で実習指導者による演習を実施した。それ以外の実習は計画通り実施した。日本公認心理師養成機関連盟の実習に関する研修会に参加し、研修内容の情報共有を行った。</p> <p>〈社会福祉専攻〉 【組織状況】 論文指導体制の強化策の原案(論文指導教員の選定)の策定は専攻会議で行い、人間社会学研究科委員会に提案した。 【実施状況】 教員資格審査基準に基づいて、専攻在籍教員の教育研究業績の審査を行い、研究科委員会の承認を経て、特別研究担当教員を1名増員し、全体で5名の論文指導体制とした。</p> <p>〈子ども教育専攻〉 【組織状況】 定期的に関行される専攻会議を開催し、問題点や課題の整理を行った。 【実施状況】 カリキュラムの点検を行い、今年度より新たに実習担当教員を2名増員し、実習先の拡充・多様化を実現した。また昨年度の科目新設の代替措置として、今年度一部の科目を廃止した。</p> <p>○目標実績 ・カリキュラムと科目内容の見直し・改善を行った。</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		7

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※2 高度専門職業人の人材育成の続き	3【専門教育の充実(看護学研究科)】 高度看護専門教育の充実を目的とした、カリキュラムと科目内容の見直し、実習等の充実を図る。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・カリキュラムと科目内容の見直し・改善: 全科目(期末)	3【令和2年度計画】 【専門教育の充実(看護学研究科)】 ①助産実践コースのカリキュラムと科目内容の見直しを行う。 ②専門看護師、助産実践の各コースの実習について見直しを行う。 ③人間社会学研究科と連携できる科目について検討する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・助産実践形成コースのカリキュラムと科目内容の見直しを行う。	1	【令和2年度の実施状況】 【専門教育の充実(看護学研究科)】 ①【組織状況】 カリキュラムと教育内容の見直しを助産実践形成コースの教員と学務部会でを行った。 【実施状況】 (1)指定規則では「助産診断・技術学」が現行の8単位から2単位の増加が示された(10単位)。このため、従来のハイリスクケアの科目として位置づけている「助産実践学Ⅳ(2単位)」の科目を「助産診断・技術学」に加えて10単位とし、シミュレーション教育を取り入れた教育内容について検討した。 (2)指定規則では「地域母子保健」を現行の1単位から1単位の増加が示された(2単位)。よって、本大学院では、新カリキュラムにおいて、従来の「地域母子保健」科目である「コミュニティ助産学特論」の1単位を2単位に増やすことを決定した。 ②【組織状況】 専門看護師、助産実践形成コースの実習における臨床教授制について、学務部会で見直しを行った。 【実施状況】 現行の看護学研究科の臨床教授制は、専門看護師コースを基本とした内容であったため、助産実践形成コースの臨地実習の教育指導者にも該当する内容に変更した。 ③【組織状況】 看護学研究科の学生に共通科目として人間社会学研究科が開講している科目の受講希望について学務部会で調査を行った。 【実施状況】 看護学研究科の学生に対して調査した結果、人間社会学研究科の心理臨床に関する科目の受講希望があることが判明したため、具体的な教育内容や方法について関係教員と協議を行った。 ○目標実績 ・助産実践形成コースのカリキュラムと科目内容の見直しを行った。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		8
	4【学修成果の検証】 各種データを用いた学修成果の検証を行う。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・国家試験合格率: 助産師100%(単年)	4【令和2年度計画】 【学修成果の検証】 ①大学院FDとして、在学生・修了生に対してアンケート調査を行い、学修成果の検討を行う。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・国家試験合格率: 助産師100%	1	【令和2年度の実施状況】 【学修成果の検証】 ①【組織状況】 大学院FD部会を定期的開催し、在学生・修了生への満足度調査の実施・分析、座談会の企画・運営、教員間で意見交換をするセミナーを企画・開催し、学修成果の検討を行った。 【実施状況】 本年度は、9月に在学生の満足度調査を実施し、その結果を10月の研究科委員会で報告した。11月に開催した座談会では、調査の結果を報告後、自由記述欄の回答について、大学院生から意見聴取した。その際、コロナ禍における実習の度々の延期などのクレームがあったが、事前に、各研究科、専攻において、教員間の意見交換で得ていた情報を丁寧に説明し、教員とのコミュニケーションを図った。2月の修了生の満足度調査の結果では、「学術的知識の習得ができた」が88%、「地域や社会への発展に関与できる力がついた」が88%、以上、全面改訂したシラバスも含めて、「総合的な学修成果の満足度」は、高い評価を得ることができた。 ○目標実績 ・国家試験合格率: 助産師100%(6名/6名)	A	【高く評価する点】 9月実施の満足度調査結果を各研究科の教員で意見交換したことにより情報共有ができた点、また、11月の座談会による意見聴取で改善点を把握した点、この2点が2月実施の修了生調査において、「総合的な学修成果の満足度」に高い評価を得ることに繋がった。 【実施(達成)できなかった点】	No.7 「資格試験合格率、免許の種類」	9

中期計画		令和2年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
3 教育活動の活性化 教育内容に対する学生の理解を促進する授業を行うため、教員の教育能力向上を図る。	1【効果的なFD活動の推進】 ①教員を対象とした指導方法研修を実施する。 ②教員間の授業参観システムを実施する。 ③他大学、他機関と連携したFD活動を実施する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・FD活動等への教員参加率 : 100%(単年)	1【令和2年度計画】 【効果的なFD活動の推進】 ①教員を対象としたFDセミナーを実施する。 ②教員間の授業参観を実施する。 ・授業参観ウィークを実施する。(学部) ・授業参観ウィークを実施する。(大学院) ③他大学、他機関で開催されるFDセミナーに参加し、他大学と連携したFD活動を推進する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・FD活動等への教員参加率 : 100%	1	【令和2年度の実施状況】 【効果的なFD活動の推進】 ①(学部)教員を対象としたFDセミナーを実施する。 【組織状況】 公立大学法人福岡県立大学FD部会規則4条に則り、FDセミナーの開催に取り組んだ(総合情報委員会、進路・生活支援部会、IR推進室と共催を含む)。 【実施状況】 FDセミナーの開催には、担当者が講師と密に計画を行ったとともに、早期の開催案内と他の行事等との重複開催を避け、参加率向上を図った。R2年度は13のFDセミナーを開催し(うち1回は看護学部独自に1回開催)、延べ413名の教員の参加し、参加率は93.2%であった。 ①(大学院)教員を対象としたFDセミナーを実施する。 【組織状況】 大学院FD部会において、「オンラインによる集中講義の効果的な授業展開」をテーマとする大学院FDセミナーの企画・実施に向け検討した。 【実施状況】 3月下旬に「オンラインの集中授業のコツ」をテーマとする大学院FDセミナーをオンラインで開催した。講師は満足度調査で集中講義において評価が高かった本学の非常勤講師に依頼した。 ②(学部)授業参観ウィークを実施する 【組織状況】 大学の教育改革の一環として、FD部会が企画し、授業参観活動に取り組んだ。 【実施状況】 1月5日(火)～8日(金)に授業参観ウィークを実施し、教員延べ18名、高校生延べ36名が両学部の17科目の授業に参加した。また、教員と高校生に対して授業参観ウィークに関するアンケートを実施した。アンケート結果では、授業の展開方法、語りかけや間の取り方など参考になることが多かったとの回答を得た。 ②(大学院)教員間の授業参観を実施する。 【組織状況】 大学院FD部会を定期的に開催し、教員間の授業参観ウィークの企画・実施について検討した。 【実施状況】 研究科教員間の授業参観をR3年1月5日(火)から9日(土)の5日間で初めて実施した。公開方法は対面とオンラインで授業を公開し、遠隔地からも参加できるようにした。なお、本年度は初の試みであるため、非常勤講師の担当科目は授業参観の対象とはしなかった。参加実績は教員8名、学生は9人であり、学部生や大学院生が大学院または他専攻の授業を参観する機会をつくった。 ③【組織状況】 FD部会において、学外で開催されるFDセミナーへの参加の促進、また、他大学と連携したFD活動の推進に取り組んだ。 【実施状況】 学外で開催されているFDセミナーの情報提供をMicrosoft Teamsを用いて行い、参加を促すとともに、さらなる教育力向上を図った。また、一方的な提供だけでなく、参加実績のあるFDセミナーも紹介することで教職員間の教育力向上を図った。学外で開催されたFDセミナーには延べ2名の教員が参加した。 ○目標実績 ・FD活動等への教員参加率 : 92.6%	A	【高く評価する点】 ・対面とオンラインのハイブリッド型による授業参観を実施した。これまでに多くの教員が参加することができ、その教員のアンケート結果によれば、授業内容について興味が湧く等の好意的な回答が多かった。 ・研究科教員が各自の専門領域以外の授業を聴講したことにより、他の教員の授業方法や他領域の研究内容を知ることができ、自らの教育方法をよりよくするための契機とすることができた。 【実施(達成)できなかった点】	No.10 「FD」	10

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 教育活動の活性化の続き	<p>2【学生の主体的な学修を促進する効果的な教育方法の展開】</p> <p>①学生の学修時間の実態を把握することで、学修時間確保に必要な対策を検討する。</p> <p>②アクティブ・ラーニング等、学生の主体的な学修を促す教育方法を促進する。</p> <p>③学生自習グループの活動を支援する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・アクティブ・ラーニングを取り入れた授業科目数(講義科目) : 20%増加(期末)</p>	<p>2【令和2年度計画】</p> <p>【学生の主体的な学修を促進する効果的な教育方法の展開】</p> <p>①学生の学修時間の実態を分析し、学修時間確保に必要な対策を立案する。</p> <p>②アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の実施に向け、分析した課題をもとに、学生の主体的な学修を促す教育方法促進について検討し試行する。</p> <p>③把握した学生自習グループの活動状況の分析結果をもとに支援する。</p>	2	<p>【令和2年度の実施状況】</p> <p>【学生の主体的な学修を促進する効果的な教育方法の展開】</p> <p>①【組織状況】 FD部会とIR推進室の合同により「学生生活総合アンケート」の質問項目の作成に取り組んだ。調査の実施はIR推進室が行った。</p> <p>【実施状況】 「学生生活総合アンケート」を10月20日(377人の回答)、2月17日(200人の回答)に実施した。アンケートでは、コロナ禍における大学生活の変容によるキャンパス内外での新たなストレスやニーズ等について明らかとした。調査結果から、遠隔授業は学生の受講上の利便性等を考慮し、オンデマンド方式(非同期型授業)による実施が必要であることが判明した。</p> <p>②【組織状況】 FD部会と総合情報委員会の共催で取り組んだ。</p> <p>【実施状況】 次の通り実施した。FDセミナー:FPUICT×Education Café:第1回テーマ:「Zoomの基本と活用事例(8月5日)」「(参加教員:41名)、第2回テーマ:「アンケートフォーム作成(グーグル・マイクロソフト)の基本(8月26日)」「(参加教員:30名)、第3回テーマ:「学内の機材を活用した講義収録(Zoomにおける撮影からvimeo格納公開まで)(9月16日)」「(参加教員:21名)、第4回テーマ:「マイクロソフトTeamsの使い方(授業コースの立ち上げと授業での使い方)(10月8日)」「(参加教員:24名)、第5回テーマ「Zoomのブレイクアウトセッション(11月5日)」「(参加教員:8名)、第6回テーマ「動画の作成と編集の基本(11月19日)」「(参加教員:5名)、「誰でもできる授業の一工夫:アクティブ・ラーニングの観点から(3月24日)」「(参加教員:37名)。上記FDのアンケート結果では、教員がスムーズにシステムを運用できる等の講習会を必要としていたことが明らかとなり、効果的な教育方法の展開につながった。</p> <p>③【組織状況】 FD部会において、学生自主グループを調査・分析し、活動を支援するように取り組んだ。</p> <p>【実施状況】 12月に学生への聞き取り調査を行い、1号館1階国家試験受験対策室1～3にWi-Fi環境と電源タップを整備した。また、ラーニング・コモンズにあるPCとプリンターを接続した。なお、R2年度の1号館1階国家試験受験対策室の延べ使用人数は、1,282人であった。</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		11

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 教育活動の活性化の続き	<p>3【教育活動の定期的・多角的な評価の実施】</p> <p>①教育活動の調査と教育効果を検証する。 ②成績評価の分布に関する調査及び検証を行う。 ③成績評価の客観性、厳格性の担保に関する全学的体制を整備する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・成績評価の客観性、厳格性の担保に関する全学的体制の整備 : H33年度の実施</p>	<p>3【令和2年度計画】 【教育活動の定期的・多角的な評価の実施】</p> <p>①教員の教育活動についてサンプル調査を行い、教育効果を検証する。 ②成績評価の分布に関する調査及び検証を行う。 ③H31(2019)年度に作成したガイドラインに基づいた成績評価を実施する。</p>	1	<p>【令和2年度の実施状況】 【教育活動の定期的・多角的な評価の実施】</p> <p>①【組織状況】 教務・共通教育部会において、質問内容を検討し、質問紙を作成し、実施した。 【実施状況】 本学は、R2年度前期は新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、授業形態を対面授業から遠隔授業へと変更した。6月より対面授業開始となったが、遠隔授業や対面と遠隔を組み合わせた授業が継続して行われた。そこで、遠隔授業の取り組みの教育効果を検証した。両学部において本年度遠隔授業を行った教員(非常勤は除く)に対して、遠隔授業での取り組みの実態と教育効果の主観的評価について質問紙調査を行い、84科目についての回答を得て、分析を行った。 ②【組織状況】 教務・共通教育部会において実施した。 【実施状況】 教務・共通教育部会においてR1年度前期とR2年度前期の成績評価の比較分析を行った。③【組織状況】 成績評価ガイドラインに基づいて評価をするためにR1年度にFD部会が中心に改訂を行ったシラバスを使用し、全科目についてディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーにそった授業目標と成績評価基準を明示し、シラバスの通り成績評価を行なった。さらに教務・共通教育部会において、成績評価が適正に行われていることを検証する方法を検討し、実施した。 【実施状況】 全教員が成績評価ガイドラインに基づいてシラバスを作成した。シラバスにはディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーにそった授業目標と成績評価基準を明示した。しかしR2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により当初のシラバス通りには行えない事態が生じた。そのため授業方法や成績評価方法の変更がある場合はできるだけ早く学生に周知し、成績評価基準は変更せずに成績評価を行う方針で実施した。また、教務・共通教育部会において成績評価が適正に行われていることを確認するために学生によるフィードバックを求め「成績評価アンケート」を新たに作成し、4年生は卒業時に実施、1～3年生は成績評価通知後のR3年度4月に実施する準備を整えた。なお、R2年度に教務システムを改修し、科目検索等の機能を備えた電子シラバスを整備し、R3年度から運用を開始した。</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		12

中期計画		令和2年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
4 アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保 アドミッション・ポリシーにより求める学生像を明確にし、高等学校等との連携を図り、福岡県立大学が求める資質と能力を備えた意欲ある入学者を確保する。	1【アドミッション・ポリシーの明確化と戦略的な広報活動】 求める学生像、入学者選抜方針をアドミッション・ポリシーとして明確化し、意欲ある学生を確保するための戦略的な広報活動を行う。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・入学者のAP認知率 :80%以上(単年) ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1,000名以上、良好評価75%以上(単年) ・入試説明会参加数及びアンケート:10会場、良好評価75%以上(単年) ・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価75%以上(単年)	1【令和2年度計画】 【アドミッション・ポリシーの明確化と戦略的な広報活動】 ＜学部＞ 新アドミッション・ポリシーの広報を強化するとともに、引き続きSNSによる広報を実施する。 ＜大学院＞ 必要に応じてアドミッション・ポリシーの改訂に向けた検討を行うとともに、進学希望者への個別相談を充実させる。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・入学者のAP認知率 :80%以上 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1,000名以上、良好評価75%以上 ・入試説明会参加数及びアンケート :10会場、良好評価75%以上 ・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価75%以上	1	【令和2年度の実施状況】 【アドミッション・ポリシーの明確化と戦略的な広報活動】 ＜学部＞ 【組織状況】 学部入学試験部会において、高校訪問・オープンキャンパス等での広報を計画的に行った。 【実施状況】 大学案内の入試概要ページに記載した。また、小論文・面接問題集に、アドミッション・ポリシーと小論文の関係を記載した。SNSを通して、入試に関する情報・オープンキャンパスのお知らせとともに(30回更新)、新アドミッションポリシーの広報を強化した。オープンキャンパスはコロナ禍であるためweb開催とし、動画の視聴およびオンラインによる個別相談を行い、高評価を得た。 ＜大学院＞ 【組織状況】 アドミッション・ポリシーについては大学院入学試験部会及び大学院学務部が連携して立案し、研究科委員会を経て教務入試委員会にて決定した。広報活動については大学院入学試験部会、進路・生活支援部会、アドミッション・オフィスが連携して行った。 【実施状況】 アドミッション・ポリシーについては学力の三要素に基づくディプロマ・ポリシーの修正に対応する形で承認された。戦略的な広報活動については、進学希望者に対する個別相談を、8月8日と9月26日のオープンキャンパスでオンラインによる相談を募集し、実施した(計17名)。また心理臨床専攻では7月1日、15日にも個別相談を実施した(計14名)。入試説明会は新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインで行った。8月8日と9月26日のオープンキャンパスで、人間社会学研究科は説明動画を配信、看護学研究科ではオンライン説明会(計24名参加)を開催した。ホームページの継続的な強化を行なった。また、6月に約770か所の関係機関に大学院募集ポスターと社会福祉専攻、子ども教育専攻のパンフレットを送付した。7月に関係機関(246カ所)に看護学研究科のパンフレットを送付した。R3年度用に新たに人間社会学研究科(3専攻)のパンフレットを作成した。さらに志願者増を目的に同窓会の会報誌に同封し配布することを依頼し、承諾を得た。 ○目標実績 ・入学者のAP認知率:84% ・オープンキャンパス参加者数:夏:アクセス数525、個別相談108 秋:アクセス数173、個別相談38 アンケート回答:夏動画について162、個別相談について52 秋動画について65、個別相談について30 良好評価:夏動画96.3%、個別相談100% 秋動画98.5%、個別相談100% ・入試説明会参加数及びアンケート:8会場、良好評価99.4% ・訪問高校数及びアンケート:6校、良好評価97.9%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.3 「高校訪問」 No.4 「入試説明会」 No.6 「オープンキャンパス」	13

中期計画		令和2年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※4 アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保の続き	<p>2【アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生を確保するための入学選抜方法の検証と改善】</p> <p>アドミッション・ポリシーに基づいた多様な入学選抜試験を実施するとともに、アドミッション・オフィスにおいてIRを活用し、入学選抜方法の検証・改善を図る。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志願倍率<全学(学部)の志願倍率(一般入試)> (志願者数)/(募集人員) : 全学4倍以上(単年) ・充足率<大学院> (入学者数)/(入学定員) : 大学院各研究科100%(単年) 	<p>2【令和2年度計画】</p> <p>【アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生を確保するための入学選抜方法の検証と改善】</p> <p><学部> 新たな入試方法につき、マニュアル作成等、実施に向けた準備を行う。 また、アドミッション・オフィスを設置し、試行運用する。</p> <p><大学院> 大学院入試部会を開催し、入試選抜方法を検証するとともに、志願者の確保について検討する。 また、大学院入試説明会を継続して実施する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志願倍率<全学(学部)の志願倍率(一般入試)> (志願者数)/(募集人員) : 全学4倍以上 ・充足率<大学院> (入学者数)/(入学定員) : 大学院各研究科100% 	1	<p>【令和2年度の実施状況】</p> <p>【アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生を確保するための入学選抜方法の検証と改善】</p> <p><学部> 【組織状況】 学部入学試験部会において案を作成し、教授会を経て、教務入試委員会において決定している。 【実施状況】 学校推薦型選抜においては、新型コロナウイルス感染の拡大予防の観点から、集団面接の実施を取りやめた。一方、アドミッション・ポリシーに対応するために、新たに調査書記載事項について本学アドミッション・ポリシーとの適合性から評価、また推薦書に本学アドミッション・ポリシーへの適性評価項目を追加、ともに評価に加えた。一般選抜試験についても調査書の記載項目評価を追加し、アドミッション・ポリシーに合った学生の確保に努めた。また、新型コロナウイルスへの対応では、試験室への入り口での体温測定、定期的な換気を行うこと、手指消毒とマスク着用を促し、トイレ使用も混雑しないように誘導員を配置するなどを加えたマニュアルを作成し実施した。アドミッション・オフィスの運用を開始し、入試関連の問い合わせにも問題なく対応した。</p> <p><大学院> 【組織状況】 大学院入学試験部会が、各専攻会議、大学院学務部会及びアドミッション・オフィスと連携して対応している。 【実施状況】 入学選抜方法については、大学院入学試験部会において近隣の大学の情報収集や各専攻で選抜方法について検討を行った。大学院入試説明会については、新型コロナウイルス感染症対策としてオンラインで実施した。8月8日と9月26日のオープンキャンパスにおいて、人間社会学研究科では説明動画を配信、看護学研究科ではオンライン説明会(計24名参加)を開催した。</p> <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志願倍率<全学(学部)の志願倍率(一般入試)> (志願者数:1192)/(募集人員:170) : 全学7.01倍 ・充足率<大学院> (入学者数)/(入学定員) : 大学院看護学研究科75.0%・人間社会学研究科66.7% 	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.1 「①入学選抜試験(学部) ②入学選抜試験(大学院)」	14
	<p>3【高大連携の取組の推進】</p> <p>高等学校等と緊密な連携のもと、高校生に対し大学での学修内容への興味や進学意欲を高める高大連携の取組を推進する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大連携授業への参加者の満足度 : 良好評価80%以上(単年) 	<p>3【令和2年度計画】</p> <p>【高大連携の取組の推進】</p> <p>「高大連携教職員合同研修会」により高等学校等のニーズを把握し、「高校生向けセミナー」「出前講義」を実施する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大連携授業への参加者の満足度 : 良好評価80%以上 	1	<p>【令和2年度の実施状況】</p> <p>【高大連携の取組の推進】</p> <p>【組織状況】 学部入学試験部会が企画し、両学部の協力のもとに実施した。 【実施状況】 「高大連携教職員合同研修会」の開催は秋のオープンキャンパスの同日にリモートで実施した。参加校6校。テーマは①本学の本年度以降の入試について、②大学入試の動向についてとした。「高校生向けセミナー(オータムスクール)」を9月26日(土)の秋のオープンキャンパスと同時開催した。高等学校のニーズによる「出前講義」を継続的に実施した。</p> <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大連携授業への参加者の満足度 : [オータムスクール]良好評価 : 92.3% [出前講義]14回、良好評価 : 98.6% 	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.5 「出前講義」	15

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
5 学生の学修支援と生活支援	<p>1 【学生の学修環境の整備】</p> <p>学生の自主的学修を促すために、学術情報基盤としての図書館や情報ネットワーク環境等を整備するとともに、社会人学生が学びやすい学修環境を整備し、大学間の学生コンソーシアムを構築する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館入館者数 : 36,000人以上(単年) ・図書貸出数 : 24,000冊以上(単年) ・eラーニングコース開設数 : 110以上(単年) ・eラーニングシステムの学生利用率: 全学平均80%以上(単年) ・社会人学生の満足度 : 良好評価70%以上(単年) 	<p>1 【令和2年度計画】</p> <p>【学生の学修環境の整備】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学生の自主的学修を促すために、図書館資料の活用も図れるラーニング・commonsの利用方法について学生や教職員に対して周知を行う。 ②情報ネットワーク環境等を整備するため、学内LAN再構築の計画、eラーニングシステムの改善に向けてポートフォリオ導入を検討する。 ③大学間の学生コンソーシアム構築のため、学生コンソーシアム会議の開催、及び学生フェスティバルの開催を支援する。 ④H31(2019)年度に実施した社会人学生満足度調査結果を参考に、社会人学生が学びやすい学修環境整備に向けて検討する。 <p>○評価指標(指標及び達成目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館入館者数 : 36,000人以上 ・図書貸出数 : 24,000冊以上 ・eラーニングコース開設数 : 110以上 ・eラーニングシステムの学生利用率 : 全学平均80%以上 ・社会人学生の満足度 : 良好評価70%以上 	1	<p>【令和2年度の実施状況】</p> <p>【学生の学修環境の整備】</p> <p>①【組織状況】 図書館運営部会において教育分野ワーキンググループを設置し、ラーニング・commonsの利用を含めた学生の図書館利用促進について検討を行った。</p> <p>【実施状況】 新型コロナウイルス感染症拡大防止でR2年度は分館のラーニング・commons自体の活用を見合わせた。収束後を見据えてラーニング・commonsにおけるワークショップ等の実施を検討した。また、学生の自主的学修を促し図書館資料の活用も図れるように、図書館利用・資料検索方法の資料を学生に提供し、図書館本館の学習スペースのPC・プリンタに情報処理教室と同様のシステムを導入して教員・学生への周知を図った。</p> <p>②【組織状況】 eラーニングシステムの活用促進は、H21年の導入以来、情報処理センターを中心に取り組んできた。R2年度から、総合情報委員会が統括する形で取り組んだ。教育環境整備に直結する事項については学部FD部会、大学院FD部会、IR推進室と協働した。</p> <p>【実施状況】 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全学的な遠隔授業の実施に対応するために、eラーニングシステムの増強、リアルタイム型の授業を行うためのZoomの有償契約、大容量の動画データを配信するためのVimeoの有償契約を行うことなどで対応した。学内LAN再構築とポートフォリオ導入について検討した。年間を通して遠隔授業を実施するためのシステム運営を行い、eラーニングコース開設数が前年度の142から375と大幅に増加し、学生の利用率も88.8%から98.8%と上昇した。</p> <p>③【組織状況】 本学戦略連携室教員4名が学生コンソーシアムの運営を支援した。</p> <p>【実施状況】 本年度の学生委員は3年生2名、1年生6名の計8名が活動した。学生コンソーシアム会議は計10回開催した。2回目以降はオンラインにて開催した。学生フェスティバル(かんだま祭)は、3月7日(土)にオンラインにて、テーマ「離れていてもつながる～新たな看護の形が求められる時代へ～」を開催した。参加者は101名(内高校生は17名)であった。また医療従事者への感謝応援メッセージの動画を作成しYouTubeで公開している。第2回かえる場(大学を超えたアクティブラーニングの場)は、3月26日(金)にナーシングキャリアカフェと同日開催した。テーマは「感染症拡大時に看護学生は何かができるか」とし、反転授業を取り入れ、当日オンラインにてグループディスカッションとその成果発表を行った。学生の参加数は、5大学9名であった。</p> <p>④【組織状況】 大学院FD部会を定期的に開催し、満足度調査を実施後、社会人学生を抽出し分析、座談会を企画・開催後、意見を集約し、社会人学生が学びやすい学修環境の整備について検討した。</p> <p>【実施状況】 在学生に9月に実施した満足度調査から社会人学生について分析した。分析結果は、10月の研究科委員会で報告し、各研究科の教員で情報共有をした。11月に開催した座談会では、コロナ禍における研究指導体制への要望や意見を集約した。また、障がいのある大学院生のニーズも明らかになり、所管する学生総合支援センター運営部会に情報提供した。その結果、2月実施の修了生の学修環境に対する総合的な満足度は100%であり、高い評価を得ることができた。</p> <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館入館者数: 39,158 ・図書貸出数: 35,974 ・eラーニングコース開設数: 375 ・eラーニングシステムの学生利用率: 98.8% ・社会人学生の満足度: 在学時調査では良好評価67%(修了時調査では100%) 	A	<p>【高く評価する点】</p> <p>②年間を通して遠隔授業を実施するためのシステム運営を行い、eラーニングコース開設数が前年度の142から375と大幅に増加し、学生の利用率も88.8%から98.8%と上昇した。</p> <p>④「座談会」の参加者は9人で、内社会人の参加者は看護学研究科の2名、人間社会学研究科の5名であり、7名の社会人学生から広く意見聴取し、実態を把握した。そこで集約した意見を学習環境整備に反映したことにより、2月実施の修了生の「満足度調査」による総合的な評価は、社会人学生において高い評価を得ることができた。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.13 「図書館」	16

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※5 学生の学修支援と生活支援の続き	2【留学生や障がいのある学生を含む多様な学生に対する学修・学生生活支援体制の充実・強化】 ①成績不振の学生への相談支援を行う。 ②留学生や障がいのある学生を含む多様な学生に対する学修・学生生活支援の充実に向けた見直しを行う。 ③学生が安心して勉学に専念できるような相談・支援体制の整備として、学生総合支援センター(仮称)を開設する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・学生総合支援センター(仮称)の開設 :H32年度の実施	2【令和2年度計画】 【留学生や障がいのある学生を含む多様な学生に対する学修・学生生活支援体制の充実・強化】 ①GPA2.0以下の成績不振の学生に対し、個別面談による支援を行う(前期・後期)。 ②留学生や障がいのある学生を含めた学修・学生生活支援の充実に図るための支援体制の見直しを行う。 ③学生総合支援センター(仮称)の整備とその運用を行う。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・学生総合支援センター(仮称)を開設する。(R2年度)	1	【令和2年度の実施状況】 【留学生や障がいのある学生を含む多様な学生に対する学修・学生生活支援体制の充実・強化】 ①【組織状況】 教務・共通教育部会、学科・コース担当者会議が中心となり実施した。 【実施状況】 学科・コース等の担当者会議で、GPA2.0以下の学生の情報を共有し、支援の必要性を検討した。支援が必要と判断された学生は、学年担任、アドバイザーやゼミ担当教員等が個別面談し状況に応じて学生相談室や学生支援班につないで、連携して支援を行った。教員から連絡が取れない学生については、教務入試班と連携して対応した。支援内容は教務部会員に報告し、教務・共通教育部会で共有が行われた。R2年度は、138人(前期に72人、後期に66人)に支援を行った。 ②【組織状況】 R2年度に開設された学生総合支援センターにおいて実施した。 【実施状況】 学生に対する総合的支援を行うため、障がいのある学生に対する合理的配慮の申請を行う際の手続をセンターで整備した。 ③【組織状況】 学生総合支援センターにおいて実施した。 【実施状況】 R2年度に学生総合支援センターを開設し、これまで個々の部署ごとに行われていた学生支援の窓口を一本化した。学生に不慮の事態(事故等)が生じた際、安全衛生委員会とセンターが連携して対応することとした。 ○目標実績 学生総合支援センターを開設した(R2年度)。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.10 「奨学金受給」	17
	3【経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援】 ①授業料減免制度及び分納制度等の運用について改善策を検討する。 ②外部資金等を活用した本学独自の支援策を検討する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・授業料減免制度及び分納制度等の運用について改善策の検討 :H35年度の実施	3【令和2年度計画】 【経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援】 ①国の高等教育の修学支援新制度に基づく授業料減免制度を実施するとともに、分納制度等の運用について改善策を検討する。 ②真島・市場特別奨学金等を活用した支援策を実施する。		1	【令和2年度の実施状況】 【経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援】 ①②【組織状況】 進路・生活支援部会、学生支援班において実施した。 【実施状況】 授業料減免、および分割納付の運用改善については、学生が申請の手続きに困難を感じないよう、学生への情報提供を強化した。結果、修学支援新制度に基づく授業料減免(前期:170人、後期:163人)、大学独自の授業料減免(前期:13人、後期:12名)、分割納付(前期:16人、後期11人)による学生支援を実施した。外部資金等を活用した本学独自の支援策については、真島・市場特別奨学金による支援を3人に実施したほか、「学びの継続」のための「学生支援緊急給付金」申請を受け付け、計三次におよび255人を給付対象として日本学生支援機構に申請するに至り(総額2990万円)、補助申請ができる範囲をほぼ満たすことができた。また、1/22付で2次募集以降の家計急変者の調査があり対象学生(9名)に対し追加申請(募集)を案内した。定期募集の時期を逸した学生については、随時(臨時)募集がある際に個別に案内し、採用につなげた。昨年度の授業料減免(前期49人、後期48人)と比較して、大幅に採用人数を増やすことができ、経済的理由による就学困難者の発生を防ぐことができた(学生生活総合アンケート(通し番号11①)において、経済的な理由により就学継続が「非常に困難だと感じる」との回答割合が、第1回(R2年5月)では2.2%(8/362)、第2回(R3年2月)では1.0%(2/199))。	A		

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
6	<p>キャリア支援</p> <p>学生の社会的・職業的自立を図るため、キャリア教育を行うとともに、キャリア支援体制を強化する。</p>	<p>1【学生のキャリア支援体制の充実・強化】</p> <p>①キャリア形成支援プログラム関連科目の充実により、全学的キャリア教育を推進する。</p> <p>②正課外の系統的キャリア形成支援講座を、キャリア教育の授業科目と連携して実施する。</p> <p>③キャリアサポートセンター、就業力向上支援室、学生支援班の連携により、学生キャリア支援体制を強化する。</p> <p>④卒業生に対する就職活動支援を行う。</p> <p>⑤正課外活動等を対象に含めた学生への評価・表彰制度を構築する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・就職率(就職者数/就職希望者数) :95%以上(単年)</p>	1	<p>【令和2年度の実施状況】</p> <p>【学生のキャリア支援体制の充実・強化】</p> <p>①【組織状況】 基盤教育センター及び総合人間社会コースにおいて実施した。</p> <p>【実施状況】 キャリアマネジメント関連科目(キャリア形成支援から名称変更)の既存科目を改善実施するとともに、新規開講科目「ビジネス倫理」(前期)、「個人情報法制」「組織マネジメント」(後期)を実施した。「組織マネジメント」では、民間企業が抱える問題を議論し、組織について基本的なことから学び、実際に就職活動をするうえでの企業研究の方法や社会人になって必要な倫理について指導を行った。人と組織の間に生じる問題を検証し、問題への対処法を実践的に学ぶこととした。</p> <p>②【組織状況】 進路・生活支援部会、学生支援班において実施した。</p> <p>【実施状況】 企業情報の収集方法などを解説する「学内就職ガイダンス」を、ライブ配信及び動画視聴により実施した(10月～1月、5回)。ガイダンスでは、就職環境の実態を理解し、不安を軽減する内容を提供した。特に学生が最も懸念している、新型コロナウイルス感染症の企業活動への影響が、新卒採用計画に及ぼす影響について重点的に解説した。2号館2階に学生利用スペースとキャリアオフィスの開設、Wi-Fiネット環境の整備を準備した。コロナ対応として、キャリアカウンセラーによる電話での個別進路相談を実施した。大学生協主催のオンライン合同企業説明会の開催案内をメールにて行い、20名が参加した。</p> <p>③【組織状況】 進路・生活支援部会、学生支援班、就業力向上支援室、キャリアサポートセンターが実施した。</p> <p>【実施状況】 就職・キャリア支援業務を一体化するため、学生支援班のキャリア支援担当、就業力向上支援室、キャリアサポートセンター上記の3部署を統合した「キャリアオフィス」を学生支援班に設置し、2号館2階地域文化資料室を業務場所としてR3年4月から業務を実施するための準備を行った。 学生の就職・キャリア支援を行う統一的な活動主体を、学生及び外部者からわかりやすい形で整備することができた。</p> <p>④【組織状況】 学生支援班において実施した。</p> <p>【実施状況】 卒業生への情報提供を実施した。本学が得た求人情報を卒業生に情報提供する。卒業生に対してキャリアカウンセラーによる就職相談を行う。卒業生からゼミ担当教員に就職相談があった際に支援を行った。</p> <p>⑤【組織状況】 進路・生活支援部会において実施した。</p> <p>【実施状況】 教職員へ推薦を依頼し対象を募ったが、R2年度は該当者がいなかった。</p> <p>○目標実績 就職率98.7%(人間社会学部97.8%、看護学部100%)</p>	1	<p>【高く評価する点】 3部署を統合したキャリアオフィスの設置により、学生のキャリア支援を一元的に支援する体制を整備した。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.16 「就職状況」	19

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※6 キャリア支援の続き	<p>2【県内の産業界等との連携強化と企業を知る機会の拡充】</p> <p>①既存のインターンシップ実施体制を検証し、継続的キャリア形成の観点から効果的なインターンシップの推進を図る。</p> <p>②企業等に対する調査を行い、求めるスキルや潜在的求人ニーズなどの情報を収集する。</p> <p>③県内各種団体と協力し、学内における企業等就職説明会を開催する。</p> <p>④企業等のニーズと学生の適性とのマッチングを行うシステムの導入運用を行う。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・学内就職説明会 :2回以上(単年)</p>	<p>2【令和2年度計画】 【県内の産業界等との連携強化と企業を知る機会の拡充】</p> <p>①インターンシップを巡る情勢の変化に対応した、学生への情報周知・指導を実施する。</p> <p>②就職先アンケートを実施し、情報を収集する。</p> <p>③企業や団体等による就職説明会を開催する。</p> <p>④企業等のニーズと学生の適性とのマッチングを行うシステムを試行的に導入する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・学内就職説明会 :2回以上</p>	1	<p>【令和2年度の実施状況】 【県内の産業界等との連携強化と企業を知る機会の拡充】</p> <p>①【組織状況】 学生支援班、就業力向上支援室において実施した。</p> <p>【実施状況】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて急速に広まった「オンラインインターンシップ」に、本学の学生がどの程度参加しているのかヒアリングを行った。プレ・インターンシップでは、学生の要望からビジネスコミュニケーション、電話対応に関する動画を事前指導(4~8月に実施)の一部として提供した。プレ・インターンシップを、通常の形式とリモート形式との両方で実施し、学生が社会とつながる機会を確保した。県内の産業界団体からリモート両立インターンシップへの高い評価を得て、筑豊地区企業団体の会合で大学への評価が述べられた。</p> <p>②【組織状況】 進路・生活支援部会において実施した。</p> <p>【実施状況】 8月に就職先アンケート調査を実施し、10月に集計が完了した。アンケートの回答率を向上させるため、これまでは卒業生に直接郵送していたものを昨年度より就職先に同封し、就職先担当者より卒業生に渡してもらうこととした。また、従来は回答期間を2か月間設けていたものを今年度より1か月に短縮することで、回答の後回しや失念防止の改善を行った。回答期間を短縮したことで、今年度は就職先:47.0% 卒業生:33.9%と、昨年度より回答率を向上させることができた。</p> <p>③【組織状況】 進路・生活支援部会、各学科・コース担当者会議において実施した。</p> <p>【実施状況】 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、大人数が集まる対面型の学内就職説明会は中止した。代替措置として、学科・コースごとに、少人数で対象を絞った会合(4年生の採用試験合格者・就職内定者による体験談、卒業生による就職懇話、大学院生による受験体験談、外部事業者・本学教員による就職活動講座等)を、オンラインまたは感染防止に十分配慮した対面形式で、計16回実施した(対面8回・オンライン9回(うち1回が対面との併用による開催))。</p> <p>④【組織状況】 学生支援班において実施した。</p> <p>【実施状況】 R2年度は、マッチングシステムの導入候補の絞り込みを行った。R3年度は、導入するマッチングシステムを決定するにあたり、既に同様のシステムを導入している他大学に対して、利用状況や実績のヒアリングを実施したうえ、R3年度に運用を開始する予定である。</p> <p>○目標実績 学内就職説明会:16回実施</p>	A	<p>【高く評価する点】 プレ・インターンシップをリモートと通常の併用により実施したことで、地元の産業界団体から高い評価を得ることができた。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		20
		ウェイト総計	2年度 22			項目数計		2年度 20

【ウェイト付けの理由】

- ・通し番号1 保健・医療・福祉の各分野の専門的知識を包括的に学べる専門教育プログラムを導入するとともに体系的な教育課程を編成する。
- ・通し番号11 自ら考え、行動できる力を伸ばすため、アクティブ・ラーニング等、学生の主体的な学修を促す教育方法を促進する。

中期計画		令和2年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		
教育に関する特記事項								
<p>①授業アンケートのオンライン実施 例年授業アンケートはアンケート用紙を配布・回収し実施しているが、今年度はコロナ禍であったためオンラインでの実施とした。前期は、急遽Google Formを活用し実施し、後期は教務システムと連動したものを構築整備し実施した。来年度以降も継続する。</p> <p>②大学院授業参観への学部学生参加 大学院の授業参観ウィークの対象者を教員だけではなく、本学学部学生まで拡大したところ、延べ6名の学部学生が参観した。参観した学部学生の満足度は高く、院生の主体的な学習態度・発表態度がたいへん参考になった等の意見があった。</p> <p>③西田川高校との教育連携協定締結 2020年8月、本学と県立西田川高校(フレックス型単位制高校)の間で連携教育に関する協定を締結した。これにより、西田川高校の2年次以降の生徒が科目等履修生として本学の正規の授業を受講することが可能となった。この受講単位は西田川高校において卒業単位の一部として認定されるとともに、大学でも単位認定を可能とするものである。県内だけではなく、全国的にみても先駆的な協定(Advance Placement)である。</p> <p>④前期授業開始直前の遠隔授業研修 新入生向けのeラーニング研修会を急遽1年生全員に4月3日と6日に実施し、さらに4月7日と8日に個別対応を行ったことで、新入生が初回授業から混乱なく、スムーズに遠隔授業を受けられる体制を整えることができた。</p> <p>⑤遠隔授業に係る環境重点整備 前期からの全学的なオンライン授業を実施するため、県の全面的な財政支援を受け、eラーニングシステムの増強、テレビ・Web会議ツール「Zoom」の有償契約(41本)、動画サーバVimeo年間契約、学生貸出用としてポケットWi-Fi 50回線(年間契約)、iPad50台を購入などの環境整備を重点的に行い、年間を通して遠隔授業を実施することができた。</p> <p>⑥大学コンソーシアムへの高校生参加 毎年行ってきた学生フェスティバルへの参加対象を高校生まで拡大した。福岡県内156校の高校進路指導室宛に案内チラシを郵送した。当日オンライン学生フェスティバル(かんたま祭)に17名の高校生が参加した。高校生のアンケート結果では、10名の回答を得て10名全員から良好評価を得た。また、将来のイメージや進路についての明確な目標ができた、大学生との交流がよかった等の自由記述回答を得た。</p> <p>⑦大学コンソーシアムにおけるマンスリー会議の開催 コロナ禍における各連携大学(7大学)の情報共有を図る目的で、連携会議とは別に、8月より月に1回の“マンスリー会議”を開催した(計7回)。マンスリー会議では、授業方法、実習状況、経済支援状況、PCR検査の受検状況、ワクチンの接種予定状況などについて情報共有した。また、学生の行動制限や個人情報の取り扱いについての共有や疑問から、FD研修会の企画・開催(法的観点からみた行動制限)につなげた。</p>								

年度計画項目別評価

<p>中期目標 2 研究に関する目標</p>	<p>(1) 特色ある研究の推進 地域の特性や時代の先端を見据え、地域の保健・医療・福祉の発展や大学の特色ある教育に有用な研究を重点的に推進するとともに、地域に根差した研究拠点として、地域社会のニーズを踏まえた実践的な研究に取り組む。</p> <p>(2) 研究の実施体制等の整備 研究活動を更に活性化するため、研究支援体制の充実・強化を図るとともに、国内外の大学、研究機関、企業、行政機関等との連携体制の整備や外部資金の導入を推進する。</p> <p>(3) 研究水準の向上と成果の公表 研究水準の向上を図る取組を推進するとともに、研究成果を積極的に公表し、社会に還元する。</p>
----------------------------	--

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
<p>1 特色ある研究の推進</p> <p>保健・医療・福祉等、福祉社会の実現に寄与する本学の特徴を生かした研究を推進する。各センターの特徴と機能及び学内にあ る研究シーズを生かし、学際 的研究プロジェクトを推進する。また、社会のニーズに対して、本学 の研究シーズを生かした受託研究・共同研究を活性化させる方法を検討・実施する。</p>	<p>1【福祉社会の実現に寄与する研究の推進】</p> <p>保健・医療・福祉等、福祉社会の実現に寄与する本学の特徴を生かした研究を推進する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・学術成果件数(査読付き論文又は学術書、その他の論文等) : 100件以上 (うち、査読付き論文又は学術書50件以上)(単年)</p>	<p>1【令和2年度計画】</p> <p>【福祉社会の実現に寄与する研究の推進】</p> <p>①保健・医療・福祉等の研究情報を発信し、教員の研究活動の支援体制を整備する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・学術成果件数(査読付き論文又は学術書、その他の論文等) : 100件以上 (うち、査読付き論文又は学術書50件以上)</p>	1	<p>【令和2年度の実施状況】</p> <p>【福祉社会の実現に寄与する研究の推進】</p> <p>①【組織状況】 附属研究所調整部会を中心に取り組んだ。 【実施状況】 保健・医療・福祉等の研究情報の発信方法と、教員の研究活動を支援する体制を検討し、共同研究室を2室整備した。</p> <p>○目標実績 ・学術成果件数(査読付き論文又は学術書、その他の論文等) : 85件 (うち、査読付き論文又は学術書42件)</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.18 「論文等の実績」	21

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 特色ある研究の推進の続き	2【附属研究所の機能を生かした学際的研究プロジェクトの推進】 各センターの特徴と機能及び学内にある研究シーズを生かし、福祉社会の実現に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。地方自治体及び国の研究機関、行政機関等と連携・協力して、地域の課題解決等福祉社会の実現に寄与する共同研究を推進する。また、社会のニーズとのマッチングを円滑にする大学の研究シーズの公表方法を検討し、積極的に発信する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・学際的研究プロジェクトの実施 : 2件以上(単年) ・研究プロジェクトの成果報告会 : 1回以上(隔年) ・研究シーズ公表方法の検討・発信 : H33年度の実施	2【令和2年度計画】 【附属研究所の機能を生かした学際的研究プロジェクトの推進】 ①本学の特徴を生かした福祉社会の実現に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。 ②地域の関連機関等と連携・協力して、地域の課題解決に向けての共同研究の体制を構築する。 ③附属研究所の機能を生かし、地域社会のニーズとのマッチングを推進するために大学の研究シーズの公表を試行する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・学際的研究プロジェクトの実施 : 2件以上 ・地域の関連機関との合同研修会の実施 : 1回以上	2	【令和2年度の実施状況】 【附属研究所の機能を生かした学際的研究プロジェクトの推進】 【組織状況】 学際的研究プロジェクトの推進は、附属研究所調整部会を中心に取り組む。地域の課題解決に向けての地域の関連機関等と連携・協力した共同研究推進については研究推進部で取り組んだ。 【実施状況】 ①学際的研究プロジェクトである重点領域研究を公募し、「地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データのGIS分析による地域診断モデルの開発」「子どもの健康と保育に関する専門職連携の模索—福岡県の医療及び保育の現場での実態調査と養成校の実践—」の2件を採択した。 ②三者連携協定を締結している福智町との共同研究を開始した。 ③地域社会のニーズとマッチする本学の研究成果や研究テーマを公表する方法として、ホームページ上に「研究シーズ集」を掲載することを検討し、教員への事前調査を行った。 ○目標実績 ・学際的研究プロジェクトの実施 : 2件 ・地域の関連機関との合同研修会の実施 : 2回(9月24日地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データのGIS分析による地域診断説明会・10月21日、3月25日ケアカフェたがわ。)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		22
2 研究の実施体制等の整備 福祉社会の実現に寄与する特色ある研究を推進するための基盤整備を行う。附属研究所の組織・システムの見直し等により研究機能を強化し、研究支援体制を充実・強化する。	1【研究支援体制の充実・強化】 研究活動を更に活性化させるため、研究支援体制の充実・強化を図る。若手研究者の研究環境整備を支援する取り組みを推進する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・研究支援体制の充実・強化方法の検討及び実施 : H33年度の実施	1【令和2年度計画】 【研究支援体制の充実・強化】 ①研究推進部の機能充実を図り、若手研究者の研究支援体制を試行する。	1	【令和2年度の実施状況】 【研究支援体制の充実・強化】 ①【組織状況】 附属研究所調整部会を中心に取り組んだ。 【実施状況】 主に若手研究者を対象とした研究計画支援セミナー(個別相談(1件につき30~60分))を9月17日に実施した(参加者8名)。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		23
	2【附属研究所の組織・システムの見直し等による研究機能の強化】 本学の特色を生かした研究活動の支援、他大学や行政機関等との連携による研究の推進、既存の事業部門との連携促進等により、研究支援機能・研究推進機能を強化するという考えの下、附属研究所の組織・システムの見直し等を行う。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・附属研究所の組織・システムの見直しによる、新たな組織・システムの整備 : H33年度の実施	2【令和2年度計画】 【附属研究所の組織・システムの見直し等による研究機能の強化】 ①研究推進部を中心とした研究支援体制の下で、他大学や行政機関等と連携した研究の推進や既存事業との連携促進を試行する。	1	【令和2年度の実施状況】 【附属研究所の組織・システムの見直し等による研究機能の強化】 ①【組織状況】 附属研究所研究推進部を中心とした研究支援体制の下で、他大学や行政機関等と連携した研究の推進や既存事業との連携促進について検討した。 【実施状況】 三者連携協定を締結している福智町との共同研究「地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データのGIS分析による地域診断モデルの開発」が始まった。2月18日に福岡女子大学の視察を行い、大学間の連携による研究の推進を行うための情報交換を行った。生涯福祉研究センターをR2年度に閉所することに伴い、附属研究所の組織・システムを見直し、R3年度から調整部会を廃止し、運営部会を設置することとした。 生涯福祉研究センターで行っていた「特別支援教育スキルアッププログラム」「お父さんとお母さんの学習室」については、R3年度から心理教育相談室で実施予定。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		24

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※2 研究の実施体制等の整備の続き	3【外部研究資金の導入の推進】 研修会の開催により、科研費をはじめとする外部研究資金獲得の増加を目指す。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・外部研究資金獲得件数(継続を含む):30件以上(単年) ・外部研究資金応募件数(新規分):50件以上(単年)	3【令和2年度計画】 【外部研究資金の導入の推進】 ①外部研究資金獲得のための研修会を実施する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・外部研究資金獲得件数(継続を含む):30件以上 ・外部研究資金応募件数(新規分):50件以上	1	【令和2年度の実施状況】 【外部研究資金の導入の推進】 ①【組織状況】 附属研究所研究推進部を中心に取り組んだ。 【実施状況】 科研費申請のための研修会を新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場への参加に加えて、オンライン及び録画の事後視聴での参加ができる形で実施した(9月17日)。 ○目標実績 ・外部研究資金獲得件数(継続を含む):42件 ・外部研究資金応募件数(新規分):55件	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.17 「研究(研究推進の状況、外部研究資金獲得の状況)」	25
	4【研究倫理の徹底】 ①全ての研究者等を受講対象とする研修を実施し、研究倫理及び不正行為の防止を図る。 ②説明会の開催などにより、研究費の適正使用を徹底する。 ③研究倫理部会委員の学外研修により、研究倫理審査能力の向上を図る。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・研究倫理・不正行為防止研修の受講率:100%(単年)	4【令和2年度計画】 【研究倫理の徹底】 ①研究倫理・不正行為防止研修を実施する。 ②研究費の適正使用に関する説明会を開催する。 ③研究倫理部会委員の学外研修を行う。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・研究倫理・不正行為防止研修の受講率:100%	1	【令和2年度の実施状況】 【研究倫理の徹底】 ①②③【組織状況】 適正な研究活動推進委員会が中心となり、研究倫理・不正行為防止研修および研究費の適正利用に関する説明会の企画・実施をおこなった。研究倫理部会のもと部会員の学外研修に取り組んだ。 【実施状況】 本年度は未受講者ゼロを目指し、対面会議方式でおこなった研修・説明会を動画撮影し、それを全学教職員が視聴可能なクラウドサーバー上にアップロードした。オンデマンド受講を可能にし、未受講者への視聴勧奨をおこなった。視聴した教員は、確認テスト等に回答することになっており、未受講者は1名となった。研究倫理部会員の研修についてはオンライン形式の研修を受講した。 ○目標実績 ・研究倫理・不正行為防止研修の受講率:99.1%(105/106)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		26
3 研究の水準向上と成果の公表 研究水準の向上を図るための課題を明確化し、課題解決のための取組を推進するとともに、多様な研究成果を積極的に公表し、社会に還元する。	1【研究水準の向上を図る取組の推進】 ①研究水準の向上に向けた課題を整理する。 ②研究推進のための学内資源の適正配分を実施する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・学内資源の適正配分の実施:H34年度の実施	1【令和2年度計画】 【研究水準の向上を図る取組の推進】 ①研究水準を把握するための調査を実施し、課題を検討する。 ②研究推進のための研究費の適正配分に向けて試行する。	1	【令和2年度の実施状況】 【研究水準の向上を図る取組の推進】 【組織状況】 附属研究所調整部会と研究奨励交付金審査委員会で連携して取り組んだ。 【実施状況】 ①外部研究資金の応募・獲得状況についての調査を行った(結果は通し番号25)。また、奨励研究を推進するための対策について検討した。 ②研究奨励交付金における研究費の配分を見直した。 1.重点領域研究の強化 R2年度研究奨励交付金研究費の配分の変更点1.重点領域研究の強化指定課題の1つを「医療福祉連携研究」から「医療福祉情報研究」に変更し、情報通信技術やデータを活用した保健・医療・福祉分野の課題解決を目的とした研究を奨励する。また、助成期間を1年間から2年間に延ばした。 2.「データサイエンス研究」の新規設置 「データサイエンス研究」の枠を設置し、保健・福祉の増進及び地域の発展に寄与することを目的とし、IoTやAIの活用、データサイエンスの手法を用いた先駆的な研究やICT教育推進のための研究を奨励した。 3.科研費申請補助の対象の拡大 科研費申請補助の対象の拡大科研費補助の対象を審査結果が「A」であった教員に限定していたが、審査結果が「B」であった教員も対象に含め、幅広く助成した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		27

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 研究の水準向上と成果の公表の続き	2【研究成果の公表の推進】 ①研究成果の多様な公表内容や方法について検証を行う。 ②学内において研究成果発表の場や機会獲得のための支援を行う。 ③図書館に報告書を収蔵する。 ④情報検索・閲覧・発信システムの充実により研究成果の公表を行う。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・学内での研究成果発表の場や機会の設定 :H35年度の実施 ・図書館での報告書の収蔵、情報検索・閲覧・発信システムの充実 :H34年度の実施	2【令和2年度計画】 【研究成果の公表の推進】 ①附属研究所と図書館が連携して研究と公表について具体的に検証を行う。 ②附属研究所の組織・システムの見直し等を行うワーキング・グループにて、研究成果発表の場や機会獲得のための支援のあり方について具体的に検討する。 ③機関リポジトリ細則に則り、報告書を適切に収蔵する。 ④機関リポジトリ細則に則り、情報検索、閲覧、発信システムの充実を図っていく。	1	【令和2年度の実施状況】 【研究成果の公表の推進】 ①②【組織状況】 附属研究所と図書館とで連携して取り組んだ。 【実施状況】 ①附属研究所と図書館が連携し、附属研究所研究奨励交付金のR2年度の成果報告書から機関リポジトリに収録し、公表することとした。 ②研究推進部を中心にして、研究成果発表の場や機会獲得のための支援のあり方について検討し、附属研究所研究奨励交付金事業成果ポスター発表会を実施した(6件)。 ③④【組織状況】 図書館運営部会において研究分野ワーキンググループを設置し取り組んだ。 【実施状況】 機関リポジトリシステムの活用により、報告書の適切な収蔵と運用および情報検索、閲覧、発信システムの充実に取り組んだ。そして、福岡県立大学機関リポジトリ細則別表の学術情報等のうち、学生便覧(R2年度版)を機関リポジトリに試行登録し、資料のアップロード手順の確認作業等を行い、その他の報告書等登録の準備を行った。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		28
		ウェイト総計	2年度 9			項目数計		2年度 8

【ウェイト付けの理由】

・通し番号22 附属研究所の機能及び学内にある研究シーズを生かし、福祉社会の実現に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。

研究に関する特記事項

--

年度計画項目別評価

<p>中期目標 3 地域貢献及び国際交流に関する目標</p>	<p>(1) 地域社会への貢献 ア 地域社会との連携 大学の特色を生かして、看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士等のキャリアアップに資する教育プログラムや、県民の生涯学習を推進する公開講座等を実施するとともに、県の各種施策との連携を深め、地域の教育活動を支援する取組や保健・福祉の向上に貢献する取組を積極的に実施する。 イ 地域活性化への支援 大学が有する人的・物的資源や教育研究成果を地域社会に還元し、地域の諸課題の解決、地域社会の活性化に貢献する。 (2) 国際交流の推進 国際化を推進するための体制を充実・強化し、アジアをはじめとする外国の大学等との交流を戦略的に展開する。</p>
------------------------------------	---

項目	実施事項	令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
					評価	理由		
1-ア 地域社会との連携 大学の特色を生かして、県民の生涯学習を推進する公開講座等を実施するとともに、資格・免許保持者のキャリアアップやスキルアップ等に資するリカレント教育等を実施する。	1【県民の生涯学習を推進する公開講座等の実施】 ①附属研究所における3センター(生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンター)を中心とした公開講座を実施する。 ②保健・福祉・教育・心理等でテーマを設定し、セミナーやフォーラムを実施する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・公開講座の実施回数 : 3回以上(単年)	1【令和2年度計画】 【県民の生涯学習を推進する公開講座等の実施】 ①附属研究所を中心とした公開講座を実施する。 ②保健・福祉・教育・心理等のテーマでセミナーやフォーラムを実施する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・公開講座の実施回数 : 3回以上	1	【令和2年度の実施状況】 【県民の生涯学習を推進する公開講座等の実施】 【組織状況】 附属研究所公開講座小部会で取り組んだ。 【実施状況】 ①公開講座は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全てオンラインにて開催した。不登校・ひきこもりサポートセンターが3回(12月1日、12月11日、1月16日)、附属研究所が1回(2月19日)実施した。参加人数(延べ)が昨年度190人から762人に増加した。 ②セミナーやフォーラムにおいて保健・福祉・教育・心理等のテーマで研修を実施した。 <社会貢献・ボランティア支援センター> ・認知症サポーター養成講座(12月2日) ・第1回福祉体験セミナー～車いす・白杖体験を通してバリアフリーについて考えよう～(11月25日) <不登校・ひきこもりサポートセンター> ・R2年度不登校・ひきこもり支援フォーラム(3月2日) ○目標実績 ・公開講座の実施回数: 4回	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.21 「公開講座等」	29

中期計画		令和2年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1-ア 地域社会との連携の続き	2【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ①看護臨地実習における実習指導者を対象とした、教育力向上のための研修会を開催する。 ②看護師等の資格・免許保持者を対象とする研修会の開催、または研修会の講師等として参画する。	2【令和2年度計画】 【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ①教育力向上を目指した臨地実習連絡会議や実習指導者を対象とした研修会を実施する。 ②専門分野を深めるためのリカレント教育や研修会を開催する。また、看護師等の資格・免許保持者を対象としたスキルアップを目指した研修会へ参画する。 ③社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉従事者へのキャリアアップ及びリカレント教育を実施する。 ④臨床心理士資格保持者等を対象とした研修会を開催する。	1	【令和2年度の実施状況】 【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ①【組織状況】 臨地実習連絡会議／教員・実習指導者研修会を教務部会、学務部会、実習運営部会が合同で企画実施した。 【実施状況】 臨地実習指導者の研修会の開催については、オンライン(Zoom)で開催(3/9)した。午前の臨地実習連絡会議(主に新カリキュラムに向けての教育内容とその特徴)の参加者は実習指導者35名、教員40名で合計75名、午後の教員・実習指導者研修会(テーマ:コーチング)の参加者は実習指導者32名、教員30名の合計62名であった。アンケートでは教育内容とその特徴について理解ができたこと、今後もオンライン開催の希望者が多く、分科会で他の実習施設の人と話せたことなど研修効果も得られた。 ②【組織状況】 保健師課程の教員で企画実施した。 【実施状況】 (1)福岡県立大学看護学部地域・公衆衛生看護学卒業生を対象に2回(うち、web1回)開催し、合計30名の学生が参加した。新型コロナウイルス感染症の流行により、支援対象となる人々の健康上の問題は深刻化していた。積極的なアウトリーチによる支援が困難な状況が続いており、新人期の卒業生は不安や戸惑いが大きいことが分かった。WEB会議システムを活用して実施したことで、関東、関西、中国、九州地方の卒業生が参加することができた。 (2)地域で活躍する看護職(40名)・多職種・市民を対象に、年2回(うち、web1回)在宅療養時に必要な看護・介護に関する知識について学び、情報交換を行った。 (3)現役の看護師を対象とした「看護師の特定行為研修」をR3年度から開講するにあたり、R2年度は、研修計画の策定、協力医療施設との調整、研修室等の施設整備及び研修に必要なシミュレータ等の機器整備等を行った。 ③【組織状況】 人間社会学部社会福祉学科が主体となり、福岡県立大学社会福祉学会及び日本ソーシャルワーク教育学校連盟九州ブロックとの共催で、本学の卒業生や県内の社会福祉士・精神保健福祉士等を対象に研修会を実施した。 【実施状況】 今年度はコロナ禍のため、例年のような対面方式ではなく、zoomを利用した研修会を計画し、R3年2月20日(土)に実施した。研修会の内容は、セミナーとして、「コミュニティに根ざした“ふくし”人材を養成する研修」に関する動画の視聴、同志社大学の上野谷加代子名誉教授による基調講演「地域共生社会の実現に向けたソーシャルワークの展開」、ならびに本学教員を含めたシンポジウムであった。参加者は123名で、満足度も良好であった(参加者アンケート:「大変良かった」67.9%、「よかった」32.1%)。 ④【組織状況】 福岡県立大学大学院心理教育相談室が主体となり、本学を卒業、修了した臨床心理士を対象の中心とした継続研修会(福岡県立大学心理臨床研究会)を実施した。 【実施状況】 今年度はコロナ禍のため、例年のような対面方式ではなく、zoomを用いた同時双方向配信やYouTubeの限定公開動画を用いたオンデマンド形式などの方法による研修会を計画し、実施した。9月～3月にかけて全6回開催し、いずれにおいても例年(40名程度/回)とほぼ同じかそれ以上の参加者数であった(のべ257名)。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		30

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
1-イ 地域社会への貢献 大学が有する人的・物的資源や教育研究成果を社会に還元し、地域社会の課題解決、活性化に貢献する。各センター事業による地域連携・地域支援を推進するとともに、より効果的な地域貢献を行うべく、組織体制の整備を検討し、実施する。	1【地域に対する包括的支援の充実】 ①学内で地域に対する支援を実施している部署の連携体制を構築する。 ②不登校・ひきこもりサポートセンターや社会貢献・ボランティア支援センター等による地域に対する福祉・教育等の相談・支援の充実を図る。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・参加者・相談者アンケート：良好評価70%以上(単年)	1【令和2年度計画】 【地域に対する包括的支援の充実】 ①学内で地域に対する支援を実施している部署の連携体制の構築に向けて試行する。 ②不登校・ひきこもりサポートセンターや社会貢献・ボランティア支援センター等による地域に対する福祉・教育等の相談・支援の充実を図る。 <不登校・ひきこもりサポートセンター> ・県大子どもサポーター派遣事業及びキャンパス・スクール事業を実施する。 ・全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を実施し、課題を検討する。 <社会貢献・ボランティア支援センター> ・学生のボランティアコーディネート及び支援を実施する。 ・福岡県事業(学習ボランティア派遣事業)である「土曜の風」を地域教育支援機構のもと推進する。 <生涯福祉研究センター> ・地域住民等に対する相談・支援の取組を行う。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・参加者・相談者アンケート：良好評価70%以上	2	【令和2年度の実施状況】 【地域に対する包括的支援の充実】 【組織状況】 附属研究所、各センター、プロジェクトの間で協力しながら取り組んだ。 【実施状況】 ①生涯福祉研究センター閉所に伴い、地域に対する支援業務の体制を整理した。 ②地域から福祉・教育などの相談に対して、不登校・ひきこもりサポートセンターと社会貢献・ボランティア支援センターが連携して対応する体制整備に着手した。 <不登校・ひきこもりサポートセンター> 県大子どもサポーター派遣事業及びキャンパス・スクール事業を実施。 ⇒県大子どもサポーター派遣事業は、実人数202人、延べ1119人が活動を実施した。 ⇒キャンパス・スクール事業は、登校開始率74.07%(義務教育課程生徒73.07%)、延べ1454人が通級した。 ・全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を実施し、課題を検討した。 <社会貢献・ボランティア支援センター> ・外部団体の登録件数は227件となり、16件のボランティア依頼情報を学生に提供した。延べ302人の学生相談に応じ、延べ124人の学生が活動に参加した。 ・福岡県事業(学習ボランティア派遣事業)である「土曜の風」を、地域教育支援機構のもと実施している。地域の教育委員会主催の学習支援を実施している15箇所に学生を派遣、延べ958回学生を派遣し、派遣学生延べ数は1407人であった。 <生涯福祉研究センター> ・ペアレントトレーニング(お父さんとお母さんの学習室：心理教育相談室主催、生福センター共催)10回開催済延べ30人参加/R1年度秋季クラス3か月・6か月フォロー延べ6人参加。 ※後半の「R1年度秋季クラス3か月・6か月フォロー延べ6人参加。」は昨年度ペアトレ参加者のフォローをR2年度に実施したものの。 ・「ペアレントトレーニング」事業はR2年度から、コロナの影響があった事業ではあるが、主催から共催に変更し、事業開催に協力してきた。 ○目標実績 ・参加者・相談者アンケート：良好評価100%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.31 「生涯福祉研究センター活動実績」 No.32 「不登校・ひきこもりサポートセンターの活動状況」	31

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2 国際交流の推進 国際化を推進するための体制を充実・強化し、アジアをはじめとする外国の大学等との交流を充実させる。	1【国際交流センターを中心とした教育研究の国際交流推進体制の充実と学生交流の推進】 ①協定締結校との文化・学術交流事業を実施する。 ②国際理解を深める文化交流プログラムを推進する。 ③国際交流センターの事業を推進する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・教員交流数 :延20名以上(単年)	1【令和2年度計画】 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際交流推進体制の充実と学生交流の推進】 ①大邱韓医大学校、三育大学校、北京中医薬大学、南京師範大学、威徳大学校、吉林大学珠海学院との教員交流を推進する。 ②地域住民との連携事業としての文化交流プログラムを推進する。 ③国際交流チューター等を活用した国際交流支援を行う。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・教員交流数 :延20名以上(※新型コロナウイルス感染症対策の状況により変動の可能性あり。)	1	【令和2年度の実施状況】 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際交流推進体制の充実と学生交流の推進】 ①【組織状況】 国際交流推進部会で取り組みを行った。 【実施状況】 新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、オンラインによる教員交流について検討し、国際交流センターの整備および機器の準備を行った。また、新部会員として中国・韓国のネイティブスピーカーが加わり新たな交流について検討し、交流内容の充実を図った。 ②【組織状況】 国際交流推進部会で取り組みを行った。 【実施状況】 R2年度は留学生の受け入れを中止したため、留学生と地域住民との交流活動は実施できなかった。しかし、これまでの交流活動内容を国際交流ホームページに掲載し、地域住民への周知に努めた。また、関係団体に現状報告も行った。 ③【組織状況】 国際交流推進部会においてWorkingGroupを結成し、国際交流チューター担当学生の支援体制について協議し取り組んだ。 【実施状況】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、本学ではR2年度の交換留学生の受け入れを中止する決定をし、感染リスクのため通常の国際交流事業の実施を自粛した。R2年度はR1年度派遣留学生7名が国際交流チューターに委嘱され、国際交流支援として、留学に興味を持つ学生の支援および一般学生の異文化理解促進の目的で、国際交流推進部会員支援のもと、国際交流チューター自身の留学体験の紹介動画を作成した。 ○目標実績 ・教員交流数:0名	C	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 大邱韓医大学校、三育大学校、北京中医薬大学、南京師範大学、威徳大学校、吉林大学珠海学院との教員交流、および地域住民との連携事業としての文化交流プログラムが実施できなかった。	No.22 「国際交流協定」	32

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※2 国際交流の推進の続き	2【留学生への支援体制の充実】 ①短期研修制度の拡充により、派遣留学生の情報・魅力を学生に十分に提供し、支援する。 ②派遣期間中の留学生の修学・生活上の問題点等を、留学に関するアンケート等により把握し、支援体制を作る。 ③留学生(派遣・受入)に対する支援体制について検討・実施する。 ④短期派遣留学生の奨学金・交換留学締結について検討・実施する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・留学生(派遣・受入)数 :30人以上(うち、受入数20人以上)(単年)	2【令和2年度計画】 【留学生への支援体制の充実】 ①英語短期語学演習(単位認定)及び文化交流を目的とした短期研修プログラムの実施や、専門分野を学ぶ短期研修プログラムの検討および実施に向けた取り組みを行い、短期研修制度の充実を図る。 ②留学生の派遣中の修学・生活上の課題を留学生が毎月提出するレポートによって把握しその課題改善に取り組む。 ③受入留学生支援事業を実施する。また、受入留学生に対する国際交流センターを活用した地域住民との交流機会を提供する。 ④短期派遣留学生の奨学金・交換留学締結について検討・実施する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・留学生(派遣・受入)数 :30人以上(うち、受入数20人以上) (※新型コロナウイルス感染症対策の状況により変動の可能性あり。)	1	【令和2年度の実施状況】 【留学生への支援体制の充実】 ①【組織状況】 国際交流推進部会において、語学教員メンバーおよび学生支援班長を中心とするWorkingGroupを立ち上げて取り組んだ。 【実施状況】 新型コロナウイルス感染症拡大により海外研修および交換留学生の受け入れが困難な現状を踏まえ、国際交流の新たな試みとして、コロナ禍(および収束後)において活用できるオンラインによる国際交流の実施方法を検討し、国際交流センターの整備および機器の準備を行った。 ②【組織状況】 学生支援班を窓口とし、国際交流推進部会で対応を行った。 【実施状況】 R2年度は、1名の学生を派遣した。また、毎月提出されたレポートを通して、コロナ禍においても充実した留学生生活を送っていることが把握できた。 ③【組織状況】 学生支援班の国際交流担当の職員を中心に取り組んだ。 【実施状況】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、R2年度は交換留学生の受入が中止(4月・9月)となったが、R1年度9月に来日した中国からの交換留学生3名(R2年9月帰国)については、日本文化探訪を1回(8月実施)実施することができた。 ④【組織状況】 国際交流推進部会で取り組みを行った。 【実施状況】 R2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、短期派遣留学を中止した。また、申し入れがあった1校(中国)については、検討した結果締結には至らなかった。 ○目標実績 ・留学生(派遣・受入)数:派遣1名・受入3名	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 留学生の派遣・受入数の目標が達成できなかった。	No.22 「国際交流協定」 No.23 「学生、教員の国際交流」	33
		ウェイト総計	2年度 6			項目数計	2年度 5	

【ウェイト付けの理由】

・通し番号31 学内で地域支援を行っている部署間の連携体制を強化し、地域連携・地域支援を推進する。

福岡県立大学(地域貢献及び国際交流)

中期計画		令和2年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
地域貢献及び国際交流に関する特記事項								
<p>①公開講座のオンライン開催 令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、公開講座を従来の対面式から全てオンライン形式で実施した。公開動画配信、Zoomライブ、オンラインディスカッションなど、開催方法を工夫し、「コロナと不登校～子どもたちの生活の変化とゲーム・ネット依存～」を3回、「インクルーシブな社会をめざす専門性の模索-日伊の制度と実践の比較を通じて」を1回、計4回実施した。その結果、参加者数(述ベ)が昨年度の192人から762人となった。</p> <p>②オンライン演習、学内看護学実習(看護学部) コロナ禍における実習・演習教育は、感染予防に万全を期し、遠隔で、あるいは、学内で実施した。まず演習科目であるが、こちらは少人数グループを複数教室および遠隔で同時に進行・配信した。実習科目については、5号館を病棟に見立て動線管理を行いつつ、学内での実習を展開した。患者・家族役には教員も参画した。本来の実習先病院からの臨床指導者が本学の“病棟”を訪れて指導を行う場面もあった。</p> <p>③特定行為研修の開始 国の「特定行為に係る看護師の研修制度」に基づき、筑豊地域初となる特定行為研修の研修指定機関に本学が指定を受けた。</p> <p>④対面授業等の実施に伴う新型コロナウイルス感染症対策 対面授業や看護学部における実習・演習等の実施に伴う、新型コロナウイルス感染症対策として、県の全面的な財政支援を受け、衛生用品、非接触式体温計、サーキュレーター、サーマルカメラ等を購入し、徹底的な感染症のまん延防止対策を行ったことにより、学内での感染を未然に防止することができた。</p> <p>⑤不登校ひきこもりサポートセンター ・センターにおいて、通算活動回数が100回を超えた学生の表彰を行った。令和2年度は、通算活動回数100回以上(ジュニアマイスター)の表彰を受けた者が6名、200回以上(マイスター)の表彰を受けた者が1名であった。 ・センターでは、コロナ禍での新たな支援方法として、不登校児童生徒を対象としたオンラインによるサポート活動に取り組んだ。不登校児童生徒と本学の学生ボランティアをオンラインのテレビ会議システムでつなぎ、コミュニケーション支援や学習支援を実施した。</p> <p>⑥学習ボランティア派遣事業「土曜の風」 学習ボランティア派遣事業の「土曜の風」において、延べ派遣回数が過去最多となった。緊急事態宣言による休校明けの学校において、学習の遅れの取り戻しを目的とした活動について、多数の依頼があった。 コロナ禍にあつて、学生のボランティア活動について、緊急事態宣言下でのボランティア活動自粛に取り組んだ。宣言明けのボランティア再開にあたっては、感染予防チェックリストを作成し、予防対策が徹底している活動先にもみ学生を派遣し、ボランティア学生に対しても行動記録を徹底した。さらに活動1回あたりの参加学生数の制限に取り組んだ。これにより、学生のボランティア活動回数は減少したが、ボランティア活動を原因とする新型コロナウイルス感染は発生していない。コロナ禍においても安全なボランティア活動を実施することができた。</p>								

年度計画項目別評価

<p>中期目標 4 業務運営の改善及び効率化に関する目標</p>	<p>(1) 大学運営の改善 学術研究の進展や社会及び地域情勢の変化に的確に対応するため、教育研究組織や学内資源配分を恒常的に見直し、理事長のリーダーシップの下、自主性・自律性を生かした活力ある大学運営を行う。 また、多様な人材を確保・育成するとともに、教職員の意欲向上を図るため、能力と業績を適正に評価する。併せて、スタッフ・ディベロップメント等の取組を推進し、複雑化・専門化する大学運営の充実を図る。</p> <p>(2) 事務等の効率化・合理化 継続的な業務見直しや事務体制の見直し等により、事務等の効率化・合理化を図る。</p> <p>(3) 社会的責任・安全管理の徹底 人権尊重、法令遵守の徹底など、公立大学法人としての社会的責任を果たすとともに、学生と教職員の健康の確保や事故、犯罪、災害等の未然防止、情報セキュリティ対策などの安全管理に万全を期す。 また、事故等が発生した場合に迅速に対処できる危機管理体制を確立する。</p>
--------------------------------------	--

項目	実施事項	令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
					評価	理由		
1 組織運営の改善・強化 理事長のリーダーシップの下、社会情勢等の変化に対応して学内組織や学内資源の配分を見直す等、的確な大学運営を行うとともに、教職員の能力と業績の適正評価による意欲の向上や多様な人材を育成するためにスタッフ・ディベロップメント(SD)等の取り組みを推進し、職員の資質向上を図る。	1【学内組織や学内資源の配分見直し】 社会情勢の変化に併せて学内組織や学内資源の配分を改変する。	1【令和2年度計画】 【学内組織や学内資源の配分見直し】 ①看護実践教育センターにおいて、特定行為指定研修機関として、R3年度からの開講を目指し体制整備を図る。また附属研究所等の将来構想等を検討するとともに、実情に応じてその他の学内組織や学内資源配分の見直し等を検討する。	1	【令和2年度の実施状況】 【学内組織や学内資源の配分見直し】 【組織状況】 今後の活用策については、施設が所在する附属研究所と活用の意向のある人間社会学部及び看護学部で調整の上、改革推進委員会で決定した。 【実施状況】 特定行為指定研修機関の指定を8月に受け、研修施設の場所も附属研究所2階、ヘルスプロモーション実践研究センター跡に設置することを決定。R2年12月から研修施設への改修を行い、R3年2月に完成。R3年4月1日から看護実践教育センター特定行為研修室として稼働を開始する。また、看護学部においてもコロナ禍における学内実習を充実させるため、ヘルスプロモーション実践研究センター跡に真島・市場総合シミュレーションルームを併設した。生涯福祉研究センター跡については、人間社会学部のこども教育の研究拠点として、保育・幼児教育ルームに活用することを決定した。	A	【高く評価する点】 地域医療に貢献する看護師の育成やこども教育の研究拠点の整備を図るため、学内施設を有効に活用できた。また、本学が目指す、教育・研究・地域貢献の一役を担う体制づくりができた。 【実施(達成)できなかった点】		34
	2【教員の士気を高める教育環境整備】 ①教員表彰制度(Best Teacher's Award、研究費優遇、学内外公表、長期派遣研修等)を実施する。 ②全学的視点からの戦略的配分推進のため、理事長裁量の研究奨励交付金制度の充実を図る。	2【令和2年度計画】 【教員の士気を高める教育環境整備】 ①教員表彰制度(Best Teacher's Award等)を実施する。 ②理事長裁量の研究奨励交付金制度の充実を図る。	1	【令和2年度の実施状況】 【教員の士気を高める教育環境整備】 【組織状況】 附属研究所調整部会と研究奨励交付金審査委員会連携して行った。 【実施状況】 ①教員表彰制度により、1名の教員を表彰した。 ②理事長裁量の研究奨励交付金制度の充実を図るため、研究奨励交付金制度の見直しを行った。データサイエンス研究、科研費申請補助「B」を新設した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		35
	3【教員個人業績評価制度の適切な運用】 教員の個人業績評価システムの検証・改善を実施する。	3【令和2年度計画】 【教員個人業績評価制度の適切な運用】 ①教員の個人業績評価システムを検証し、改善に向けた検討を行う。	1	【令和2年度の実施状況】 【教員個人業績評価制度の適切な運用】 【組織状況】 個人業績評価委員会が個人業績評価システムの検証を行った。 【実施状況】 検証の結果、公表不可となっている社会貢献活動等(文科省研究審査活動等)については、評価様式に記入するのではなく、直接事務局担当者に伝える方法をとることをメール等にて教員に周知した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		36

福岡県立大学(業務運営の改善及び効率化)

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 組織運営の改善・強化の続き	4【SD等の取組推進による職員の資質向上】 ①積極的に各種専門研修等へ参加させるとともに、意欲向上等を目的とした学内研修の実施を検討し、多様な状況にも対応できる人材の育成を図る。 ②事務局プロパー職員に対する人事評価制度を導入する。	4【令和2年度計画】 【SD等の取組推進による職員の資質向上】 ①積極的に学外研修の受講を推奨し、職員の技能向上を図るとともに、引き続き、他大学との合同も含めた独自研修の実施を検討する。 ②事務局プロパー職員の人事評価制度の本施行に向けて、「事務職員人事評価マニュアル」に沿って、2年目の試行を円滑に実施するとともに課題等の整理を行う。	1	【令和2年度の実施状況】 【SD等の取組推進による職員の資質向上】 【組織状況】 SD・FD部会に対応している。 【実施状況】 ①九州大学主催のSD研修(新任課長級)に1名(7月)、事務担当等職員に対する会計研修には4月に2名、7月に1名参加した。9月には、NPO法人学校経営研究会主催の公立大学法人会計セミナーに2名参加し、業務遂行能力の向上に努めた。また、今年度の取組としてFD部会規則にSDに関する規定を追加し、SD・FD部会規則と名称を改めるとともに、部会メンバーにプロパー職員を新たに加えるなど、事務局職員自らが積極的に自己研鑽に取り組み体制づくりを整備した。 ②事務局プロパー職員に対する人事評価については、2年間の試行期間を経て、R3年度より本格的に導入し、職員の士気の高揚と主体的な能力開発につなげ、職員の意欲や能力の向上、活力ある組織風土の創造を図り、効果的かつ効率的な大学運営の実現を目指すこととしている。	A	【高く評価する点】 今年度は、SDに関する規定を追加し、SD・FD部会規則と名称を改めるとともに、部会メンバーにプロパー職員を新たに加えるなど、事務局職員自らが積極的に自己研鑽に取り組み体制づくりを整備した。 【実施(達成)できなかった点】	No.24 「SD」	37
2 事務事業等の効率化 業務や事務体制の見直し等により、業務の効率化・合理化を図るとともに、ワークライフバランスの取り組みを推進する。	1【事務処理省力化・簡素化】 ①業務の電子化(システム化)の検討を行う。 ②業務マニュアル、情報の共有化等により事務作業の簡素化を図る。	1【令和2年度計画】 【事務処理省力化・簡素化】 ①費用対効果を主眼に更なる業務の電子化等の可能性を検討する。 ②事務作業簡素化を図るため、引き続き、業務マニュアルの見直しを検討し、適宜改変を行う。	1	【令和2年度の実施状況】 【事務処理省力化・簡素化】 【組織状況】 事務局の班長以上で構成する事務局会議で検討した。 【実施状況】 ①R2年度には、授業評価アンケートの集計業務を委託(年間約1500千円)していたものを、教務システムの改修により、教務システムで集計できるよう改善を行った。(R3年4月から運用予定) ②決算業務マニュアルは11月に更新した。その他の既存業務マニュアルについても、関係職員にて内容をチェックし、見直しの有無及び内容の充実に向けた検討を行った。	A	【高く評価する点】 授業評価アンケートの集計業務を教務システムで集計できるようシステム改修を行った結果、委託料を年間約1500千円削減できた。 【実施(達成)できなかった点】		38
	2【外部委託化】 業務の外部委託化の検討を行う。	2【令和2年度計画】 【外部委託化】 ①費用対効果を主眼に、引き続き、更なるアウトソーシングの可能性を検討する。	1	【令和2年度の実施状況】 【外部委託化】 【組織状況】 経営管理部及び学務部で検討した。 【実施状況】 R2年度から、「たがわ情報センター」にITに関する学生及び教職員からの相談対応業務(eラーニングシステム操作、WEB授業、アプリケーション(Word、Excel等)の操作、パソコン操作等)、WEB授業に利用する著作物に関する講習会の実施、遠隔授業に関する学生アンケート実施の業務委託を行うこととし、教職員の業務軽減及び業務の効率化を図った。	A	【高く評価する点】 「たがわ情報センター」に相談対応窓口、講習会の実施、学生アンケート実施に関する業務委託を行うこととし、教職員の業務軽減及び業務の効率化を図るとともに、併せて、地場企業の有効活用を図ることができた。 【実施(達成)できなかった点】		39

福岡県立大学(業務運営の改善及び効率化)

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
3 人権尊重、法令遵守の徹底及びリスクマネジメント体制の整備 法令等遵守の徹底や意識の醸成を図るとともに、リスクマネジメント体制を強化し確立する。	1【人権尊重、法令遵守の徹底】 ①法令遵守等の徹底及び意識醸成に係る啓発を行う。 ②人権等研修を実施する。	1【令和2年度計画】 【人権尊重、法令遵守の徹底】 ①教職員の更なる倫理観向上のための啓発を行い、周知・浸透を図る。 ②本学人権委員会主催の人権研修を開催するとともに、田川郡人権・同和対策推進協議会主催研修への教職員参加により、人権意識の醸成を図る。	1	【令和2年度の実施状況】 【人権尊重、法令遵守の徹底】 【組織状況】 経営管理部及び人権委員会で検討した。 【実施状況】 ①法令遵守等の徹底については、随時、県からの通知文を部局長会議で報告し、教授会で周知した。 ②今年度は、コロナ禍により田川郡人権・同和対策推進協議会主催の前期研修が中止となったことから、県立大学単独で8月24日、25日に開催(参加率82%)し、同和問題について認識を深めた。後期研修は、2月3日、4日に開催した。また、今年度は新たにハラスメント防止・対策職員研修を11月18日、25日に開催(参加率91.5%)し、学内でのハラスメントの防止及び対策について認識を深めることができた。さらに、1月20日には人権委員会主催の人権研修会を開催(参加率53.1%)し、LGBTについて認識を深めることができた。	A	【高く評価する点】 今年度は本学独自の研修として新たにハラスメント防止・対策職員研修及びLGBTに関する人権研修会を開催し、人権意識に対する認識を深めることができた。 【実施(達成)できなかった点】		40
	2【リスクマネジメント体制の整備・確立】 ①学内危機管理体制を確立する。 ②危機管理マニュアルの検証・変更を実施する。 ③防災訓練、防犯講習会を実施する。 ④情報セキュリティ体制の検証・変更を実施する。	2【令和2年度計画】 【リスクマネジメント体制の整備・確立】 ①学内危機管理体制の一層の確立を図るため、危機管理マニュアル等の周知徹底を行う。 ②実効性ある危機管理を行うべく、現行の危機管理基本マニュアル見直しの検討とともに、その他の個別対応マニュアル等の策定も検討する。 ③危機回避に対する判断力・行動力を養うため、防災訓練及び防犯講習会を実施する。 ④本学情報保全規則の遵守を徹底するとともに、情報システム等の脆弱性解消に対し、R3年度のシステム更新に併せて検討を行う。	1	【令和2年度の実施状況】 【リスクマネジメント体制の整備・確立】 【組織状況】 公立大学法人福岡県立大学危機管理規程第5条に基づき、常設の危機管理委員会を設置し対応を行った。 【実施状況】 ①大学ホームページ内に危機管理に関する情報の掲載ページを設け、いつでも危機管理マニュアル等を確認できるようにした。また、今年度は、大学ホームページへの掲載やメール配信等を通じ、新型コロナウイルスの感染予防対策及び感染状況等を学内外に積極的に広報することにより、学内活動における感染者ゼロの達成と地域住民へ大学の取組を発信した。 ②R2年度は、近年の大雨洪水等を踏まえ、附属図書館危機管理マニュアルを改正し、警戒レベルに応じた対応方法等を明記した。その他のマニュアルについても必要に応じ適宜見直しを図ることとしている。 ③学生寮を対象とした消防訓練をR2年7月15日・22日に実施し、また、全学対象の消防訓練を11月19日に実施し、今年度の新たな取組みとして、AEDの操作研修を実施した。R2年度の防犯講習はコロナ禍により中止したが、代替策として福岡県警が作成しているユーチューブの防犯講習の動画を教務システムで視聴できるよう措置した。また、人間社会学部においては、職員と学生を対象に、新たに災害確認アプリ「ANPIC」を導入した。 ④情報システムの脆弱性解消対策については総合情報委員会で検討しており、10月にはメールサーバーをクラウド化することを決定した。さらに11月には、情報システム・インシデントフローを作成し、システム障害・情報セキュリティインシデントに対応できる体制を整えた。	A	【高く評価する点】 R2年度は、①コロナ禍における本学の取り組みの学内外への発信、②附属図書館危機管理マニュアルの改正、③AEDの操作研修、④災害確認アプリ「ANPIC」の導入及び⑤情報システム・インシデントフローの作成など、リスクマネジメント体制の整備・確立に積極的に取り組むことができた。 【実施(達成)できなかった点】		41
		ウェイト総計	2年度 8			項目数計		2年度 8

【ウェイト付けの理由】

<p>業務運営の改善及び効率化に関する特記事項</p> <p>①田川情報センターへのアウトソーシング開始 前期授業が遠隔授業に移行したことにあわせ、4月から田川情報センターに総合情報委員会等の業務をアウトソーシングした。内容は、「教員への遠隔授業アドバイス」、「学生へのITサポート窓口」、「動画視聴サイトVimeoのアドバイス」、「遠隔授業に関する著作権問題の解説」等である。</p> <p>②防犯サークルの受賞(防犯活動団体表彰、ムービーアワード最優秀賞) 本学の防犯ボランティアサークル「オリオンズ」が2020年10月に県警から「犯罪の起きにくい社会づくり」に多大な貢献をしたことにより団体表彰を受けた。また2021年2月、県警の主催する福岡ムービーアワード2020(動画コンクール)においてオリオンズ制作の「夜道の安全」が最優秀賞を受賞した。</p>

年度計画項目別評価

<p>中期目標 5 財務内容の改善に関する目標</p>	<p>(1) 財政基盤の強化 教育研究活動等の活性化のため、外部資金の獲得等による自己収入の増加を図り、財政基盤を強化する。 また、資産を適正に管理し、財産の有効活用を図るとともに、資金の安全確実な運用を行う。</p> <p>(2) 経費の節減 大学の運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、適正な予算執行を進めるとともに、業務の効率化により、経費の節減を図る。</p>
---------------------------------	--

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
1 自己収入の積極的確保 外部資金の積極的獲得や資産の有効活用により、自己収入の増加を図り、財政基盤を強化する。	1【外部資金の積極的確保】 ①科学研究費、受託研究費等の外部資金の積極的獲得を全学的に取り組み、獲得に向けた支援体制を整備する。 ②寄付金の受入れを促進するため、申込手続きの簡素化や広報活動を推進する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・外部資金獲得額:5千万円以上(単年)	1【令和2年度計画】 【外部資金の積極的確保】 ①ホームページへの外部研究資金公募情報掲載の充実や科学研究費応募率向上のための研修会を開催する。 ②寄付金の受入れの増加に向け、あらゆる機会を通じた広報活動を実施する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・外部資金獲得額:5千万円以上	1	【令和2年度の実施状況】 【外部資金の積極的確保】 【組織状況】 附属研究所と経営管理部とで連携し対応を行った。 【実施状況】 ①適宜、ホームページに外部資金等の公募情報を掲載するとともに、科学研究助成事業に関する学内研修会をR2年9月17日に開催。今年度からの試みとして、研修会を撮影し、教員がいつでも応募方法等を確認できる体制を取った。 ②常時ホームページに掲載するとともに、大学広報誌(春号・秋号)に掲載した。 ○目標実績 ・外部資金獲得額:5,822万円	A	【高く評価する点】 取組みの結果、達成目標額(5千万円以上)を超える5,822万円を確保することができた。 【実施(達成)できなかった点】	No.17 「研究(研究推進の状況、外部研究資金獲得の状況)」	42
		2【大学施設の有効活用】 大学のホームページに大学施設の利用手続き等を掲載し大学施設の利用を促進する。	2【令和2年度計画】 【大学施設の有効活用】 ①大学施設の利用について、一層の周知を図る。	1	【令和2年度の実施状況】 【大学施設の有効活用】 【組織状況】 経営管理部、学務部及び附属図書館運営部会で検討した。 【実施状況】 ①大学ホームページ「施設貸出について」の中に、利用時間、利用料金、申込み方法等を掲載し、外部者の利用について周知を図っているが、R2年度は、コロナ禍により大学施設の利用を制限することになったことから、ホームページで速やかに周知を行った。また、今年度は、伊田中学校が移転・改築することになったため、伊田中学校に対し、R2年度からR4年度末まで学内施設(体育館、グラウンド、プール等)を無償で貸し出すこととした。	A	【高く評価する点】 地元中学に大学施設を無償で貸し出したことにより、大学施設の有効活用とともに、大学が目指す地域貢献を果たすことができた。 【実施(達成)できなかった点】	

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2 業務効率化による経費の節減 業務の効率化により経費の節減を図る。	1【業務効率化による管理経費の節減】 ①照明のLED化、老朽設備更新等、省エネ対策推進による経費節減を図る。 ②費用対効果を重視した外部委託化の検討を行う。	1【令和2年度計画】 【業務効率化による管理経費の節減】 ①引き続き、学内照明のLED化を進めていくとともに、老朽化した空調機器等の更新を行うなど省エネ対策の推進を図る。 ②費用対効果を主眼に、引き続き、既存外部委託業務の見直しや更なる外部委託化の可能性等を検討する。	1	【令和2年度の実施状況】 【業務効率化による管理経費の節減】 【組織状況】 経営管理部及び学務部で検討した。 【実施状況】 ①随時、既設電灯管をLEDに更新している。また、大講義室の老朽化した映像設備についても10月に更新を行い、省エネ対策を推進した。 ②R2年度は、教務システムを改修し、授業評価アンケートの集計業務を教務システムで集計できるようにするなど、業務の効率化に取り組んだ。また、R2年度から除草の業務委託(年間2,641千円)を非常勤職員の任用に切り替えた結果、年間約1,000千円削減した。	A	【高く評価する点】 授業評価アンケートの集計業務を教務システムで集計できるようにシステム改修した結果、委託料を年間約1,500千円削減できた。また、R2年度から除草の業務委託(年間2,641千円)を非常勤職員の任用に切り替えた結果、委託料を年間約1,000千円削減できた。 【実施(達成)できなかった点】	No.27 「経費削減」	44
		ウェイト総計	2年度 3			項目数計		2年度 3

【ウェイト付けの理由】

財務内容の改善に関する特記事項

年度計画項目別評価

<p>中期目標 6 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標</p>	<p>(1) 自己点検・評価 教育、研究その他大学運営全般の自己点検・評価を厳正に実施するとともに、福岡県公立大学法人評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を受け、その結果を公表し、大学運営の改善に速やかに反映させる。</p> <p>(2) 情報公開・広報 公立大学法人としての社会への説明責任を果たし、広く県民の理解を得るため、大学情報を積極的に公開するとともに、効果的な広報を展開し、大学の存在感を高める。</p>
--	---

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
<p>1 内部質保証システムによる大学の質の維持・向上</p> <p>中期目標の実現を目指して、計画的に年度計画を立て、実施し、自己評価する。県評価委員会の評価結果を大学運営に反映させる。次期認証評価に向けて、計画的に準備を行う。</p>	<p>1【自己点検・評価の実施】</p> <p>①中期目標の実現を目指して、計画的に年度計画を立て、実施し、自己評価する。</p> <p>②次期認証評価に向けた準備を行うとともに、IR機能を強化し、内部質保証システムの充実を図る。</p>	<p>1【令和2年度計画】</p> <p>【自己点検・評価の実施】</p> <p>①各事業年度の、教員の教育・研究・社会貢献活動、授業評価等をもとに自己点検・評価報告書を作成する。</p> <p>②IR機能の強化を図りながら、認証評価受審に向けた体制整備を行う。</p>	2	<p>【令和2年度の実施状況】</p> <p>【自己点検・評価の実施】</p> <p>【実施状況】</p> <p>①各教員の教育・研究・社会貢献活動の集約、中期計画の進捗状況を集約し、自己点検・評価報告書の作成を行った。</p> <p>また、取り組みの現状や課題を可視化するための手続きとして、取り組みのPDCAに関する記載書式を新たに設定し、中期(年度)計画代表者・担当者会議において、記載様式のガイドラインを定め、PDCAサイクルが回っているかを外部から確認することができるように工夫した。</p> <p>②IR機能の強化を図りながら、認証評価受審に向けた体制整備においては、新たに受審予定である大学教育質保証・評価センターの評価の仕組み等について、全学教職員向けに、大学改革セミナーを2回実施し、評価センターの評価の概略を説明するとともに、全学的に認証評価を受審するための機運を高めた。また、評価を受けるための組織体制の整備を行い、評価項目である基準1から基準3について、現状で自己評価できる点を基準1のポートフォリオ(大学教育質保証・評価センターが定める提出書類様式)としてとりまとめた。基準2については、本学の内部質保証を担保するための3つのグランドサイクルデザインを策定し、このサイクルが実質的に機能するための主要な組織体制を構築した。基準3については、本学の強みである「不登校・ひきこもり支援と学生ボランティア派遣に関する取組」「大学間連携共同教育推進に関する取組」「データサイエンスプログラムに関する取組」について、認証評価を受審するための体制を整備した。</p> <p>※基準1～3の各評価内容について 基準1 基盤評価:法令適合性の保証に関すること 基準2 水準評価:教育研究の水準の向上に関すること 基準3 特色評価:特色ある教育研究の進展に関すること</p>	A	<p>【高く評価する点】</p> <p>大学教育質保証・評価センターの認証評価を受審するため、本学の内部質保証の取り組みをより具体化、可視化するための3つのグランドサイクルデザインを策定したこと。また実質的にそのサイクルが稼働するための組織体制の整備を行った点</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		45
		<p>2【自己評価及び外部評価結果の大学運営の改善への反映】</p> <p>自己点検・評価結果、外部評価結果を学内にフィードバックし、教育研究活動、地域貢献活動及び大学運営等の改善を図る。</p>	<p>2【令和2年度計画】</p> <p>【自己評価及び外部評価結果の大学運営の改善への反映】</p> <p>①大学改革セミナー開催等により、学内教職員への自己点検・評価結果を周知し、教育研究活動、地域貢献活動及び大学運営等の改善につなげる。</p>	1	<p>【令和2年度の実施状況】</p> <p>【自己評価及び外部評価結果の大学運営の改善への反映】</p> <p>【組織状況】</p> <p>IR推進室が中心となり大学改革セミナーを展開してきたが、新設された内部質保証系の会議2つについても連動して内部質保証に取り組んだ。</p> <p>【実施状況】</p> <p>内部質保証体制を強化するための大学改革セミナーを2回開催した。認証評価と法人評価に対応できるわかりやすい記載・表現を改めて周知・依頼した。その結果、本年度の学内活動に対する記載内容については、必要に応じて背景も含め現状を過不足なく記載することがPDCAの第一歩であることが共有できた。</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>内部質保証・内部統制の強化に向けて、教職員の意識を改革するための法人評価向けの新しい書式(書きぶり)を徹底した。またこの書式は、次期認証評価にも用いることのできる項目立てとした。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	

福岡県立大学(自己点検・評価及び情報の提供)

中期計画		令和2年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2 県大ブランドイメージの醸成 大学情報を積極的に公開するとともに、効果的な広報活動を展開し、県大の存在感をアピールする。	1【大学情報の積極的公開】 ①県大ブランドとなる教育方針、教育プログラム等を広く学外に発信する。 ②ホームページ掲載情報の適切な管理に努める。	1【令和2年度計画】 【大学情報の積極的公開】 ①教育情報を、ホームページや出前講義等、あらゆる機会を通じて広く学外へ発信する。 ②適宜、ホームページの掲載情報をチェックし、新しい情報に更新させるとともに、掲載情報の整理・追加等により、一層の情報の提供を図る。	1	【令和2年度の実施状況】 【大学情報の積極的公開】 【組織状況】 教務入試委員会等の関連する委員会・部会及び経営管理部で対応した。 【実施状況】 ①高校訪問(6校)、入試説明会(8回)、出前講座(14回)を実施済み(R3年3月末現在)。また、今年度の取組として、大学開設以来初めてオンラインによるオープンキャンパス(8月8日、9月26日)を実施し、約850人の参加があった。成果としては、受験直前の3年生の参加が増えたこと、並びに遠方からの参加ができたことにより、従来あまり見られない地域からの合格者が見られた。 ②R2年度は、新たな取組として、学生や地域住民に向け、大学の新型コロナウイルス感染症関連情報を発信するなど、学内情報のオープン化に努めた結果、学内活動による感染者ゼロに結び付けることができた。	A	【高く評価する点】 大学開設以来初めてとなるオンラインによるオープンキャンパスの開催は、約850人の参加を得るとともに、受験直前の3年生の参加が増えたこと、並びに遠方からの参加ができたことにより、従来あまり見られない地域からの合格者が見られたという成果につながった。また、学生や地域住民に向け、新型コロナウイルス感染症関連情報を発信するなど、学内情報のオープン化に努めた結果、学内活動による感染者ゼロに結び付けることができた。 【実施(達成)できなかった点】	N0.3 「高校訪問」 No.4 「入試説明会」 No.5 「出前講義」	47
	2【効果的な広報活動の実施】 ①ホームページの充実を図る。 ②多様な媒体を活用した広報活動の充実を図る。 ③マスメディアへの積極的な情報提供を行う。 ④大学案内パンフレットの充実を図る。	2【令和2年度計画】 【効果的な広報活動の実施】 ①ホームページに学内イベント情報や報告などの情報を積極的に掲載するとともに、適宜、更新等が必要な情報の更新を行っていく。 ②SNSや出版物等多様な媒体や出前講義の実施を通して積極的な広報を行っていく。 ③マスメディアに対し、本学が主催や関与する公開講座やフォーラム、シンポジウム等の情報を積極的に発信する。 ④毎年更新作成する、大学案内パンフレットを充実させるとともに、必要に応じ地域に貢献する大学プロジェクト等のリーフレットの更新も行う。	1	【令和2年度の実施状況】 【効果的な広報活動の実施】 【組織状況】 経営管理部及び学務部において対応を行った。 【実施状況】 ①ホームページに学内イベント情報や報告などの情報を積極的に掲載し、掲載内容の更新を適宜行った。 ②入試マガジン「福岡県立大学で学びませんか」(Facebook)及び人間社会学部公共社会学科のInstagramの更新を適宜行った。また、大学広報誌の発行(4月、9月)や、8月8日及び9月26日には大学開設以来初めてオンラインによるオープンキャンパスを実施した。 ③R2年度は、県立西田川高校との教育連携協定の締結が西日本新聞に掲載(8月19日)されるなど、積極的に大学イベント等の情報をマスメディアに対し発信した。 ④R2年度も大学案内パンフレット(2種)を更新作成した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		48
		ウェイト総計	2年度 5			項目数計		2年度 4

【ウェイト付けの理由】
・通し番号45 次期認証評価に向けた準備を行うとともに、IR機能を強化し、内部質保証システムの充実を図る。

自己点検・評価及び情報の提供に関する特記事項
①西田川高校との教育連携協定締結
2020年8月、本学と県立西田川高校(フレックス型単位制高校)の間で連携教育に関する協定を締結した。これにより、西田川高校の2年次以降の生徒が科目等履修生として本学の正規の授業を受講することが可能となった。この受講単位は西田川高校において卒業単位の一部として認定されるとともに、大学でも単位認定を可能とするものである。県内だけではなく、全国的にみても先駆的な協定(Advance Placement)である。

業務の実績に関する評価結果の反映状況

中期目標項目	前年度評価における指摘事項等	関連する 通し番号	当該年度の業務運営の改善等への反映状況
1 内部質保証システムによる大学の質の維持・向上	・内部質保証を含めた内部統制の体制を実効性のあるものとするよう、早急に整備し、自己点検・評価内容の改善を図る必要がある。	45、46	<p>《組織の見直し》 内部質保証と内部統制については、まず組織の見直しにより強化・向上を図りました。これまで内部質保証を担ってきたIR推進室に加え、内部質保証・サイクル推進会議を設置し運用を開始しました。 IR推進室は、本学の内部質保証に資する活動(PDCA等のサイクル評価)を行うことを目的とする組織です。一方の内部質保証・サイクル推進会議は、内部質保証の観点から大学活動のPDCAサイクル推進について絶えず取り組むワーキンググループ連合体です。さらに、この2つの組織に加えて、内部質保証の取組を客観的に評価する組織として、IRサイクル総合会議を設置しました。IRサイクル総合会議は、内部質保証サイクル推進について進捗管理及び随時評価を行い、大学活動の改善を行うことを目的としています。 これら3つの組織が共同して、内部質保証・内部統制の強化・向上を目的とした大学改革セミナーを2回実施し、全学の教職員に内部質保証の取組みへの参画を促しました。</p> <p>《規則等の整備》 内部統制を強化・向上するために、大学の規則の見直しに取り掛かりました。本学には100を超える規則がありますが、すべての規則がどの委員会(組織規則に規定されている11委員会のこと)に位置づいているかを確認しました。特に、規則を改廃する権限が明記されていない規則が多くあったことから、まずはこの改廃権限を明記することに取り組みました。結果として、年度明け(R3年5月)にはなりましたが、すべての規則の改廃規定を整備することができました。</p> <p>《情報の共有》 部署ごとに行っている各種調査のうち、IR推進室および総合情報委員会が関係するすべての調査をオンライン調査・オンライン入力に切り替えました。それらは、授業評価アンケート、授業自己評価対応プラン、学生生活総合調査、学生情報機器環境調査、新入生進学状況調査、大学院生在学中学修環境調査、大学院生修了時学修環境調査、などです。 これらの調査をオンライン形式にすることにより、結果の把握にかかる時間が大幅に短縮されました。続く分析や評価についても短時間で終わることができるようになり、時期を逃さず部局長会議等で部局長に調査からみえる課題等を提示できるようになりました。これらから、見出された課題への対応を迅速に実施することができました。また各種取組み、たとえば学生支援の取組みなどの評価も比較的短時間で可視化され、PDCAサイクルに乗せることができました。</p> <p>《外部への公表》 内部質保証・内部統制の向上については、外部からの評価や意見を尊重・反映することが必須となります。その第一歩となるのが、学内の各種取組みに関する現状や課題の可視化です。すなわち、取組みに直接従事する教職員だけでなく、その他の教職員はもとより、外部の方からも理解されるような表記・デザインが必要となってきます。 このような問題意識から、取組みの現状や課題を可視化するための手続きとして、取組みのPDCAに関する記載書式を新たに設定することにしました。中期(年度)計画代表者・担当者会議にて記載様式のガイドラインを定め、PDCAサイクルが回っているかを外部から確認することができるように工夫しました。それら記載された内容を、年度内に開催された中期(年度)計画責任者・担当代表者会議においてお互いに全てチェックし、表記の改善を加えるとともに、現状と課題に関する議論等をより深めることができるようになりました。</p>

特記事項（中期目標項目の枠組みにとらわれず、特に力を入れて取り組んでいる事項やアピールしたい事項）

特記事項	関連する 通し番号
<p>①授業アンケートのオンライン実施 例年授業アンケートはアンケート用紙を配布・回収し実施しているが、今年度はコロナ禍であったためオンラインでの実施とした。前期は、急遽Google Formを活用し実施し、後期は教務システムと連動したものを構築整備し実施した。来年度以降も継続する。</p>	5
<p>②大学院授業参観への学部学生参加 大学院の授業参観ウィークの対象者を教員だけでなく、本学学部学生まで拡大したところ、延べ6名の学部学生が参観した。参観した学部学生の満足度は高く、院生の主体的な学習態度・発表態度がたいへん参考になった等の意見があった。</p>	10
<p>③前期授業開始直前の遠隔授業研修 新入生向けのeラーニング研修会を急遽1年生全員に4月3日と6日に実施し、さらに4月7日と8日に個別対応を行ったことで、新入生が初回授業から混乱なく、スムーズに遠隔授業を受けられる体制を整えることができた。</p>	16
<p>④遠隔授業に係る環境重点整備 前期からの全学的なオンライン授業を実施するため、県の全面的な財政支援を受け、eラーニングシステムの増強、テレビ・Web会議ツール「Zoom」の有償契約(41本)、動画サーバVimeo年間契約、学生貸出用としてポケットWi-Fi 50回線(年間契約)、iPad50台を購入などの環境整備を重点的にを行い、年間を通して遠隔授業を実施することができた。</p>	16
<p>⑤大学コンソーシアムへの高校生参加 毎年行ってきた学生フェスティバルへの参加対象を高校生まで拡大した。福岡県内156校の高校進路指導室宛に案内チラシを郵送した。当日オンライン学生フェスティバル(かんたま祭)に17名の高校生が参加した。高校生のアンケート結果では、10名の回答を得て10名全員から良好評価を得た。また、将来のイメージや進路についての明確な目標ができた、大学生との交流がよかった等の自由記述回答を得た。また、将来のイメージや進路についての明確な目標ができた、大学生との交流がよかった等の自由記述回答を得た。</p>	16
<p>⑥大学コンソーシアムにおけるマンスリー会議の開催 コロナ禍における各連携大学(7大学)の情報共有を図る目的で、連携会議とは別に、8月より月に1回の“マンスリー会議”を開催した(計7回)。マンスリー会議では、授業方法、実習状況、経済支援状況、PCR検査の受検状況、ワクチンの接種予定状況などについて情報共有した。また、学生の行動制限や個人情報の取り扱いについての共有や疑問から、FD研修会の企画・開催(法的観点からみた行動制限)につなげた。</p>	16
<p>⑦公開講座のオンライン開催 令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、公開講座を従来の対面式から全てオンライン形式で実施した。公開動画配信、Zoomライブ、オンラインディスカッションなど、開催方法を工夫し、「コロナと不登校～子どもたちの生活の変化とゲーム・ネット依存～」を3回、「インクルーシブな社会をめざす専門性の模索-日伊の制度と実践の比較を通じて」を1回、計4回実施した。その結果、参加者数(述べ)が昨年度の192人から762人となった。</p>	29
<p>⑧オンライン演習、学内看護学実習(看護学部) コロナ禍における実習・演習教育は、感染予防に万全を期し、遠隔で、あるいは、学内で実施した。まず演習科目であるが、こちらは少人数グループを複数教室および遠隔で同時に進行・配信した。実習科目については、5号館を病棟に見立て動線管理を行いつつ、学内での実習を展開した。患者・家族役には教員も参画した。本来の実習先病院からの臨床指導者が本学の“病棟”を訪れて指導を行う場面もあった。</p>	30
<p>⑨特定行為研修の開始 国の「特定行為に係る看護師の研修制度」に基づき、筑豊地域初となる特定行為研修の研修指定機関に本学が指定を受けた。</p>	30
<p>⑩対面授業等の実施に伴う新型コロナウイルス感染症対策 対面授業や看護学部における実習・演習等の実施に伴う、新型コロナウイルス感染症対策として、県の全面的な財政支援を受け、衛生用品、非接触式体温計、サーキュレーター、サーマルカメラ等を購入し、徹底的な感染症のまん延防止対策を行ったことにより、学内での感染を未然に防止することができた。</p>	30
<p>⑪不登校ひきこもりサポートセンター センターにおいて、通算活動回数が100回を超えた学生の表彰を行った。令和2年度は、通算活動回数100回以上(ジュニアマイスター)の表彰を受けた者が6名、200回以上(マイスター)の表彰を受けた者が1名であった。 センターでは、コロナ禍での新たな支援方法として、不登校児童生徒を対象としたオンラインによるサポート活動に取り組んだ。不登校児童生徒と本学の学生ボランティアをオンラインのテレビ会議システムでつなぎ、コミュニケーション支援や学習支援を実施した。</p>	31
<p>⑫学習ボランティア派遣事業「土曜の風」 学習ボランティア派遣事業の「土曜の風」において、延べ派遣回数が過去最多となった。緊急事態宣言による休校明けの学校において、学習の遅れの取り戻しを目的とした活動について、多数の依頼 コロナ禍にあつて、学生のボランティア活動について、緊急事態宣言下でのボランティア活動自粛に取り組んだ。宣言明けのボランティア再開にあたっては、感染予防チェックリストを作成し、予防対策が徹底している活動先のみ学生を派遣し、ボランティア学生に対しても行動記録を徹底した。さらに活動1回あたりの参加学生数の制限に取り組んだ。これにより、学生のボランティア活動回数は減少したが、ボランティア活動を原因とする新型コロナウイルス感染は発生していない。コロナ禍においても安全なボランティア活動を実施することができた。</p>	31
<p>⑬田川情報センターへのアウトソーシング開始 前期授業が遠隔授業に移行したことにあわせ、4月から田川情報センターに総合情報委員会等の業務をアウトソーシングした。内容は、「教員への遠隔授業アドバイス」、「学生へのITサポート窓口」、「動画視聴サイトVimeoのアドバイス」、「遠隔授業に関する著作権問題の解説」等である。</p>	39
<p>⑭防犯サークルの受賞(防犯活動団体表彰、ムービーアワード最優秀賞) 本学の防犯ボランティアサークル「オリオンズ」が2020年10月に県警から「犯罪の起きにくい社会づくり」に多大な貢献をしたことにより団体表彰を受けた。また2021年2月、県警の主催する福岡ムービーアワード2020(動画コンクール)においてオリオンズ制作の「夜道の安全」が最優秀賞を受賞した。</p>	41
<p>⑮西田川高校との教育連携協定締結 2020年8月、本学と県立西田川高校(フレックス型単位制高校)の間で連携教育に関する協定を締結した。これにより、西田川高校の2年次以降の生徒が科目等履修生として本学の正規の授業を受講することが可能となった。この受講単位は西田川高校において卒業単位の一部として認定されるとともに、大学でも単位認定を可能とするものである。県内だけではなく、全国的にみても先駆的な協定(Advance Placement)である。</p>	15、48

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画			
		計画	実績		
I 収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)			
		区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)
		費用の部	1,940	1,843	▲ 96
		経常費用	1,940	1,843	▲ 96
		業務費	1,738	1,630	▲ 108
		教育研究経費	381	346	▲ 35
		受託研究費等	-	8	8
		人件費	1,356	1,282	▲ 74
		一般管理経費	200	210	9
		(減価償却費 再掲)	▲ 56	▲ 67	11
		財務費用	1	3	1
		臨時損失	-	-	-
		収益の部	1,921	1,901	▲ 19
		経常収益	1,921	1,901	▲ 19
		運営費交付金収益	1,098	1,086	▲ 12
		授業料収益	594	549	▲ 44
		入学金収益	115	112	▲ 3
		検定料収益	25	25	0
		その他業務収益	-	0	0
		受託研究等収益	-	0	0
		受託事業等収益	-	0	0
		補助金等収益	15	56	40
		寄付金収益	-	2	2
		資産見返負債戻入	35	39	4
		財務収益	0	0	0
		雑益	36	27	▲ 9
		臨時利益	-	-	-
		純利益	▲ 19	57	77
		前中期目標期間繰越積立金取崩額	19	-	19
		目的積立金取崩額	-	-	-
		総利益	-	57	57

中期計画		年度計画			
		計画		実績	
2. 資金計画予算	区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)	
	資金支出	2,025	2,019	▲ 5	
	業務活動による支出	1,848	1,690	▲ 158	
	投資活動による支出	21	27	5	
	財務活動による支出	33	32	▲ 1	
	翌年度への繰越金	121	269	147	
	資金収入	2,025	2,019	▲ 5	
	業務活動による収入	1,883	1,844	▲ 39	
	運営費交付金による収入	1,098	1,122	24	
	授業料等による収入	733	634	▲ 99	
	受託研究等による収入	-	1	1	
	補助金等による収入	15	56	40	
	寄附金等による収入	-	2	2	
	その他収入	36	27	▲ 8	
	投資活動による収入	0	0	0	
財務活動による収入	-	-	-		
前年度からの繰越金	141	174	33		
II 短期借入金の限度額	1 短期借入金の限度額 2億円 2 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。			該当なし	
III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	該当なし			該当なし	
IV 剰余金の使途	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究及び組織運営の改善に充てる。			決算において剰余金が発生した場合は、教育研究及び組織運営の改善に充てる。	
V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	該当なし			該当なし	

2020（令和2）年度

教育・研究・社会貢献活動一覧

福岡県立大学

【 凡 例 】

- (1) この「教育・研究・社会貢献活動一覧」は、2020（令和2）年度、福岡県立大学に専任教員として在籍した者を対象とし、2020（令和2）年3月の時点で、1人あたり2頁を目安に報告をまとめている。
- (2) 「主な研究分野」は、専門研究者向けではなく、一般の方向けの自己PRとして記載している。
- (3) 「研究業績」は、過去3年間分を記載している<2018（平成30）年度～2020（令和2）年度>。業績数が多い教員については、一部省略している場合がある。
- (4) 「外部研究資金」は、2020（令和2）年度に資金を得ているものを記載している。
- (5) 「受賞」は、2020（令和2）年度の実績を記載している。
- (6) 「所属学会」は、2020（令和2）年度の所属状況を記載している。
- (7) 「担当授業科目」は、原則として2020（令和2）年度の担当授業を記載している。なお、助手については、補助業務を担当している授業科目を記載している。
- (8) 「社会貢献活動」は、2020（令和2）年度の状況を記載している。
- (9) 「学外講義・講演」は、2020（令和2）年度の実績を記載している。学会での講演は、「研究業績」欄に記載し、ここにはそれ以外のものを記載している。また、会場は学内であっても、学外者向けのものはこちらに含まれている。なお、大学等での非常勤講師は含まれていない。
- (10) 「附属研究所の活動等」は、2020（令和2）年度の状況を記載している。
- (11) 記載事項は、以上の9項目であるが、該当なしの場合は、項目そのものを記載していない。

<目 次>

【掲載順】

人間社会学部については、職名順とし、同一職名内は姓の50音順である。看護学部については、学系ごとに職名順とし、同一職名内は姓の50音順である。

<人間社会学部>

教授	池田	孝博	1
教授	石崎	龍二	5
教授	岩橋	宗哉	7
教授	上野	行良	9
教授	岡本	雅享	10
教授	神谷	英二	12
教授	小嶋	秀幹	14
教授	杉野	寿子	16
教授	Stuart	Gale	19
教授	住友	雄資	21
教授	許	棟翰	23
教授	本郷	秀和	26
教授	村山	浩一郎	29
教授	森脇	敦史	31
教授	吉岡	和子	33
特任教授	福田	恭介	35
特任教授	細井	勇	37
准教授	池	志保	39
准教授	井上	奈美子	42
准教授	大久保	淳子	44
准教授	奥村	賢一	46
准教授	金	恩愛	49
准教授	河野	高志	51
准教授	佐野	麻由子	53
准教授	堤	圭史郎	55
准教授	寺島	正博	58
准教授	中原	雄一	60
准教授	中村	晋介	63
准教授	廣田	久美子	65
准教授	藤澤	健一	67

准教授	三隅	讓二	69
准教授	美谷	薫	70
准教授	麦島	剛	72
准教授	陸	麗君	74
准教授	鷺野	彰子	76
講師	伊勢	慎	78
講師	鬼塚	香	81
講師	河本	恵美	83
講師	小山	憲一郎	85
講師	阪井	裕一郎	88
講師	坂無	淳	91
講師	櫻井	晋伍	93
講師	柴田	雅博	95
講師	董	秋艶	97
講師	松岡	佐智	99
講師	吉武	由彩	101
助教	中藤	広美	103
助教	畑	香理	105
助教	二見	妙子	107
助手	佐藤	繁美	109

〈看護学部〉

教授	石田	智恵美	111
教授	江上	千代美	113
教授	尾形	由起子	115
教授	小池	祐子	119
教授	永嶋	由理子	120
教授	福田	和美	122
教授	松浦	賢長	124
准教授	石村	美由紀	126
准教授	櫛	直美	128
准教授	芋川	浩	131
准教授	四戸	智昭	134
准教授	杉野	浩幸	136
准教授	田中	美樹	137
准教授	原田	直樹	139
准教授	淵野	由夏	142

准教授	古庄	夏香	144
准教授	山下	清香	146
准教授	吉田	恭子	148
講師	小野	順子	150
講師	加藤	法子	152
講師	小出	昭太郎	154
講師	塩田	昇	155
講師	中井	裕子	157
講師	藤野	靖博	159
講師	政時	和美	160
講師	増満	誠	162
講師	安河内	静子	167
講師	安永	薫梨	169
講師	吉川	未桜	171
講師	吉田	静	173
助教	猪狩	崇	175
助教	江上	史子	177
助教	於久	比呂美	179
助教	梶原	由紀子	180
助教	清原	智佳子	182
助教	佐藤	繭子	183
助教	清水	夏子	185
助教	手島	聖子	187
助教	道園	亜希	189
助教	中本	亮	190
助教	平塚	淳子	193
助教	廣瀬	理絵	195
助教	松山	美幸	197
助教	村田	和子	198
助手	大場	美緒	199
助手	笹山	万紗代	200
助手	田原	千晶	201
助手	中村	美穂子	202
助手	山口	馨子	204
助手	吉田	麻美	205
助手	雪松	和子	207

所属	人間社会学部／人間形成学科	職名	教授	氏名	池田 孝博
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1992.3 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了

1992.4-1997.3 慶應義塾中等部 教諭

1997.4-2009.3 佐賀短期大学（現；西九州大学短期大学部）講師→准教授

2009.3 福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科博士課程後期修了
博士（スポーツ健康科学）

2009.4- 本学着任

2017.4- 福岡県立大学大学院人間社会学研究科 子ども教育専攻 教授

人間の運動パフォーマンスや健康行動・健康意識の測定評価を研究分野としている。

- ① 幼児の体力・運動能力、身体活動とその関連要因に関する研究
- ② 日本と韓国の小学生の運動・身体活動に対する意識に関する研究
- ③ スポーツサーフェイスに関する研究
- ④ 大学スポーツ振興に関する研究

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

<論文>

- ・池田孝博・杉野寿子・大久保淳子・鷲野彰子・中原雄一・伊勢慎，保幼小連携におけるアプローチカリキュラムに関する研究の動向と課題。福岡県立大学人間社会学部紀要。29(2): 215-223, 2021.
- ・中原雄一・池田孝博，コロナ禍における緊急事態宣言下の大学新入生の身体活動状況と精神的健康度。福岡県立大学人間社会学部紀要。29(2): 115-122, 2021.
- ・Tomoko Ikeda・Takahiro Ikeda・Osamu Aoyagi・Taehee Choi・Namik Han・Yeju Hong・Kwangsoo Koo・Younshin Nam・Younghwan Seo, A comparative investigation into the propensities of Japanese and Korean university to engage in physical activity and influence of nationality, gender, BMI and weight control. The Korean Journal of Growth and Development, 28(4): 449-458, 2020.
- ・杉野寿子・田中美樹・吉川未桜・中原雄一・吉田麻美・池田孝博，保育士養成課程における保険・健康に関する学びの研究。福岡県立大学人間社会学部紀要。29(1): 73-80, 2020.
- ・Namik Han・Taehee Choi・Younghwan Seo・Younshin Nam・Kwangsoo Koo・Takahiro Ikeda・and Osamu Aoyagi, Comparison of Effect of Physical Education Preferences on Physical Education Classes Content, Motor Skill, Exercise Environment, and Pleasure derived from Physical Activity Factors of among Elementary Students in Korea and Japan. The Korean Journal of Growth and Development, 28(1): 43-54, 2020.
- ・池田孝博・中原雄一・陸麗君・松岡佐智・佐藤繁美，福岡県立大学人間社会学部紀要の査読制度導入後の現状と諸課題。福岡県立大学人間社会学部紀要，28(2): 123-131, 2020.
- ・中原雄一・池田孝博，幼児期を対象に運動・スポーツ活動の取り組みを行っている自治体の特徴。福岡県立大学人間社会学部紀要，28(1): 27-35, 2019.
- ・池田孝博・青柳領，日本と韓国の児童期後期の子どもの運動の楽しさ，体育の好き嫌いとその関連要因：福岡とソウル，光州および済州の比較。発育発達研究，2019(83): 1-14, 2019
- ・中原雄一・西脇雅人・藤本敏彦・池田孝博，大学体育における実技と講義の同時開講が大学生の健康度・生活習慣に与える影響。大学体育スポーツ学研究，16: 13-18, 2019.
- ・金子珠世・池田孝博・鷲野彰子，サウンド・エデュケーションに関する研究の動向と課題。福岡県立大学人間社会学部紀要，27(2): 1-16, 2019.
- ・古橋啓介・池田孝博・杉野寿子・大久保淳子・中原雄一・伊勢慎，子ども・子育て支援新制度導入後の基礎自治体の実態。福岡県立大学人間社会学部紀要，27(1): 1-20, 2018.
- ・杉野寿子・池田孝博，田川市の幼児の生活および家庭状況に関する調査。福岡県立大学

人間社会学部紀要, 27(1): 87-96, 2018.

- Ikeda, T., Aoyagi, O., Han, N., Choi, T., Koo, K., and Seo, Y., Motivation towards Physical Activity in Late Childhood: A Comparative Study between South Korea and Japan. *The Korean Journal of Growth and Development*, 26(3): 265-272, 2018.
- 櫻井国芳・池田孝博・伊勢 慎・古橋啓介, 田川・筑豊地区の基礎自治体における基本計画等にみる地域教育課題. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 26(2): 101-110, 2018.
- 池田孝博・伊勢 慎・櫻井国芳・中原雄一・古橋啓介, 田川市立幼稚園における道徳・規範意識の芽生えを意図した教材開発のための運動遊びの介入と観察. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 26(2): 111-118, 2018.
- 櫻井国芳・池田孝博・伊勢 慎・古橋啓介, 道徳・規範意識の芽生えを意図した保育教材の開発. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 26(2): 151-161, 2018.
- 中原雄一・池田孝博, 全国調査との比較にみる本学学生のスポーツ経験と意識について. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 26(2): 221-229, 2018.

②その他最近の業績

<学会発表>

- Ikeda, T., Sakaguchi, H., Annoura, T., Aoyagi, O., Hong, Y., Han, N., Choi, T., Nam, Y., Koo, K., Seo, Y. What factors make young people do exercise regularly? 25th annual congress of the European College of sport science (ECSS) (Online), 2020.
- Ikeda, To., Ikeda, T., Yaita, A., Sakaguchi, H., Aoyagi, O., Choi, T., Han, N., Hong, Y., Koo, K., Nam, Y. (Poster session) Relationship among Physical Activity, Body Mass Index and Weight Control in Japanese and South Korean University Students. The 31th International Sport Science Congress in Korean Alliance for Health, Physical Education, Recreation, and Dance (KAHPERD) (Seoul National university, KOR), 2019.
- 池田孝博・青柳領・高橋健太郎 (ポスター発表) 剣道に適した専用サーフェイスの開発: 大学生剣道部員による試作マットと改良マットの主観評価の比較. 日本体育学会第70回大会 (慶應義塾大学), 2019.
- 池田孝博・本多壮太郎・高橋健太郎・青柳領 (口頭発表) 剣道専用サーフェイスの開発とその使用感に関する日英比較. 日本武道学会第52回大会 (國學院大学), 2019
- Ikeda, T., Aoyagi, O., Han, N., Choi, T., Koo, K., Seo, Y., and Ikeda, To. (Conventional poster session) The effect of nationality, gender, and grade upon motivation for physical education among elementary school children in Japan and South Korea. 24th annual congress of the European College of sport science (ECSS) (Prague, Czech Republic), 2019.
- 金子珠世・池田孝博 (ポスター発表) 保育者養成校で学ぶ学生が作成したサウンドマップの分析. 日本保育者養成教育学会第3回大会 (東北福祉大学), 2019.
- 池田孝博 (ポスター発表) 幼児の社会的スキルと体格・体力および運動有能感の関連. 日本保育者養成教育学会第3回大会 (東北福祉大学), 2019.
- 池田孝博・本多壮太郎・青柳領 (口頭発表) 英国剣道実践者の剣道用サーフェイス評価と評価者特性の関連. 日本武道学会第51回大会 (東京学芸大学), 2018.
- 中原 (権藤) 雄一・西脇雅人・藤本敏彦・池田孝博 (ポスター発表) 大学体育における講義の有用性の検討. 日本体育学会第69回大会 (徳島大学), 2018.
- 池田孝博・中原雄一・萩原悟一・元安陽一 (口頭発表) 日本の大学スポーツ振興に関する動向と課題 (1) 日本版 NCAA 創設に向けた学産官連携協議会における議論を中心に. 平成29年度体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議 (福岡県), 2018.
- 中原雄一・池田孝博・萩原悟一・元安陽一 (口頭発表) 日本の大学スポーツ振興に関する動向と課題 (2) NCAA 会長の講演から考える地方大学の役割. 平成29年度体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議 (福岡県), 2018.
- 萩原悟一・池田孝博・中原雄一・元安陽一 (口頭発表) 日本の大学スポーツ振興に関する動向と課題 (3) 地方版大学スポーツ振興の可能性. 平成29年度体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議 (福岡県), 2018.

- ・元安陽一・池田孝博・中原雄一・萩原悟一（口頭発表）日本の大学スポーツ振興に関する動向と課題（4）地方私立大学におけるスポーツブランディング事業。平成29年度体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議（福岡県），2018.
- ・Ikeda, T., Han, N, Choi, T., & Aoyagi, O. (Conventional poster session) Relationship between children's preferences for physical education, enjoyment of physical activity, experiences and environment, and mastery of movement skills in Japan and South Korea. 23rd annual congress of the European College of sport science (ECSS) (Dublin, Ireland), 2018.
- ・Ikeda, To., Ikeda, Ta., Yaita, A., Sakaguchi, H., Ito, H., Aoyagi, O., Hong, Y., Han, N., Choi, T., Nam, Y. & Koo, K. (E-Poster) Motivation for weight control in Japanese and South Korean university students. 23rd annual congress of the European College of sport science (ECSS) (Dublin, Ireland), 2018.

③過去の主要業績

- ・池田孝博・本多壮太郎・岩切公治・太田順康・大坪壽・前阪茂樹・鍋山隆弘・八木沢誠・瀧田伸吾・青柳領，剣道場の床面塗装とスポーツ傷害・障害および床面の機能性に関する主観的評価の関連。武道学研究, 45(1): 23-34. 2012. (学会優秀論文賞 受賞)
- ・Ikeda, T. & Aoyagi, O. Relationships between gender difference in motor performance and age, movement skills and physical fitness among 3- to 6-years old Japanese children based on effect size calculated by meta-analysis. School Health 5: 9-23. 2009.
- ・Ikeda, T. & Aoyagi, O. Relationships between test characteristics and movement patterns, physical fitness, and measurement characteristics: suggestions for developing new test items for 2- to 6-year-old children. Human Performance Measurement 5: 9-22, 2008. (学会賞 受賞)

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本体育学会，日本発育発達学会，日本測定評価学会，日本体育科教育学会，日本学校保健学会，日本健康心理学会，日本武道学会，日本武道学会剣道分科会，九州体育・スポーツ学会，The European College of sport science (ECSS：ヨーロッパスポーツ科学会)，日本保育者養成教育学会

6. 担当授業科目

<学部>

健康科学実習Ⅰ・1単位・1年・前期，健康科学実習Ⅱ・1単位・1年・後期，
 体育Ⅰ・2単位・2年・通年，体育Ⅱ・2単位・3年・通年，保育内容・健康Ⅰ・2単位・3年・前期、保育内容・健康Ⅱ・2単位・3年・後期
 演習・2単位・3年・通年，卒業論文・6単位・4年・通年

<大学院>

教育課題研究B（オムニバス）・2単位・1年・後期，子ども健康教育研究・2単位・1年・前期，子ども健康教育演習・2単位・1年・後期，特別研究・4単位・1-2年・通年，地域教育課題演習・1単位・2年・前期，子ども教育実践実習Ⅰ・1単位・1年・後期，子ども教育実践実習Ⅱ・1単位・2年・前期

7. 社会貢献活動

田川市新中学校開校準備協議会（会長）

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

附属研究所重点領域研究プロジェクト

研究課題名：子どもの健康と保育に関する専門職連携の模索

—福岡県の医療及び保育の現場での実態調査と養成校の実践—

研究代表者：杉野寿子

研究分担者：池田孝博・中原雄一・田中美樹・吉川未桜

研究協力者：吉田麻美

人間社会学部	総合人間社会コース/地域社会コース	職名	教授	氏名	石崎 龍二
--------	-------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

自然や社会の種々の現象に関する数理モデルのコンピュータ・シミュレーションやデータの統計解析を行っている。特に非平衡系にあらわれるカオスや散逸構造の統計的性質を、理論的および数値的な面から研究している。

①非定常時系列に対するエントロピーによる解析と応用、②異常拡散現象の機構の解明と新しい統計の探求、③散逸のあるクーロン多体系の数理モデルの構築と数値解析等を主な研究テーマとしている。

物理現象、生命現象、経済現象などに見られる多くの要素間の非線形な相互作用によって生じる複雑な運動形態を研究する非線形科学が発展してきている。非線形科学では、カオス、フラクタル、自己組織化臨界現象、カオスの縁、コンプレックス・カオスなど数多くの新しい概念が見出され、複雑な現象が数学的に表現され力学的な理解ができるようになってきている。コンピュータによる解析を取り入れた新しい統計的な手法を開発し、その成果を社会科学へ応用したい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- Ryuji Ishizaki, Masayoshi Inoue, "Analysis of local and global instability in foreign exchange rates using short-term information entropy", *Physica A*, Vol.555 No.1, pp. 1-9, 2020.
- 猪狩崇, 石崎龍二, 櫛直美, 柴田雅博, 小野順子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 尾形由紀子「地域包括ケアシステム構築に向けた人的ネットワーク形成・運営に関する一考察」, 『福岡県立大学看護学研究紀要』, 第16巻, pp.121-128, 福岡県立大学, 2019年3月.

②その他最近の業績

<調査研究報告書>

- 石崎龍二, 佐藤繁美「オンデマンド型オンライン授業による統計演習の教育効果(2020)ー学生の自己評価と授業改善点」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第29巻第2号, pp.163-178, 福岡県立大学, 2021年3月.
- 寺島正博, 石崎龍二, 柴田雅博「障害福祉サービス事業所におけるICTシステム導入の実績とそれに伴う業務効率の意識ーT県におけるアンケート調査を通じてー」『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第29巻第2号, pp.47-60, 2021年3月.
- 石崎龍二, 佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における多変量解析に関する統計演習の教育効果(2019年度)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第29巻第1号, pp.59-72, 福岡県立大学, 2020年10月.
- 石崎龍二, 佐藤繁美「統計演習科目における学生の自己評価と授業改善点(2019)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第28巻第2号, pp.71-86, 福岡県立大学, 2020年2月.
- 寺島正博, 石崎龍二, 柴田雅博, 許棟翰, 藤田和利, 松崎貴之, 小松啓子「社会福祉法人における業務支援システムの導入効果と課題ーT社会福祉法人の事例を通じてー」『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第28巻第1号, pp.51-63, 2019年9月.
- 石崎龍二, 佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における多変量解析に関する統計演習の教育効果(2018年度)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第28巻第1号, pp.73-87, 福岡県立大学, 2019年9月.
- 石崎龍二, 佐藤繁美「統計演習科目における学生の自己評価に基づいた教育効果の検証(2018)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第27巻第2号, pp. 125-142, 福岡県立大学, 2019年2月.
- 石崎龍二, 佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における多変量解析に関する統計演習の教育効果(2017年度)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第27巻第1号, pp. 111-126, 福

岡山県立大学, 2018年9月.

- ・中村晋介, 柴田雅博, 石崎龍二「文系大学生のITセキュリティ実践の現状と課題—現代的教育プログラムの構築に向けて—」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第27巻第1号, pp. 65-76, 福岡県立大学, 2018年9月.

<学会発表>

- ・石崎龍二, 井上政義「金融時系列における短期情報量を使った分析」, 2020年度 統数研共同研究集会「社会物理学の新展開」(オンライン開催), 2021年3月.
- ・石崎龍二, 井上政義「金融時系列における変動のエントロピーによる分析」, 日本物理学会第76回年次大会(2021年)(オンライン開催), 2021年3月.
- ・石崎龍二, 井上政義「金融時系列における変動のエントロピー分析」, 明治大学 MIMS 共同研究集会「Data-driven Mathematical Science: 経済物理学とその周辺 2」(オンライン開催), 2020年12月.
- ・石崎龍二「ハミルトン系におけるカオス拡散」, 日本物理学会第126回日本物理学会九州支部例会(オンライン開催), 2020年12月.
- ・石崎龍二, 井上政義「金融時系列における局所的不安定性と大域的不安定性のエントロピーによる分析」, 日本物理学会2020年秋季大会(オンライン開催), 2020年9月.
- ・石崎龍二「4次元保存力学系におけるカオス拡散」, 日本物理学会第125回日本物理学会九州支部例会(佐賀大学本庄キャンパス), 2019年11月.
- ・石崎龍二, 井上政義「複数金融時系列間の相関とエントロピー」, 平成30年度統数研共同研究集会「社会物理学の新展開」(統計数理研究所(立川市)), 2019年3月.
- ・石崎龍二, 井上政義「複数金融時系列間の相関とエントロピー」, 日本物理学会第74回年次大会(2019年)(九州大学伊都キャンパス), 2019年3月.

③過去の主要業績

- ・Ryuji Ishizaki, Toshikazu Shinba, Go Mugishima, Hikaru Haraguchi and Masayoshi Inoue, “Time-series analysis of sleep-wake stage of rat EEG using time-dependent pattern entropy”, Physica A, Vol.387 No.13, pp.3145-3154, 2008.
- ・駒澤勉・橋口捷久・石崎龍二『新版 パソコン数量化分析』, 朝倉書店, 1998年.
- ・Ryuji Ishizaki, Takehiko Horita, Tatsuharu Kobayashi and Hazime Mori, “Anomalous Diffusion Due to Accelerator Modes in the Standard Map”, Progress of Theoretical Physics, Vol.85 No.5, pp.1013-1022, 1991.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本物理学会, アメリカ物理学会 (APS), 日本心理学会

6. 担当授業科目

<学部>

数学概論・2単位・1年・前期、情報科学・2単位・1年・後期、情報数学・2単位・2年・前期、プログラミング概論・2単位・2年・後期、データ処理とデータ解析Ⅰ・1単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期、データ処理とデータ解析Ⅱ・1単位・3年・後期、公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

- ・福岡県立大学附属研究所長

所属	人間社会学部／人間形成学科	職名	教授	氏名	岩橋 宗哉
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1992年 九州大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程単位取得後退学。九州大学教育学部助手（心理教育相談室主任兼務）、緑風会水戸病院臨床心理士、久留米大学医学部神経精神医学講座助手を経て、2001年より福岡県立大学に勤務。

(1) 現在まで、主に病院において精神分析的な心理療法を行ってきた。治療関係の中でクライアントの内的世界をとともに体験しながら、対象関係論的な観点からクライアントの転移を理解し、その理解をもとにどのようにクライアントに関わり、理解を伝えていくことが治療的であるのかを明確にしていくことを最も重要な研究分野としている。(2) どのような立場に立つ心理療法であれ、クライアントが主体になることを援助している側面があると考えられる。主体的になることを援助するかかわりとはどのようなものか、つまり、多様な心理療法に共通する中核的なかかわりとはどのようなもので、それを現実に行っていくためにはどのような条件が必要かということをも明らかにしていきたいと考えている。それは、臨床心理行為を明確化することでもある。(3) 臨床心理士養成の初期段階で、臨床心理行為の重要性と特性を習得するための養成モデルを構想していきたいと考えている。(4) 神話や文芸作品についての精神分析的な観点からの理解。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

なし

② その他最近の業績

なし

③ 過去の主要業績

- ・岩橋宗哉「境界領域で〈私〉が形成される物語としての古事記中巻（I）－神武記：万能的思考によるコトへの信念とそれを維持するための三項構造－」『福岡県立大学心理臨床研究』第6巻 2014年3月
- ・岩橋宗哉「「対象喪失」とその乗り越えに向かう神話としての古事記上巻（I）－「不在の現実」についての「見るな」の禁止から「居場所」の形成へ－」『福岡県立大学心理臨床研究』第5巻 2013年3月
- ・岩橋宗哉「臨床心理行為の目標としての「体験の分化・統合」－治療関係との関連も含めて－」『福岡県立大学心理臨床研究』第3号 2011年3月
- ・岩橋宗哉「結合両親像によって破壊され創造される自己の方向感覚－精神分裂病者との心理療法過程から－」『心理臨床学研究』第17巻第6号 2000年2月
- ・岩橋宗哉・大崎知子「間主観的な場における体験の具体化とそれへの主観的妥当性確認について」『心理臨床学研究』第16巻第2号 1998年6月

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本心理臨床学会、日本精神分析学会、日本人間性心理学会

6. 担当授業科目

臨床心理学・2単位・3年・前期、心理面接演習・2単位・3年・後期、演習・2単位、3～4年、
通年、教育相談・2単位・4年・前期、心理学的支援法・2単位・2年・後期、卒業論文・6
単位・4年・通年、臨床心理基礎実習A・1単位・1年・前期臨床心理基礎実習A・1単位・1
年・通年、臨床心理面接特論・2単位・前期、臨床心理学特論・4単位・1年・通年（後期
担当）、臨床心理実習・1単位・2年・通年、心理実践実習A・10単位・1～2年・通年、
心理実践実習B・2単位・1～2年・通年、特別研究・4単位・1～2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・久留米大学病院精神神経科付属カウンセリングセンター臨床心理士
- ・飯塚市子どもなんでも相談事業専門相談員
- ・福岡県臨床心理士会代議員
- ・田川市教育支援委員会委員長
- ・日本心理臨床学会代議員
- ・日本心理臨床学会誌「心理臨床学研究」編集委員

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学心理教育相談室 室長

所属	人間社会学部／心理コース	職名	教授	氏名	上野 行良
----	--------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

人間関係に関する心理学を研究しています。
個人が生きやすくなるために必要な人間関係や心のあり方、そして個人を不幸にする社会の問題や個人の思考・行動・感情の分析をしたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

上野行良 (2020) 「わかりやすく伝えようープレゼンテーション」(「レポートの書き方入門'20」福岡県立大学)

②その他最近の業績

〈雑誌〉

上野行良 (2018) 「秘密を守るためのウソ」児童心理, 1065.

③過去の主要業績

上野行良 (2006) 「感情心理学」(山岡重行編著『サイコナビ 心理学案内』ブレーン出版)

上野行良・中村晋介・麦島剛・本多潤子(2006) 「非行の抑制要因と促進要因-福岡県の青少年非行に関する調査」福岡県立大学奨励研究報告書 V. 25.

上野行良 (2003) 「ユーモアの心理学ー人間関係とパーソナリティ」サイエンス社

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本心理学会、日本社会心理学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

対人心理学・2単位・1年・前期、心理学概論・2単位・1年・前期、人格心理学・2単位・1年・後期、社会心理学・2単位・1年・後期、心理学研究法・2単位・2年・後期、演習(人間形成学科)・2単位・3年・通年、卒業論文・6単位・4年・通年

〈大学院〉

社会心理学特論・2単位・修士1年・前期、特別研究・4単位・修士1~2年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

- ・教育福祉関連(大分県教育庁、筑豊地区高等学校PTA協議会、豊徳会など)
- ・看護医療関連(国立病院機構、福岡県施設病院協、健和会など)

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部／地域社会コース	職名	教授	氏名	岡本 雅享
----	----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1997年横浜市立大学大学院国際文化研究科修士課程修了。2000年一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。国際学修士。社会学博士。1991～93年、中国の北京師範学院（現在、首都師範大学）、中央民族大学民族語言三系（現在、中央民族大学少数民族語言学院）に留学、少数民族二言語教育の研究・調査を行う。2008年度、San Francisco State University (College of Ethnic Studies, Japanese American Studies) でVisiting Scholar。学内外で“Hidden Diversity of the Japanese People”に関する講演等を行う。

1989年以来、在日韓国・朝鮮人問題を起点とし、マイノリティの権利保障のための研究・活動に従事してきた。国連ECOSOC NGOでの3年間の勤務を含め、ジュネーブ国連欧州本部を中心とした国連人権活動に報告・提言の提出、会議への参加・発言等を通じて参加。

現在は、日本社会がますます多民族、多文化化する中で、あらためて明治以降の日本におけるNationの創造、混合民族論から単一民族論への変遷など、民族、言語、宗教、文化の各方面から、日本人（国籍者）内部の多様性を解き明かす作業を、出身地である出雲の視点から、試みている。

2. 研究業績

①著書・論文（2018～2020年度）

<著書>

- ・『千家尊福と出雲信仰』（単著）ちくま新書、2019年
- ・『療法としての歴史〈知〉—いまを診る』（共著）森話社、2020年

<論文>

- ・「福岡県における近代図書館の嚆矢」『福岡県立大学人間社会学部紀要』28巻2号
- ・「保守とリベラル、右派と左派—日本政治のための概念整理（前編）」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29巻2号

②その他の業績（2018～2020年度）

- ・新聞連載「千家尊福国造伝」『山陰中央新報』2018年1月～2019年3月（全58回）
- ・韓国日語日文学会 2019年冬季国際学術大会「多文化・多言語時代の日本研究—課題と展望」特別講演「多文化・多言語時代の日本研究—民族観の脱構築」2019年12月21日、韓国外国語大学（ソウル市）
- ・書評「三浦佑之『出雲神話論』—古事記研究の脱構築」『週刊読書人』2020年3月27日

③過去の主要業績（2017年度以前、3点）

- ・『出雲を原郷とする人たち』藤原書店、2016年（単著）
- ・『民族の創出』岩波書店、2014年（単著）
- ・『中国の少数民族教育と言語政策』増補改訂版、社会評論社、2008年（単著）

3. 外部研究資金（今年度）

4. 受賞（今年度）

5. 所属学会（今年度）

- ・日本平和学会、エミシ学会

6. 担当授業科目（2020年度）

政治学・2単位・1年・前期、国際政治学・2単位・1年・後期、多文化社会論・2単位・2

年・前期、東アジア関係史・2単位・2年・後期、公共社会学研究・4単位・3年・通年、
卒論指導・4単位・4年・通年

7. 社会貢献活動（2020年度）

・飯塚研究開発機構理事

8. 学外講義・講演・インタビュー・新聞記事等（2020年度）

・稲田発！神話の里交流事業専門委員会「稲田神社を寄進した小林徳一郎」講演、2020年
10月24日、島根県奥出雲市

・新潟総合テレビ（NST）特番「悠かなる越の国へ」出演（ナビゲーター）、2021年1月17
日放送

9. 附属研究所の活動等（2020年度）

所属	人間社会学部総合人間社会コース	職名	教授	氏名	神谷 英二
----	-----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了・博士（文学）

私は、現象学を中心とする現代哲学と生命倫理を中心とする応用倫理学を主な研究分野としています。また、医療機関や地方自治体の人材育成にも取り組んでいます。

- a. モダニズム詩に現れる形象を導きとする集合的記憶に基づく「まちの物語」の現象学的解釈学的研究
- b. 集合的記憶を媒介とした世代間コミュニケーションに関する現象学的研究
- c. インフォームド・コンセントに関する哲学的・倫理的基礎研究とそれに基づく医療職に対する生命倫理教育プログラムの開発と実践
- d. SRHR（性と生殖に関する健康と権利）に関わる日本国内の現状分析と問題解決に関する研究と実践
- e. 医療倫理体制構築を主な手段とする医療機関の経営品質向上の研究と実践
- f. ロジカルシンキング、ロジカルライティング、文書添削及びコーチングを中心とする地方自治体における人材育成プログラムの開発と実践

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<学術論文>

（共著）新木真理子・神谷英二・東玲子・吉原悦子・丸山泰子「要介護高齢者の気遣いの世界—祖父母的ジェネラティヴィティの源を探る—」、『西南女学院大学紀要』Vol.21、西南女学院大学保健福祉学部、2017年、1-8

（単著）「消尽と救済としての物語(1)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第26巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2018年、163-173

（単著）「消尽と救済としての物語(2)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第27巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2019年、113-123

（単著）「消尽と救済としての物語(3)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第28巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2020年、87-96

（単著）「消尽と救済としての物語(4)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2021年、153-161

②その他最近の業績

<シンポジウム>

（単独）「ポスト工業社会における新たな公私の協働」、日独国際シンポジウム「石炭産業終焉後の”地域ビジョン”をめぐって—ポスト工業社会における暮らしと文化—」提題、2017年10月14日、福岡県立大学

<教科書>

（共著）福岡県立大学教養演習テキスト学生編集委員会編『旅する大学生のガイドブック—レポートの書き方 2020年版』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2020年（担当箇所「第1章 教養演習—教養演習はあなたの未来への扉です」7-16、「第2章 レポートとは？」19-37）

（共著）福岡県立大学教養演習テキスト学生編集委員会編『旅する大学生のガイドブック—レポートの書き方 2021年版』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2021年（担当箇所「第1章 教養演習—教養演習はあなたの未来への扉です」7-16、「第3章 レポートとは？」33-51）

③過去の主要業績

<著書>

（共著）千田義光・久保陽一・高山守編『講座 近・現代ドイツ哲学Ⅱ—ヘーゲル以後フ

ッサルまで一』理想社、2006年。(担当箇所「第9章 他者経験の起源—発生的現象学におけるヒュレー・キネステーゼ・他者—」、255-277)

<学術論文>

(単著)「規範の生成—世代発生的現象学に基づく倫理学の可能性—」、『西日本哲学会年報』第9号、西日本哲学会、2001年、107-120

(共著)神谷英二・橋口捷久「医学生における生命倫理—患者の権利とインフォームド・コンセント—」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第13巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2005年、75-94

(単著)「遊歩者・記憶・集団の夢—ベンヤミン『パサーージュ論』による記憶論構築のために—」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第17巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2009年、67-79

<翻訳>

(単著)A. J. スタインボック「限界現象と経験の限界性」、『思想』2000年第10号、No.916、岩波書店、2000年、218-243

3. 外部研究資金

日本学術振興会・科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)・基盤研究(C)(一般)、研究課題名:モダニズム詩に現れる形象を導きとする集合的記憶に基づく「まちの物語」の哲学的研究、研究代表者:神谷英二、令和2年度直接経費70万円、間接経費21万円、研究期間:令和元年度~令和5年度

5. 所属学会

日本哲学会、日本倫理学会、日本現象学会、日本生命倫理学会、哲学会、科学基礎論学会、実存思想協会、日本現象学・社会科学会、日本ミシェル・アンリ哲学会、中部哲学会、西日本哲学会、九州大学哲学会、日本老年看護学会、各会員

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、哲学・2単位・1年・後期、入門・数字で見る日本社会・2単位・1年・後期、論理学・2単位・2年・前期、社会人基礎力演習・1単位・2年・前期、問題解決演習・1単位・2年・後期、日本語ライティング・1単位・2年・後期、倫理学・2単位・2・3年・前期、ビジネス倫理・2単位・3年・前期、哲学要論・2単位・3年・後期、公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期

7. 社会貢献活動

<福岡県田川市>経営評価改革推進委員会委員長、総合計画審議会会長、公共施設等運営権者モニタリング委員会会長

<福岡県直方市>消防本部職員採用試験員

<福岡県田川郡香春町>情報公開審査会会長、個人情報保護審査会会長、政治倫理審査会会長、行政改革推進委員会会長、総合戦略推進委員会委員長

<福岡県京都郡みやこ町>行政改革推進委員会委員長

<株式会社麻生・飯塚病院>倫理委員会委員、臨床研究管理委員会委員

8. 学外講義・講演

<公務員研修>糟屋郡須恵町面接官研修<一般市民向け講演>一般財団法人メンタルケア協会「メンタルケア・スペシャリスト養成講座」

9. 附属研究所の活動等

生涯福祉研究センター・筑豊市民大学アドバイザー(講座部担当)

所属	人間社会学部／心理コース	職名	教授	氏名	小嶋 秀幹
----	--------------	----	----	----	-------

1. 主な研究分野

社会精神医学、精神保健学を主な研究分野としている。特に、地域住民や対人援助職者に対する精神障害の啓発教育、自殺予防教育に取り組んでいる。こころに生じる問題、精神障害をいかにわかりやすく伝えるか、その研修方法、教材開発に興味を持っている。主な取り組みには、福岡県内を中心とした自殺予防ゲートキーパー研修会講師がある。その他、勤労者の精神保健、筑豊・田川地域におけるアルコール問題、思春期の精神保健（自傷行為やひきこもりの問題）、司法精神医学（精神鑑定）、高齢者の精神的健康のあり方などにも興味を持って研究・実務をしている。

2. 研究業績

①著書・論文

- ・小嶋秀幹：大学生を対象とした「依存の心理」の啓発教育の実践報告。独立行政法人国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター紀要第9号；100-109、2021.
- ・馬淵可奈子、小嶋秀幹：頭痛のある女子学生に対する臨床動作法の短期介入ーからだ・心の動き・援助者に対する感じ方に注目してー、福岡県立大学心理臨床研究 13 卷；1-9、2021.
- ・小嶋秀幹、田中玲衣：子の不登校を経験した母親が相談機関につながるまでの行動と心理的变化過程ー複線経路・等至性モデル（TEM）による分析ー。福岡県立大学心理臨床研究 12 卷；3-15、2020.
- ・小嶋秀幹：大学と看護専門学校の教員を対象にした自殺予防ゲートキーパー自己学習教材の効果。自殺予防と危機介入 39 (2)；106-111、2019.
- ・中山 航、小嶋秀幹：大学生における愛着スタイルと母親への感謝の関連。福岡県立大学心理臨床研究 11 卷；7-13、2019.
- ・井上拓哉、小嶋秀幹：保健福祉系大学生のインターネット依存傾向と精神的健康の関連。福岡県立大学心理臨床研究 10 卷；23 - 26、2018.

②その他の業績

<学会報告>

- ・小嶋秀幹：大学・専門学校教員を対象にした、学生の心理的危機に初期対応する自己学習教材の効果。第37回日本社会精神医学会、2018.

<教材開発>

- ・小嶋秀幹：「依存の心理」を啓発するための演劇教育教材。NPO 法人依存学推進協議会 2019 年度助成研究成果物、2020.
- ・小嶋秀幹：大学や専門学校の教員が心理的危機状態にある学生と関わる際の手引き。平成 29 年度日本教育公務員弘済会助成研究成果物、2018.

<報告書>

- ・小嶋秀幹（香春町いじめに係る重大事態調査委員会）：いじめ重大事態に関する報告書、2020 年 7 月.
- ・小嶋秀幹：シニア世代のメンタルヘルス（筑豊市民大学講座第 1 回）、第 19 期筑豊市民大学報告書；5-10、2020.
- ・小嶋秀幹：北九州市職員の健康づくりのための計画（第三期）評価及び第四期計画に向けての調査報告書。2019 年度北九州市委託研究成果物、2020.

③過去の主要業績

- ・小嶋秀幹：民生委員からみた自殺対策の現状と課題ー自由記述内容の質的分析からー。自殺予防と危機介入 34 (1)；41-47、2014.

- ・小嶋秀幹：民生委員が関わった自殺事例のプロセス—インタビュー内容の質的分析—、日本社会精神医学会雑誌 22 (2) ; 92 - 105、2013.
- ・小嶋秀幹：自殺の危険が切迫した人と関わる際の心構えとは—地域の事例を通して考えたこと—。自殺予防と危機介入 32 (1) : 68-71、2012.

3. 外部研究資金

- ・小嶋秀幹：うつ病の生涯学習を促進する対話型ゲーム教材の開発と効果検証、科学研究費基盤研究 (C) 、2020~2022年度、研究代表者、143万円

4. 受賞 なし

5. 所属学会

- ・九州精神神経学会評議員・編集委員、日本精神神経学会精神科専門医
- ・日本精神神経学会、日本臨床心理士会、九州精神神経学会、日本社会精神医学会、日本自殺予防学会、日本司法精神医学会、日本アルコール・アディクション医学会、日本心理臨床学会、日本産業精神保健学会、福岡県臨床心理士会 各会員

6. 担当授業科目

<学部>精神保健学・2単位・1年・前期、精神保健学Ⅰ・2単位・2年・前期、精神医学Ⅰ（精神疾患とその治療Ⅰ）・2単位・3年・前期、老年期医学・2単位・3年・前期、精神保健学Ⅱ・2単位・2年・後期、公認心理師の職責・2単位・2年・後期（分担）、精神医学Ⅱ（精神疾患とその治療Ⅱ）・2単位・3年・後期、心理実習Ⅰ・1単位・2年・通年、心理実習Ⅲ・1単位・3-4年・通年、演習・2単位・3年・通年、卒業論文・6単位・4年・通年

<大学院>保健医療分野における理論と支援の展開・2単位・1年・前期、産業・労働分野に関する理論と支援の展開・2単位・1年・後期、臨床心理基礎実習A・1単位・1年・前期、臨床心理基礎実習B・1単位・1年・通年、心理実践実習A・10単位・1-2年・通年、心理実践実習B・2単位・1-2年・通年、特別研究・4単位・1-2年・通年

7. 社会貢献活動

福岡県ひきこもり対策協議会委員長、福岡県自殺対策協議会委員、福岡市自殺対策協議会委員長、香春町いじめ防止等対策委員会委員長、田川市青少年問題協議会委員、北九州いのちの電話理事、嘱託産業医（北九州市、田川市）、嘱託医（ホームレス自立支援センター北九州、田川児童相談所）、産業医科大学医学部非常勤講師、措置入院鑑定業務、心神喪失等医療観察法判定医業務

8. 学外講義・講演

- ・精神医学の基礎知識、北九州いのちの電話相談員養成研修、11月、12月
- ・臨床の疑問に答える、福岡県立大学心理臨床研究会、12月
- ・気づいて・聞いて・寄り添って、志免町ゲートキーパー養成講座、11月
- ・子が不登校になった親の心理とサポート、福岡県立大学不登校ひきこもり支援フォーラム、3月
- ・うつ病について、門司区自殺対策研修会、3月
- ・うつ病について、こころの健康づくり講演会（田川市保健センター）、3月

9. 附属研究所の活動等

- ・福岡県立大学不登校・ひきこもりサポートセンター長

所属	人間社会学部／こどもコース	職名	教授	氏名	杉野 寿子
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私はこれまで国内外のさまざまな場所・地域で、困難な状況で生活をされている人々と多く出会い、交流しながらソーシャルワーク実践をしてきました。それらの出会いから「誰もが安心して主体的に暮らす」ことを研究テーマにしています。地域に根ざした取り組みやネットワーク構築に関する研究、開発途上国における福祉課題に関する研究、対人援助専門職のソーシャルワーク実践に関する研究を行っています。近年深い関心を持っているのは、保育者のソーシャルワーク実践に関する研究です。そして、子どもとその家庭の背景をふまえ、地域での子育て支援を重視できる保育者を養成しています。

福祉社会科学修士。保育士・社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士。

2. 研究業績

①最近の著書・論文（2018～2020年度）

- 池田孝博・杉野寿子・大久保淳子・鷲野彰子・中原雄一・伊勢慎（共著）「保幼小連携におけるアプローチカリキュラムに関する研究の動向と課題」福岡県立大学人間社会学部紀要, 29(2), 2021年
- 杉野寿子・田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・中原雄一・池田孝博（共著）「保育士養成課程における保健・健康の学びに関する研究」福岡県立大学人間社会学部紀要, 29(1), 2020年
- 杉野寿子（単著）「第1章 子ども家庭支援の意義と必要性」『保育と子ども家庭支援論』井村圭壮・今井慶宗編著, 勁草書房, 2020年
- 杉野寿子（単著）「Lesson26 社会福祉施設と権利擁護」「Lesson31 家庭（保護者）の状況と支援方法について学ぶ」『Let's have a dialogue! ワークシートで学ぶ施設実習』和田上貴昭・那須信樹・原孝成編著, 同文書院, 2020年
- 杉野寿子・吉田茂・佐藤陽子（共著）「保育者のソーシャルワークの意識に関する研究：意識調査からみた保育者の認識と実践の関係」保育ソーシャルワーク学研究第5号, 2019年
- 杉野寿子（単著）「保育者のソーシャルワークに関する意識調査からの一考察」福岡県立大学人間社会学部紀要第27巻第2号, 2019年
- 杉野寿子（単著）「保育士養成課程における施設実習の課題 - 実習後調査からの考察 -」福岡県立大学人間社会学部紀要第27巻第1号, 2018年
- 古橋啓介・池田孝博・杉野寿子・大久保淳子・中原雄一・伊勢慎（共著）「子ども・子育て支援新制度導入後の基礎自治体の実態」福岡県立大学人間社会学部紀要第27巻第1号, 2018年
- 杉野寿子・池田孝博（共著）「田川市の幼児の生活および家庭状況に関する調査」福岡県立大学人間社会学部紀要第27巻第1号, 2018年
- 杉野寿子（単著）「『児童家庭福祉』受講生のこども観についての一考察：『こどもへのねがい・誓いワーク』から」福岡県立大学人間社会学部紀要第26巻第2号, 2018年

②その他最近の業績（2018～2020年度）

<学会発表>

- 「保育者によるソーシャルワーク実践に関する研究：保育者へのアンケート調査からの考察」日本保育ソーシャルワーク学会第5回研究大会口頭発表, 2018年

③過去の主要業績（3点以内）

- ・ 杉野寿子・稲葉美由紀（共著）「フィリピンの貧困と社会開発的アプローチあるソーシャルビジネスの取り組みから」地域福祉サイエンス第3号，2016年
- ・ 杉野寿子（単著）「ヨルダンにおける障害に関する意識調査ー近年の意識傾向を探るー」社会福祉科学研究第4号，2015年
- ・ 杉野寿子（単著）「CBRマトリックスを活用した地域福祉活動分析に関するー考察ー日本本のA事業所の取り組みとBさんの生活を事例にー」別府大学短期大学部紀要第33号，2014年

3. 外部研究資金（2020年度）

- ・ 科学研究費補助金・基盤研究（B）細井勇代表「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究ー日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に」（2018～2020年度）研究分担者
- ・ 科学研究費補助金・基盤研究（C）稲葉美由紀代表「Meeting Human Needs in Today's World: The Role of Social and Solidarity Economy, Sustainable Development, and Empowerment-Oriented Community Development Strategies in Japan」（2018～2020年度）研究分担者

4. 受賞（2020年度）

なし

5. 所属学会（2020年度）

- ・ 日本社会福祉学会
- ・ 日本地域福祉学会
- ・ 日本保育ソーシャルワーク学会
- ・ 日本ソーシャルペダゴジー学会
- ・ 日本社会福祉士会

6. 担当授業科目（2020年度）

〈学部〉

社会福祉Ⅰ（2単位・1年後期）、社会的養護（2単位・2年後期）、子ども家庭支援論（2単位・2年後期）、家庭支援論（2単位・3年前期）、保育相談支援（1単位・4年前期）、社会福祉Ⅱ（2単位・4年後期）、保育実習指導Ⅰ（2単位・2～3年通年）、保育実習Ⅰ（4単位・3年前期）、保育実習指導ⅡB（2単位・3年後期）、保育実習ⅡB（2単位・3年後期）、演習（2単位・3年通年）、演習（2単位・4年前期）、卒業論文（6単位・4年後期）

〈大学院〉

子どもの福祉研究（2単位・前期）、子どもの福祉演習（2単位・後期）、教育課題研究B（2単位・後期）、子ども教育実践実習Ⅱ（1単位・前期）、子ども教育実践実習Ⅰ（1単位・後期）地域教育課題演習（2単位・前期）、特別研究（4単位・1～2年）

7. 社会貢献活動（2020年度）

- ・ 香春町子ども・子育て会議会長
- ・ 田川市児童虐待等事例検証委員会委員長
- ・ 田川市農業委員会委員
- ・ 行橋市保育園整備等検討委員会委員
- ・ 京築教育事務所発達障がい児等教育継続支援事業巡回相談員
- ・ 築上郡教育支援委員会主催教育相談・教育診断委員
- ・ 福岡県幼児教育アドバイザー
- ・ NPO法人やまびこクラブ理事

8. 学外講義・講演（2020年度）

- ・ 北九州市保育者研修「保護者支援・子育て支援研修」講師

9. 附属研究所の活動等（2020年度）

- ・ 2020年度研究奨励交付金（附属研究所重点領域）による研究「子どもの健康と保育に関する専門職連携の模索 - 福岡県の医療及び保育の現場での実態調査と養成校の実践 -」（研究代表者）

人間社会学部 / 総合人間社会コース	職名	教授	氏名	Stuart Gale
--------------------	----	----	----	-------------

1. 教員紹介・主な研究分野

Stuart Gale was born and raised in Hertfordshire, England. After graduating from The University of Leeds with a BA in history, he briefly worked in London before pursuing a teaching career in Japan. He returned to London to study for a Master's degree in English language teaching, passing with a distinction grade in 2002. Since then, he has taught at Fukuoka Women's University, Fukuoka University, Kyushu University, Kyushu Sangyo University, and Seinan Gakuin University. He joined Fukuoka Prefectural University (FPU) as a full-time faculty member in the spring of 2007.

Stuart Gale's research activities are based upon three areas of enquiry, the first concerning the development of critical thinking skills in Japanese university students. Aside from designing courses in pursuit of this objective, he has also authored the textbooks *Provoke A Response: Critical Thinking through Data Analysis* (2016) and *Japan Goes Global! Thinking Critically about Japanese Popular Culture* (2018). His second area of research concerns academic writing and how it may be taught more effectively to Japanese university students. This (action) research is conducted in university writing classes and involves a process of ongoing evaluation and modification. The results of this research have been incorporated into the academic writing textbook *Structure, Structure, Structure: The Best Guide to Reading and Writing Ever* (2012) and FPU's virtual learning website. Stuart Gale was invited to present on the subjects of teaching academic writing and the enhancement of critical thinking skills at the Fukuoka ALT Skills Development Conference in 2012 and 2013, and the Oita ALT Skills Development Conference in 2014. His third and final area of research concerns the development of study abroad programmes and the facilitation of intercultural competence.

2. 研究業績

①最近の著書・論文

Gale, S., Namoto, T., Suzuki, S. & Eguchi, M. (2018). *Japan Goes Global! Thinking Critically about Japanese Popular Culture*. Tokyo: Nan'un-do.

②その他最近の業績

<学会発表>

③過去の主要業績

Kato, N., Torigoe, I., Yoshimura, M., Gale, S., Imokawa, Y., Hur, D., Okamoto, M., & Matsuura, K. (Mar. 2018). A study on student awareness regarding international exchange programs open to Fukuoka Prefectural University students. *Faculty of Nursing Journal, Fukuoka Prefectural University*, No. 15, pp. 73-82.

Gale, S. (Feb., 2019). Putting the critical cat among the patriotic pigeons: guiding principles for the teaching of critical thinking as a precursor to critical writing in the Japanese EFL classroom. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, Vol. 20, No. 1, pp. 1-13.

Gale, S. (Sept., 2019). Evaluating a university preparation course for a short-term study abroad program in terms of its ability to alleviate student anxiety prior to departure. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social*

Sciences Fukuoka Prefectural University, Vol. 28, No. 1, pp. 1-25.

Gale, S. (Feb., 2020). Addressing a supposed deficiency: a critical thinking and process-writing methodology for Japanese EFL. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, Vol. 28, No. 2, pp. 19-40.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

Member: *Japan Association of Language Teachers* (Fukuoka Chapter, Critical Thinking Special Interest Group).

Member: *Asia TEFL*

6. 担当授業科目

英語I 1単位 1年 前期 後期 (3 courses per semester)

英語III 1単位 2年 前期 後期 (3 courses per semester)

海外語学実習事前指導 (*UK programme preparation course*, first semester only)

海外語学実習 (*UK programme*, second semester only)

Introduction to studying in English (英語で学ぶ ; 入門編) (seminar course, first semester only)

Advanced English Achievement (英語で学ぶ ; 高度) (seminar course, second semester only)

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

福岡県立大学オータムスクール

2020年9月26日(土) 13:00~16:10 (90分2コマ) *zoom使用によるオンライン実施

【事業目的】 (昨年の企画案にある「サマースクール運営要綱」より抜粋)

- ① 高校生に主体的学習方法を体験してもらう。
- ② 受動的な学習から、主体的な学習への転換を意識してもらえるような授業を設定する。
- ③ 課題に対して知識・技能を活用できる力を育成する。

Lecture¹

Mobile phones: how they have changed everything, from how we communicate to how to study to how we work

Lecture²

Bullying as an international social problem occurring not just in schools but wherever people come together

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	教授	氏名	住友雄資
----------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

厚生労働省の発表によると、わが国には300万人を超える精神障害者がいます。精神科病院に入院している精神障害者は約35万人ですので、大多数は地域で生活しています。しかし、差別・偏見を受けやすい精神障害者や家族は、地域で生活しづらい状況が続いています。そこで、ソーシャルワークの視点から、精神障害者が地域で生活しやすい援助・支援法の開発とそれを下支えする社会環境を構築する方法を研究しています。そのためにはケアマネジメントという技術とケアマネジメントが有効に機能するシステムが不可欠で、両者を統合した地域サポートシステムを構築する研究をおこなっています。

またケアマネジメントを担う福祉専門職が必要になりますので、その観点から精神保健福祉士等をどのように養成するかということも研究しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

住友雄資・鬼塚香 (2020) 「『精神保健福祉援助演習』におけるロールプレイ活用の到達点と課題—クライアント役を演じることを出発点に—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29 (1), 19-34.

住友雄資・鬼塚香 (2020) 「『精神保健福祉援助演習』の演習教育法に関する研究動向と課題」『福岡県立大学人間社会学部紀要』28 (2), 1-18.

山崎めぐみ・住友雄資 (2018) 「精神科病院の精神保健福祉士が行う退院支援に関する研究動向と課題—長期入院の精神障害者に対する取り組みに着目して—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』26 (2), 55-69.

新海朋子・住友雄資 (2018) 「精神障害をもつ人のリカバリー概念に関する文献検討」『福岡県立大学人間社会学部紀要』26 (2), 71-85.

②その他最近の業績

(事例研究)

白石裕香・住友雄資 (2019) 「メンタルヘルス問題のある母親への支援—ACTによるチーム支援—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』27(2), 59-73.

(調査研究)

住友雄資 (2018) 「社会関係」「スーパービジョン」「フェイスシート」「防衛機制」『精神保健福祉学の重要な概念・用語の表記のあり方に関する調査研究 平成29年度報告書』日本精神保健福祉学会, 106-107, 129, 188-189, 191.

(教育実践報告)

鬼塚香・住友雄資 (2021) 「2020年度『精神保健福祉演習』—『心理情緒的支援』を学生が理解するまで—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29(2), 203-214.

鬼塚香・住友雄資 (2020) 「2019年度『精神保健福祉演習』—充実した演習を行うための前提と準備—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29(1), 81-90.

畑香理・住友雄資・奥村賢一・平川明美・浦田愛 (2020) 「2019年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習指導』—精神保健福祉士に必要な技能を習得するための教育の試行—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29(1), 91-97.

畑香理・住友雄資・奥村賢一・平川明美・浦田愛 (2019) 「2018年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習指導』—効果的な事前学習につなげる教育法の試みを中心に—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』28(1), 103-110.

住友雄資・鬼塚香 (2019) 「記録の演習法—2018年度『精神保健福祉演習』の試みから—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』27(2), 169-179.

鬼塚香・住友雄資 (2019) 「2018年度『精神保健福祉演習』－反転授業, アクティブ・ラーニング・チーム・ティーチングの試み－」 『福岡県立大学人間社会学部紀要』 27(2), 157-168.

畑香理・住友雄資・奥村賢一・平川明美・浦田愛 (2018) 「2017年度教育実践報告: 『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習指導』－実習連絡協議会における意見を踏まえた取り組みを中心に－」 『福岡県立大学人間社会学部紀要』 27(1), 127-135.

③過去の主要業績

住友雄資 (2007) 『精神保健福祉士のための地域生活支援活動モデル』 金剛出版.
(単著)

住友雄資 (2001) 『精神科ソーシャルワーク』 中央法規出版. (単著)

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

一般社団法人日本社会福祉学会 代議員・査読委員
日本精神障害者リハビリテーション学会 査読委員
日本ソーシャルワーク学会 査読委員
日本職業リハビリテーション学会
日本地域福祉学会
一般社団法人日本精神保健福祉学会

6. 担当授業科目

(学部)

精神保健福祉相談援助の基盤(専門)・2単位・2年・前期, 精神科リハビリテーション学Ⅱ・2単位・3年・後期, 精神保健福祉援助技術各論Ⅱ・2単位・3年・後期, 精神保健福祉演習・1単位・3年・前期, 精神保健福祉援助演習・2単位・3～4年・通年, 精神保健福祉援助実習指導・3単位・3～4年・通年, 精神保健福祉援助実習・5単位・4年・通年

(大学院)

社会福祉研究法・2単位・前期, 質的研究法・1単位・前期, 精神保健福祉研究・2単位・前期, 精神保健福祉演習・2単位・後期, 特別研究・4単位・通年

7. 社会貢献活動

直方市障がい者施策推進協議会 会長
田川地区障がい者自立支援協議会 会長
田川市障がい者福祉基本計画等策定・推進委員会 会長

8. 学外講義・講演

(出前講義)

福岡県立小倉南高等学校「精神保健福祉士の仕事」(2020年12月22日)

9. 附属研究所の活動等

生涯福祉研究センター・センター長

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	教授	氏名	許 棟翰
----	---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1998年3月慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程修了。博士（商学）。専門分野は、労働経済学、人的資源管理論、労使関係論。

1998年4月から九州国際大学経済学部経済学科で「労働経済学」を担当。2008年3月から韓国明知大学経営学部経営学科で「人的資源管理論」，「労使関係論」，「経営組織論」を担当。2015年4月より本学に着任。

私の初期研究は、満足度の高い働き方と効率的な人事管理のあり方について「賃金支給システム」に焦点を当てて行われた。企業の賃金支給システムを「配分の仕方」という観点からアプローチした。

その後、働き方の変化、すなわち非正規職の増加や雇用形態の多様化によって企業内部の技能養成方式はどう変わっていくのかについて研究を続けている。雇用形態の多様化が企業内部の技能養成方式や技能伝授の様子をどう変えたのかを究明するため、日本の生産現場の調査を行っている。

いまは「これからの働き方」について、IoTの普及やAIの発達など「第4次産業革命」の影響を中心に研究を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・（共著）『HRはいま、革新中』オンク（韓国），2019年。
- ・（共著）「本学学生の国際交流に関する意識調査」『福岡県立大学看護学研究紀要』第15巻，2018年3月，pp.73～82.
- ・（共著）「韓国、大邱韓医大学校における韓方医学及び看護短期研修プログラムの開発」『福岡県立大学看護学研究紀要』第16巻，2019年3月，pp.111～119.
- ・（共著）「社会福祉法人における業務支援システムの導入効果と課題」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第28巻第1号，2019年9月，pp.51～63.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・（単独）「日本の完全雇用の実態 - 失業率と有効求人倍率のデータによる検証 -」韓国日本政経社会学会・コロキウム，韓国漢陽大学，2018年12月。
- ・（共同）「日本の障害福祉サービス事務所における業務支援システムの導入とその過程 - T社会福祉法人の事例を通じて -」韓国日本学会・第98回国際学術大会，韓国高麗大学，2019年2月。

<専門誌論稿>

- ・（単著）「第4次産業革命によるHRマネジメントの変化」『人事管理』第341号，2018年。
- ・（単著）「日本企業における役割・職務給人事管理の動向」『人材経営』Vol.156，2018年。
- ・（単著）「学歴と生産性、その相関関係」『人事管理』第344号，2018年。
- ・（単著）「完全雇用の虚と実」『人事管理』第347号，2018年。
- ・（単著）「デジタルHRの動向と展望」『人事管理』第349号，2018年。
- ・（単著）「働き方改革と人事管理：多様性に対応した個別管理」『人事管理』第353号，2019

年.

- ・(単著)「自動車産業の環境変化とトヨタの組織改編」『人事管理』第356号, 2019年.
- ・(単著)「働き方改革:長時間労働是正、同一労働・同一賃金原則、柔軟勤務」『人事管理』第359号, 2019年.
- ・(単著)「AI人材育成戦略」『人事管理』第362号, 2019年.
- ・(単著)「日本企業における技能継承問題、採用及び維持管理」『人事管理』第365号, 2020年.
- ・(単著)「日本企業における採用トレンド:シルカフェの事例を中心に」『人事管理』第368号, 2020年.
- ・(単著)「コロナ19が日本の採用市場に及ぼす」『人事管理』第372号, 2020年.
- ・(単著)「日本企業における仕事中心人事制度」『人事管理』第376号, 2020年.
- ・(単著)「人、労働、そして経済」『アーク』創刊号, 2020年.
- ・(単著)「出向と職員共有制度」『人事管理』第378号, 2021年.

<共同研究>

研究テーマ:報酬決定要因に対する沿革および事例調査

担当部分:「日本公務員の報酬決定要因」

研究期間:2020年4月~6月

研究機関:(韓国)漢陽大学産学協力団

③過去の主要業績

- (単著)「同一価値労働同一賃金原則と企業内男女間賃金格差の実証分析」『三田商学研究』第37巻第4号, 1994年, pp.51~67.
- (単著)「日本の雇用形態多様化と知的熟練の必要性」『Journal of Knowledge Studies』7(2), 2009年, pp.113~139.
- (単著)「自動車産業における生産方式の変化と技能伝授-NPWを中心として」『Productivity Review』27(1), 2013年, pp.313~335.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本労務学会, 日本組織学会, 韓国人事組織学会, 韓国人事管理学会(常任理事), 韓国企業経営学会, 韓国経営教育学会, 韓国生産性学会, 韓国国際地域学会, 韓国労使関係学会, 韓日経商学会, 韓国日本学会

6. 担当授業科目

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

<講演>

「日本の労使関係の争点」

日時：2018年6月20日

主催：(韓国)大邱・慶北雇用福祉研究院

「朝鮮人強制動員の実情」

日時：2019年5月17日

主催：(韓国)世宗研究所

「これからの人的資源管理の在り方 - 採用戦略の今、今後の展望 - 」

日時：2020年5月13日（第2期人材採用研究会）

主催：(株)タナベ経営

<出前講義>

「幸せの経済学」2018年6月15日、小倉高等学校

9. 附属研究所の活動等

(共同)「保健福祉分野における業務改善のための情報ネットシステム・モデル開発」

研究種別：附属研究所重点領域研究

研究代表：寺島正博

研究メンバー：石崎龍二、柴田雅博、許棟翰

人間社会学部／社会福祉コース	職名	教授	氏名	本郷 秀和
----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私は、福祉活動に取り組むNPO法人において、社会福祉士・介護福祉士等として相談員や介護業務、運営管理業務等に従事した経験があることから、高齢者福祉活動（ソーシャルワークや介護、各種の生活支援）に取り組むNPO法人の役割にこれまで着目してきました。

現在の主要研究テーマとしては、1)高齢者のニーズに応える生活支援サービス（特にNPO法人が提供するサービス）に関する研究、2)高齢者の権利擁護に関する研究（例：介護サービスの評価や苦情解決、高齢者虐待の予防と対応、認知症高齢者の地域支援等）、3)高齢者が住み慣れた地域で生活が継続できるためのソーシャルワークの今後の展開（特に様々なニーズに応えられるためのサービス開発の推進方法や管理運営等）に関するものがあります。

研究上で特に意識することとしては、机上のみではなく、実際に高齢者の方や様々な専門職の方等と顔がみえる関係を築きながら、現実の福祉問題の把握と理解に心がけながら研究を進めようと考えています。また、社会福祉に関する各種調査等を通じて福祉問題を抽出・発見し、その結果を福祉実践にフィードバックできればと考えています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文等（2018-2020年度）

- 1) 梶原浩介・本郷秀和「地域共生社会と制度の狭間の問題を抱える家族支援に関する一考察 -8050問題に焦点を当てて-」『九州社会福祉学』第18号、日本社会福祉学会九州地域部会、2021年3月。（査読付・研究ノート）
- 2) 秋竹純・本郷秀和「介護付有料老人ホームに勤務する介護福祉士からみたケア意識とストレス状況」『福岡県立大学 人間社会学部紀要』第29巻第2号、2021年3月（査読無・調査報告）
- 3) 岩崎敦子・本郷秀和「特別養護老人ホームにおける在宅高齢者に対する食支援への意識と課題—福岡県内の特別養護老人ホームの食支援調査を手がかりに—」『福岡県立大学 人間社会学部紀要』第29巻第2号、2021年3月（査読無・調査報告）（査読無・調査報告）
- 4) 松岡佐智・本郷秀和「介護老人福祉施設における施設内虐待防止に向けた課題」、『高齢者虐待防止研究』第16巻第1号、日本高齢者虐待防止学会、2020年3月（査読付・調査報告論文）
- 5) 本郷秀和『高齢者虐待と介護支援専門員』、中央法規、2020年2月（研究書・全11章）。
- 6) 秋竹純・本郷秀和・松岡佐智「有料老人ホーム職員のバーンアウト傾向と認知症高齢者へのケアの状況—調査結果にみる施設内虐待の予防に向けた課題」『地域ケアリング』Vol.21. No.8、(株)北陸社 2020年6月。
- 7) 畑香理・本郷秀和「退院援助からみる医療ソーシャルワーカーの役割と大腿骨骨折を経験した人への支援—先行研究の分析から—」日本社会福祉学会九州地域部会発行、『九州社会福祉学』第15号、2019年3月（査読付）
- 8) 荒木剛・本郷秀和「地域包括支援センターの社会福祉士に期待される実践と課題—先行文献からの検討—」福岡県立大学発行『福岡県立大学 人間社会学部紀要』第27巻第2号、2019年3月（査読無）。
- 9) 本郷秀和・戸丸純一・下田学「在宅知的障害者と成年後見制度の利用支援の課題—福岡県内の主要相談機関の調査結果を手掛かりに—」『地域ケアリング』Vol.21.No.3.2019、(株)北陸館、2019年2月。
- 10) 本郷秀和・中川美幸・河野高志「医療ソーシャルワーカーの研修ニーズと専門職能団体の役割—福岡県地域のMSW実態調査を通じて—」『地域ケアリング』Vol.20.No.12.2018、(株)北陸館、2018年11月。
- 11) 本郷秀和「第14章 社会福祉と相談援助」「第16章 社会福祉を巡る諸問題とメディカルな役割」鬼崎信好・本郷秀和編著、『メディカルのための社会福祉概論 第4版』、講談社、2018年12月。
- 12) 本郷秀和・村山浩一郎・松岡佐智・畑香理、「フィンランドにおける高齢者虐待の関連機関の状況—2017年度ヒアリング調査結果の要約報告—」『地域ケアリング』Vol.20.No.5.2017、(株)北陸館、2018年5月。（調査報告）

② その他最近の業績（2018-2020年度）

- 1) 上野敦子・本郷秀和、「社会福祉法人が設置する介護老人福祉施設における在宅高齢者への食支援の可能性—福岡県内の介護老人福祉施設実態調査を中心に—」日本社会福祉学会第59回大会九州部会 口頭発表（会場：北九州市立大学）、2019年6月。

- 2) 秋竹純・本郷秀和、「特定施設(有料老人ホーム)における介護職員の虐待予防に向けた課題—九州内の介護付き有料老人ホーム職員の意識調査を通じて—」日本社会福祉学会第59回大会九州部会 口頭発表(会場:北九州市立大学)、2019年6月。
- 3) 本郷秀和「在宅福祉サービス評価事業」、「サービス担当者会議」「サービスマネジメント」、「施設入所主義」他全17項目、九州社会福祉研究会編(編集代表:田畑洋一・鬼崎信好・門田光司・倉田康路・片岡靖子・本郷秀和編集代表)『新版21世紀の現代社会福祉用語辞典』,学文社,2019年6月(辞典)。
- 4) 福岡県立大学附属研究所 不登校・ひきこもりサポートセンター、『平成29年度 業務概要報告書』,編集委員,2018年8月。
- 5) 中川美由紀・本郷秀和・河野高志「医療ソーシャルワーカーが求めるスキルについて—A地域の実態調査の結果より—」日本社会福祉学会第59回大会九州部会 口頭発表(会場:沖縄国際大学)2018年6月。
- 6) 松岡佐智・本郷秀和・村山浩一郎「相談援助実習ガイドラインからみた相談援助実習の課題—実習対象者別にみた相談援助実習の学習課題—」日本社会福祉学会第59回大会九州部会 口頭発表(会場:沖縄国際大学)2018年6月。
- 7) 本郷秀和他8名、「平成30年度 福岡県人権相談従事職員研修テキスト」(財)福岡県人権啓発情報センター発行、2018年6月。

③ 過去の主要業績

- 1) 本郷秀和・西島衛二・永田俊明、「福祉移送サービスの現状の問題点と課題—介護サービスを実施するNPO法人のケーススタディ—」『介護福祉学』Vol.12,日本介護福祉学会,2005年10月。
- 2) 本郷秀和・鬼崎信好・佐伯幸雄、「指定福祉NPOにおける社会福祉士の役割」『日本の地域福祉』第20巻,日本地域福祉学会,2006年3月。
- 3) 本郷秀和、「高齢者虐待の兆候察知における介護支援専門員の課題—福岡市・北九州市の介護支援専門員の現状と意識—」『社会福祉学』第54号第2巻,日本社会福祉学会,2013年8月。

3. 外部研究資金

- 1) 平成31年度—令和5年度(5年間)、文部科学省科学研究費補助金申請、基盤研究C、「地域包括ケアシステム推進下の介護NPOの可能性」421万円(総額) *研究代表:本郷秀和
- 2) 平成31年度—令和3年(3年間)、文部科学省科学研究費補助金申請、基盤研究C、「地域福祉計画における自治体の課題」78万円(総額) *研究代表:村山浩一郎(研究分担者として申請)

4. 所属学会

- 1) 日本社会福祉学会, 2) 日本地域福祉学会, 3) 日本介護福祉学会 4) 日本社会福祉士会,
- 5) 日本高齢者虐待防止学会

5. 担当授業科目(2019年度)

〈人間社会学部:社会福祉コース〉

- 1)「相談援助の基盤と専門職Ⅱ」(2単位・1年後期),2)「相談援助実習指導」(3単位・3年通年・共同),
- 3)「相談援助実習」(4単位,3年通年),4)「相談援助実習指導」(3単位・2年通年・共同),5)「相談援助の理論と方法B」(2単位・2年前期),6)「社会福祉学演習」(4単位・3年後期~4年前期・通年),7)「卒業論文」(6単位・4年次後期),8)「相談援助演習A」(2単位・2年通年),9)「相談援助演習C」(1単位,3年後期)

〈大学院:人間社会学研究科(社会福祉専攻)〉

- 10)「高齢者福祉研究」(2単位・1年後期),11)「高齢者福祉演習」(2単位・1年前期),12)「特別研究」(4単位・1-2年通年),13)フィールドワーク」(2単位・1年後期),14)「量的研究法」(1単位・1年前期)

6. 社会貢献活動(2020年度)

- 1) 福岡県社会福祉審議会 審議委員
- 2) 福岡県社会福祉審議会 老人福祉専門分科会 会長
- 3) 福岡県社会福祉審議会 地域福祉支援計画専門分科会 会長
- 4) 福岡県第9次高齢者保健福祉計画策定検討委員会 委員長
- 5) 福岡県国民健康保険団体連合会 介護給付費等審査委員会 副会長
- 6) 福岡県国民健康保険団体連合会 介護給付費等審査委員会 審査部会会長

- 7) 福岡県国民健康保険団体連合会 介護サービス苦情処理委員
- 8) 福岡県人権施策推進講話会専門部会 委員
- 9) 福岡県社会福祉協議会 外部評価審査委員会委員
- 10) 福岡県社会福祉協議会 運営適正化委員会 苦情解決小委員会委員
- 11) 福岡県社会福祉協議会 運営適正化委員会 委員
- 12) 日本社会福祉学会 機関紙「社会福祉学」査読委員(2019年10月1日～2020年12月末日)
- 13) 日本高齢者虐待防止学会 学会誌「高齢者虐待防止研究」査読委員
- 14) 日本社会福祉学会 九州地域ブロック研究誌「九州社会福祉学」査読委員
- 15) 福岡県社会福祉士会 研究誌 論文査読委員
- 16) 福岡県田川市 地域包括ケアシステム推進協議会 認知症支援部会委員(平成32年9月迄)
- 17) 福岡県宗像市 介護保険運営協議会 委員(平成33年5月末迄)
- 18) 福岡県川崎町 地域包括支援センター運営協議会 会長(平成32年5月迄)
- 19) 社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会 評議員(平成33年3月末迄)
- 20) 特定非営利活動法人 地域たすけあいの会 理事長(代表理事)
(活動概要:サービス付高齢者住宅,住宅型有料老人ホーム,通所介護(2),訪問介護,居宅介護支援,居宅介護,重度訪問介護,就労支援A,日中一時支援,同行援護,学童保育(2),高齢・障がい者配食サービス,特定相談支援事業,福祉有償運送,人材育成,地域縁がわ事業,独自生活支援事業,被災地支援等)
- 21) 福岡県立大学社会福祉学会 副会長

7. 学外講義・講演(2020年度)

高校訪問「社会福祉士の仕事」小倉南高校

8. 附属研究所の活動等

- 1) 人間社会学部 社会福祉コース代表(学部運営部会委員)
- 2) 学位・資格等

博士(社会福祉学),社会福祉士,精神保健福祉士,介護福祉士,救急救命士,専門社会調査士他.

所属	人間社会学部／社会福祉コース	職名	教授	氏名	村山 浩一郎
----	----------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

私の研究分野は「地域福祉」です。「地域福祉」は児童福祉や高齢者福祉などの対象者別の福祉分野ではなく、地域住民が主体となり、行政や専門職と協働しながら、援助を必要とする人を地域で支えたり、地域の共通課題の解決に取り組んだりする、地域を基盤とした福祉実践のあり方を意味しています。私の研究テーマは、このような「地域福祉」を推進するための様々な実践や方法を検討することです。具体的には、住民による小地域福祉活動、福祉NPO、コミュニティワーク、地域福祉計画など、地域福祉を推進するための住民活動、援助技術、計画・政策などについて研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・村山浩一郎「第9章 地域福祉とその推進方法」, 鬼崎信好・本郷秀和編著『コメディカルのための社会福祉概論 第4版』, 講談社, 2018年12月
- ・村山浩一郎「地域福祉計画策定ガイドラインにおける策定方法の変化—新旧ガイドラインの比較より」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻第1号, 2020年10月
- ・池本賢一・村山浩一郎「わが国におけるコミュニティワーク理論の再構築に向けた試論—コミュニティワークの定義及び範囲に着目して—」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』第27巻第2号, 2019年2月

②その他最近の業績

- ・實崎信介・村山浩一郎「保育所の地域における公益的な取組の実施状況に関する研究—福岡県内の保育所のみを運営する社会福祉法人を対象として—」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻第2号, 2021年3月
- ・村山浩一郎「地域福祉計画の課題と展望」, 『でんしょ鳩』第227号, 北九州市障害福祉ボランティア協会, 2020年7月
- ・九州社会福祉研究会編（編集委員：岩井浩英, 江口賀子, 大山朝子, 片岡靖子, 門田光司, 河谷はるみ, 鬼崎信好, 倉田康路, 滝口真, 田畑洋一, 茶屋道拓哉, 本郷秀和, 村山浩一郎）『21世紀の現代社会福祉用語辞典〈第2版〉』, 学文社, 2019年6月

③過去の主要業績

- ・村山浩一郎「『進行管理』の視点から見た地域福祉計画の特徴と課題：3自治体の第1期計画と第2期計画の比較から」, 『リハビリテーション連携科学』第14巻2号, リハビリテーション連携科学学会, 2013年12月
- ・村山浩一郎「小地域ネットワーク活動の課題に関する研究—北九州市のふれあいネットワーク事業を担う福祉協力員に対する質問紙調査の分析から—」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』第18巻第2号, 2010年
- ・村山浩一郎「北九州市における小地域福祉活動の活動実態と課題に関する研究」, 『西南女学院大学紀要』第13巻, 2009年

3. 外部研究資金

- ・平成31—33年度, 文部科学省科学研究費補助金【基盤研究C】, 研究課題：「地域共生社会の実現に向けた地域福祉計画の策定方法に関する方法」（研究代表：村山浩一郎, 交付金額：78万円）, 研究代表者
- ・平成31—35年度, 文部科学省科学研究費補助金【基盤研究C】, 研究課題：「地域包括ケアシステム推進下における介護系NPOの役割」（研究代表：本郷秀和, 交付金額：442万円）, 研究分担者

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会, 日本地域福祉学会, 日本社会学会, 福祉社会学会, 地域社会学会, リハビリテーション連携科学学会

6. 担当授業科目

<学部>福祉行財政と福祉計画 (2単位・3年・前期), 地域福祉論 I (2単位・2年・後期), 地域福祉論 II (2単位・3年・前期), 相談援助実習指導 (3単位・2年~3年・通年), 相談援助実習 (4単位・3年・通年), 相談援助演習B (2単位・3年・通年), 相談援助演習C (1単位・3年・後期), 社会福祉学演習 (2単位・3年~4年・後期~前期), 卒業論文 (6単位・4年・後期)

<大学院>特別研究 (4単位・1~2年・通年), フィールドワーク (2単位・1年・前期・後期), 地域福祉研究 (2単位・1・2年・前期), 地域福祉演習 (2単位・1・2年・後期)

7. 社会貢献活動

- ・ 芦屋町地域福祉計画推進委員会 委員長
- ・ 大牟田市健康福祉推進会議 会長
- ・ 川崎町保健福祉推進協議会 会長
- ・ 苅田町地域福祉推進委員会 委員長
- ・ 北九州市社会福祉審議会 委員
- ・ 北九州市地域福祉計画策定懇話会 座長
- ・ 北九州市社会福祉協議会 地域福祉に関するアドバイザー
- ・ 北九州市社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター運営委員会 委員長
- ・ 小竹町地域福祉計画策定委員会 委員長
- ・ 田川市地域福祉計画策定・推進会議 委員長
- ・ 田川市地域包括ケアシステム推進協議会・保健(予防)・生活支援部会 部会長
- ・ 福岡県社会福祉協議会 市町村社協委員会 専門委員会 委員長
- ・ 福智町第3次人権と福祉のまちづくり総合計画 アドバイザー及び評価委員
- ・ 福智町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会 委員長
- ・ 福津市福祉施策策定審議会 委員長
- ・ みやこ町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会 委員長
- ・ 行橋市成年後見制度利用促進委員会 委員長

8. 学外講義・講演

- ・ 苅田町民生委員・児童委員研修会 講師
- ・ 北九州市社会福祉協議会 地域支援コーディネーター養成研修 講師
- ・ 北九州市社会福祉協議会 地域福祉活動専門研修 講師
- ・ 北九州市自治会総連合会・市民防災会総連合会役員研修会 講師
- ・ 北九州市八幡東区まちづくり協議会連合会設立記念講演会 講師
- ・ 福岡県社会福祉協議会 市町村社会福祉協議会 新任職員研修会 講師
- ・ 福岡県社会福祉協議会 市町村社協会長・常務理事・事務局長研修会 講師
- ・ 福岡県社会福祉協議会 地域福祉基礎研修「フォローアップ研修会」講師

9. 附属研究所の活動等

- ・ 研究奨励交付金事業(附属研究所重点領域研究)「地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データのGIS分析による地域診断モデルの開発」研究代表者

所属	人間社会学部／総合人間社会コース	職名	教授	氏名	森脇 敦史
----	------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

憲法学を専攻しており、特に情報と法との関わり合いを中心的な研究課題としている。電子通信技術の発達（特にインターネットの爆発的拡大）は、誰もが情報を発信することを可能とした。これは、思想の自由市場への参入者を拡大し、多様な情報が発信されるという面を持つ。一方で、発信者が限定的であったがゆえに成立していた従来の規律を破壊し、人々の権利を侵害する（名誉毀損やプライバシー侵害、著作権侵害など）という一面をも有している。このような問題に対して、表現の自由という観点から個別事例においてどのような解決を図るべきなのか、またどのような制度設計を行うことが最も適切な権利配分を人々に行うことになるのかということ考察している。

また近年は、アメリカの表現の自由法理が形成された歴史的背景についても研究を進めている。合衆国憲法において表現の自由が一定の保護を受けるようになったのは1940年代頃からであるが、無制限の保護が不可能である以上、規制されうる言論と規制され得ない言論の線引きが必要となる。個人・社会の多様化が進む日本において、あるべき言論の自由法理を提示するため、そのような線引きをいかなる理論的枠組みにより行おうとしたのかを検討している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

森脇敦史「ヒューゴ・ブラック 歴史は繰り返すか？」山本龍彦・大林啓吾（編）『アメリカ憲法の群像 裁判官編』145～170頁、尚学社、2020年6月

②その他最近の業績

<教材開発>

・鈴木秀美、山田健太（編著）『よくわかるメディア法 第2版』、ミネルヴァ書房、2019年5月

<判例評釈>

森脇敦史「家庭裁判所調査官が自ら担当した事件に関する論文等の公表とプライバシー侵害」新・判例解説Watch【2021年4月】、日本評論社、2021年3月

③過去の主要業績

森脇敦史「言論活動への政府資金助成に対する憲法上の規律」、阪大法学第53巻1号113～142頁、2003年

森脇敦史「図書館に対するフィルタリングの義務づけと今後のインターネット上における表現規制の態様—CDA、COPA、CIPAの事例から—」、阪大法学第53巻3=4号393～419頁、2003年

森脇敦史「キャス・サンズティン リスクと不確実性の憲法学」駒村圭吾・山本龍彦・大林圭吾（編『』アメリカ憲法学の群像 理論家編』255～274頁、尚学社、2010年1月

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

関西アメリカ公法学会、関西憲法判例研究会、九州公法判例研究会、情報ネットワーク法学会、合衆国最高裁判所判例研究会

6. 担当授業科目

法学・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、憲法・2単位・1年・後期、入門・数字で見る日本社会・2単位・1年・後期、社会人基礎力演習・1単位・2年・前期、現代社会論C（情報社会と法）・2単位・2年・後期、問題解決演習・1単位・2年・後期、法律学概論Ⅰ・2単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅰ・1単位・前期、法律学概論Ⅱ・2単位・3年・後期、個人情報法制・2単位・後期、公共社会学研究Ⅱ・1単位・後期

7. 社会貢献活動

田川市情報公開・個人情報保護審議会委員
築上町個人情報保護審査会委員
福智町情報公開審査会委員（会長）
福智町個人情報保護審査会委員（会長）
川崎町情報公開審査会委員
川崎町行政不服審査会委員（委員長）
古賀市情報公開・個人情報保護審議会委員
古賀市行政不服審査会委員
玄界環境組合情報公開・個人情報保護審議会委員
玄界環境組合行政不服審議会委員
粕屋北部消防本部行政不服審議会委員
粕屋北部消防本部情報公開・個人情報保護審議会委員
田川市立病院倫理委員会委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部／心理コース	職名	教授	氏名	吉岡 和子
----	--------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2004年3月に九州大学大学院人間環境学府博士後期課程を満期退学。臨床心理士として、病院（精神科）、保健福祉センター、学生相談室などに勤務後、2006年10月に本学に着任しました。2007年2月に九州大学より博士（人間環境学）の学位を授与されました。

主な研究領域は、①対人関係における自己表出の在り方に関する研究②アサーショントレーニング・プログラムの実践研究③心理アセスメントを用いた本人や家族への心理的援助に関する研究です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・吉岡和子（2019）「今の子どもたちの友だち作り（特集 今の子どもの対人関係）」『教育と医学』67(5), 394-399.
- ・吉岡和子（2019）「7章 地域社会・保護者との連携」『キーワード 生徒指導・教育相談・キャリア教育：子どもの成長と発達のための支援』小泉令三・友清由希子編 北大路書房.

<論文>

- ・吉岡和子（2020）「友人との共有様式が大学1年生の友人関係の進展に及ぼす影響」についてのコメント『青年心理学研究』31（2），127-130.
- ・吉岡和子・野口彩夏（2018）「親との心理的距離及び子どもの夫婦関係の認知と「頼れる感」の関連」『福岡県立大学心理臨床研究』11, 33-41.
- ・西川菜月・吉岡和子（2018）「大学生に対するアサーションに関する授業の教育効果の検討ーコミュニケーション場面における安心感・信頼感に注目してー」『福岡県立大学心理臨床研究』11, 15-32.
- ・児玉恵美・吉岡和子・石坂昌子（2018）「バウムテストの特徴および描画説明とレジリエンスとの関係」『健康科学研究』2, 11-25.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・田中直也・早見武人・松尾太加志・吉岡和子・福田恭介・志堂寺和則（2019）「眼画像のパターンマッチングによる前進運動を伴う観視作業中の視方向判別」日本心理学会大会発表論文集83, 2D-038.
- ・Kazuko Yoshioka, Ayaka Kuwabara, Emi Kodama（2019）「Comparison between Japanese and Korean college students regarding hierarchical relationships」ECP 2019（Moscow）.
- ・福田恭介・吉岡和子・小山憲一郎・中藤広美・中村恵美子・酒井志織・三原佑未・香月眞美（2018）「ペアレントトレーニング手法を用いた保育者・教師のためのスキルアッププログラムへの参加形態による子どもへの態度変容-子どもへの関わり・子どもの問題行動の頻度と困り感に着目して-」第79回九州心理学会（長崎大会）

③過去の主要業績

<著書>

- ・高橋紀子・吉岡和子編（2010）「心理臨床，現場入門：初心者から半歩だけ先の風景」ナカニシヤ出版.
- ・吉岡和子・高橋紀子編（2010）「大学生の友人関係論：友だちづくりのヒント」ナカニシヤ出版.

<論文>

- ・吉岡和子（2007）「友人関係での自己表出における葛藤」『心理臨床学研究』24（6），日本心理臨床学会.
- ・吉岡和子（2002）「友人関係の理想と現実のズレ及び自己受容から捉えた友人関係の満足感」『青年心理学研究』13，青年心理学会.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

九州臨床心理学会 日本人間性心理学会 日本青年心理学会 日本心理臨床学会
日本教育心理学会 日本ロールシャッハ学会 日本パーソナリティ心理学会
日本精神分析学会 九州心理学会

6. 担当授業科目

<学部>心理実習Ⅰ・1単位・2年・通年(共同), 心理学的支援法・2単位・2年・後期(共同), 公認心理師の職責・2単位・2年・後期(分担), 心理実習Ⅱ・1単位・2年・前期(共同), 心理演習・2単位・3年・後期(共同), 心理的アセスメント・2単位・3年・後期(分担), 心理実習Ⅲ・1単位・3年後期(共同), 家族心理学・2単位・4年・前期, 教育相談(幼児教育)・2単位・4年・前期, 演習・2単位・3年・通年, 卒業論文・6単位・4年・後期
<大学院>家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践・2単位・1・2年・前期, 臨床心理基礎実習A・1単位・1年・前期, 臨床心理基礎実習B・1単位・1年・通年, 臨床心理査定演習・2単位・1年・後期, 臨床心理実習・1単位・2年・通年, 心理実践実習A・10単位・1-2年・通年, 心理実践実習B・2単位・1-2年・通年, 特別研究・4単位・1-2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・一般社団法人 福岡県臨床心理士会 事務局長
- ・日本ロールシャッハ学会 理事/教育・研修委員会委員
- ・一般社団法人 日本心理臨床学会 代議員
- ・NPO法人九州大学こころとそだちの相談室 理事/相談員
- ・福岡女学院大学 心理査定委託相談員

8. 学外講義・講演

- ・福岡県女性相談所 婦人保護事業新任者研修「DV相談と支援」7月22日
- ・福岡県市町村職員研修所「カウンセリング・マインド養成研修」8月17-18日
- ・北九州LD等発達障害親の会 すばる勉強会 1月10日

9. 附属研究所の活動等

- <生涯福祉研究センター>
 - ・お父さんとお母さんの学習室(ペアレントトレーニング)の企画と運営
- <心理教育相談室>
 - ・相談室委員
 - ・相談室紀要編集委員幹事

人間社会学部/心理コース	職名	特任教授	氏名	福田 恭介
--------------	----	------	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1. **まばたきに関する研究**：まばたきは、情報を待ちかまえたり取り込んだりしているときには抑制され、処理が終了した瞬間に発生します。このことは、まばたきが目の保護・防衛のため反射的に生じるだけでなく、期待、処理、処理終了、さらには選択的注意といった認知過程と関連していることを示しています。最近では、行動抑制課題中のまばたきを調べ、まばたきのタイミングと発達との関連を調べています。このことが明らかになれば、まばたきによる発達アセスメントが可能になります。
2. **ペアレントトレーニング（ペアトレ）に関する研究**：ペアトレは、親の子育て支援だけでなく、保育者や教師の子ども教育支援にも役立つことが示されています。子どもの行動をある書式に基づいて短時間観察・記録してもらうと、子どもの行動を冷静に見ることができるようになります。その結果、子どもの不適切な行動に注目するよりも、適切な行動に注目する方が、子どもの行動が変化しやすく、親・保育者・教師の自信を回復させることを明らかにしています。
3. **基礎研究（まばたき）と心理臨床研究（ペアトレ）の統合**
これまでは、基礎研究と心理臨床研究は別々に行ってきていました。最近になって、まばたきのタイミングと発達との関連を探ることで、基礎研究と心理臨床研究の統合を始めました。
4. **保有学位・資格**：文学博士・臨床心理士

2. 研究業績

①最近の著書・論文

1. 福田恭介・小山憲一郎・中村恵美子・中藤広美・酒井志織・香月眞美 (2018) 「ペアレントトレーニング手法を用いたスキルアッププログラムが保育者・教師の子ども支援認知に及ぼす効果」福岡県立大学心理臨床研究 10, 11-21. 査読有
2. 福田恭介・水口美咲・松尾太加志・志堂寺和則・早見武人 (2021) 「喉まで出かかっている」ときの瞬目の抑制と発生 心理学研究, 92巻, 2号. <https://doi.org/10.4992/jipsy.92.20023> (3月31日早期公開) 査読有

②その他最近の業績

<学会発表>

1. 鶴岡歩・福田恭介 (2018) 「大学生の ADHD 傾向及び自閉傾向と瞬目抑制・発生の関連」九州心理学会第 79 回大会 2018.12.1 (長崎大学)
2. 福田恭介・吉岡和子・小山憲一郎・中藤広美・中村恵美子・酒井志織・三原佑未・香月眞美 (2018) 「ペアレントトレーニング手法を用いた保育者・教師のためのスキルアッププログラムへの参加形態による子どもへの態度変容ー子どもへの関わり・子どもの問題行動の頻度と困り感に着目してー」九州心理学会第 79 回大会 2018.12.2 (長崎大学) 優秀発表賞受賞
3. 福田恭介・吉岡和子・早見武人・松尾太加志・志堂寺和則 (2020) 発達障害児における瞬目抑制・発生のタイミング 第 38 回日本生理心理学会大会 Web 発表 2020.5.24 (広島大学)
4. 上田真由美・福田恭介 (2020) 保育の省察とソーシャル・サポートが保育士のストレス反応に及ぼす影響 九州心理学会第 81 回大会 2020.11.28 (土) ~2020.12.12 (土) Web 発表 (鹿児島大学)

③過去の主要業績

1. 田多英興・山田富美雄・福田恭介 (編著) (1991) 「まばたきの心理学ー瞬目行動の研究を総括する」北大路書房
2. Fukuda, K. (2001) Eye blinks: New indices of detection of deception. *International Journal of Psychophysiology*, **40**, 239-245.
3. Fukuda, K., Stern, J.A., Brown, T.B., & Russo, M.B. (2005). Cognition, Blinks, Eye-Movements, and

Pupillary Movements during Performance of a Running Memory Task. *Aviation, Space, and Environmental Medicine*, 76 (7), Section 2, C75-C85.

4. 福田恭介 (編著) (2018) 「ペアレントトレーニング実践ガイドブックーきつとうまくいく。子どもの発達支援」 あいり出版

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) 平成30年度～令和3年度 交付金額4,420千円
研究課題：発達障害児における瞬目抑制・発生のタイミング (研究代表者)

4. 受賞

なし

5. 所属学会

九州心理学会 (理事), 日本生理心理学会 (評議員), 日本心理学会, 日本行動療法学会, 日本心理臨床学会, 日本教育心理学会, International Organization of Psychophysiology (IOP)

6. 担当授業科目

<学部>

心理学実験I・2単位・2年・前期, 心理学実験II・2単位・2年・後期, 教育心理学概論・2単位・2年・後期, 心理学研究法・2単位・2年・後期,

<大学院>

教育課題研究2単位・1年前期, 教育課題演習2単位・1年後期, 地域教育課題演習2単位・1年前期, 子ども教育実践演習I・1単位・1年後期, 子どもの心理研究2単位・1年前期, 子どもの心理演習2単位, 1年後期, 特別研究・2単位・修士1・2年通年

7. 社会貢献活動

九州心理学会理事, 日本生理心理学会評議員

8. 学外講義・講演

- ・ 直方市ファミリーサポートセンター会員登録講習会・講師

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部／社会福祉コース	職名	特任教授	氏名	細井 勇
----	----------------	----	------	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

主な研究分野は、社会事業史研究である。日本の近代化過程の特質とは何か、その中で社会福祉は如何に形成されてきたか、それを、近代日本におけるキリスト教の受容の問題と関係させて研究してきた。その成果として、2009年に『石井十次と岡山孤児院—近代日本と慈善事業—』を著した。しかし、それは日本型福祉国家の形成史の全体像ではなかった。これまで、筑豊の生活保護史や筑豊のキリスト教史に目を向けてきた。その成果を今、『筑豊の生活保護史とキリスト教 — 貧困問題とは、日本の近代化過程とは—』というタイトルの著作にまとめようとしている。『筑豊関係資料集成』も是非発刊したいと考えている。また、この10年間、科研費研究を通じて児童ケアの国際比較研究に取り組み、とくに、ドイツ等におけるソーシャルペダゴジーに注目するようになってきている。これが私にとっての第3段階の共同研究になると考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

〈論文〉

細井勇「社会事業史研究の“独自性”再考」『社会事業史研究』59、2021年

細井勇「特集“連帯と協同の社会形成に向けて”の意図について—一本学会成立の経緯を振り返ることを通いて—」『キリスト教社会福祉学研究』53、6-12、2021年

細井勇「『地域づくりに向けた多宗教間連携を考える』の背景と意図」『キリスト教社会福祉学研究』52、4-8、2020年

細井 勇「(社会による子育て)を考える ソーシャル・ペダゴジーとドイツの児童福祉の紹介を通じて」『児童養護』49-1、30-33、2018年

②その他最近の業績

〈書評〉

細井勇「文献解題：西崎緑『ソーシャルワークはマイノリティをどう捉えてきたか—制度的人種差別とアメリカ社会福祉史—』」『キリスト教社会福祉学研究』53、2021年

細井勇「救世軍人・山室軍平の思想と実践を日本の近代化の中に位置づける（書評：室田保夫『山室軍平』）」『図書新聞』3478号、2021年1月9日発行

細井勇「書評：滝澤民夫『増野悦興研究 埋もれたキリスト者の生涯と思想』」『キリスト教社会福祉学研究』52、2020年

細井勇「書評：岩崎晋也『福祉原理—社会はなぜ他者を援助する仕組みを作ってきたのか』」『人間福祉学研究』12-1、151-155、2019年

細井勇「書評：犬養光博著『筑豊に出会い、イエスと出会う』」『キリスト教社会福祉学研究』51号、120-123、2019年

〈その他〉

細井勇「(シンポジウム)社会事業史研究の“独自性”再考」『社会事業史学会第48回大会報告要旨集』2020年5月、山口県立大学

細井勇、伊藤篤、鬼塚香、稲葉美由紀、杉野寿子、三上邦彦、森茂起『(2019年度科研費報告書)イギリスにおける児童ケアとソーシャルペダゴジー—スコットランド及びロンドン訪問調査報告書』全44頁、2020年

細井勇「日本のミュラー・石井十次、ドイツの児童福祉、そして筑豊で出会った人々」『福岡県立大学社会福祉学会第10回大会報告書』2020年

細井勇「ソーシャルペダゴジーと児童福祉施設」『2019年度小舎制養育研究会総会・研修会第41回大分大会報告書』33-57, 2020年

細井勇「歴史から学ぶ社会的養護実践」『社会的養護の充実を求めて 設立10周年記念誌』日本児童養護実践学会, 32-49, 2020年

細井勇「日本の社会的養護に求められる専門性としてのソーシャルペダゴジーの役割と意義について」『社会的養護の充実を求めて 設立10周年記念誌』日本児童養護実践学会, 50-68, 2020年

ティア・キンバーク、森田和子訳、細井勇監修「アメリカの里親ケア：その光と影」『石井十次資料館研究紀要』20, 278-296, 2019年

田代英美・細井勇「(日独国際シンポジウム)石炭産業終焉後の"地域ビジョン"をめぐって」『福岡県立大学人間社会学部紀要』27-1, 137-148, 2018年.

細井 勇「ドイツの少年局と児童福祉施設」『石井十次資料館研究紀要』19, 219-242, 2018年.

〈学会報告等〉

細井勇「(基調講演)日本のミュラー・石井十次、ドイツの児童福祉、そして筑豊で出会った人々」第10回福岡県立大学社会福祉学会、2019年3月2日(於福岡県立大学)

細井勇「ソーシャルペダゴジーと児童福祉施設」日本ソーシャルペダゴジー学会第2回大会、2019年1月27日(於甲南大学)

③過去の主要業績

細井勇・菊池義昭編・解説『岡山孤児院関係資料集成』全3巻、不二出版、2009年

細井勇『石井十次と岡山孤児院—近代日本と慈善事業—』ミネルヴァ書房、2009年

田川地区社会福祉研究会・細井勇監修『福岡県田川福祉事務所四十年史』、1996年

共著『山室軍平の研究』同朋社、1991年

3. 外部研究資金

基盤研究(B)「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究—日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に」(研究代表細井勇)、直接経費380万円、2019年度~2020年度(2021年まで延長)

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本基督教社会福祉学会(理事)、社会事業史学会、日本ソーシャルペダゴジー学会(理事)、同志社大学社会福祉学会、日本子ども虐待防止研究会、日本児童養護実践学会、福岡県立大学社会福祉学会(事務局長)

6. 担当授業科目

(学部)

社会福祉概論Ⅰ・2単位・1年前期、社会福祉の歴史と思想・2単位・4年前期

(大学院)

社会福祉研究・2単位・前期、社会福祉演習・1単位・後期、特別研究・4単位・通年、フィールドワーク・2単位・1年後期

7. 社会貢献活動

児童養護施設栄光園 評議員

8. 学外講義・講演

所属	人間社会学部／心理コース	職名	准教授	氏名	池 志保
----	--------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2014年より福岡県立大学人間社会学部・人間社会学研究科専任講師、2019年より専任准教授として大学教育に従事しています。研究では、「臨床及び発達における創造性」を研究の柱とし、1. 創造性に関する個人と環境との発達の相互交流、2. 創造性とパーソナリティとの関連を主な研究テーマとしています。

心理臨床のフィールドは医療及び教育です。病院臨床では、医療法人おくら会藤戸病院の常勤心理職を経て、医療法人弘恵会ヨコクラ病院非常勤心理職、現在は川谷医院で非常勤心理職として兼業に従事しています。教育臨床では、福岡県中学校スクールカウンセラーを経て、現在は本学学生相談室にて学生相談員を兼任しています。

2007年九州大学大学院人間環境学府博士後期課程単位取得後退学。その他、中村学園大学短期大学部幼児保育学科非常勤講師（2009年度後期「精神保健学」、2015年度前期「保育内容人間関係」）、西南学院大学大学院非常勤講師（2016年度集中「発達心理学特論」）、九州歯科大学口腔保健学科非常勤講師（2018年度より現在まで。前期「総合医科学」）など。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

[著書]

- Martin Goßmann, Andrea Harms(Herausgeber), Shelley Doctors, Roger Fire, Jackie Gotthold, Hana Grinberg, Amy Joelson, Shiho Ike, Karin J. Lebersorger, Thomas A. Kohut, Amanda Kottler, Frank M. Lachmann, Karin J. Lebersorger, Jane Lewis, Joseph D. Lichtenberg(2019) Krise und Kreativität. BRANDES & APSEL.

②その他最近の業績

[特集]

- 池志保（共著）「音楽と人生（担当）」、『特集1 音楽とこころ』岩倉拓編集,他共同執筆者,日本心理臨床学会 心理臨床の広場, 第12巻1号, 2019.
- 池志保（単著）「World Map 現代の米国子ども心理療法家：エイミー・ジョエルソン先生（NY間主観的自己心理学者）」,日本心理臨床学会 心理臨床の広場, 第12第2号, 2019.
- 池志保（単著）「World Map 国際的に活躍する日本人臨床心理士をご紹介：富樫公一先生」,日本心理臨床学会 心理臨床の広場, 第13巻1号, 2020.

[学会発表]

- Presenters: Jacqueline Gotthold, Amy Lebersorger, Karin Lebersorger, Shiho Ike, Martin Gossmann & Koichi Togashi. Politics Enters the Therapy Playroom: From Anna Freud to Ornstein to... 41st IAPSP Annual International Pre-Conference, Vienna, 2018.
- 井上奈美子・池志保（共同）「低学年時のインターンシップがもたらす職業教育としての効果」,日本キャリア教育学会, 2018.
- 池志保（企画・司会）・中村晋介（企画・話題提供者）・井ノ崎敦子（話題提供者）・中村悠里恵（話題提供者）・三吉紗矢（話題提供者）・高坂康雅（指定討論者）「現代青年期のパートナーシップ：恋愛，ファッション，親子関係に焦点をあてて考える」,日本発達心理学会第31回大会自主シンポジウム, 2019.
- Chair: Ann Marie Sacamore. Presenters: Carmen Domingo Peña, Shiho Ike and Laurel Silber. Interlocutors: Gerard Webster and Raimundo Guerra Cid. Enactments in Child-Adolescent Relational Psychotherapy: Calenges and Opportunities of Interactive Regulation. IARPP 18th Annual Conference,

Pre-Conference, Los Angeles, CA, USA, 2020. (新型コロナウイルス感染症の影響で開催延期)

[研究会発表]

- ・ 池志保 (司会) 「公認心理師対策講座」, JFPSP研究グループ第11回ウェビナー, 2018.
- ・ 小林陵 (訳者) ・ 池志保 (司会) 「精神分析における儀式と自発性 弁証法的構成主義の観点 (アーウェン・Z・ホフマン著、岡野憲一郎・小林陵訳)」, JFPSP研究グループ第3回Meet the Author 特別企画 Meet the Translator, 2019.
- ・ 池志保 (単独) 「創造性の定義をめぐる歴史と間主観的視座への展望 (オリジナル論文)」, NAPI精神分析の間主観性研究グループ第3回定例会, 2019.
- ・ 池志保 (講師) 「遠隔相談の可能性を探る」, JAPSP精神分析的自己心理学研究会第15回ウェビナー, 2020.
- ・ 池志保 (コメンテーター) 事例発表者: 小泉誠 (甲子園大学講師), JAPSP精神分析的自己心理学研究会第18回定例会, 2020.
- ・ 池志保 (司会) 講師: 西山豪 (本郷の森診療所) 「精神医学と自己心理学」, 第19回 JAPSP精神分析的自己心理学研究会定例会, 2020.

[翻訳]

- ・ 池志保・外山敬 (共著) 「心理療法における共感と失敗 講演論文翻訳: 講師ヨシ・タミア」, 福岡県立大学心理臨床研究, 10巻, pp.57-63, 2018.
- ・ 池志保 (単独) 「どのように「失敗」が精神分析的関係性の中に現れるか? Tamir論文『心理療法における共感と失敗』へのコメント 指定討論者: 富樫公一Ph.D., L.P.」, 福岡県立大学心理臨床研究, 10巻, pp.65-68, 2018.

[報告]

- ・ 池志保 (単独) 「巻頭言: 心理臨床家のネガティブ・ケイパビリティ」 福岡県立大学心理臨床研究, 10巻, 2018.

[書評]

- ・ 池志保 (単著) 「アレンM.シーゲル著、岡秀樹訳『コフォートを読む』」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, 第26巻第2号, pp.253-255, 2018.

③過去の主要業績

[著書]

- ・ 池志保 (共著) 「8章2節 タイプ分けと得点化一類型論と特性論」「10章3節 心の状態を判断するー心理アセスメント過程ー」「あなたも実感No.19」「こんなところにNo.20」, 『自ら実感する心理学ーこんなところに心理学』土肥伊都子編著, 他共同執筆者, 保育出版社, pp.107-109, p.73, 2016.

[辞典]

- ・ 池志保 (共著) 「創造」, 『日常臨床語辞典』北山修監督・妙木浩之編, 他共同執筆者, 誠信書房, pp.266-270, 2006.

[論文]

- ・ 池志保 (単著) 「鬱を呈する引きこもり青年との面接過程」, 精神分析研究第51巻第2号, pp.85-90, 2007. 査読有.
- ・ 池志保 (単著) 「心理臨床における芸術と創造性について」, 九州大学心理臨床研究第26巻, pp.217-225, 2007. 査読有.
- ・ 池志保 (単著) 「「非創造的」に生きていた芸術活動者ー3種に分類した創造性の観点から事例理解を試みるー」, 心理臨床学研究第30巻第6号, pp.899-910, 2013. 査読有.

[書評]

- ・ 池志保・北山修 (共著) 「『ウィニコット著作集4 子どもを考える』D.W.ウィニコット著、牛島定信・藤山直樹・生地新監訳」, 精神分析研究第53巻第2号, pp.232-233, 2009.

3. 外部研究資金

4. 所属学会

[学会]

日本心理臨床学会、日本発達心理学会、日本精神分析学会、日本教育心理学会、日本病蹟学会、IAPSP (International Association for Psychoanalytic Self Psychology)、IARPP(The International Association for Relational Psychoanalysis and Psychotherapy) (各正会員)

[その他の研究会]

NAPI精神分析的間主観性研究グループ、日本精神分析学会認定福岡精神分析研究会、日本精神分析的自己心理学研究会 (各正会員)

[役員]

NAPI精神分析的間主観性研究グループ 運営委員 (2019年度より現在まで)

JAPSP日本精神分析的自己心理学研究グループ 運営委員 (2020年度より現在まで)

5. 担当授業科目

[学部]

発達心理学 I -A (2単位・前期)、発達心理学 I -B (2単位・前期)、発達心理学 II (2単位・後期)、心理アセスメント (2単位・後期)、演習 (2単位・3年前期・4年前期)、卒業論文 (6単位・4年後期)。

[大学院]

発達心理学特論 (2単位・前期)、心理的アセスメントに関する理論と実践 (2単位・前期)、心理支援に関する理論と実践 (2単位・前期)、臨床心理実習 (施設) (1単位・前期)、臨床心理実習 (学内) (1単位・前期)、心理実践演習A (2単位・通年)、心理実践演習B (1単位・通年)、臨床心理基礎実習B (2単位・通年)。

6. 社会貢献活動

- ・ (査読) 福岡県立大学心理臨床研究

7. 附属研究所の活動等

- ・ 福岡県立大学学生相談室 学生相談員 (部会長)
- ・ 福岡県立大学心理教育相談室 相談室委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	井上奈美子
------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

- ・資格：経済学博士。経営学修士（MBA）、キャリアカウンセラー（企業や自治体でのキャリア相談や女性活躍推進のアドバイスなども行ったおります）
 - ・研究分野：人材マネジメント（人事採用や人材育成）・ライフキャリア（人生と仕事）・キャリア教育・リーダーシップ・女性活躍推進・就業体験（インターンシップ）
- 学生たちが夢や希望を抱き、社会へ旅だつための支援と教育をしております。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・井上奈美子、「様々な学ぶ意欲を持つ受講生とアクティブラーニングに関連する研究レビュー」 第56集、九州経済学会年報、2018年12月
- ・井上奈美子、Towards pre-paring women leadership:A case study of the practice of leadership education at national women's university in Japan 福岡県立大学人間社会学部紀要 Vol.26,2号、2018年2月
- ・井上奈美子、「キャリア教育に関連する海外文献レビュー」 福岡県立大学人間社会学部紀要 Vol.27,1、2019年9月
- ・井上奈美子、「低学年次のインターンシップ派遣前学修の実践報告」 福岡県立大学人間社会学部紀要、第28巻、第1号、2019年
- ・井上奈美子、「学生と受入先の能力評価に関する比較—大学1・2年生のインターンシップを通して—」 九州経済学会年報、第58集、2020年12月
- ・井上奈美子・聞間理、Effect of Pre-and Post-internship Trainings for Freshmen and Sophomores in University Using the Lego Serious Play Method. 福岡県立大学人間社会学部紀要、第29巻、第2号、2021年3月

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・井上奈美子、インターンシップ事前学習としてのビジネスマナー講義の意義を改めて問い直す、 日本ビジネス実務学会九州ブロック研究会、福岡、2018年
- ・井上奈美子、低学年時のインターンシップがもたらす職業教育としての効果、 日本キャリア教育学会第40回大会、東京、2018年
- ・井上奈美子、低学年次インターンシップの自己評価と受入先機関評価の比較研究、 日本ビジネス実務学会研究大会、東京、2019年
- ・井上奈美子、Effect of Pre- and Post- internship Trainings for Freshmen and Sophomores in University Using the Lego Serious Play Method、 キャリア教育学会研究大会、長崎、2019年
- ・井上奈美子、学生と受入先の能力評価の比較～低学年次インターンシップを通して～、 九州経済学会、福岡、2019年
- ・井上奈美子、大学低学年インターンシップ事前事後研修の効果と職業価値観、 日本ビジネス実務学会、九州研究会、福岡、2020年
- ・井上奈美子、宝塚歌劇団における革新による持続的成長、 日本ビジネス実務学会。九州ブロック研究会、福岡、2020年

③過去の主要業績

- ・「福岡県内における新卒採用に関するアンケート調査」『九州経済学会年報』第50集、九州経済学会、2013年12月
- ・学生の「力」をのばす大学教育第12章「女子大学生の組織学習を通じたキャリア形成に関するフィールドリサーチ」地域創造研究叢書唯学書房、愛知東邦大学地域創造研究所(183)

ページ)、2014年11月

- ・「女性リーダー育成プログラムの開発と実践～九州女性ビジネススクールの成果と課題～」『日本ビジネス実務論集』第33号、日本ビジネス実務学会、67-76頁、2015年
- ・“Women's career life in contemporary Japan.” IAEVG International Conference 2015 国際キャリア教育学会、2015年

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

日本ビジネス実務学会研究大会研究奨励賞

5. 所属学会

・日本ビジネス実務学会会員(九州四国ブロック幹事) ・九州経済学会 ・日本キャリア教育学会 ・日本創造学会

6. 担当授業科目

社会人基礎力演習2単位・1年2年・前期、教養演習2単位・1年・前期、プレインターンシップ2単位・1年2年・通年、問題解決演習2単位・2年3年・後期、ライフキャリア論2単位・12年・前期、キャリア教育論2単位・3年・前期、人的資源管理論2単位・2年前期、組織マネジメント2単位・3年・前期

7. 社会貢献活動

- ・一般社団法人日本経営協会 参与
- ・田川市男女共同参画推進協議審議会 会長(年間6回会議、女性リーダー育成研修講師、男女共同参画市民意識調査など)
- ・久留米六つ門大学運営委員(高齢者対象、生涯現役講座月1回程度、運営委員会議月1回)

8. 学外講義・講演

- ・一般社団法人日本経営協会女性ビジネススクール女性リーダー育成プログラム講師
- ・久留米六つ門大学「生涯いきいき講座」講師
- ・就職サポートセミナー「わくわく！仕事と子育て！！～職場と家庭のコミュニケーション～」講師、主催：福岡県筑豊労働者支援事務所(子育て女性就職支援センター) 共催：
(1)直方市／(2)田川市 ・田川市男女共同参画推進センターゆめっせ主催「女性リーダー育成研修会」講師
 - ・田川市男女共同参画研修会ゆめっせ主催「コロナ後の変わる時代を笑顔で生きていく!!本音トーク」講演
 - ・お茶の水女子大学ビジネススクールOGキャリア勉強会、講師

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部人間形成学科こどもコース	職名	准教授	氏名	大久保 淳子
----	--------------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

近年、幼児教育から高等教育に至るまで、様々な教育政策が打ち出され改革が行なわれています。現在、保育現場では、「保育の質」や「保幼小の接続」が課題となっています。このような現状から、「保育の質の向上」と「保幼小の接続」について、調査し、研究をしています。海外の研究では、2019年9月にフィンランドの就学前教育における環境の視察や2018年にはカンボジアのプノンベン郊外の小学校2校と併設の幼稚園を視察し、東南アジアの就学前教育の研究もすすめています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・池田孝博, 杉野寿子, 大久保淳子, 鷲野彰子, 中原雄一, 伊勢慎, 「保幼小連携におけるアプローチカリキュラムに関する研究の動向と課題」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, 29, (2), 215-223, 2021
- ・清水陽子, 大久保淳子, アンソワ, 「韓国の標準保育課程と保育実践に関する一考察」, 福岡県立大学, 人間社会学部紀要28(1), 2019
- ・古橋啓介, 池田孝博, 杉野寿子, 大久保淳子, 中原雄一, 伊勢慎: 「子ども・子育て支援新制度導入後の基礎自治体の実態」, 福岡県立大学, 人間社会学部紀要27(1), 1-20, 2018

②その他最近の業績

- ・Poster presentation: Current situation and issues of pre-school curriculum in Japan and Korea—Comparison between Japan's "Course of Study for Kindergarten" and Korea's "Nuri Curriculum" from the view point of collaboration and connection between pre-schools and elementary schools—
Junko OKUBO, Fukuoka Prefectural University, Yoko HIMIZU Kyushu Sangyo University, Hiromi BAN, Nagaoka University of Technology, OMEP Asia Pacific Regional Conference 2019 in KYOTO, JAPAN, Kyoto TERRSA
- ・自主シンポジウム: 「幼保小連携の課題と展望」, 余公裕次 (西日本短期大学), 大久保淳子 (福岡県立大学), 余公敏子 (九州龍谷短期大学), 小堀晶弘 (熊本大学大学院医学教育部) 津金美智子 (名古屋学芸大学), 日本乳幼児教育学会, 第28回大会, 岡山コンベンションセンター, 2018
- ・自主シンポジウム: 「幼保小連携の現状と課題」, 企画・司会: 余公裕次 (福岡県春日市立春日原小学校) 話題提供: 余公裕次 (福岡県春日市立春日原小学校), 大久保淳子 (福岡県立大学), 余公敏子 (九州龍谷短期大学), 小堀晶弘 (熊本大学大学院医学教育部), 指定討論: 小田豊 (聖徳大学), 日本乳幼児教育学会, 第27回大会, 西南学院大学, 2017
- ・口頭発表: 「保育者養成校における保育・教育実習前後の学生の意識の検討」, 桑原広 (佐賀女子短期大学), 大久保淳子 (福岡県立大学), 日本保育学会, 第70回大会, 川崎医療福祉大学, 2017

③過去の主要業績

- ・大久保淳子・伊勢慎・櫻井国芳・池田孝博: 「幼児期における性役割の形成—性的ラベリングとその関連要因—」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, 25(2), 49-58, 2016
- ・大久保淳子: 「保育を専攻する学生の生活体験・自然体験の実態—A短期大学保育学科学生の生活体験の現状と課題—」, 西日本短期大学総合学術研究論集, 6, 21-24, 2016
- ・大久保淳子: 「保育専攻学生の保育者たる職業意識と保育の質—保育者としての資質と専門性の捉え方における学生への質問紙調査から—」, 総合学術研究論集, 第4号, 69-73, 西日本短期大学, 2014

- ・大久保淳子：(共著)「こころを育てる人間関係」寺見陽子編著，人との関わりを育てる環境構成(分担)，保育出版社，39 - 40, 1999
3. 外部研究資金
- ・科研費, 基盤研究(C) (研究代表者)「プログラミング的思考の育成カリキュラムの開発ー就学前～小学校の接続を焦点としてー」, 2019-04-01 - 2022-03-31, 3, 510千円
 - ・科研費, 基盤研究 (C) (研究分担者、研究代表者 清水陽子)「韓国国家水準幼児教育課程の改定・実行過程に関する調査研究」, 2020-04-01 - 2023-03-31, 3, 900千円
4. 受賞
なし
5. 所属学会
日本保育学会, 日本乳幼児教育学会, 日本生活体験学習学会, 日本発達心理学会
国際幼児教育学会, 子ども支援学会
6. 担当授業科目
- ・保育者論・2単位・1年・後期・2年・前期, 児童文学・2単位・3年・前期, 子どもと遊び・2単位・3年・前期, 保育方法論・2単位・3年・後期, 幼稚園教育実習Ⅰ・2単位・3年・後期, 幼稚園教育実習事前事後指導・1単位・4年・前期, 幼稚園教育実習Ⅱ・2単位・4年・前期, 保育・教職実践演習(幼稚園)・2単位・4年・後期, 保育内容演習・2単位・4年・後期, 子ども教育課程研究・2単位・1年・前期、教育課題研究・2単位・1年・前期, 子ども教育課程演習・2単位・1年・後期, 子ども教育実践実習Ⅰ・1単位・1年・後期, 教育課題演習・2単位・1年・後期
7. 社会貢献活動
- ・福岡県幼児教育アドバイザー
 - ・福岡県重点課題指定校 嘉穂郡桂川町立桂川幼稚園 指導講師
8. 学外講義・講演
- ・福岡市私立幼稚園連盟主催の新任採用教員研修会の講師 2020, 8
 - ・嘉穂郡桂川町立桂川幼稚園 園内研修講師 2020, 8
9. 附属研究所の活動等
なし

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	奥村 賢一
----------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

同志社大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士後期課程修了、博士（社会福祉学）。私が現在行っている主な研究テーマは以下の三点になります。

一つ目は、「学校ソーシャルワーク実践に関する研究」です。近年、複雑多様化する不登校・いじめ・非行等の教育課題を改善していくためにスクールソーシャルワーカーに求められる専門的役割や機能について実証研究を中心に行っています。

二つ目は、「児童虐待防止に向けた家族支援に関する研究」です。わが国の深刻な社会問題である児童虐待を早期発見・未然防止していくために求められる家族支援の具体的方法について研究を行っています。

三つ目は、「知的障害・発達障害（児）者の地域生活支援に関する研究」です。知的障害・発達障害（児）者の地域生活の充実を推進していく動きが広まりを見せていますが、利用可能な社会資源は限られており、障害特性に対応した専門的支援も不足しているのが現状です。このような状況を改善していくための一つの方策として、地域の有機的ネットワークを活用したソーシャルワークを研究しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・金澤ますみ・奥村賢一・郭理恵。野尻紀恵編（2019）『新版 スクールソーシャルワーカー実務テキスト』, 学事出版。

<論文>

- ・奥村賢一（2021）「スクールソーシャルワーカーが行うアウトリーチの現状と課題—不登校に対する理解と対応を中心に—」第46巻, 第4号, 40-46.
- ・奥村賢一（2021）「今、学校に求められるソーシャルワークの視点」『令和2年度論轉—福岡市立小学校長会研究紀要—』1-3.
- ・奥村賢一（2019）「親が別居・離婚している子どもに対する学校の対応」『教育と医学』第67巻, 第6号, 68-77.
- ・奥村賢一（2018）「スクールソーシャルワーカーの立場から教師を支える」『こころの科学』第197号, 54-58.
- ・奥村賢一（2018）「ネグレクト児童の支援におけるスクールソーシャルワーカーの役割に関する一考察—小学校教員を対象としたアンケート調査から—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第26巻, 第2号.
- ・畑香理・住友雄資・奥村賢一・平川明美・浦田愛（2018）「2017年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』—実習連絡協議会における意見を踏まえた取り組みを中心に—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第27巻, 1号, 127-135
- ・奥村賢一（2018）「スクールソーシャルワーカーの立場から教師を支える」『こころの科学』第197号, 54-58.

②その他最近の業績

<報告書>

- ・奥村賢一（2019）「The Training System for School Social Workers」『Asia Network of School Social Work』

<評論>

- ・奥村賢一（2019）「学校に根差したSSWの活動形態と勤務形態」『月刊生徒指導』第49巻, 第10号, 56-57.

<学会講演・シンポジウム・報告等>

- ・奥村賢一 (2019) 「福岡県のスクールソーシャルワーカー事業の展開」日本学校ソーシャルワーク学会九州沖縄ブロック第11回研究大会・実践報告 (電気ビル共創館)
- ・奥村賢一 (2018) 「スクールソーシャルワーカー・学校・地域の効果的連携とは」日本学校ソーシャルワーク学会北海道ブロック研究大会・基調講演 (北星学園大学)

<辞書>

- ・九州社会福祉研究会編 (2019) 『21世紀の現代社会福祉用語辞典—第2版』学文社。

③過去の主要業績

<著書>

- ・門田光司・奥村賢一 (2009) 『スクールソーシャルワーカーのしごと—スクールソーシャルワーカーのための実践ガイド』中央法規出版。

<論文>

- ・奥村賢一 (2009) 「不登校児童生徒の状況改善に向けた家族支援の有効性に関する一考察—パワー交互作用モデルを基盤にした学校ソーシャルワーク」『学校ソーシャルワーク研究』第4巻。
- ・奥村賢一 (2009) 「ストレングスの視点を基盤にしたケースマネジメントの有効性に関する一考察—軽度知的障害者の地域生活支援実践を通して」『社会福祉学』第50巻, 第1号。

3. 外部研究資金

- ・科学研究費 (基盤研究B) 「子どもの貧困を支援するスクールソーシャルワークの介入プログラム構築とその評価」1,755万円, 令和元年度～令和4年度。

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本学校ソーシャルワーク学会 (副代表理事、査読委員)、日本ソーシャルワーク学会、日本子ども虐待防止学会、福岡県立大学社会福祉学会

6. 担当授業科目

<学部>不登校・ひきこもり援助論・2単位・1年・前期、子供学習支援論・1単位・1年・後期、相談援助実習指導Ⅰ・2単位・2年・通年、児童福祉論・2単位・2年・前期、相談援助実習指導Ⅱ・1単位・3年・通年、相談援助実習・4単位・3年・通年、相談援助演習B・4単位・3年・通年、社会福祉学演習・4単位・3年・通年、相談援助演習C・1単位・3年・後期、学校ソーシャルワーク論・2単位・3年・後期、学校ソーシャルワーク実習指導・1単位・3年～4年・通年、学校ソーシャルワーク実習・2単位・4年・後期、家族福祉論・2単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年

<大学院>特別研究Ⅰ・4単位・1年、特別研究Ⅱ・4単位・2年、子ども家庭福祉研究・2単位・1・2年・前期、子ども家庭福祉演習・2単位・1・2年・後期

7. 社会貢献活動

- ・日本学校ソーシャルワーク学会・副代表理事
- ・福岡県スクールソーシャルワーカー協会・副会長
- ・福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー
- ・福岡市教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー
- ・福岡市こども・子育て審議会・委員
- ・福岡市登校支援対策会議・副委員長

- ・田川市要保護対策地域協議会代表者会議・委員
- ・福岡市いじめ防止対策推進委員会・副委員長
- ・香春町いじめ防止等対策委員会・副委員長
- ・糸島市いじめ防止等対策委員会・委員
- ・福岡県社会福祉審議会・臨時委員

他

8. 学外講義・講演

<講演>

- ・学校心理士会福岡支部研修会「スクールソーシャルワーカーの専門的役割と機能ーSocial Work in Schoolを目指してー」
- ・四国学院大学スクールソーシャルワーカー活用講座inSGU2020「地域で子どもを守るーSocial Work in Schoolー」オンライン, 2021年2月.
- ・令和2年度九州保健福祉大学地域創生事業「スクールソーシャルワーカーの具体的実践内容と課題」オンライン, 2021年2月.
- ・令和2年度福岡県要保護児童対策調整機関の調整担当者研修「ソーシャルワークの基本」 「子ども家庭福祉の生活に関する法と制度の理解」福岡児童相談所, 2020年8月.
- ・スクール(学校) ソーシャルワーク教育課程専門科目群教員講習会「学校ソーシャルワーク実習及び実習指導のあり方」日本ソーシャルワーク教育学校連盟, 2020年8月.
- ・令和2年度福岡県児童福祉司任用前講習会「ソーシャルワークの基本」福岡児童相談所, 2020年8月.
- ・あいちスクールソーシャルワーク実践研究会「学校で働くということーSSWの実習の在り方ー」オンライン, 2020年8月
- ・福岡市要保護児童対策調整機関調整担当者研修「子ども家庭支援のためのソーシャルワーカー講義編・演習編ー」福岡市こども総合相談センター, 2020年7月.
- ・福岡市要保護児童対策調整機関調整担当者研修「要保護児童対策地域協議会の運営ー演習編ー」福岡市こども総合相談センター, 2020年7月.

他

9. 附属研究所の活動等

- ・不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

所属	人間社会学部／総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	金 恩愛
----	------------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

研究分野は、日韓対照研究。とりわけ、日本語と韓国語における表現様相の相違点の解明を中心テーマとする。韓国語と日本語は、同じ漢字文化圏という背景とともに、文法的な類似性もあって、両言語間に存在する表現様相の違いにはなかなか気づきにくい。私は、日本語と韓国語のこうした違いを、表現のあり方を問う表現様相という観点から捉えなおしている。表現様相という観点から見たとき、まず言えるのは、日本語は韓国語に比べ相対的に名詞的な表現が好まれ、韓国語は日本語に比べ相対的に動詞的な表現が好まれるという点である。こうした日韓表現様相論に立脚した研究成果は、言語教育にも即応できるものである。今後は、韓国語と日本語における表現様相の違いを明らかにしていく研究とともに、そこから得られた研究成果を、言語教育の現場にどのように還元できるか、教材作りや、辞書編纂、日韓翻訳という角度から考えていきたい。

2. 研究業績

最近の著書・論文

KIM Eunae. 2018. Korean. In Tasaku Tsunoda(ed.), *Levels in clause linkage. A crosslinguistic survey*, 353-401. Berlin&Boston: De Gruyter Mouton.

金恩愛(2020)「日本語の名詞志向構造と韓国語の動詞志向構造」東京大学大学院総合文化研究科博士論文。

山崎玲美奈・金恩愛(2020)『起きてから寝るまで韓国語表現1000』東京：アルク

金恩愛(2021)「ネイティブにぐっと近づく擬音語・擬態語26」韓国語ジャーナル2021』東京：アルク。

<エッセイ>

金恩愛(2018. 4～2021. 3)「日本の風景」(原文は韓国語)『福岡韓国教育院心』

③過去の主要業績

金恩愛(2006)「日本語の「-さ」派生名詞は韓国語でいかに現れるかー 翻訳テキストを用いた表現様相の研究ー」『日本語教育』129号。東京：日本語教育学会

油谷幸利・金恩愛(2007)『韓国語実力養成講座1間違いやすい韓国語表現100 初級編(韓国語実力養成講座1)』東京：白帝社

油谷幸利・金美仙・金恩愛(2015)『韓国語実力養成講座1間違いやすい韓国語表現100 上級編(韓国語実力養成講座3)』東京：白帝社

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

・朝鮮学会、朝鮮語教育研究会、福岡朝鮮語教育研究会、日本語教育学会、韓国日本語教育学会、韓国日本語学会

6. 担当授業科目

・コリア語Ⅰ-(1)・コリア語Ⅰ-(2)・2単位・1年・通年、コリア語Ⅱ-(1)・コリア語Ⅱ-(2)・2単位・2年・通年、コリア語Ⅲ-(1)・コリア語Ⅲ-(2)・2単位・3年・通年、教養演習・1単位・1年・

前期、韓国の社会と文化・2単位・2年・後期、グローバル社会論・2単位・2年・後期

7. 社会貢献活動

- ・「福岡大学人文学部東アジア地域言語学科 LA スピーチ大会」(審査員) 2019年12月7日
- ・「九州大学第11回外国語プレゼンテーションコンテスト」(審査員) 2019年12月21日

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	河野 高志
----------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2006年3月京都市立大学福祉社会学部卒業。2012年3月京都市立大学大学院公共政策学研究科福祉社会学専攻博士後期課程修了。博士（福祉社会学）。京都市立大学、京都女子大学、神戸親和女子大学の非常勤講師を経て、2012年10月に本学着任。専門はソーシャルワーク論、ケアマネジメント論です。これまでの研究では、①英米を中心としたケアマネジメント発展過程の整理、②ミクロ・レベルからマクロ・レベルにおけるケアマネジメントの特徴の抽出、③ソーシャルワークにおけるケアマネジメント展開の検討を行ってきました。現在は、地域包括ケアシステムにおける多職種連携と、地域共生社会におけるソーシャルワーカーの活用に関する研究を進めています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・河野高志「地域共生社会の実現に向けたソーシャルワーカーの役割と課題 - 先行研究の分析を通じた検討 -」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2021年3月、pp.19-38
- ・河野高志「地域包括ケアシステムにおける多職種連携の促進要因」『社会福祉学』第60巻第1号、日本社会福祉学会、2019年5月、pp.63-74
- ・河野高志「地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメントとインタープロフェッショナルワークの可能性」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第26巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2018年2月、pp.37-53

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・河野高志「地域包括ケアシステムにおける多職種連携の促進要因」日本社会福祉学会 第67回秋季大会、大分大学、2019年9月22日
- ・中川美幸・本郷秀和・河野高志「医療ソーシャルワーカーが求めるスキルについて -A地域の実態調査の結果より-」日本社会福祉学会九州地域部会 第59回研究大会、沖縄国際大学、2018年6月10日

〈雑誌論文〉

- ・本郷秀和・中川美幸・河野高志「医療ソーシャルワーカーの研修ニーズと専門職能団体の役割 -福岡県A地域のMSW実態調査を手がかりに-」『地域ケアリング』第20巻第12号 通巻274号、北隆館、2018年、pp. 53-57

③過去の主要業績

- ・河野高志『ソーシャルワークにおけるケアマネジメント方法の構築 -実践研究による方法の理論的検証-』京都市立大学大学院公共政策学研究科博士学位論文、2012年3月
- ・河野高志「多分野のソーシャルワーク実践におけるケアマネジメント展開の比較 -福岡県内の相談支援事業所へのアンケート調査から-」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻第21号、福岡県立大学人間社会学部、2015年9月、pp.1-15
- ・河野高志「海外のソーシャルワーク事情 - 英米の比較からみる日本のケアマネジャーの課題 -」『月刊ケアマネジメント』12月号、環境新聞社、2010年、pp.12-14
- ・太田義弘・中村佐織・安井理夫編著、太田義弘・西梅幸治・安井理夫・中村佐織・小榮住まゆ子・山口真里・山東綾乃・御前由美子・長澤真由子・伊藤佳代子・河野高志・加藤由衣・菊池信子・西内章・松久宗丙・溝渕淳 著『高度専門職業としてのソーシャルワーク 理論・構想・方法・実践の科学的統合化』光生館、2017年

3. 外部研究資金

- ・令和 2～5 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）「地域共生社会の構築におけるソーシャルワーカー活用の効果に関する研究」（研究代表者：河野高志）2,080 千円

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本リハビリテーション心理学会

6. 担当授業科目

《学部》

「社会福祉学概論Ⅱ」（2 単位・1 年・後期）、「相談援助演習 A」（2 単位・2 年・通年）、「相談援助実習指導Ⅰ」（2 単位・2 年・通年）、「相談援助実習指導Ⅱ」（1 単位・3 年・通年）、「相談援助の理論と方法 A」（2 単位・2 年・前期）、「相談援助実習」（4 単位・3 年・通年）、「相談援助の理論と方法 D」（2 単位・3 年・前期）、「相談援助演習 C」（1 単位・3 年・後期）、「社会福祉学演習」（2 単位・3 年・通年）、「卒業論文」（6 単位・4 年・後期）

《大学院》

「ソーシャルワーク研究」（2 単位・1～2 年・前期）

「ソーシャルワーク演習」（2 単位・1～2 年・後期）

7. 社会貢献活動

- ・直轄地区居住支援協議会設立準備室 委員
- ・直轄地区居住支援協議会 委員
- ・一般社団法人日本社会福祉学会 第 6 期代議員
- ・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 九州ブロック研究大会 事務局

8. 学外講義・講演

- ・出前講義「社会福祉学入門」大分県立中津北高校、2020 年 10 月 9 日

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部／地域社会コース	職名	准教授	氏名	佐野 麻由子
----	----------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

2006年3月立教大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程修了。博士（社会学）の学位を取得。お茶の水女子大学非常勤講師、フェリス女学院大学非常勤講師、立教大学社会学部助教等を経て2012年10月に本学着任。

主な研究分野は、社会学の中でもジェンダー、社会運動（変動）。「社会的課題を解決するための意図的な社会変革はどのような条件下で可能か」という関心のもと、(1) ネパールをフィールドに社会的達成における男女の非対称性を生み出す社会構造、その維持/変革につながる要因の社会学的分析、(2) 左研究の知見の開発援助政策への応用および還元に取り組んでいます。

博士前期課程在籍中の2000～2001年に立教大学派遣交換留学生としてネパール国立パドマ・カンニャ・キャンパス・ウイメンズ・スタディ・コースに在籍。また、2003～2005年の期間に日本学術振興会特別研究員奨励費でネパールでのフィールドワークを実施するなど、長年ネパール社会に関わってきました。現在は、ネパールにおける「失われた女性たち（男児選好による女兒の中絶、少女売買、女兒の育児放棄）」の促進要因を解明することに取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書（分担執筆）>

佐野麻由子, 2020, 「統合が進まない政府与党, 国境をめぐるインドとの軋轢」『2020年アジア動向年報』、IDE-JETROアジア経済研究所、498-520.

佐野麻由子, 2019, 「議席の3分の2に迫る第2次オリ政権の発足」『2019年アジア動向年報』、IDE-JETROアジア経済研究所、518-540.

佐野麻由子, 2018, 「ネパール：左派連合の代表議会選挙勝利により政権安定化が図れるか」『2018年アジア動向年報』、IDE-JETROアジア経済研究所、515-538.

佐野麻由子, 2018, 「「それでも息子が欲しい」？—ネパールにみる過渡期的発展と男児選好の未来」山田真茂留 編著『グローバル現代社会論』、文眞堂、137-153.

②過去の主要業績

<著書（分担執筆）>

佐藤寛・浜本篤史・佐野麻由子・滝村卓司, 2015, 『開発社会学を学ぶための60冊：援助と発展を根本から考えよう』明石書店.

佐野麻由子, 2015, 「途上社会の貧困, 開発, 公正」宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編『国際社会学』有斐閣, 148-165.

佐野麻由子, 2012, 「開発・発展におけるジェンダーと公正—潜在能力アプローチから」宮島喬・杉原名穂子・本田量久編『公正な社会とは—教育、ジェンダー、エスニシティの視点から』人文書院, 240-258.

3. 外部研究資金

科学研究費補助金・基盤研究（C）研究課題名「過渡期的発展段階における男児選好の構造的要因についての研究」（課題番号20K12463）（令和2～4年度）（研究代表者）

科学研究費補助金・国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)) 研究課題名「アジアにとっての近代化の意味～開発と近代化を巡る世界観の異相を解き明かす」（課題番号19KK0049）（令和1～4年度）（研究分担者）

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会学会、関東社会学会、国際開発学会、国際ジェンダー学会

6. 担当授業科目

社会学概論・2単位・1年・後期、国際社会学A・2単位・2年・前期、国際社会学B・2単位・2年・後期、国際協力論・2単位・1年・後期、NPO論・2単位・3年生・前期、公共社会学研究ⅠⅡ・2単位・3年・前後期、卒業論文・6単位・4年・通年。

7. 社会貢献活動

田川市協働事業提案制度審査会委員長（2020年）
田川市産業振興会議・実務者責任者会議専門部会員（2020年）
田川郡添田町総合計画策定審議会委員長（2020年）
田川郡添田町総合戦略検証委員会委員（2020年）
日本貿易振興機構アジア経済研究所「アジア諸国の動向分析」研究会委員（2020年）
草の根技術協力事業（新・草の根協力支援型）に係る外部有識者（2020年）

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部／地域社会コース	職名	准教授	氏名	堤 圭史郎
----	----------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2008年、大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。同大学都市文化研究センター研究員、同大学都市研究プラザ GCOE 特別研究員に従事。2009年、博士（文学）を取得。2010年4月より本学に着任。2011年、共著書『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティ』により、第7回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）を共同受賞。2014年、一般社団法人社会調査協会より、第4回社会調査協会賞『社会と調査』賞を受賞。

主な研究分野：社会学の立場から貧困問題・都市問題・地域問題を研究している。とりわけホームレスの人々をめぐる様々な「問題」について研究してきた。近年は、生活困窮者支援モデルに関する研究、大都市都心のコミュニティ状況把握、公式統計を用いた社会的排除地域析出に関する研究等を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

堤圭史郎・坂無淳・阪井裕一郎,2020,「福岡県内自治体の男女共同参画推進状況—政策意思決定・行政組織・地域自治への女性参画に着目して」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29-2: 61-74.

堤圭史郎,2020,「排除と差別に抗する地域社会の可能性—貧者の施設をめぐるコンフリクトに着目して」谷富夫・稲月正・高畑幸編『社会再構築への挑戦』ミネルヴァ書房.

堤圭史郎,2019,「貧者の施設と地域社会—施設コンフリクトと『良好な関係』」『理論と動態』12: 78-94.

堤圭史郎,2019,「『都心回帰』する大阪の貧困」鯨坂学・西村雄郎・丸山真央・徳田剛編『さまよえる大都市・大阪—「都心回帰」とコミュニティ』東信堂: 263-278.

鯨坂学・上野淳子・丸山真央・加藤泰子・堤圭史郎・田中志敬,2018,「『都心回帰』による大都市のマンション住民と地域生活—京都市中京区と大阪府中央区のマンション住民調査より」『評論・社会科学』124: 1-105.

②その他最近の業績

〈学会報告〉

○堤圭史郎・相川陽一,「小規模非合併農協の取組にみられる移住促進要因—大分県中津市下郷地区における地域生活文化圏の形成と展開 (1)」, 第92回日本社会学会大会, 東京女子大学, 2019年10月6日.

○相川陽一・堤圭史郎,「小規模非合併農協による地域自治の可能性—大分県中津市下郷地区における地域生活文化圏の形成と展開 (2)」, 第92回日本社会学会大会, 東京女子大学, 2019年10月6日.

○坂無淳・阪井裕一郎・堤圭史郎,「福岡県における地方自治体のジェンダー政策—男女共同参画推進体制の類型化」第77回西日本社会学会大会, 佐賀大学, 2019年5月25日.

堤圭史郎,「生活困窮者自立支援とまちづくり—排除と差別に抗する地域社会の可能性」韓国日本政経社会学会 2018 Japan study colloquium, 漢陽大学日本学国際比較研究所, 2018年12月7日.

〈研究報告書等〉

特定非営利活動法人 抱樸, 2019,『社会的孤立状態にある「中卒スネップ」等捕捉することが困難な子どもたちの実態把握に関する調査手法の研究、高校卒業時に家族不在状態にある児童・若者たちへの切れ目のない支援に関する研究、家族ごと孤立状態にある世帯への支援に関する研究、及びそれらを支える地域づくりに関する

研究に関する事業報告書』厚生労働省平成 30 年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金（社会福祉推進事業）。（第 4 章を共同執筆）

特定非営利活動法人 抱樸, 2018, 『困窮孤立状態におかれた子どもへの支援とその連鎖を防止するため世帯支援を一体的、包括的に実施するための支援メニューとそのためツールの開発、地域連携のあり方に関する調査研究およびそのパイロット事業の実施に関する調査研究事業』厚生労働省平成 29 年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金（社会福祉推進事業）。（第 2 章を共同執筆）。

〈書評〉

堤圭史郎, 2019, 「中澤秀雄／嶋崎尚子編著『炭鉱と「日本の奇跡」—石炭の多面性を掘り直す』」『日本都市社会学会年報』37: 123-125.

③過去の主要業績

〈国際会議での報告〉

Tsutsumi, Keishiro, “Invisible Homelessness in Osaka: New Phases of Japanese Homeless Issue in Globalization,” The 2nd International Conference on Locality and Humanities—Locality, Beyond the border of Space and Cognition, Pusan National University, June 18 2010.

〈著書・論文〉

奥田知志・稲月正・垣田裕介・堤圭史郎, 2014, 『生活困窮者への伴走型支援—経済的困窮と社会的孤立に対応するトータルサポート』明石書店.

堤圭史郎, 2014, 「多重債務経験者等の生活問題に関する調査研究—福岡県立大学人間社会学部公共社会学科の社会調査実習」『社会と調査』12:85-89. (本稿にて第 4 回社会調査協会賞『社会と調査』賞を受賞)

堤圭史郎, 2013, 「多重債務世帯への社会的介入—『伴走型支援』を通じた当事者の主観的意味への働きかけ」日本社会分析学会『社会分析』40:5-20.

青木秀男編, 2010, 『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティ』, ミネルヴァ書房. (序章「ホームレス・スタディーズへの招待」5章「家族規範とホームレス—扶助か桎梏か」(妻木進吾との共著)を執筆。本稿にて第 7 回日本都市社会学会賞(磯村記念賞)を共同受賞)

3. 外部研究資金

- ・文部科学省, 科学研究費補助金(基盤研究C), 「生活困窮者自立支援に基づく排除と差別に抗する包摂=連帯型地域社会の可能性」, 課題番号 18K02000, 2018~20 年度, 1,950 千円, 研究代表者.
- ・文部科学省, 科学研究費補助金(基盤研究B), 「大阪大都市圏住民の社会的紐帯と近隣効果の研究: 混合研究法による都市社会調査」, 課題番号 20H01578, 2020~24 年度, 13,130 千円, 研究分担者(研究代表者: 川野英二・大阪市立大学)。

4. 受賞

- ・令和2年度福岡県社会教育委員連絡協議会表彰(2020年12月。田川市社会教育委員として)

5. 所属学会

関西社会学会、地域社会学会(編集委員)、西日本社会学会、日本社会学会、日本社会病理学会、日本社会分析学会、日本都市社会学会、貧困研究会、ソシオロジ同人

6. 担当授業科目

社会病理学・2単位・2年・前期

社会変動と社会問題・2単位・3年・後期

卒業論文・6単位・4年・通年

地域問題研究・2単位・大学院・前期

地域問題演習・2単位・大学院・後期

7. 社会貢献活動

- ・添田町子ども・子育て会議・会長
- ・田川市社会教育委員
- ・田川市地域公共交通会議・副会長
- ・田川市地方創生・人口減少対策有識者会議・会長
- ・特定非営利活動法人社会理論・動態研究所・研究員
- ・福岡県人権啓発情報センター企画委員会・委員 等

8. 学外講義・講演

該当なし

9. 附属研究所の活動等

生涯福祉研究センター運営部会委員

所属	人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	寺島 正博
----	----------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

主な研究対象については、知的障害者のグループホーム（以下、GHと省略する）従事者における専門職性、および、無自覚の障害者虐待等である。

GH従事者の専門職性については、近年の「地域生活移行」の風潮に伴いGHは増加の一途を辿っている。しかし、利用者の増加に伴いニーズは多様化をみせ、その範囲は拡大し続けているにも関わらず、それを受け止めるGH従事者の専門職性が必ずしも追いついていないとは言えない。「GH従事者は専門職と成り得るのか」といった研究テーマを設定し、歴史研究や理論研究、さらには、実態解明の研究を基に専門職への道筋について探究してGH従事者の専門職性を実証的に検討している。

また、昨今、新聞等が大きく報道しているように、障害者への虐待は重大な人権侵害となる。この障害者虐待に対し、国内外で未だ明らかにされていない無自覚の虐待（障害福祉サービス従事者・養護者・使用者が自覚をせずに障害者へ行う虐待）に着目し、その実態を明らかとし、無自覚の虐待の解消と防止に向けた支援モデルの研究を行っている。

具体的には、障害福祉サービス従事者や市町村虐待防止センター職員等が、無自覚の虐待に対し、被害者（障害者）と加害者（障害福祉サービス従事者（同僚）・養護者・使用者）にどのような意識を持ち、どのような支援を展開し、どのような支援課題を抱えているのか、また、無自覚の虐待の発生要因と個人属性や環境がどのような関係性にあるのかを明らかとし、無自覚の虐待の解消と防止に向けた支援モデルの構築を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・（単著）寺島正博「障害福祉サービス従事者における『養護者による障害者虐待』の支援に関する研究－全国訪問系サービス事業所のアンケート調査を通して－」（査読有）『発達障害者支援システム学研究』第19巻第2号，2020年，103 - 113頁。
- ・（単著）寺島正博「障害福祉サービス従事者における『無意識の不適切行為』に関する研究－目睹従事者の観点によるその発生・増幅要因とその意識化要因の検討－」（査読有）『障害理解研究』第19号，2018年，11-20頁。
- ・（共著）寺島正博、石崎龍二、柴田雅博「障害福祉サービス事業所における ICT 導入の実績とそれに伴う業務効率の意識 - T県におけるアンケート調査を通じて -」『福岡県立人間社会学部大学紀要』第 29 巻第 2 号，2021 年，47-60 頁。
- ・（共著）寺島正博、石崎龍二、柴田雅博、許棟翰、小松啓子、松崎貴之「社会福祉法人における業務支援システムの導入効果と課題 - T社会福祉法人の事例を通じて -」『福岡県立人間社会学部大学紀要』第 28 巻第 1 号，2019 年，51-63 頁。

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・（単独）寺島正博「就労移行支援従事者と就労継続支援B型等従事者における不適切行為の意識に関する研究」『日本社会福祉学会第66回全国大会』（査読有），口頭発表，2018年。
- ・（共同）許棟翰・寺島正博・柴田雅博「日本の障害福祉サービス事業所における業務支援システムの導入とその課題－T社会福祉法人の事例を通じて－」『第98回韓国日本学会国際学術大会』（査読有），口頭発表，2019年。

<解説集>

- ・（共著）『2021社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規，2020年。
- ・（共著）『2021精神保健福祉士国家試験過去問解説集』中央法規，2020年。
- ・（共著）『2020社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規，2019年。
- ・（共著）『2020精神保健福祉士国家試験過去問解説』中央法規，2019年。

- ・(共著)『2019社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2018年.
- ・(共著)『2019精神保健福祉士国家試験過去問解説』中央法規, 2018年.

<辞典>

- ・(共著)寺島正博「知的障害者相談員」、「バンク＝ミケルセン」「ピア・カウンセリング」、「ST(言語聴覚士)」他全18項目,九州社会福祉研究会編(編集代表:田畑洋一・鬼崎信好・門田光司・倉田康路・片岡靖子・本郷秀和編集代表)『新版21世紀の現代社会福祉用語辞典』,学文社,2019年.

③過去の主要業績

<著書>

- ・(単著)寺島正博『障害者の地域移行への援助ーグループホーム従事者の専門職性』文芸社,2012年.

<論文>

- ・(単著)寺島正博「障害福祉サービス従事者における無意識の不適切行為の防止に関する研究ー全国アンケート調査による無意識の不適切行為の認識からの検討ー」(査読有)『九州社会福祉学』第13号,2017年,56-67頁.
- ・(単著)寺島正博「無意識の不適切行為の防止に関する研究ー全国アンケート調査における観察従事者の視点ー」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第2号,福岡県立大学人間社会学部,2015年,1-16頁.

3. 外部研究資金

「障害児者の『養護者による無意識の虐待』における従事者の支援モデルに関する研究」平成30年度科学研究費助成事業(若手研究)3,380千円,平成30年度~平成33年度.

4. 受賞

5. 所属学会

- ・日本社会福祉学会
- ・日本ソーシャルワーク学会
- ・日本発達障害学会
- ・日本発達障害支援システム学会
- ・日本障害理解学会

6. 担当授業科目

相談援助実習指導Ⅰ・2単位・2年・通年、相談援助実習指導Ⅱ・2単位・3年・通年、相談援助演習B・2単位・3年・通年、社会福祉学演習・2単位・3年~4年・後期~前期、卒業論文・6単位・4年・通年、障害者福祉論・2単位・2年・前期、就労支援・1単位・3年・前期、精神保健福祉論Ⅰ・2単位・2年・後期、相談援助演習C・1単位・3年・後期

7. 社会貢献活動

- ・飯塚市指定管理者選定委員長
- ・糸田町地方創生人口減少対策委員
- ・みやこ町障害福祉施策検討委員

8. 学外講義・講演

- ・社会福祉法人宗像会くすの木園職員研修(障害福祉サービス従事者における無意識の不適切行為の防止に関する研究)
- ・社会福祉法人桑の実会職員研修

所属	人間社会学部／総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	中原 雄一
----	------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

国立大学法人 鹿屋体育大学大学院体育学研究科 博士後期課程満期退学 博士（体育学）

運動やスポーツ活動を含めた身体活動の重要性について研究を行っており、青年期を中心に幼児や勤労者などを対象に幅広く検討している。また、健康運動指導士やジュニアスポーツ指導員の資格を活かし、実際に運動指導や現場などで助言も行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・中原雄一. 子どもの保健と安全（高内正子編著）. 教育情報出版, 担当: 50-51,64-65. 2020.

<総説>

- ・中原雄一. 介護者・介護職従事者における運動の効用（特集 運動療法の新領域：拡がるターゲット）. 体育の科学, 69(2): 118-122. 2019.

<論文等>

- ・中原雄一、池田孝博. コロナ禍における緊急事態宣言下の大学新入生の身体活動状況と精神的健康度. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 29(2): 115-122. 2021.
- ・池田孝博、杉野寿子、大久保淳子、鷲野彰子、中原雄一、伊勢慎. 保幼小連携におけるアプローチカリキュラムに関する研究の動向と課題. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 29(2): 215-223. 2021.
- ・杉野寿子、田中美樹、吉川未桜、中原雄一、吉田麻美、池田孝博. 保育士養成課程における保健・健康に関する学びの研究. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 29(1): 73-80. 2020.
- ・中原雄一、砂原里南、高橋楓. ラグビーワールドカップ2019日本大会を通じた「ささえる」スポーツの事例. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 28(2): 111-122. 2020.
- ・池田孝博、中原雄一、陸麗君、松岡佐智、佐藤繁美. 福岡県立大学人間社会学部紀要の査読制度導入後の現状と諸課題. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 28(2): 123-131. 2020.
- ・中原雄一、池田孝博. 幼児期を対象に運動・スポーツ活動の取り組みを行っている自治体の特徴. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 28(1): 27-35. 2019.
- ・中原雄一、西脇雅人、藤本敏彦、池田孝博. 大学体育における実技と講義の同時受講が大学生の健康度・生活習慣に与える影響. 大学体育スポーツ学研究, 16: 13-18. 2019.
- ・古橋啓介、池田孝博、杉野寿子、大久保淳子、中原雄一、伊勢慎. 子ども・子育て支援新制度導入後の基礎自治体の実態. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 27(1): 1-20. 2018.
- ・Jindo T, Kitano N, Suzukawa K, Sakamoto S, Osawa S, Nakahara-Gondoh Y, Gushiken T, Nagata K, Nagamatsu T. Relationship of athletic sports with sense of coherence and mood states in male senior high school students: Comparing athletes from a school soccer club and J-League youth teams. Bulletin of the Physical fitness Research Institute, 116: 1-9, 2018.
- ・中原雄一、池田孝博. 全国調査との比較にみる本学学生のスポーツ経験と意識に関して. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 26(2): 221-229. 2018.
- ・池田孝博、伊勢慎、櫻井国芳、中原雄一、古橋啓介. 田川市立幼稚園における道徳・規範意識の芽生えを意図した教材開発のための運動遊びの介入と観察. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 26(2): 111-118. 2018.

②その他最近の業績

<特別講演>

- ・中原雄一. 大学生における体育系課外活動と精神的健康度の関係. 令和元年度 東北体育・スポーツ学会大会（仙台）, 2019.

<学会発表>

- 中原雄一、池田孝博. コロナ禍に伴う緊急事態宣言が大学新入生の身体活動状況と精神的健康度に及ぼす影響. 第9回大学体育スポーツ研究フォーラム(オンライン開催), 2021.
- 中原雄一. 幼児期における運動・スポーツ活動の自治体の取り組み. 第75回日本体力医学会大会 (WEB 開催), 2020.
- Nakahara-Gondoh Y, Tsunoda K, Ikeda T, Fujimoto T. Cross-sectional and longitudinal relationships between physical fitness and health status among university students. American College of Sports Medicine 67th Annual Meeting (Virtual Experience), 2020.
- 黒川修行、中原雄一、小宮秀明. レジスタンストレーニング後のロイシン摂取が運動習慣のない女子大学生の筋量に及ぼす影響. 日本学校保健学会第66回大会(東京), 2019.
- 中原雄一、角田憲治、池田孝博、藤本敏彦. 体力レベル別にみた大学生の1年間の精神的健康度の変化. 第74回日本体力医学会大会(つくば), 2019.
- 黒川修行、中原雄一、小宮秀明、前田順一. 咀嚼能力と体力との関連性について. 第74回日本体力医学会大会(つくば), 2019.
- 中原雄一、角田憲治、池田孝博、藤本敏彦. 女子大学生における体力レベルと精神的健康度との関連. 日本体育学会第70回大会(横浜), 2019.
- Nakahara-Gondoh Y, Tsunoda K, Fujimoto T. Comparisons of physical fitness, physical activity and psychological well-being by participation in extracurricular sports activities. Asia-Singapore Conference on Sport Science 2019. (Singapore), 2019.
- 中原(権藤)雄一、神藤隆志、北濃成樹、永松俊哉、酒本勝太、永田康喜、具志堅武、鈴川一宏. 男子高校生における部活動種目による体組成と体力レベルの比較: 横断的検討. 日本発育発達学会第17回大会(東京), 2019.
- 中原(権藤)雄一、黒川修行. 大学4年間にわたる身体活動量と精神的健康度の変化. 日本学校保健学会第65回大会(大分), 2018.
- 黒川修行、小宮秀明、中原(権藤)雄一. 女子大学生の睡眠状況について. 日本学校保健学会第65回大会(大分), 2018.
- 中原(権藤)雄一、角田憲治、藤本敏彦、永松俊哉. 大学生における運動部活動の参加は学生生活の不安を軽減させるか? ~3年間の縦断研究からみた検討~. 第73回日本体力医学会大会(福井), 2018.
- 中原(権藤)雄一、西脇雅人、藤本敏彦、池田孝博. 大学体育における講義の有用性の検討. 日本体育学会第69回大会(徳島), 2018.
- 池田孝博、中原雄一、萩原悟一、元安陽一. 日本の大学スポーツ振興に関する動向と課題(1) -日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会における議論を中心に-. 九州地区大学体育連合平成29年度春期研修会(北九州), 2018.
- 中原雄一、池田孝博、萩原悟一、元安陽一. 日本の大学スポーツ振興に関する動向と課題(2) -NCAA会長の講演から考える地方大学の役割-. 九州地区大学体育連合平成29年度春期研修会(北九州), 2018.
- 萩原悟一、池田孝博、中原雄一、元安陽一. 日本の大学スポーツ振興に関する動向と課題(3) -地方版大学スポーツ振興の可能性-. 九州地区大学体育連合平成29年度春期研修会(北九州), 2018.
- 元安陽一、池田孝博、中原雄一、萩原悟一. 日本の大学スポーツ振興に関する動向と課題(4) -地方私立大学におけるスポーツブランディング事業-. 九州地区大学体育連合平成29年度春期研修会(北九州), 2018.
- Kitano N, Jindo T, Nakahara-Gondoh Y, Sakamoto S, Gushiken T, Suzukawa K, Nagamatsu T. Building Grit in Japanese Male High-School Students: Examining the Role of Belonging to an Organized Sports Activity. Society for Adolescent Health and Medicine 2018 Annual Meeting. (Seattle, USA), 2018.
- 神藤隆志、北濃成樹、永松俊哉、中原雄一、酒本勝太、具志堅武、鈴川一宏. 男子高校生におけるスポーツ実践とストレス対処力、気分の関連性~学校サッカー部とJリーグユースチームに着目して~. 第19回日本健康支援学会年次学術集会(京都), 2018.

③過去の主要業績

<論文>

- ・ **Gondoh Y**, Tashiro M, Itoh M, Masud M, Sensui H, Watanuki S, Ishii K, Takekura H, Nagatomi R and Fujimoto T. Evaluation of individual skeletal muscle activity by glucose uptake during pedaling exercise at different workloads using positron emission tomography. J Appl Physiol. 107(2): 599-604, 2009.
- ・ **中原(権藤) 雄一**、角田憲治、甲斐裕子、朽木勤、内田賢、永松俊哉. 勤労者における介護の有無と精神的健康度、身体活動量に関する検討. 厚生の指標, 63(5): 1-6. 2016. (第18回川井記念賞 受賞)

<著書>

- ・ **中原(権藤) 雄一**. 楽しく学ぶ運動遊びのすすめーポートフォリオを活用した保育実践力の探求ー(柴田卓、石森真由子編著). みらい, 担当ページ: 86, 126-128. 2017.

3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費助成事業(基金分)基盤研究(C)平成30年度~令和4年度, 交付金額4,030千円 研究課題「大学生において体力は精神的健康度の予測因子となり得るか?: 4年間にわたる縦断研究」(代表)
- ・ 科学研究費助成事業(基金分)基盤研究(C)平成31年度~令和3年度, 交付金額1,950千円 研究課題「高等学校の体育における学習指導要領遂行の実態調査」(分担)

4. 受賞

- ・ 第九回大学体育スポーツ研究フォーラム 優秀発表賞 (全国大学体育連合)

令和3年2月22日

5. 所属学会

- ・ 日本体力医学会(評議員)、日本体育学会、日本運動生理学会、日本発育発達学会、日本学校保健学会、日本運動・スポーツ科学学会、九州体育・スポーツ学会

6. 担当授業科目

<学部> 健康スポーツ論・2単位・1年前期、教養演習・1単位・1年前期、健康科学実習I・1単位・1年前期、健康科学実習II・1単位・1年後期、子どもの保健・2単位・1年後期

<大学院> 子ども身体教育研究・2単位・1年前期、教育課題研究B・2単位・1年後期、子ども教育実践実習I・1単位・1年後期、地域教育課題演習・2単位・2年前期、特別研究・8単位・1-2年通年、子ども教育実践実習II・1単位・2年前期、子ども身体教育演習・2単位・1-2年後期

7. 社会貢献活動

- ・ 大学体育スポーツ学研究(第17号)優秀論文賞 第2次選考委員

8. 学外講義・講演

- ・ 特になし

9. 附属研究所の活動等

- ・ 令和2年度 附属研究所重点領域研究: 研究課題名「子どもの健康と保育に関する専門職連携の模索ー福岡県の医療及び保育の現場での実態調査と養成校の実践ー」(研究代表者: 杉野寿子) 研究分担者

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	中村 晋介
------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

- 1.若者の意識・世代間ギャップに関する研究:「他者」を理解するための技法を洗練させてきた社会学や社会人類学に基づいて、現代の日本に生きる若い世代の社会意識(恋愛観, 社会観, 就業観, インターネットに対する意識など)の解読を試みています。
- 2.ジェンダー論・結婚観に関する研究:日本社会における「女性の社会進出」や「非婚社会の行く末」について、社会学的な観点から研究しています。
- 3.社会学理論に関する研究:主にフランスの社会学者ピエール・ブルデューの業績や思想についての研究をおこなっています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・中村晋介・柴田雅博・石崎龍二「文系大学生の IT セキュリティ実践の現状と課題 (2)——教育プログラムの効果測定」中村晋介編『大学生の IT セキュリティに関する新たな教育プログラムの構築』福岡県立大学人間社会学部, 2020 年 3 月。
- ・中村晋介「女子大学生・専門学校生の恋愛積極性・恋愛観に関する比較研究」『現代の社会病理』No.34:75-89, 2019 年 10 月。
- ・中村晋介「日本人がオリンピックで日本代表を応援するのは当たり前か?」友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典編『社会学で描く現代社会のスケッチ』(株)みらい, 2019 年 8 月。
- ・阪井俊文・中村晋介「青年期女性の恋愛観に関する尺度構成の試み」『福岡県立大学人間社会学部紀要』vol.27-1:21-32, 2018 年 9 月。
- ・中村晋介・柴田雅博・石崎龍二「文系大学生の IT セキュリティ実践の現状と課題——現代的教育プログラムの構築に向けて」『福岡県立大学人間社会学部紀要』vol.27-1:65-76, 2018 年 9 月。

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・中村晋介「女子大学生・専門学校生の恋愛への積極性——ファッション選好との関係に着目して」日本社会病理学会 第 35 回大会 (流通経済大学), 2019 年 9 月。
- ・中村晋介・阪井俊文「青年期女性の恋愛観に関する尺度構成の試み」日本発達心理学会 第 30 回大会 (早稲田大学), 2019 年 3 月。
- ・中村晋介「女子大学生／専門学校生における恋愛積極性」日本社会分析学会 第 136 回研究例会 (福岡県立大学), 2018 年 12 月。
- ・中村晋介「女子大学生／専門学校生と恋愛」日本社会病理学会 第 34 回大会 (関西学院大学), 2019 年 9 月。
- ・中村晋介・阪井俊文「後期青年期女子のファッション選好と異性に対する態度——女子学生を対象とする量的調査より」日本社会学会 第 90 回大会 (甲南大学) 2018 年 9 月。
- ・中村晋介「女子学生のファッション選好とジェンダー観・恋愛観」西日本社会学会 第 76 回大会 (九州大学) 2018 年 5 月。

③過去の主要業績

- ・中村晋介「大学生の web セキュリティ実践」『福岡県立大学人間社会学部紀要』vol.21-2:1-14, 2013 年。
- ・中村晋介『『体育会系』女子学生のジェンダー観——『大学生のスポーツ・価値観に関する調査』より』『社会分析』No.34:111-128, 2007 年。
- ・中村晋介「ジェンダー・トラックの再生産」友枝敏雄・鈴木讓編『現代高校生の規範意識 (第 2 版)』九州大学出版会, 2005 年

- ・中村晋介「社会学者と社会参加——ピエール・ブルデューのネオリベラリズム批判」『西日本社会学会年報』No.3:53-69, 2005 年

5. 所属学会

日本社会学会, 日本社会病理学会, 日本発達心理学会, 日本青年心理学会, 日本家政学会, 日本社会分析学会, 日本情報教育学会, 西日本社会学会

6. 担当授業科目

プレ・インターンシップ・2 単位・1 年・前期, 教養演習・1 単位・1 年・前期, 社会調査法・2 単位・1 年・後期, 社会学史Ⅰ・2 単位・2 年・前期, 社会学史Ⅱ・2 単位・2 年・後期, 質的調査法・2 単位・2 年, 後期, 現代社会論A (ジェンダー・世代)・2 単位・2 年・前期, グローバル社会論・2 単位・2 年・後期

7. 社会貢献活動

川崎町子ども・子育て会議 会長
行橋市総合計画審議会 副会長
福岡県立飯塚研究開発センター 入居審査委員
NPO 福祉用具ネット 理事
九州大学社会学同窓会 常任幹事

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

人間社会学部/社会福祉コース	職名	准教授	氏名	廣田 久美子
----------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

2009年3月九州大学大学院法学府公法・社会法学専攻博士後期課程単位取得満期退学。2018年4月に本学着任。専門分野は社会法（社会保障法）。

主な研究課題：障害のある人の雇用保障と就労支援保障を研究している。とくに、日本の障害者の就労支援のあり方について、障害者総合支援法、障害者雇用促進法等の雇用保障法制を中心として、就労支援の中心となっている、就労継続支援給付の現状と課題、支援つき雇用等の雇用促進施策との連携、賃金・工賃と公的給付の関係などについて、障害者権利条約第27条の「労働によって生計を立てる権利」の保障という観点から検討を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 廣田久美子「障害者の就労支援と所得保障」社会保障法第33号（日本社会保障法学会編、法律文化社）、131-144頁、2018年5月
- ・ 大曾根寛、奥貫妃文、木村茂喜、原田欣宏、廣田久美子『改訂版 社会福祉と法』放送大学教育振興会、2020年
- ・ 増田雅暢、脇野幸太郎、西山裕、木村茂喜、嶋田佳広、濱畑芳和、河谷はるみ、廣田久美子『よくわかる公的扶助論』法律文化社、2020年
- ・ 廣田久美子「発達障害のある人の就労支援と所得保障—ドイツ労働生活参加給付を参考にして」福岡県立大学人間社会学部紀要第29巻第2号、91-102頁、2021年

②その他最近の業績

なし

③過去の主要業績

- ・ 廣田久美子「障害のある人への補装具とリハビリテーション保障」宮崎産業経営大学法学論集第24巻第1・2号、77-102頁、2016年3月
- ・ 廣田久美子「障害者の就労支援保障—ドイツ法を手がかりに—」社会保障法第27号（日本社会保障法学会編、法律文化社）83-96頁、2012年5月
- ・ 廣田久美子「障害者雇用に関する義務規定の法的効力」『社会法の基本理念と法政策—社会保障法・労働法の現代的展開』（山田晋・有田謙司・西田和弘・石田道彦・山下昇編、法律文化社）219-234頁、2011年8月

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成分）（基盤研究(C)）平成29年度～令和2年度 交付金額4,290千円

研究課題：発達障害者等に対する経済的自立のための就労支援の保障（研究代表者）

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会保障法学会、日本労働法学会、日本職業リハビリテーション学会、日本障害法学会

6. 担当授業科目

社会福祉学演習・2単位・3年・通年、相談援助実習指導Ⅰ・2単位・2年・通年、相談援助実習指導Ⅱ・1単位・3年・通年、社会保障論Ⅰ・2単位・1年・前期、権利擁護と成年後見制度・

2 単位・3 年・前期、社会保障論Ⅱ・2 単位・1 年・後期、公的扶助論・2 単位・2 年・後期、
相談援助演習 C・2 単位・3 年・後期、卒業論文・6 単位・4 年・後期

7. 社会貢献活動

福岡県職業能力開発審議会委員
飯塚市職員倫理審査会委員
福岡県総合計画審議会委員
福岡県県営住宅管理審議会委員
田川市部落差別解消審議会委員

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

人間社会学部／地域社会コース	職名	准教授	氏名	藤澤 健一
----------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

教育学（教育制度・政策の理論と歴史、教員史、教員団体史）

2. 研究業績

①最近の著書・論文

単著「近代沖縄における小学校教員政策史—沖縄県初等教育研究会の運営実態を視点として」日本教育政策学会『日本教育政策学会年報』25号、2018年7月、154—167頁

単著「近代沖縄における小学校経営研究会による教員の組織化過程—運営実態を分析視点として」日本教育制度学会『日本教育制度学会紀要』25号、2018年11月、56—73頁

単著「近代沖縄の教育会における役職者の変容過程—一八八〇年代から一九四〇年代はじめまでの人的構成—」法政大学沖縄文化研究所『沖縄文化研究』46号、2019年3月

②その他最近の業績

③過去の主要業績

単著『近代沖縄教育史の視角—問題史的再構成の試み』社会評論社、2000年4月

単著『沖縄／教育権力の現代史』社会評論社、2005年10月

編著『沖縄の教師像—数量・組織・個体の近代史』榕樹書林、2014年3月

編著『移行する沖縄の教員世界—戦時体制から米軍占領下へ』不二出版、2016年10月

3. 外部研究資金

研究代表者：科学研究費補助金基盤研究(B)「米軍占領下の沖縄における現職教員研修制度の再構築過程に関する研究」20H01631(2020年度～2024年度)、総額(直接経費)6760千円

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本教育制度学会、日本教育政策学会理事、日本教育行政学会、日本教育学会

6. 担当授業科目

教育学概論 B・2単位・1年前期、教育史・2単位・2年前期、教育思想論・2単位・2年後期、教育実習事前事後指導・2単位・3年後期から4年前期、公共社会学研究Ⅰ・2単位・3年前期、公共社会学研究Ⅱ・2単位・3年前期、卒業研究・4年

7. 社会貢献活動

田川市奨学生選考委員会委員長

田川市教育事務点検評価委員会委員長

添田町教育委員会事務点検評価委員

8. 学外講義・講演

教員免許更新講習「教育の最新事情」講義担当および責任者

9. 附属研究所の活動等

なし

人間社会学部／地域社会コース	職名	准教授	氏名	三隅 讓二
----------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

集合行動論、社会的コミュニケーション論、情報社会論

2. 研究業績

①最近の著書・論文

2009 地域生活の総合的満足度の意味及び生活の質に関する質問項目との関係
福岡県立大学人間社会学部紀要 18号

②その他最近の業績

2009 犯罪社会学会発表(大阪市立大学)「田川郡における被保護者の自立阻害要因と貧困の世代的再生産にかかる分析」

2008 田川住民の地域満足度調査(平成17年度社会調査実習調査報告書)

2009 大学生の職業意識調査(平成19年度社会調査実習調査報告書)

2010 大学生の友人調査調査(平成21年度社会調査実習調査報告書)

2011 福岡県立大学における携帯電話に関する調査(平成22年度社会調査実習報告書)

2012 大学生の居留意識に関する調査(平成23年度社会調査実習報告書)

③過去の主要業績

3. 外部研究資金

福岡県監査保護課・受託研究「田川郡における被保護者の自立阻害要因と貧困の世代的再生産にかかる分析」
(5,168,354円:2007年8月～2008年3月)

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会学会、西日本社会学会、社会分析学会

6. 担当授業科目

現代社会論B(情報社会論)、集合行動論、社会学の分析法A、社会学の分析法B、公共社会学研究I・II、卒業論文

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／地域社会コース	職名	准教授	氏名	美谷 薫
----------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2005年 筑波大学大学院博士課程生命環境科学研究科地球環境科学専攻(5年一貫制)修了, 博士(理学)。宇都宮市役所市政研究センター専門研究嘱託員, 埼玉大学教養学部非常勤講師などを経て, 2009年, 宇都宮市役所入庁。自治振興部地区行政課, 上下水道局経営企画課などに勤務。2016年4月より本学に着任。専門分野は人文地理学, 地域行政論。

大学院在籍時には, 1950年代の「昭和の大合併」や高度経済成長期の合併の後の市町村行政における地域経営の特徴を, 長期スパンでの事業費配分などに着目して明らかにすることを研究課題とした。その後, 宇都宮市役所市政研究センター在職時には, 「平成の大合併」の時期にあわせて導入された地域自治制度の実態調査のほか, 大都市制度や道州制といった地方制度の再編とその宇都宮市への影響に係る研究などを担当した。また, 宇都宮市役所在籍時には(担当業務としてであるが) コミュニティ政策の動向や行政サービスの地域差などについての調査に取り組んできた。

今後は, 「平成の大合併」が落ち着いてから15年程度が経過することもあり, 市町村合併に伴う行政体制の再編や, 地域社会・地域経済への合併の影響について, 丁寧な事例調査に基づいて明らかにすることを研究上の主要な課題としている。また, 事業を取り巻く環境の変化により, 上水道事業の広域再編が推進されていることから, 実務経験をもとに, そのあり方や課題についても検討していきたいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文 (2018~2020年度)

- ・ 美谷 薫 2020. 福岡県田川地域における行政・公共的団体の地域システム. 日本地理学会発表要旨集 97:184.
- ・ 美谷 薫 2019. 福岡県飯塚市における合併後の「行政資源」の配分と住民の評価. 日本地理学会発表要旨集 95:206.

②その他最近の業績 (2018~2020年度)

【報告書】

- ・ 美谷 薫 2020. コミュニティ政策からみた行政・地域・市民の役割分担: 田川地域の動向から. 『福岡県立大学研究奨励交付金研究報告書 福岡県における市民セクターの研究—協働のまちづくりの実現可能条件の検討—』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科.
- ・ 美谷 薫 2019. コミュニティ政策からみた行政・地域・市民の役割分担: 福岡県におけるコミュニティ組織の設置状況について. 『福岡県立大学研究奨励交付金研究報告書 福岡県における市民セクターの研究—田川地域を中心に—』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科.

【学会発表】

- ・ 美谷 薫 2019. 福岡県東峰村における住民の生活行動と行政に対する住民意識. 日本地理学会2019年秋季学術大会「新しい公共」の地理学研究グループ研究集会(新潟大学)。

③過去の主要業績 (2017年度以前)

【著書・論文】

- ・ 美谷 薫・梶田 真 2017. ローカル・ガバナンスをめぐる政策的展開: 市町村行政の「守備範囲」と「公共」の担い手を中心に. 佐藤正志・前田洋介編『ローカル・ガバナンスと地域』ナカニシヤ出版, 20-38.
- ・ 神谷浩夫・梶田 真・佐藤正志・栗島英明・美谷 薫編著 2012. 『地方行財政の地域的文脈』古今書院.
- ・ 美谷 薫 2006. 宇都宮市における地区間の親密度に関する研究. 市政研究うつのみや 2: 54-59.

- MITANI, Kaoru 2005. A Geographical Study on Areal Management of Municipalities in Terms of Distribution of Public Investment: A Case Study of Utsunomiya City and Kawachi Town, Tochigi Prefecture, Japan. 筑波大学大学院生命環境科学研究科博士論文.
- 美谷 薫 2003. 千葉県市原市における都市経営の展開と公共投資の配分. 地理学評論76 : 231-248.

【報告書】

- 美谷 薫編 2018. 『社会調査実習報告書2017 福岡県東峰村における地域社会・住民生活と行政』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科.
- 美谷 薫 2008. 『「平成の大合併」直後の合併市町村における地域自治・地域行政の動向－「市町村合併と地域内分権に関するアンケート」調査報告書(2)－』うつのみや市政研究センター.

3. 外部研究資金 (2020年度)

日本学術振興会科学研究費助成事業(基金分) 基盤研究(C)「人口減少社会における行政地域システムの構築に向けた基礎的研究」研究代表者(課題番号 19K01175, 2019~2021年度, 2020年度交付金額 1,100千円)

日本学術振興会科学研究費助成事業(科学研究費補助金) 基盤研究(B)「ローカルガバナンスにおける地域とは何か? 地方自治の課題に応える地理的枠組みの探究」研究分担者(研究代表者:佐藤正志, 課題番号 20H01393, 2020~2023年度, 2020年度交付金額 539千円)

4. 受賞 (2020年度)

該当なし

5. 所属学会 (2020年度)

日本地理学会(「新しい公共」の地理学研究グループ事務局担当), 人文地理学会, 経済地理学会, 地理空間学会, 日本行政学会, 日本公共政策学会

6. 担当授業科目 (2020年度)

地理学・2単位・1年・後期	地理学概論・2単位・2年・前期
社会調査実習Ⅰ・2単位・2年・前期	地方自治論・2単位・2年・後期
社会調査実習Ⅱ・2単位・2年・後期	地域社会分析法C・2単位・3年・前期
公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期	地域計画論・2単位・3年・後期
公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期	卒業論文・6単位・4年・通年

7. 社会貢献活動 (2020年度)

飯塚市行政評価委員会委員	田川市経営評価改革推進委員会委員(副委員長)
田川市総合計画審議会委員	中間市水道事業あり方検討委員会委員(委員長)
嘉麻市行政経営推進審議会委員(会長)	香春町立小中学校再編推進審議会委員(会長)
添田町地域公共交通会議委員	添田町総合計画策定審議会委員
福智町地域公共交通会議委員	「田川の宝! 彦山川を創る会」会長
田川広域連携推進プロジェクト推進会議専門委員	

8. 学外講義・講演 (2020年度)

該当なし

9. 附属研究所の活動等 (2020年度)

- 附属研究所重点領域研究「地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データのGIS分析による地域診断モデルの開発」研究分担者

所属	人間社会学部/心理コース	職名	准教授	氏名	麦島 剛
----	--------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

発達障害・ストレス関連疾患・加齢についての生理心理学的研究

ADHDや自閉症などの発達障害、統合失調症等に見られる注意に関する障害、ストレスに関連する疾患、および認知症には、中枢神経機能の変化が関与する。そこで、神経生理学・行動薬理学・学習心理学の手法と理論を用いて、薬物による中枢神経系の活動変化・ストレス負荷・神経系の先天的異常が、電気生理学的神経活動・学習・社会行動・不安に対してどのような影響をもつのかを検討している。具体的には、おもに、以下について探求している。1) ADHD・統合失調症にみられる前注意過程を含む注意障害とcatecholamine神経系の活動異常との関連を電気生理学的に解明すること。2) ADHDを併発するとみられるてんかんモデル動物を用いて、ADHDにおける衝動性と不注意をオペラント学習理論と行動薬理学により解明すること。3) benzodiazepine受容体サブタイプによる不安やストレス反応への関与の違いの解明。4) 老齢動物の注意機能・情動行動・記憶への認知改善薬（認知症治療薬）等の効果の解明と、これに基づく老年心理学領域での考察。これらの研究は、理論的進歩のみならず、より効果的な治療薬の開発や、より構造化された心理療法（行動療法）の開発の一助となると考えられる。また老年学や進路指導論（教育心理学）の立場から総合科学的考察を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・麦島 剛 訳 (2018) Näätänen, R., Elyse S. Sussman, E.S., Salisbury, D., Shafer, V.L.著 認知機能不全の指標としてのミスマッチ陰性電位. 福岡県立大学心理臨床研究, 10, 25-46.
- ・Inoue M, Matsuoka H, Harada K, Mugishima G, Kameyama M. (2020). TASK channels: channelopathies, trafficking, and receptor-mediated inhibition. *Pflugers Arch.* 472 (7), 911-922.
- ・Shinba T, Murotsu K, Usui Y, Andow Y, Terada H, Takahashi M, Takii R, Urita M, Sakuragawa S, Mochizuki M, Kariya N, Matsuda S, Obara Y, Matsuda H, Tatebayashi Y, Matsuda Y, Mugishima G, Nedachi T, Sun G, Inoue T, Matsui T. (2020) Usefulness of heart rate variability indices in assessing the risk of an unsuccessful return to work after sick leave in depressed patients. *Neuropsychopharmacol Rep.* 40 (3), 239-245.
- ・森寺亜伊子・榛葉俊一・吉井光信・井上真澄・東華岳・坂徳子・久保浩明・麦島剛.(2020). 自然発症高血圧ラット(SHR)におけるペア刺激聴覚性事象関連電位の波形昇降相違性：注意欠如・多動性障害の感覚ゲーティング不全との関連. *生理心理学と精神生理学*,38(1), 4-11.

②その他最近の業績

<学会報告>

- ・麦島剛・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・井上真澄・中本百合江・吉井光信. ADHDモデル動物 EL マウスの遅延割引事象での衝動的選択についての双曲線関数モデルによる検討. 2018年8月, 第36回日本行動分析学会 第35回年次大会.
- ・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・池田麻帆・岩崎萌・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 遅延価値割引事象における EL マウス (ADHD モデル) の衝動性の検討—並立連鎖スケジュールにおける SS 選択肢の遅延時間を変数として— 2018年8月, 第36回日本行動分析学会 第35回年次大会.
- ・Mugishima, G., Shinba, T., Kubo, H., Moridera, A., Nakamoto, Y., Inoue, M., Yoshii, M. Insufficient latent inhibition of taste aversion learning consistent with aspects of ADHD in EL mouse. 2018年8月, The 78th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology.
- ・麦島剛・久保浩明・渡部翔太・岡崎啄也・井上真澄・吉井光信・榛葉俊一 ADHDモデル動物SHRのN50抑制とADHD治療薬methylphenidate投与の効果. 2019年5月, 第37回日本生理心理学会大会.
- ・水流百香・吉田萌・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛 大学生の確率割引課題における選択行動に関与する諸要因の検討—衝動性・ADHD傾向・見通し力・ギャンブル嗜好性— 2019年8月, 第37回日本行動分析学会 年次大会.
- ・吉田萌・水流百香・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛 ADHDモデルマウスの遅延価値割引課題における衝動的選択行動の研究—Sooner-Smaller選択の遅延時間を変数とする心理的等価点の検討— 2019年8月, 第37回日本行動分析学会 年次大会.
- ・麦島剛・加藤優花・榛葉俊一 マウスの脳波パワースペクトルに対する軽度ストレス負荷の影響とclonidine投与の効果. 2019年9月, 日本心理学会第83回大会.
- ・Mugishima, G. Nagata, K., Shinba, T., Kubo, H., Moridera, A., Nakamoto, Y. Inoue, M., Yoshii, M. Effects of d-limonene inhalation on latent inhibition with conditioned taste aversion in DDY and EL mouse. 2019年10月, The 79th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology.
- ・麦島剛・久保浩明・石川鴻志・森寺亜伊子・井上真澄・東華岳・吉井光信・榛葉俊一 EL マウス (ADHDモデル動物) の大脳皮質におけるミスマッチ陰性電位様反応. 2020年5月 日本生理心理学会第38回大会.
- ・水流百香・有森のはら・吉田萌・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島 剛 マウスの遅延価値割引課題における関数モデルへの適合度の検討. 2020年8月 日本行動分析学会第38回

年次大会.

- ・吉田萌・水流百香・川嶋拓・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛. モデル動物 EL マウスのトレードオフのない遅延価値割引における衝動性. 2020年8月 日本行動分析学会第38回年次大会.

<学会シンポジウム>

- ・麦島剛 (2017) 認知症研究における動物実験と行動分析的視点. 吉野俊彦 (企画) 超高齢社会における行動分析学. 日本行動分析学会第35回年次大会 学会企画シンポジウム
- ・麦島剛 (2018) 企画・司会. 恒松伸 (話題提供)・坂田省吾 (話題提供)・柴田重信 (話題提供). 第36回日本生理心理学会大会 大会企画シンポジウム

<学会開催>

- ・第36回日本生理心理学会大会. 2018年5月. 事務局長. 福岡県北九州市.

③過去の主要業績

- ・Shinba, T., Yamamoto, K., Cao, G.M., Mugishima, G., Andow, Y., Hoshino, T. (1996) Effects of acute methamphetamine administration on spacing in paired rats: Investigation with an automated video-analysis method. *Progress in Neuro-Psychopharmacology and Biological Psychiatry*, 20, 1037-1049.
 - ・麦島 剛・榛葉俊一・山本健一・星野忠夫 (1997) 自動画像解析で捉えたdopamine系活動亢進によるラットの行動変化. *動物心理学研究*, 47, 91-98.
 - ・麦島 剛 (1998) ラットの社会的行動と常同行動に関する自動画像解析システムの開発 —行動薬理実験への応用— 早稲田心理学年報, 30, 55-62.
 - ・Shinba, T., Shinozaki, T., Mugishima, G. (2001) Clonidine immediately after immobilization stress prevents long-lasting locomotion reduction in the rats. *Progress in Neuro-Psychopharmacology and Biological Psychiatry*. 25, 1629-40.
 - ・麦島 剛. 注意欠陥多動性障害 (ADHD) をめぐる動向: 新たな研究法の確立に向けて. (2006) 福岡県立大学人間社会学部紀要, 14 (2), 51-63.
 - ・中本百合江・麦島 剛・佐藤弥都子・中山 繁・高松幸雄・池田和隆・吉井光信 (2007) ADHDモデル動物としてのEL(てんかん)マウス. *日本神経精神薬理学雑誌*. 27(5), 297, 11-25.
 - ・Ishizaki, R., Shinba, T., Mugishima, G., Haraguchi, H., Inoue, M. (2007) Time-series analysis of sleep-wake stage of rat EEG using time-dependent pattern entropy. *Physica A: Statistical Mechanics and its Applications*, 87 (13), 3145-3154.
 - ・麦島 剛 (2009) 第10章 学習. 西本武彦・大藪泰・福沢一吉・越川房子 編著『現代心理学入門 進化と文化のクロスワード』川島書店.
 - ・春木 豊・麦島 剛 (2014) 学習 梅本堯夫・大山正(編著) 心理学への招待 [改訂版] サイエンス社 Pp. 97-132.
 - ・麦島 剛 (2014) 注意欠陥・多動性障害 (ADHD) の注意障害の行動神経科学—ミスマッチ陰性電位を中心としたモデル動物研究の動向— 福岡県立大学心理臨床研究, 6, 137-144.
 - ・麦島 剛 (2015) アルツハイマー病の動物モデル—高齢期の生理心理学における研究法の一方向性— 福岡県立大学心理臨床研究, 7, 67-76.
 - ・麦島 剛 (2016) 神経経済学の進展と視座: 衝動性をめぐる心理臨床・エネルギー政策・組織経営への応用と視座. 福岡県立大学心理臨床研究, 8, 25-35.
3. 外部研究資金
- ・日本学術振興会 科学研究費基盤研究(C) (単独獲得) 「ADHD動物研究によるニューロフィードバック・薬物療法・応用行動分析の相乗化」課題番号20K03029, 429万円, 2020~2022年度

5. 所属学会

- ・日本心理学会、日本生理心理学会、日本動物心理学会、日本神経精神薬理学会、日本行動分析学会、早稲田大学心理学会
- ・第36回日本生理心理学会大会準備委員会 事務局長
- ・第39回日本行動分析学会年次大会 大会長

6. 担当授業科目

生理心理学 2単位, 2年後期、心身科学 2単位, 2年前期、加齢基礎論 2単位, 2年後期2年, 心理学実験 I 2単位, 2年前期、心理学実験 II 2単位, 2年後期、心理学研究法, 2単位, 2年後期、老年心理学 2単位, 3年後期、演習 2単位, 3年前期・3年後期・4年前期、卒業論文指導 6単位, 4年、神経生理学特論 2単位, 修士1年、老年心理学特論 2単位, 修士1年、特別研究 4単位, 修士1年、特別研究 4単位, 修士2年

7. 社会貢献活動

- ・福岡県立大学生生活協同組合 理事長

9. 附属研究所の活動等

- ・生涯福祉研究センター兼任研究員

人間社会学部/地域社会コース・総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	陸 麗君
--------------------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1997年6月一橋大学社会学研究科博士課程修了。博士(社会学)。農林水産省農業総合研究所(現農林水産政策研究所)海外部特別研究員、中国華東理工大学社会与公共管理学院准教授を経て2019年4月から本学に着任。

私の初期研究は高度経済成長にともなう日本の地域社会の構造変化に焦点をあて、「個」と「共同」の視点からアプローチしてきた。その後、「個」と「共同」の枠組みで、日本社会との比較をしながら、改革開放後の中国の地域社会の変容の解明に取り組んできた。

近年、グローバル化のなかの都市コミュニティに焦点をあてた研究を進めている。主に日本における外国人問題、特に華僑・華人の起業とコミュニティ、また中国の「農民工」の国内移動と都市コミュニティ問題、中国の都市基層社会の変容、日中コミュニティの比較に関する調査研究である。

2. 研究業績(2018年度~2020年度)

①最近の著書・論文

<著書(分担執筆)>

陸麗君 2019年5月、「第16章 インナーシティの新華僑と地域社会」 鯉坂学・西村雄郎・丸山真央・徳田剛編著『さまよえる大都市・大阪 —「都心回帰」とコミュニティ—』、東信堂、pp316-324。

陸麗君 2019年4月、「第6章「対立」から「融合」と「管理」へ—流动人口のネットワークをめぐる流入地での戦略」、南裕子・閻美芳編著『中国の「村」を問い直す』、明石書店、pp176-198。

<論文>

陸麗君「世界のコミュニティ 中国 中国との比較からみた日本の町内会」2020年6月、『建築ジャーナル』No.1305 2020年6月号 pp.15-17。

陸麗君 2019年3月、「第4章 新華僑のビジネス動向と地域コミュニティへの波及効果—カラオケ居酒屋、民泊、福祉アパート経営の実態から—」水内俊雄・福本拓・コルナトウスキ ヒェラルド編『グローバル都市大阪の分極化の新たな位相 —日本型ジェントリフィケーションの多様性』、大阪市立大学都市研究プラザ『URP 先端的都市研究シリーズ17』、pp69-81。

陸麗君 2018年3月、「第5節インナーシティにおけるニューカマーと都市空間の再形成」、大阪市立大学都市研究プラザ編『先端的都市研究拠点2017年度公募型共同研究によるアクションリサーチ』大阪市立大学都市研究プラザ『URP 先端的都市研究シリーズ13』、pp54~60。

<報告>

池田孝博・中原雄一・陸麗君・松岡佐智・佐藤繁美 2020年2月、「福岡県立大学人間社会学部 紀要の査読制度導入後の現状と諸課題」、『福岡県立大学人間社会学部』Vol.28 No.2、pp123-131。

②その他最近の業績(2018年度~2020年度)

<学会発表>

陸麗君 2020年11月 「新型コロナウイルス蔓延下における華僑・華人の滞在と経済活動の現状と課題」第93回 日本社会学会 Zoomによる発表

陸麗君 2020年12月 大阪市立大学 東アジア包摂都市ネットワーク国際シンポジウム 「2020年度共同利用・共同研究課題(4) 感染症パンデミック危機状況下における外国人の経済活動と居住の現状と課題」Zoomによる発表

③過去の主要業績

陸麗君 2013年3月、「日本农村共同关系的发展以及对对中国农村的启示」(中国語)、『21世紀東アジア社会学』日中社会学会2013年第5号、pp159~176.

陸麗君・南裕子 2000年6月、「第6章 農村における基層組織の再編成と村民自治」、菱田雅晴

編 『現代中国の構造変動(5) 国家—社会との共棲関係』、東京大学出版会、pp165 - 188.

3. 外部研究資金(2020年度)

・大阪市立大学先端的都市研究拠点 2020年度 共同利用事業・共同研究公募「感染症パンデミック危機状況下における外国人の居住と経済活動の現状と課題」研究代表者 交付金額:20万円

・科学研究費助成事業(基盤研究(C))2020年度~2023年度

「大都市ガバナンス改革の都市政治社会学的研究」研究分担者 交付金額:10万円

・科学研究費助成事業(基盤研究(B))2018年度~2020年度

「分極化する都市空間におけるレジリエントな地域再生と包容力ある都市論の構想」

研究分担者 交付金額:20万円

4. 受賞(2020年度)

なし

5. 所属学会(2020年度)

日本社会学会、地域社会学会、日中社会学会、関西社会学会

6. 担当授業科目(2020年度)

教養演習・1単位・1年・前期

中国語Ⅰ-(1)A・1単位・1年・前期

中国語Ⅰ-(1)B・1単位・1年・前期

中国語Ⅰ-(2)A・1単位・1年・後期

中国語Ⅰ-(2)B・1単位・1年・後期

中国の社会と文化・2単位・1年と2年・後期

中国語Ⅱ-(1)A・1単位・2年・前期

中国語Ⅱ-(1)B・1単位・2年・前期

中国語Ⅱ-(2)A・1単位・2年・後期

中国語Ⅱ-(2)B・1単位・2年・後期

都市社会学・2単位・2年・前期

グローバル社会論(オムニバス)・2単位・2年・後期

中国語Ⅲ-(1)・1単位・3年・前期

中国語Ⅲ(2)・1単位・3年・後期

公共社会学研究Ⅰ・1単位 3年・前期

公共社会学研究Ⅱ・1単位 3年・後期

卒業論文・6単位・4年・通年

7. 社会貢献活動(2020年度)

地域社会学会学会賞 選考委員

田川市「バリアフリー方針(仮称)」作成に関する協議会委員

田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員

8. 学外講義・講演(2019年度)

なし

9. 附属研究所の活動等(2020年度)

中国華東理工大学社会与公共管理学院客員研究員

大阪市立大学都市研究プラザ 特別研究員

所属	人間社会学部／こどもコース	職名	准教授	氏名	鷺野 彰子
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

大阪教育大学教育学部教養学科芸術専攻音楽コース卒業、ニューヨーク州立大学パーチェス・カレッジ大学院及びデン・ハーグ王立音楽院大学院修了、大阪大学大学院文学研究科博士課程後期修了（博士（文学））。2011年より本学に就任。2016年4月より1年間、スタンフォード大学人文科学大学院客員研究員。

ピアノ及び歴史的楽器（クラヴィコード、フォルテピアノ）の演奏活動、そして19世紀の演奏様式を研究しており、特に近年は20世紀初期録音やピアノロール等の資料を用いた演奏分析研究を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

【論文】

鷺野彰子, 2018 「同一演奏者が同一曲を演奏する際の演奏速度の親近性：ローゼンタールとホフマンによるショパン《ワルツ Op.42》の複数録音の演奏比較」『阪大音楽学報』15, 51-82.

【教育実践記録等】

鷺野彰子, 2018 「弾き歌い」曲に占める主要三和音の割合：ピアノ初心者のための「弾き歌い」指導方法再考の必要性」『福岡県立大学紀要』26(2), 139-150.

鷺野彰子, 櫻井国芳, 2018 「幼児の表現活動における音楽「教材」と造形「教材」に関する研究ノート」『福岡県立大学紀要』26(2), 129-137.

②その他最近の業績

【学会発表】

Akiko Washino, Craig Stuart Sapp, Performance analysis of Alfred Grünfeld's acoustic and piano-roll recordings of Schumann's Träumerei, Symposium "Reaction to the Record VI" Stanford University (California, USA), 2018年4月7日.

鷺野彰子 「ロマン派的演奏と近代的演奏の分岐点に位置するヨーゼフ・ホフマン」日本音楽学会第69回, 桐朋学園大学（東京）2018年11月3日.

鷺野彰子 「演奏の転換点：近代的ピアノリズムの出現」日本音楽表現学会, 愛知教育大学（愛知）, 2019年6月6日.

Akiko Washino, Elucidating the modern and romantic aspects of Josef Hofmann's pianism through performance analysis, 国際音楽学会東アジア大会(IMSEA), 蘇州大学（中国）2019年10月18日.

Akiko Washino, Mazurka inflections in Chopin's Waltz op. 42: A performance analysis of the recordings and editions of Moriz Rosenthal and other contemporary pianists, 国際音楽学会東アジア大会(IMSEA), International Chopinological Conference, The Institute of Art of the Polish Academy of Sciences(ワルシャワ), 2019年11月20日.

鷺野彰子 「前奏を演奏する文化：初期録音に残された「前奏」演奏」日本音楽表現学会, 誌上発表, 2020年11月30日.

【書評】

鷺野彰子 「タイタニック号の若きヴァイオリニスト」（クリストファー・ウード著, 小笠原真司訳）『週刊読書人』2020年1月3日版, 6.

【雑誌】

鷺野彰子, 2018 「第1回ショパン国際ピリオド楽器コンクール」『ムジカノーヴァ』12月号, 35-36.

③過去の主要業績

【演奏】

鷺野彰子「シューベルトとヴォジーシェク」

ザ・フェニックスホール 2007年2月, 大倉山記念館 2007年1月.

鷺野彰子「モーツァルトとショパン～隠れた水脈～」

衍芸館 2008年10月, ザ・フェニックスホール 2008年10月.

鷺野彰子「クラヴィコードand/orピアノ」ザ・フェニックスホール 2009年12月.

3. 外部研究資金

平成31(令和元)年度-令和3年度 科学研究費補助金・基盤(C)

「19世紀の演奏文化における前奏演奏」(課題番号: 19K00256)

研究代表者 3,380,000円

4. 受賞

5. 所属学会

日本音楽学会 日本音楽表現学会

6. 担当授業科目

(学部)

音楽□・2単位・1年・通年、音楽□・1単位・2年・前期、音楽Ⅲ ・1単位・2年・後期、

演習・2単位・3年・通年、保育内容・表現□・1単位・3年・前期、

保育内容・表現□・1単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年、

保育内容演習・2単位・4年・後期、保育・教育実践演習(幼稚園)・2単位・4年・後期(大学院)

子ども教育表現研究・M1年・2単位・前期、子ども教育表現演習・M1年・2単位・後期、

教育課題研究B・M1年・1単位・後期、子ども教育実践実習Ⅰ・M1年・2単位・後期、

子ども教育実践実習Ⅱ・M2年・2単位・前期、地域教育課題演習・M2年・2単位・前期、

特別研究・M1～2年・4単位・通年

7. 社会貢献活動

福岡県文化芸術振興審議会委員

福岡県幼児教育アドバイザー

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部／人間形成学科	職名	講師	氏名	伊勢 慎
----	---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

岡山大学大学院教育学研究科学校教育専攻幼児教育講座修了、修士（教育学）。

修了後、保育者として現場経験が3年あります。授業や研究においてもその時の経験を活かし、子どもの育ちに寄与できるよう取り組んでいます。特に、初めての実習である保育実習Ⅰを担当しているため、現場での基本的なことから核となる子ども理解、指導案等の書き方など指導に力を入れています。

主な研究分野は、幼児教育、保育の内容に関すること、保育者養成に関することなどで、近年では、園内研修や保育者の前向きな働き方についても研究をしています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

【著書】

- ・田中敏明，伊勢慎，尾花雄路，金丸智美，川俣美砂子，徳安敦，永渕美香子，前田志津子，松井尚子：『コンパス保育原理—未来を生きる子どもの保育—』，建帛社，2019
- ・中坪史典，境愛一郎，濱名潔，保木井啓史，伊勢慎，サトウタツヤ，安田裕子：『質的アプローチが拓く「協働型」園内研修をデザインする 保育者が育ち合うツールとしてのKJ法とTEM』，ミネルヴァ書房，2018
- ・牧野桂一，中ノ子寿子，箕輪潤子，伊勢慎，相浦雅子，山田朋子，大谷朝，森暢子，渡邊由恵：『福岡県保育士等キャリアアップ研修テキスト～保育実践～』，総合健康推進財団，2018

【論文】

- ・池田孝博，杉野寿子，大久保淳子，鷲野彰子，中原雄一，伊勢慎：「保幼小連携におけるアプローチカリキュラムに関する研究の動向と課題」，福岡県立大学人間社会学部紀要第29巻(2)，2021
- ・伊勢慎：「私立保育園保育士の長期勤務要因に関する研究」，国際幼児教育研究第26巻，2019
- ・古橋啓介，池田孝博，杉野寿子，大久保淳子，中原雄一，伊勢慎：「子ども・子育て支援新制度導入後の基礎自治体の実態」，福岡県立大学人間社会学部紀要第27巻(1)，2019
- ・櫻井国芳，池田孝博，伊勢慎，古橋啓介：「道徳・規範意識の芽生えを意図した保育教材の開発」，福岡県立大学人間社会学部紀要第26巻(2)，2018
- ・池田孝博，伊勢慎，櫻井国芳，中原雄一，古橋啓介：「田川市立幼稚園における道徳・規範意識の芽生えを意図した教材開発のための運動遊びの介入と観察」，福岡県立大学人間社会学部紀要第26巻(2)，2018
- ・櫻井国芳，池田孝博，伊勢慎，古橋啓介：「田川・筑豊地区の基礎自治体における基本計画等にみる地域教育課題」，福岡県立大学人間社会学部紀要第26巻(2)，2018

②その他最近の業績

- ・伊勢慎：「長期勤務保育者の特徴とその継続要因とは」，日本保育学会第73回大会，2020
- ・高口知浩，伊勢慎：「保育の楽しさを失った元公立保育士が語る離職ストーリー」，日本乳幼児教育学会第29回大会，2019
- ・伊勢慎：「公立保育者と私立保育者の勤務継続要因の特徴」，日本保育学会第71回大会，2018
- ・高口知浩，伊勢慎：「私はなぜやめなければならなかったのか～元公立保育士の語りから探る園内の人間関係の在り方～」，日本保育学会第71回大会，2018
- ・中ノ子寿子，箕輪潤子，渡邊由恵，伊勢慎，諫山裕美子，戸田雅美「実践者が研究者になるまでの道程を探る～実践が「私」にもたらすもの～」，日本保育学会第71回大会，2018

- ・ Makoto ISE : Research into Factors for Long-Term Employment of Teachers in Public Nursery Schools in Japan . European Early Childhood Education Research Association 18th Conference, 2018
- ・ 高口知浩, 伊勢慎 : 「暗闇から抜け出せないまま離職に至った元公立保育士の葛藤～A保育士の語りから～」, 日本乳幼児教育学会, 2018
- ・ 伊勢慎, 副島正幸 : 「保育者不足の中で学生が就職したい園・勤め甲斐のある園」, 第12回九州保育研究会第28回大会, 2018
- ・ Makoto ISE : Research into Factors for Long Employment of Kindergarten Teachers in Private Kindergartens in Japan. The 16th Annual Hawaii International Conference on Education, 2018

③過去の主要業績

- ・ 森英子, 伊勢慎, 斉藤健司 : 『子育て考—子ども集団の中で一人ひとりを大切にしたい人的・物的環境の一例』, ふくろう出版, 2016
- ・ Makoto ISE : Factors behind Long-Term Employment in Child Care in Japan. Pacific Early Childhood Education Research Association 16th Annual Conference, 2015
- ・ 伊勢慎, 森英子 : 『子育て考—特に三歳未満児までの大切な育児法—』, ふくろう出版, 2014
- ・ Makoto ISE : Laying the Groundwork New Kindergarten Teachers in Career , The 8th KSECE Biennial International Conference, 2014
- ・ 伊勢慎 : 『保育暦』, ふくろう出版, 2012

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本保育学会, 国際幼児教育学会, 日本子ども社会学会, 日本質的心理学会, 日本発達心理学会, 日本乳幼児教育学会, 日本混合研究法学会

6. 担当授業科目

(学部)

- ・ 保育内容総論・2単位・2年・前期
- ・ 教育課程論(幼児教育)・2単位・2年・後期
- ・ 保育実習指導Ⅰ・2単位・2～3年・通年
- ・ 保育実習Ⅰ・4単位・3年・前期
- ・ 乳児保育・2単位・3年・前期
- ・ 保育実習指導Ⅱ-A・1単位・3年・後期
- ・ 保育実習Ⅱ-A・2単位・3年・後期
- ・ 演習・2単位・3年・後期・通年
- ・ 卒業論文・6単位・4年・通年
- ・ 保育・教職実践演習(幼稚園)・2単位・4年・後期

(大学院)

- ・ 教育課題研究A・2単位・修士1年・前期
- ・ 子ども保育計画研究・2単位・修士1年・前期
- ・ 子ども保育計画演習・2単位・修士1年・後期
- ・ 子ども教育実践演習Ⅱ・1単位・修士1年・後期
- ・ 地域教育課題演習・2単位・修士2年・前期
- ・ 特別研究・4単位・修士2年・通年(副指導担当)

7. 社会貢献活動

- ・香春町教育委員会評価委員委員長
- ・添田町社会福祉施設改革推進会議委員長

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	講師	氏名	鬼塚 香
----------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2010年上智大学大学院総合人間科学研究科社会福祉専攻博士前期課程修了、修士(社会福祉学)。目白大学人間学部人間福祉学科助教を経て、2018年4月から現職。精神保健福祉士・社会福祉士、福祉住環境コーディネーター2級取得。

大学卒業後、公的機関や精神科病院で、ソーシャルワーカーとして10年以上、精神障害者をはじめ生活支援を必要とする方々の支援を行ってきました。働くなかで、ソーシャルワーカーが専門職としてどのように成長していくのかに関心を持ち、大学院に進学しました。その後、ソーシャルワークという仕事のやりがいを伝えたい、ソーシャルワーカーの活躍をバックアップできるような研究をしたいと考えるようになり、大学教員となりました。現在は、社会福祉専門職の成長過程や精神障害者をはじめとした支援を必要とする方々への支援のあり方をテーマにして、研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・鬼塚香・住友雄資「2020年度教育実践報告『精神保健福祉演習』-『心理情緒的支援』をが癒が理解するまで-」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻(2)、2021年3月。
- ・住友雄資・鬼塚香「『精神保健福祉援助演習』におけるロールプレイ活用の到達点と課題—クライアントを演じることを出発点に—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻(1)、2020年10月。
- ・鬼塚香・住友雄資「2019年度教育実践報告『精神保健福祉演習』-充実した演習を行うための前提と準備-」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻(1)、2020年10月。
- ・畑香理・鬼塚香・住友雄資・平川明美「2019年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』-精神保健福祉士に必要な技能を習得するための教育の試行-」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻(1)、2020年0月。
- ・住友雄資・鬼塚香「『精神保健福祉援助演習』の演習教育法に関する研究動向と課題」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第28巻(2)、2020年2月。
- ・畑香理・住友雄資・鬼塚香・平川明美「218年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』-効果的な事前学習につなげる教育法の試みを中心に-」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第28巻(1)、2019年9月。
- ・鬼塚香・住友雄資「208年度「精神保健福祉演習」-反転授業、アクティブ・ラーニング、チーム・ティーチングの試み-」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第27巻(2)、2019年2月。
- ・住友雄資・鬼塚香「記録の演習法—2018年度「精神保健福祉演習」の試みから—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第27巻(2)、2019年2月。

②その他最近の業績

- ・井上牧子・北川博司・鬼塚香・紅林聡美・寺島法弘「3 精神保健福祉相談援助の基盤」公益社団法人日本精神保健福祉士協会編『第20～22回 精神保健福祉士国家試験問題専門科目回答・解説集』へるす出版、2020年6月。
- ・井上牧子・北川博司・鬼塚香・紅林聡美・寺澤法弘・大塚淳子「3 精神保健福祉相談援助の基盤」公益社団法人日本精神保健福祉士協会編『第19～21回 精神保健福祉士国家試験問題専門科目解答・解説集』へるす出版、2019年6月。
- ・井上牧子・寺澤法弘・鬼塚香・大塚淳子「3 精神保健福祉相談援助の基盤」公益社団法人日本精神保健福祉士協会編『第18～20回 精神保健福祉士国家試験問題専門科目解答・解説集』へるす出版、2018年5月。
- ・井上牧子・大塚淳子・鬼塚香・山本由紀「3 精神保健福祉相談援助の基盤」公益社団法人日本精神保健福祉士協会編『第17～19回 精神保健福祉士国家試験問題専門科目解答・解説集』へるす出版、2017年5月。

集』へるす出版, 2017年5月.

<学会発表>

③過去の主要業績

- ・鬼塚香「第2章 精神医療保険福祉の歴史的変遷と特質」井上牧子・西澤利朗編『精神医学ソーシャルワークの原点を探るー精神保健福祉士の再考ー』光生館, 2017年10月.
- ・鬼塚香「精神障害者の地域生活を支える相談支援についてのー考察ー相談支援専門員へのインタビュー調査からー」『目白大学総合科学研究』第13号, 2017年3月.
- ・鬼塚香「精神保健福祉士の成長に関するー考察ーA県精神保健福祉士会Bブロックへのアンケート調査からー」『目白大学総合科学研究』第12号, 2016年3月.
- ・國重智弘・鬼塚香「精神科ソーシャルワーカーの援助に対する自己批判」『ライフデザイン学研究』第11号, 2016年3月.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業【基盤研究(B)】研究代表者: 細井勇 (福岡県立大学)「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究ー日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に」30年度~32年度, 研究分担者.

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会福祉学会
日本精神障害者リハビリテーション学会
日本キリスト教社会福祉学会
福岡県立大学社会福祉学会
日本精神保健福祉士協会
全国精神保健福祉相談員会

6. 担当授業科目

社会福祉学演習・2単位・3年・通年、精神保健福祉援助技術各論Ⅰ・2単位・3年・前期、精神科リハビリテーション学Ⅰ・2単位・3年・前期、精神保健福祉論Ⅲ・2単位・3年・後期、精神保健福祉演習・1単位・3年・前期、精神保健福祉援助演習・2単位・3年後期~4年後期、精神保健福祉援助実習指導・3単位・3~4年・通年、精神保健福祉援助実習・5単位・4年・通年、卒業論文・6単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

直方市障がい者差別解消調整委員会 委員長
福岡県社会福祉士会 査読委員
日本ソーシャルワーク教育学校連盟九州ブロック 運営委員
福岡県立大学社会福祉学会 事務局
旧田川東高校跡地活用検討委員会 委員

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	講師	氏名	河本恵美
------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2012年北九州市立大学大学院社会システム研究科 博士前期課程を修了、2017年同大学院社会システム研究科地域社会システム専攻 博士後期課程修了、博士(学術)。同年より2019年3月まで、同大博士研究員として引き続き研究。2019年、福岡県立大学人間社会学部専任講師。その他、2007年海上保安庁関門海峡海上交通センター運用管制官海事英語講師(至2016年)、2009年海上保安学校門司分校海事英語講師(現在に至る)、2014年下関市立大学非常勤講師英語演習(至2019年)、2017年北九州市立大学外国語学部英米学科非常勤講師(至2019年)、2014年度・2018年度福岡県立大学非常勤講師英語IVなど。

研究分野は、海事英語及び日韓海事文化の比較研究である。近年、海上輸送による貿易量が増加しているが、その船舶の大半は外国船籍である。海上交通の発展に伴い、外国船舶の海難事故も増加傾向である。海の安全を支えている海上管制官は、安全航行に必要な情報を提供しているが、外国船舶に対しては英語での交信が必須であることから、実践的な海事英語を効果的に習得しなければならない。研究内容は、海難事故報告書や管制官の交信データを収集し、母語に干渉された英語の誤用表現を分析している。同時に、船員は非英語話者が大半であることから、各国の英語の特徴の分析も必要となる。海上交通における海難事故や海上での被害を防止するために、日本と韓国間による海事英語や海事文化の比較研究も行い、日韓海上交通管制官の外国船への対応を文化面からも検証している。今後は更に調査範囲を拡大し、より多くの交信データや海難事故事例を収集し、日韓で管制官を交えた研究を目標としている。

海事英語教育研修においては、海上交通管制官が現場で外国船舶の乗組員と円滑にコミュニケーションを取ることが出来るよう、より効果的な海事英語研修の構築を目指し、また各管制官やオペレーターの英語力向上、及び通信においての運用能力向上も目標としている。

現在日本と韓国の二国間で調査・研究を行っているが、大連海洋大学(中国)とも共同研究・調査を実施し、福岡・釜山・大連の3都市で海事英語教育の発展のため、まだ同時に日中韓の関係改善にも本研究が貢献出来ることを期待している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

・ Kawamoto, E. (March. 2018). A Comparative Study of Communication Styles: A Study of the Differences and Similarities of Communication Patterns in Japan and Korea. Journal of Social System Studies Published by Graduate School of Social System Studies, The University of Kitakyushu, Vol. 16, pp. 1-16.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・ 柴田雅博・石崎龍二・河本恵美・増満誠・中本亮 R2年度採択 付属研究所研究奨励交付金(データサイエンス研究) 「ウィズコロナ、アフターコロナにおけるオンライン授業の運営に関する研究」

・ Williamson, Rodger S. and Kawamoto, E., 2019 2018年度二国間交流事業 日韓海事英語教育研究共同セミナー(研究者として参加、代表者 北九州市立大学外国語学部教授 Rodger S. Williamson) A Comparative Study of Maritime Cultures: Focusing on Genres of Spoken and Written Maritime Communications, January 16-17

③過去の主要業績

・ Williamson, Rodger S. and Kawamoto, E. (2017). A Comparative Study of the Actions and

Procedures of Korean and Japanese Vessel Traffic Service Officers. Journal of World Ocean Development published by World Ocean Development Institute at Korea Maritime and Ocean University, Vol. 26, pp. 200-227.

・ Williamson, Rodger S. and Kawamoto, E. (2016). Errors in Maritime English 2 Communications by Japanese Vessel Traffic Service Operators. Faculty of Foreign Studies, The University of Kitakyushu, No. 142, pp. 103-112.

・ Williamson, Rodger S. and Kawamoto, E. (2014). Commonalities Shared by Pidgin English and Maritime English. Faculty of Foreign Studies, The University of Kitakyushu, No. 137, pp. 53-67.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

社会言語科学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、

英語Ⅱ-(1)・1単位・1年・前期 英語Ⅱ-(2)・1単位・1年・後期

英語Ⅳ-(1)・1単位・3年(公共社会・人間形成学科)・前期

英語Ⅳ-(2)・1単位・3年(公共社会・人間形成学科)・後期

英語Ⅳ-(1)・1単位・3年(社会福祉学科)福祉英語・前期

英語Ⅳ-(2)・1単位・3年(社会福祉学科)福祉英語・前期

その他、専門看護学ゼミ・1単位・3年・通年、卒業研究・1単位・4年生・通年 など

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

・2021年2月22日 飯塚高等学校出前講義

・2018年9月29日 平成30年度北九州市立大学公開講座 『関門海峡から見た日韓文化比較』
「海上管制官から見た日本と韓国」

・ポータルラジオオペレータートレーニング 海事英語講師

9. 附属研究所の活動等

保有学位

博士(学術)

所属	人間社会学部／心理コース	職名	講師	氏名	小山 憲一郎
----	--------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

2015年10月に本学に着任しました。現在は、ストレス関連疾患における認知行動療法の研究、マインドフルネスをはじめとした不安の受容を促す心理療法の作用機序に関する実証研究を主に行っています。特に肥満症に対してマインドフルネスを用いた治療の効果についての研究に参加しており、2020年にMindfulness Based Eating Awareness Training (MB-EAT) のQualified Instructorの資格を取得しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ Keizaburo Ogata, Ken Ichiro Koyama, Takamasa Fukumoto, Suguru Kawazu, Mihoko Kawamoto, Eriko Yamaguchi, Yuuki Fuku, Marie Amitani, Haruka Amitani, Ken Ichiro Sagiya, Akio Inui, Akihiro Asakawa (2021) The relationship between premorbid intelligence and symptoms of severe anorexia nervosa restricting type *Int J Med Sci* 8(7):1566-1569.
- ・ 塚元一正 小山憲一郎 (2021) 怒りに関する包括的な心理モデルの作成 臨床心理学 金剛出版; 21(1), 109-116,
- ・ 下満 由貴 小山 憲一郎 (2021) 困難克服過程で受けた支えに対する感謝が大学生の時間的展望に及ぼす影響福岡県立大学人間社会学部紀要 29(2),
- ・ 前原 未佳 下満 由貴 小山 憲一郎 (2020) 心理的非柔軟性に動機づけられたストレスコーピングは主観的幸福感を高めるのか? 福岡県立大学人間社会学部紀要 29(1), 1-18,
- ・ 小山憲一郎 荒木久澄 小牧元 野崎剛弘 (2020) マインドフルネスを食観トレーニング: Mindfulness Based Eating Awareness Training (MB-EAT) に関する基礎研究—チョコレートエクササイズのマインドフルネス音声指示はチョコレートの摂食量を減らさうるか— 福岡県立大学人間社会学部紀要 第28巻 第2号
- ・ Keizaburo Ogata, Ken Ichiro Koyama, Marie Amitani, Haruka Amitani, Akio Inui (2018) Case Report: The Effectiveness of Cognitive Behavioral Therapy with Mindfulness and an Internet Intervention for Obesity: A case series *Frontiers | Nutrition*
- ・ 松浦隆信 小山憲一郎 (2017) 不安の受容を促す介入技法の作用機序に関する実験心理学的検討—不安に対する指示の心理・生理的反応に対する予備的研究— 日本森田療法学会雑誌 別冊 28 (2) 129-138,
- ・ Ken Ichiro Koyama, Haruka Amitani, Ryo Adachi, Toshiki Morimoto, Megumi Kido, Yuka Taruno, Keizaburo Ogata, Marie Amitani, s Akihiro Asakawa & Akio Inui. Good appearance of food gives an appetizing impression and increases cerebral blood flow of frontal pole in healthy subjects *International Journal of Food Sciences and Nutrition* 67,1, 2016
- ・ 小山憲一郎 乾明夫 FD診療ガイド 「困った症例」問診や信頼関係の構築がうまくいかない患者にはどう対応すればよいか?, 株式会社 ヴァンメディカル, 2015年, 単行本 (学術書)
- ・ 小山憲一郎 肥満症患者への適切な心理的アプローチ: 臨床心理士の立場から (特集 現在の肥満症治療のあり方), 日本医事新報, 4698,36-42, 2015

②その他最近の業績

- ・ 塚元一正 小山憲一郎 怒り反すうの作用機序に関するモデル作成とそれに基づく怒り反すう低減プログラムの検討 2019 第80回九州心理学会
- ・ 緒方慶三郎 小山憲一郎 乾明夫 ドロップアウト防止を目的とした肥満に対するインターネットによる介入を加えた認知行動療法の試み—フォローアップを含めた検討— 日本認知・行動療法学会 第42回大会 2016
- ・ 松浦隆信 小山憲一郎 不安の受容を促す介入技法の作用機序に関する実験心理学的検

③過去の主要業績

・小山憲一郎・乾明夫 認知機能アセスメントを活かした過敏性腸症候群の治療 : WAIS-III を利用した心理社会的アプローチ (特集 過敏性腸症候群の病態と診療) *Psycho-social approach to the treatment of IBS using the assessment of cognitive functions* 消化器内科 59 (3) ,237-241,2014

・Ken Ichiro Koyama, Akihiro Asakawa, Toshihiro Nakahara, Haruka Amitani, Marie Amitani, Masaki Saito, Yuka Taruno, Takahiro Zoshiki, Kai-Chun Cheng, Daisuke Yasuhara, Akio Inui, (2012) Intelligence quotient and cognitive functions in severe restricting-type anorexia nervosa before and after weight gain *Nutrition* ;28:1132-1136. (学位論文)

3. 外部研究資金

岡本記念財団 研究助成 2019 認知行動的森田療法の「怒り反すう」への応用に関するプログラム評価研究

4. 受賞

2019年第2回日本心身医学関連学会合同集会 優秀演題
マインドフルネス食観トレーニング(MB-EAT)を用いた集団肥満治療
荒木久澄¹,小山憲一郎²,野崎剛弘¹,小牧元³,須藤信行¹
1九州大学大学院医学研究院心身医学,2福岡県立大学人間社会学部,3福岡国際医療福祉大学医療学部

2019年 第9回 日本マインドフルネス学会 優秀ポスター発表賞
新たな肥満治療戦略, マインドフルネス食観トレーニング
Novel Approach to Obesity, Mindfulness-Based Eating Awareness Training (MB-EAT)
荒木 久澄 (九州大学大学院医学研究院心身医学)
小山 憲一郎 (福岡県立大学人間社会学部)
野崎 剛弘 (九州大学大学院医学研究院心身医学)
小牧 元 (福岡国際医療福祉大学医療学部)
須藤 信行 (九州大学大学院医学研究院心身医学)

5. 所属学会

日本認知療法・認知行動療法学会 日本心身医学会 日本生理心理学会 日本スポーツ心理学 日本肥満症治療学会 日本心理臨床学会 等

6. 担当授業科目 障害者(児)心理学(4年前期 2単位) 健康・医療心理学(2年後期 2単位) 子供学習支援論(1年後期 1単位) 不登校・ひきこもり援助応用演習(4年後期 1単位) 演習(3年後期—4年前期 2単位) 教養演習(1年前期 1単位) など

大学院

臨床心理実習(学内)(1単位・2年・通年)、臨床心理基礎実習(2単位・1年・通年)、臨床心理学特論(2単位・1年・前期)、臨床心理実習(施設)(1単位・2年・前期)など

7. 社会貢献活動

(査読) 福岡県立大学心理臨床研究

8. 学外講義・講演

幸袋こども園 マインドフルネスを用いたアンガーマネジメント講演

福岡矯正管区 職員研修 ペアレントトレーニングの概要

第1回遠賀川地区ろうあん研修 マインドフルネスを用いたアンガーマネジメント講演

9. 附属研究所の活動等

1. 「お父さんとお母さんの学習室 (ペアレントトレーニング)」
2. 「教師・保育士のための特別支援教育スキルアッププログラム」

所属	人間社会学部／公共社会学科	職名	講師	氏名	阪井 裕一郎
----	---------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

愛知県出身。慶應義塾大学文学部卒業、慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程修了。博士（社会学）。慶應義塾大学、津田塾大学、立教大学などで非常勤講師、日本学術振興会特別研究員PDを経て、2017年4月より本学に着任。

専門は社会学、特に家族社会学・歴史社会学・質的調査研究。これまでおこなってきた主な研究内容は、1) 近代日本の家族・結婚に関する歴史社会学的研究、2) 事実婚や同棲といったパートナー関係に関する質的調査研究である。最近は、家族をこえて実践される共同生活に関心を持っている。北西欧社会に目を向ければ、従来の家族関係とは異なる多様なケア関係や共同生活が実践されており、家族研究の分野でも同棲（cohabitation）やレズビアン・ゲイカップルによる子育て、シェア居住等の多様な家族実践に注目が集まっている。現在は、こうした新たな家族や共同生活について国内外でフィールド調査・インタビュー調査をおこなっている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

阪井裕一郎，2021，「第2章 家族をめぐる概念とその変容」「第7章 家族と暴力」山口美和編『社会学と社会システム』ミネルヴァ書房。

エリザベス・ブレイク，2019，『最小の結婚——結婚をめぐる法と道徳』久保田裕之監訳，白澤社。（共訳：阪井担当「第7章 最小結婚——政治的リベラリズムは婚姻法にいかなる影響を及ぼすのか」、「第8章 最小結婚実現に向けた課題——貧困・財産・一夫多妻」）

阪井裕一郎，2019，「公共圏と家族」「世界の中の家族：家族のグローバル化」『よくわかる家族社会学』ミネルヴァ書房。

<論文>

阪井裕一郎，2020，「事実婚と『承認』——非法律婚カップルへのインタビュー調査から」『社会分析』社会分析学会，第47号，61-78。

阪井裕一郎，2018，「脱家族化と再家族化——少子化対策の正当性について」『家族研究年報』家族問題研究学会，第43号，53-62。

阪井裕一郎，2017，「マイホーム主義を問いなおす——ホームと連帯の再構築へ」『三田社会学』三田社会学会，第22号，55-75。

<研究ノート>

堤圭史郎・坂無淳・阪井裕一郎，2021，「福岡県内自治体の男女共同参画推進状況——政策意思決定・行政組織・地域自治への女性参画に着目して」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻2号，61-74。

②その他最近の業績

<評論等>

阪井裕一郎，2020，「ジェンダー平等を阻む『家族主義』の諸相」『三田評論』2020年4月号。

阪井裕一郎，2017，「変化するパートナー関係と共同生活——家族主義を問う」Synodos (<https://synodos.jp/society/20198>)

阪井裕一郎，2017，「学びなおしの5冊〈家族〉」『 α -Synodos』第223号。

渡辺秀樹・阪井裕一郎，2017，「特集『〈家族主義〉を超えて——戦後70年の家族と連帯』に寄せて」『三田社会学』第22号，1-2。

<書評>

阪井裕一郎, 2021, 「書評: 宮坂靖子著『避妊言説と家族の親密性——日本型近代家族の歴史社会学』」『比較家族史研究』第35号.

<学会報告>

阪井裕一郎, 「家族社会学者に学ぶ 家族・ジェンダー」日本家庭科教育学会近畿地区会, 大阪府立男女共同参画・青少年センター, 2019年8月17日.

坂無淳・阪井裕一郎・堤圭史郎, 「福岡県における地方自治体のジェンダー政策——男女共同参画推進体制の類型化」西日本社会学会第77回大会, 佐賀大学, 2019年5月25日.

阪井裕一郎, 「家族をめぐるリベラルの内なる対立——家族概念の再検討へ」2018年度第1回シノドス国際社会動向研究所研究会, 北海道大学東京オフィス, 2019年2月.

<討論者>

2017年度家族問題研究学会大会シンポジウム「家族研究と政策提言——少子化対策に焦点をあてて」2017年度家族問題研究学会大会, 早稲田大学, 2017年7月.

③過去の主要業績

<著書>

阪井裕一郎, 2017, 「多様化するパートナーシップと共同生活」永田夏来・松木洋人編『入門 家族社会学』新泉社, 133-149.

阪井裕一郎, 2015, 「親密性の変容」(p291)「親密圏」(p297)「家族の友人化/友人の家族化」(p297-8)「対抗的公共圏」(p298)比較家族史学会編『現代家族ペディア』弘文堂.

阪井裕一郎, 2014, 「『独身者』批判の論理と心理——明治から戦時期の出版物をとおして」椎野若菜編『境界を生きるシングルたち(シングルの人類学1)』人文書院, 165-186.

阪井裕一郎, 2013, 「居場所を求める若者/受験競争する若者——インタビュー調査にみる日韓の学校生活と友人関係」渡辺秀樹・金鉉哲・松田茂樹・竹ノ下弘久編『勉強と居場所——学校と家族の日韓比較』勁草書房, 120-149.

阪井裕一郎, 2012, 「アトミズム/ホーリズム」(pp20-21)「価値付与/価値剥奪」(p194)「ソキエタス」(p822)見田宗介(編集顧問)・大澤真幸・吉見俊哉・鷺田清一編『現代社会学事典』弘文堂.

<論文>

阪井裕一郎・本多真隆・松木洋人, 2015, 「事実婚カップルはなぜ『結婚』するのか——結婚をめぐる差異化と同一化の語りから」『年報社会学論集』関東社会学会, 第28号, 76-87.

阪井裕一郎, 2013, 「家族主義という自画像の形成とその意味——明治・大正期における知識人の言説から」『家族研究年報』家族問題研究学会, 38号, 75-90.

阪井裕一郎, 2012, 「家族の民主化——戦後家族社会学の〈未完のプロジェクト〉」『社会学評論』日本社会学会, 第249号, 36-53.

阪井裕一郎, 2009, 「明治期『媒酌結婚』の制度化過程」『ソシオロジ』第166号, 89-105.

<調査報告書>

阪井裕一郎, 2014, 「インタビュー調査にみる事実婚と同棲の現状」松木洋人・阪井裕一郎・本多真隆『法律婚をこえた共同性とケアの実践——事実婚と同棲の事例からみる家族の現在』第一生命財団調査研究報告書, 38-67.

阪井裕一郎, 2014, 「欧米における同棲 (cohabitation) の研究動向」松木洋人・阪井裕一郎・本多真隆『法律婚をこえた共同性とケアの実践——事実婚と同棲の事例からみる家族の現在』第一生命財団調査研究報告書, 3-15.

阪井裕一郎, 2011, 「現代青少年の友人関係の構造と類型——首都圏とソウルでのインタビュー調査を中心として」 渡辺秀樹編『青少年の社会化ネットワークと教育達成に関する日韓比較研究』平成20～22年度科学研究費（基盤研究B）研究報告書, 82-108.

<国際会議>

Sakai, Yuichiro, "Civilization and Familism in Modern Japan: Focusing on Institutionalization of Marital Norms" GCOE-CGCS Global Seminar: Civil Society, Governance and Democracy, Department of Government, Uppsala University, Sweden, 2009.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会学会、日本家族社会学会、家族問題研究学会（企画委員会委員）、関東社会学会、比較家族史学会、西日本社会学会

6. 担当授業科目

公共性の社会学・2単位・1年・前期
家族社会学A・2単位・2年・前期
家族社会学B・2単位・2年・後期
コミュニティ論・2単位・2年・後期
地域社会分析法A・2単位・3年・前期
社会調査実習・4単位・2年・通年
公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期
公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期
卒業論文・6単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

家族問題研究学会 『家族研究年報』専門査読委員
後藤寺駅前整備基本コンセプト検討部会 副会長
家族問題研究学会 企画委員会委員
田川市都市再生整備計画事業評価委員会 委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／地域社会コース・総合人間社会コース	職名	講師	氏名	坂無 淳
--------------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

私の研究分野は社会学とジェンダー研究です。具体的なテーマとしては、1つめに高等教育におけるジェンダー平等についてです。大学院生や入職の段階、研究者になった後など各段階でのジェンダー差やワーク・ライフ・バランスについて研究しています。2つめに、コミュニティと子育てについてです。日本の共同保育の事例研究や、近年はイギリスのロンドンでのコミュニティ開発と子育てについての研究をしています。3つめに、大学教育における学生の主体的な参加を促す技法についてです。これまで学生が実際にデータを集め分析する科目を教えてきました。他科目でもファシリテーションなどの手法を取り入れています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

Bolton, Matthew, 2018, *How to Resist: Turn Protest to Power*, London: Bloomsbury Publishing. (藤井敦史・大川恵子・坂無淳・走井洋一・松井真理子訳, 2020, 『社会はこうやって変える!——コミュニティ・オーガナイズング入門』法律文化社。) 翻訳担当: 第4章, 第6章, 第7章

坂無淳, 2020, 「ディスカッションの経験を積もう」『旅する大学生のガイドブック——レポートの書き方』福岡県立大学教養演習テキスト出版会, 38-9.

坂無淳, 2020, 「女性の労働者協同組合による移民女性のエンパワーメントと連帯——ロンドン・タワーハムレッツ区の事例から」『社会分析』47: 43-59.

湯川やよい・坂無淳・村澤昌崇, 2019, 「大学教授職研究は何をなしうるか——成果と展望」『教育社会学研究』104: 81-104.

坂無淳, 2019, 「統計学とデータ分析に対する知識と意識——社会科学を専攻する大学生の事例から」『福岡県立大学人間社会学部紀要』27(2): 75-87.

②その他最近の業績

<学会発表・研究会>

坂無淳, 2020, 「日本の高等教育機関で実施されているジェンダー施策の実態と課題」日本ジェンダー学会第23回大会(於奈良女子大学(オンライン)), 9月27日.

大久保淳子・坂無淳・柴田雅博, 2020, 「就学前のプログラミング的思考の育成カリキュラムの開発」国際幼児教育学会第41回大会(於広島大学(オンライン)), 9月19-30日.

坂無淳, 2019, 「移民女性への持続的なエンパワーメントはどのように可能になっているか」日本NPO学会第21回年次大会(於龍谷大学), 6月2日.

坂無淳・阪井裕一郎・堤圭史郎, 2019, 「福岡県における地方自治体のジェンダー政策——男女共同参画推進体制の類型化」第77回(2019年度)西日本社会学会大会(於佐賀大学), 5月25日.

坂無淳, 2019, 「ジェンダー・バランスの不均衡と研究活動におけるジェンダー差」第7回RIHE 広島大学高等教育研究開発センター公開研究会「日本における女性教員のキャリア: 現状と課題を多角的に考察する」(於広島大学), 1月25日.

Jun Sakanashi, 2018, “Gender Differences of Japanese Graduate Students’ Anxiety and Mental Health: Multiple Linear Regression and Quantile Regression Analysis”, World Social Science Forum 2018, Fukuoka, Japan, September 25-8.

坂無淳, 2018, 「大学のジェンダー施策の実態と課題——女性研究者支援モデル育成事業実施機関のホームページ調査から」第91回(2018年度)日本社会学会大会(於甲南大学), 9月15日.

<報告書・書評・評論・エッセイ>

坂無淳編, 2021, 『社会調査実習報告書 2020 社会学系学科卒業生の生活と意識——卒業生調査の再分析から』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科。(全158ページ)

坂無淳, 2020, 「イギリスの豊富な実例からコミュニティ・オーガナイズの手法を学ぶ」,
WAN ウェブサイト.

坂無淳, 2020, 「大石茜著『近代家族の誕生——女性の慈善事業の先駆、「二葉幼稚園」』
『図書新聞』3456: 5.

坂無淳, 2019, 「はじめて研究集会に参加して」『季刊保育問題研究』299: 163.

坂無淳, 2019, 「福元真由美著『都市に誕生した保育の系譜』——アソシエーションイズムと
郊外のユートピア』『図書新聞』3414: 3.

坂無淳, 2019, 「地方を変える女性たち——カギは『ビジョン』と『仕組みづくり』！」
『Cutting-Edge』66: 2.

坂無淳, 2019, 「新任者・離任者・就職者から一言」『広島大学高等教育研究センター コリ
ーグ』52: 15.

坂無淳編, 2019, 『社会調査実習報告書 2018 社会学系学科卒業生の生活と意識に関する調
査』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科. (全 150 ページ)

③過去の主要業績

坂無淳, 2018, 「日本の高等教育と科学技術におけるジェンダー政策——男女共同参画基本
計画と科学技術基本計画を中心に」『福岡県立大学人間社会学部紀要』26(2): 19-35.

坂無淳, 2015, 「大学教員の研究業績に対する性別の影響」『社会学評論』65(4): 592-610.

坂無淳, 2014, 「都市における保育の共同——埼玉県新座団地の共同保育の事例から」『立
教大学コミュニティ福祉研究所紀要』2: 61-80

3. 外部研究資金

科研費、若手研究（研究代表者）、高等教育におけるジェンダー・バランスの不均衡とそ
の是正に関する実証研究、3770千円、2018～2022年

科研費、基盤B（研究分担者、研究代表者：藤井敦史）、社会的連帯経済の「連帯」を紡ぎ
出すものは何か——コミュニティ開発の国際比較研究、15730千円、2018～2023年

科研費、基盤B（研究分担者、研究代表者：河野銀子）、女子の理系進路選択拡大に向けた
STEM分野の新たな高大接続モデル——4か国比較から、15470千円、2019～2023年

科研費、基盤C（研究分担者、研究代表者：大久保淳子）、プログラミング的思考の育成カ
リキュラムの開発——就学前～小学校の接続を焦点として、3510千円、2018～2022年

4. 受賞 該当なし

5. 所属学会 日本社会学会、日本ジェンダー学会、日本教育社会学会、北海道社会学会、
西日本社会学会、ISA (International Sociological Association), RC32 Women, Gender,
and Society, RC04 Sociology of Education

6. 担当授業科目 データ分析の基礎・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・
前期、統計学・2単位・1年・後期、社会統計学Ⅰ・2単位・2年・前期、社会統計学Ⅱ・
2単位・2年・後期、社会調査実習Ⅰ・Ⅱ・各2単位・2年・前後期、ジェンダー論・2
単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ・各1単位・3年・前後期、社会福祉学演習・
2単位・3年・通年、演習・2単位・3年・通年、卒業論文・6単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

坂無淳, 2020～現在, 福岡市男女共同参画推進センターアドバイザーの会委員.

坂無淳, 2019～現在, 広島大学高等教育研究開発センター客員研究員.

坂無淳, 2018～現在, 田川市男女共同参画センター運営委員・ゆめっせフェスタ実行委員.

8. 学外講義・講演

坂無淳, 2020, 「社会学入門」(於佐賀県立鳥栖高等学校), 10月23日.

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学令和2年度研究奨励交付金(全学横断型教育プログラム研究助成)(研究担
当者、研究代表者: 佐藤繁美)、データサイエンスプログラム(旧称: 保健福祉情報教
育プログラム)の教育効果調査及び教材の開発、2020～2021年

人間社会学部／こどもコース	職名	講師	氏名	櫻井 晋伍
---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業、同大学院美術研究科芸術学専攻美術教育研究分野修了。

主に、水彩画の表現技法を用いた絵画制作研究を行っている。また、幼児の造形教育について、保育現場の協力を得て、製作活動と鑑賞教育に関する調査研究を行っている。

授業では、保育士および幼稚園教諭養成のための造形表現関連科目を担当している。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文（2018～2020年度）

- ・櫻井晋伍「3歳未満児の造形活動に関する考察－現職保育者へのアンケート調査を通して－」大学造形美術教育研究第18号，2020.3
- ・櫻井晋伍「幼小接続期の造形教育に関する考察－保育者養成教育の立場から－」大学造形美術教育研究第17号，2019.3

② その他最近の業績（2018～2020年度）

<作品発表>

- ・櫻井晋伍「或る日」出展，美術教育の森－美術教育研究室の作家たち－（東京藝術大学大学美術館），水彩画，(H)1167mm×(W)910mm，2019.1

③ 過去の主要業績（3点以内）

- ・櫻井晋伍「保育者養成課程における壁面構成の制作技能育成に関する考察－鑑賞教育を通じた実践－」大学造形美術教育研究第16号，2018.3
- ・櫻井晋伍「幼稚園教育実習の造形活動に関する研究－学生の実践事例を通して－」久留米信愛女学院短期大学幼児教育学科研究紀要<信愛保育研究>，2017.10
- ・櫻井晋伍「保育者養成課程における鑑賞教育に関する考察－日本画の構図と色彩に着目して－」久留米信愛女学院短期大学幼児教育学科研究紀要<信愛保育研究>，2017.10

3. 外部研究資金（2020年度）

該当なし

4. 受賞（2020年度）

該当なし

5. 所属学会

- ・美術科教育学会
- ・日本美術教育学会
- ・日本保育学会
- ・日本保育文化学会

6. 担当授業科目（2020年度）

<学部>

造形Ⅰ（1単位・1年前期）

造形Ⅱ（1単位・1年後期）

幼児と表現A（1単位・2年前期）

保育内容の指導法・表現A（1単位・2年後期）

保育内容・表現Ⅰ（1単位・3年前期）
保育内容・表現Ⅱ（1単位・3年後期）
保育内容演習（2単位・4年後期）
保育・教職実践演習（幼稚園）（2単位・4年後期）

<大学院>

子ども造形表現研究（2単位・1年前期）
子ども造形表現演習（2単位、1年後期）
教育課題研究B（2単位・1年後期）

7. 社会貢献活動（2020年度）

- ・令和3年度全国保育士養成セミナー企画委員

8. 学外講義・講演（2020年度）

該当なし

9. 附属研究所の活動等（2020年度）

該当なし

所属	人間社会学部／総合人間社会コース	職名	講師	氏名	柴田 雅博
----	------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1999年九州大学システム情報科学研究科修士課程を修了、2005年同大学同研究科博士後期課程を単位取得退学。1年間財団法人九州システム情報技術研究所に勤務後、九州大学システム情報科学研究科に戻り研究員を勤める。2012年フェリス女学院大学情報センター助手を勤めたのち、2015年本学人間社会学部講師に就任する。

専門は自然言語処理という人間が日常使っている言葉（自然言語）をコンピュータで解析し他の処理に応用する研究である。その中で私は特にWWW上にある膨大なテキストデータを利用し、そこから言語知識を獲得し、英日のフレーズ翻訳知識を収集したり対話処理に応用したりといったことを行っている。そのほか、情報教育、プログラミング教育に関する研究も行っている。

本学では情報学教育を中心として、教育プログラム「データサイエンス・プログラム」に携わっている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- 柴田雅博：「福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果(2018年度)」『福岡県立大学人間社会学部紀要』Vol.27, No.2, pp.143-156, (2019.2).
- 猪狩崇, 石崎龍二, 櫛直美, 柴田雅博, 小野順子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 尾形由起子：「地域包括ケアシステム構築に向けた人的ネットワーク形成・運営に関する一考察」『福岡県立大学看護学研究紀要』Vol.16, pp.121-128, (2019.3).
- 寺島正博, 石崎龍二, 柴田雅博, 許棟翰, 藤田和利, 松崎貴之, 小松啓子：「社会福祉法人における業務支援システムの導入効果と課題—T社会福祉法人の事例を通じて—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』Vol.28, No.1, pp.51-63, (2019.9).
- 柴田雅博：「福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果(2019年度)」『福岡県立大学人間社会学部紀要』Vol.28, No.2, pp.55-69, (2020.2).
- 寺島正博, 石崎龍二, 柴田雅博：「障害福祉サービス事業所におけるICTシステム導入の実績とそれに伴う業務効率の意識—T県におけるアンケート調査を通じて—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』Vol.29, No.2, pp.47-60, (2021.2).
- 柴田雅博：「幼児期プログラミング教育用教材の分析」『福岡県立大学人間社会学部紀要』Vol.29, No.2, pp.103-114, (2021.2).
- 柴田雅博：「福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果(2020年度)」『福岡県立大学人間社会学部紀要』Vol.29, No.2, pp.179-190, (2021.2).

② その他最近の業績

- 寺島正博, 石崎龍二, 柴田雅博, 許棟翰, 松崎貴之, 藤田和利, 小松啓子：「日本の障害福祉サービス事業所における業務支援システムの導入とその課題—T社会福祉法人の事例を通じて—」, 第98回韓国日本学会国際学術大会, (2019.2).
- 大久保淳子, 坂無淳, 柴田雅博：「就学前のプログラミング的思考の育成カリキュラムの開発」, 国際幼児教育学会第41回大会, (2020.9).

③ 過去の主要業績

(論文)

- 柴田雅博, 富浦洋一, 田中省作：「Web上の語の共起性に基づいたコロケーションの翻訳支援」, 『情報処理学会論文誌』, Vol.46, No.6, pp.1479-1491, (2005.6).
- 柴田雅博, 富浦洋一, 西口友美：「雑談自由対話を実現するためのWWW上の文書からの妥当な候補文選択手法」, 『人工知能学会論文誌』, Vol.24, No.6, pp.507-520, (2009.9).
- M. Shibata, T. Funatsu, Y. Tomiura: "Extraction of Alternative Candidates for

Unnatural Adjective-Noun Co-occurrence Construction of English”, Procedia - Social and Behavioral Sciences, Vol.27, pp.32-41, (2011.11).

他

3. 外部研究資金

- ・ 日本学術振興会,科学研究費基盤研究 (C), 「大学生のITセキュリティに関する新たな教育プログラムの構築」 (研究代表者: 中村晋介) 3,380千円, 平成28年度~令和元年度,, 研究分担者.
- ・ 日本学術振興会,科学研究費基盤研究 (C), 「プログラミング的思考の育成カリキュラムの開発ー就学前~小学校の接続を焦点としてー」 (研究代表者: 大久保淳子) 3,510千円, 令和元年度~令和3年度, 研究分担者.

4. 受賞

なし

5. 所属学会

情報処理学会, 電子情報通信学会, 人工知能学会, 言語処理学会, 日本情報教育学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期, 情報処理の基礎と演習・2単位・1年・前期, Webデザイン演習・1単位・2年・前期, 情報ネットワーク論・2単位・2年・後期, データベース論・2単位・2年・後期, グローバル社会論・2単位・2年・後期 (オムニバス), プログラミング演習・1単位・3年・前期, 情報検索システム論・2単位・3年・後期

7. 社会貢献活動

なし

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

R1研究奨励交付金研究 (COC) 「障害福祉サービス事業所におけるICT導入の実績とそれに伴う業務効率の意識ーT県におけるアンケート調査を通じてー」, 研究分担者

R2研究奨励交付金研究 (データサイエンス) 「ウィズコロナ、アフターコロナにおけるオンライン授業の運営に関する研究」, 研究代表者

R2研究奨励交付金研究 (横断型教育プログラム開発) 「データサイエンス・プログラムの教育効果調査及び教材の開発」, 研究分担者

R2研究奨励交付金研究 (重点領域) 「地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データのGIS分析による地域診断モデルの開発」, 研究分担者

【上記とは別にHP掲載する主な研究内容 (1~3の項目数の範囲で) 及び保有学位】

(研究内容)

1. 自然言語処理に関する研究
2. 情報教育に関する研究

(保有学位)

博士 (工学)

人間社会学部／子どもコース	職名	講師	氏名	董 秋艶
---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

- 2014.3 九州大学大学院人間環境学府教育システム専攻博士後期課程を満期退学
 2014.4-2016.3 九州大学大学院人間環境学研究院の学際企画室 テクニカルスタッフ
 2016.4-2019.3 九州大学大学院人間環境学研究院教育学部門 助教
 2015.3 九州大学より博士（教育学）の学位を授与されました。
 2019.4- 本学着任

研究課題は、これまで中国の近代女子教育の成立史を解明すると共に、その成立をめぐる日中関係史を解明してきた。現在は日清戦争後の中国における日本女子教育情報の経路に関する研究を進んでいる。課題を解決するために、主に当時の日中両国のヒトやモノなどの動きに関する資・史料を駆使している。また、中国の近代幼児教育成立に関する日中関係史の研究にも関心がある。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・董秋艶（2021）「清末中国における日本の女子教育の情報 一下田歌子の『新撰家政学』（1900）の中国語翻訳書に着目して」『教育基礎学研究』九州大学教育基礎学研究会、第18号、2021（令和3）年3月末までに掲載予定。
- ・董秋艶（2019）「清末中国中央政府の「日本モデル」教育改革—1901年の新政に着目して—」『九州大学大学院教育学研究紀要』第21号、73-84頁

②その他最近の業績

<研究資料>

- ・董秋艶（2019）「中国における乳幼児教育の現状と課題」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第28巻第1号、111-120頁

<学会発表>

- ・董秋艶（2019）「下田歌子と清末中国の女子教育—『新選家政学』（1900年）に着目して—」教育史学会、静岡大学、2019年

③過去の主要業績

- ・董秋艶（2014）「清末中国における日本女子教育情報—受容の経路に着目して—」『九州教育学会研究紀要』九州教育学会 第41巻 121-128頁
- ・董秋艶（2013）「清末中国女子教育の制度化における日本女子教育情報の役割—吳汝綸の日本教育視察（1902）をめぐって—」『国際教育文化研究』九州大学大学院人間環境学研究院国際教育文化研究会 第13号 161-172頁
- ・董秋艶（2012）「日清戦争後中国における日本の女子教育情報—吳汝綸による日本視察（1902）を通して—」『日本の教育史学』教育史学会紀要 第55号 72-83頁

3. 外部研究資金

- ・科学研究費助成事業（若手研究）令和元年度—令和3年度 3900千円 研究課題「日清戦争後の中国における日本女子教育情報の経路に関する研究」

4. 受賞

特になし

5. 所属学会

教育史学会、アジア教育学会、九州教育学会

6. 担当授業科目

<学部>教育学概論A・2単位・1年・前期、保育学・2単位・2年・前期、生涯教育論・2単位・2年・後期、幼稚園教育実習事前事後指導・1単位・3年・前・後期、保育・教育実践演習（幼稚園）・2単位・4年・後期、幼稚園実習Ⅰ・Ⅱ・2単位・2年・前・後期、その他

<大学院>子ども教育制度研究・2単位・1年・前期、子ども教育制度演習・2単位・1年・後期、教育課題研究A・2単位・1年・前期、教育課題演習A・2単位・1年・後期

7. 社会貢献活動

特になし

8. 学外講義・講演

特になし

9. 附属研究所の活動等

特になし

人間社会学部／社会福祉コース	職名	講師	氏名	松岡 佐智
----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学大学院人間社会学研究科修士課程修了，修士（福祉社会学）。

私は現在，高齢者福祉と社会福祉教育を主な研究分野としています。高齢者福祉分野では，これまで，「高齢者の生きがい支援のあり方」，「認知症高齢者に係る職員の職務意識と資質向上に関する研究」等について取り組んできました。現在は，自らの意見を表明出来にくい認知症高齢者の権利擁護を推進していく必要性を踏まえ，「高齢者虐待の予防・再発防止に向けた課題」について研究を進めています。特に，虐待通報・相談等件数及び虐待判断件数は増加傾向にある入所施設の職員に焦点を当て，「施設内虐待予防に向けたセルフチェックシステムの開発」について研究に取り組んでいます。

また，社会福祉教育分野では，社会福祉士の実習教育のあり方にも取り組んできました。これまでの具体的な取組みとして，「福岡県内の社会福祉施設におけるボランティアの受入れ実態に関する調査研究」，「福岡県立大学社会福祉学科学生のボランティア意識に関する調査研究」及び「社会福祉士養成における相談援助実習の実習内容の課題」等の研究を実施してきました。今後も継続して，社会福祉専門職養成としての実習のあり方や学生に対する実習教育方法，及び実習受入れ側の施設等との連携のあり方等を研究テーマとして取り組んでいきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・松岡佐智「施設内虐待の発生要因と予防策に対する介護老人福祉施設職員の認識の比較－施設長・生活相談員・主任介護職員による自由記述の分析－」『九州社会福祉学』，日本社会福祉学会九州地域ブロック，第17号，2021年3月発行予定。
- ・松岡佐智「施設内虐待の発生要因と防止策の課題－高齢者虐待に関する先行研究等の整理から－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29(1)，福岡県立大学，35-44，2020年10月。
- ・松岡佐智・本郷秀和「介護老人福祉施設における施設内虐待防止に向けた課題－施設内虐待の要因に対する施設長・生活相談員・主任介護職員の認識の比較－」『高齢者虐待防止研究』16(1)，日本高齢者虐待防止学会，55-67，2020年3月。
- ・池田孝博・中原雄一・陸 麗君・松岡佐智・佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部紀要の査読制度導入後の現状と諸課題」『福岡県立大学人間社会学部紀要』28(2)，福岡県立大学，123-131。
- ・秋竹純・本郷秀和・松岡佐智「有料老人ホーム職員のバーンアウト傾向と認知症高齢者へのケアの状況：調査結果にみる施設内虐待の予防に向けた課題」『地域ケアリング』21(8)，(株)北陸社，64-68，2019年7月。
- ・松岡佐智「第11章精神保健福祉」，鬼崎信好・本郷秀和(編)『コメディカルのための社会福祉概論 第4版』，講談社，144-158，2018年12月。
- ・本郷秀和・村山浩一郎・松岡佐智・畑香理「フィンランドにおける高齢者虐待の関連機関の状況－2017年度ヒアリング調査結果の要約報告－」『地域ケアリング』20(5)，(株)北陸社，92-99，2018年5月。

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・松岡佐智「施設内虐待の予防に向けた介護老人福祉施設職員の意識と課題－九州圏域の介護老人福祉施設職員の意識調査の結果から－」日本社会福祉学会第67回秋季大会口頭発表(会場：大分大学)，2019年9月。
- ・松岡佐智・本郷秀和・村山浩一郎「相談援助実習ガイドライン」からみた相談援助実習の課題－実習対象者別にみた相談援助実習の学習課題－」日本社会福祉学会第59回大会九州部会口

頭発表（会場：沖縄国際大学），2018年6月。

〈辞典〉

- ・松岡佐智「感染予防」，「環境療法」，「パワー／パワーレスネス」，「プライマリ・ケア」，「ブラッドショー」，「精神障害」，「精神障害者生活訓練施設（援護寮）」，「精神障害者福祉ホーム」，「精神障害者保健福祉手帳」，「施設福祉サービス」，「指定介護老人福祉施設」，「生活の質」，「生活ハビリ」，「成人病」，「前期高齢者」，「保育士」，「保育所」計17項目，九州社会福祉研究会（編）『現代社会福祉用語辞典』，学文社，2019年6月。

〈調査報告書〉

- ・松岡佐智・本郷秀和・鬼崎信好『大和証券ヘルス財団 第44回調査研究助成研究業績集：施設内虐待予防のためのセルフチェックシート開発に向けた介護老人福祉施設職員の意識調査』公益財団法人大和証券ヘルス財団，2019年。

③過去の主要業績

- ・松岡佐智・本郷秀和・畑香理・田中将太「高齢者虐待における地域包括支援センターと介護支援専門員の連携の意義と課題 - 地域包括支援センターにおけるインタビュー調査を通して -」『高齢者虐待防止研究』14(1)，36-48，日本高齢者虐待防止学会，2018年3月。
- ・本郷秀和・松岡佐智「介護支援専門員と高齢者虐待 - 基礎資格別にみた自由記述結果とインタビュー調査結果の要約 -」『地域ケアリング』20(2)，(株)北陸社，2018年2月。
- ・松岡佐智・田中将太・袖井智子「社会福祉士養成における相談援助実習の実態と課題(1) - 旧相談援助実習ガイドラインからみた実習内容の課題 -」『福岡県立大学人間社会学部紀要』22(2)，福岡県立大学，2014年1月。
- ・松岡佐智・本郷秀和「福岡県立大学社会福祉学科学生のボランティア意識に関する調査研究 - 福祉ボランティアを通じた経験型実習導入の可能性II -」，『福岡県立大学人間社会学部紀要』17(2)，福岡県立大学，2009年1月。

3. 外部研究資金

- ・令和2-3年度 科学研究費補助金【若手研究】テーマ：「施設内虐待の兆候発見に向けたセルフチェックシートの開発に関する研究」169万円(総額)，研究代表者

4. 所属学会

日本社会福祉学会，日本高齢者虐待防止学会，日本地域福祉学会

5. 担当授業科目

「相談援助の基盤と専門職I」(2単位・1年前期)，「プレ・インターンシップ」(2単位・1・2年通年)，「相談援助の理論と方法C」(2単位・2年後期)，「相談援助演習A」(2単位・2年通年)，「相談援助実習指導I」(2単位・2年通年)，「相談援助実習指導II」(1単位・3年通年)，「相談援助実習」(4単位，3年通年)，「相談援助演習C」(1単位，3年後期)，「社会福祉学演習」(4単位，3年通年)，「卒業論文」(6単位・4年後期)

6. 社会貢献活動

- ・福岡県介護保険審査会 三者合議体委員
- ・飯塚市指定管理者評価委員会 委員長

7. 学外講義・講演

- ・(公財)福岡県人権啓発情報センター 人権相談従事職員研修「対人援助技法III (演習)」

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／地域社会コース	職名	講師	氏名	吉武 由彩
----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院人間環境学府博士後期課程を単位修得退学。日本学術振興会特別研究員(DC)、下関市立大学経済学部特任教員(地域貢献担当)等を経て、2017年に本学着任。主な研究分野は、福祉社会学、地域社会学。地域や親族集団の弱体化など、これまで人々の生活を支えていた対面的な連帯が弱まるなか、非対面的な連帯に着目し実証研究に取り組んでいる。具体的には、非対面のボランティア的行為の一例として献血を取り上げ、見知らぬ他者への贈与の実態を分析している。加えて、農山村における高齢者の社会参加活動、生きがい、社会関係や地域意識等に関する研究に取り組んでいる。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・吉武由彩, 2019, 「地域生活構造への接近(2)——高齢者の生きがい調査から」山本努編『地域社会学入門——現代的課題との関わりで』学文社, 149-175.
- ・吉武由彩, 2019, 「地域活動、地域組織への接近——地域福祉の展開、高齢者の見守り活動と社会福祉協議会」山本努編『地域社会学入門——現代的課題との関わりで』学文社, 177-203.
- ・吉武由彩, 2020, 「どうすれば献血者は増えるのか」三隅一人・高野和良編『ジレンマの社会学』ミネルヴァ書房, 17-30.

<論文>

- ・吉武由彩, 2018, 「献血者とは誰か?——データからひも解くボランティア精神の現在と献血推進」『血液事業』41(1): 149-151.
- ・吉武由彩, 2018, 「R.ティトマスの『贈与関係論』再考——社会的連帯の形成に向けて」『福岡県立大学人間社会学部紀要』26(2): 1-18.
- ・吉武由彩, 2018, 「社会的連帯をめぐる現状分析——社会関係とボランティア的行為の状況」『福岡県立大学人間社会学部紀要』27(1): 53-63.
- ・吉武由彩, 2019, 「献血を重ねることと生きづらさ——聞き取り調査の結果から見る献血動機の一断面」『現代の社会病理』34: 57-73.
- ・吉武由彩, 2019, 「献血行為に関する計量的分析——2012年調査のデータを用いた分析から」『福岡県立大学人間社会学部紀要』28(1): 37-49.
- ・吉武由彩, 2020, 「高齢者と承認——社会関係と社会参加の分析から」『社会分析』49: 11-27.
- ・吉武由彩, 2020, 「なぜ献血を重ねるのか——受血者不在の場合の献血動機と消極的献血層の動機変化」『福祉社会学研究』17: 159-180.
- ・吉武由彩, 2020, 「献血を重ねることと互酬性の予期——聞き取り調査の結果から見る献血行為の一断面」『社会学評論』71(3): 429-46.
- ・吉武由彩, 2021, 博士論文『匿名他者への贈与と想像力の社会学——献血行為の社会学的研究』(九州大学提出).

②その他最近の業績

<報告書>

- ・吉武由彩, 2019, 「離島における子育てと家族・近隣関係」高野和良編『「伊仙町生活構造分析調査」報告書 1 (2016~18年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書)』, 44-55.
- ・坂本毅啓・稲月正・西田心平・勅使河原航・吉武由彩, 2020, 『2019年度赤い羽根福祉基金助成事業 高校中退防止と困窮孤立する子供への居住就労生活の総合支援事業中間報告書』特定非営利活動法人抱樸(第3章3節1項、第3章3節3項を担当、p22-26、p34-37).

- ・吉武由彩, 2020, 「英国における献血と社会的連帯の形成という思想——R.ティトマスの『贈与関係論』より」本郷正武編『何が「被害者」の連帯を可能にするのか——「薬害 HIV」問題の日英比較 (2017～19 年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書)』.
- ・吉武由彩, 2020, 「山口県下関市豊北町における住民生活や意識の実態——過去の質問紙調査の二次分析から」佐野麻由子・吉武由彩・美谷薫編『福岡県立大学研究奨励交付金研究報告書 福岡県における市民センターの研究——協働のまちづくりの実現可能条件の検討』, 13-26.

③過去の主要業績

- ・吉武由彩, 2017, 「過疎地域における住民主体の地域福祉活動の展開とその可能性——下関市豊北町の事例から」難波利光編『地域の持続可能性——下関からの発信』学文社, 251-265.

3. 外部研究資金

- ・科学研究費補助金 (基盤研究B) 「過疎地域と地方都市間の関係分析による人口減少社会モデルの生活構造論的構築」、2019～2021年度、研究分担者 (研究代表者: 高野和良・九州大学) .
- ・科学研究費補助金 若手研究「献血者の贈与と共同性の論理に関する福祉社会学的実証研究」、2020～2024年度、研究代表者.
- ・科学研究費補助金 (基盤研究B) 「薬害の社会的過程の分析——Biological Citizenshipの観点から」、2020～2023年度、研究分担者 (研究代表者: 本郷正武・桃山学院大学).
- ・科学研究費補助金 (基盤研究A) 「人口減少社会における持続可能な社会福祉モデルの開発——委嘱型ボランティアの検証」、2020～2023年度、研究分担者 (研究代表者: 小松理佐子・日本福祉大学) .

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会学会、西日本社会学会、日本社会分析学会、福祉社会学会、日本地域福祉学会、日本社会病理学会、山口地域社会学会、日本村落研究学会

6. 担当授業科目

地域社会学A・2単位・1年・後期、地域社会学B・2単位・3年・後期、福祉社会学・2単位・3年・前期、社会調査の設計・2単位・2年・前期、社会福祉調査法・2単位・2年・後期、公共社会学研究ⅠⅡ・2単位・3年・通年、卒業論文・6単位・4年・通年、社会調査実習ⅠⅡ・各2単位・2年通年

7. 社会貢献活動

川崎町地域公共交通会議・副会長、田川市都市計画審議会・委員、北九州市社会福祉協議会ふれあいネットワーク活動推進事業第三者評価委員会・委員、福岡県交通対策協議会・委員、NPO法人抱樸 赤い羽根福祉基金「高校中退防止と困窮孤立する子供への居住就労生活の総合支援事業」事業検討委員会・委員、豊北地区社会福祉協議会連合会 豊北圏域実態調査・研究員

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部／こどもコース	職名	助教	氏名	中藤広美
----	---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

15年間幼稚園や保育所で乳幼児保育および保育者養成に携わった経験を基盤とした研究活動です。

保育現場においてペアレントトレーニングの手技を応用した保育内容のスキルアップに関する研究を進めていきたいと考えています。

具体的には近隣の協力園へ出向き保育に参加し、保育現場の実情を把握するよう努めています。保育者と園児の困った行動を目立たなくしたり、望ましい行動を増やしたりするための物理的・空間的環境の構造化、物的環境の選択、人的環境として保育者の手助けの方法、日課の展開について、実際の保育の場面で実態調査をし、効果的な保育環境のありかたを探っています。

2. 研究業績

① 最近の業績

<学会発表>

- ・ 福田恭介・吉岡和子・小山憲一郎・中藤広美・中村恵美子・酒井志織・三原佑未・香月眞美, ペアレントトレーニング手法を用いた保育者・教師のためのスキルアッププログラムへの参加形態による子どもへの態度変容, 九州心理学会第79回大会, 長崎大学, 2018年12月2日

<シンポジウム>

「ペアレントトレーニングの広がり：地域へ、そして、さまざまな支援者へ」, シンポジスト, 福岡県立大学心理教育相談室, 福岡県立大学, 2019年3月2日

③過去の主要業績

- ・ 福田恭介・中村恵美子・中藤広美・小山憲一郎・酒井志織・香月眞美, ペアレントトレーニング手法を用いたスキルアッププログラムが保育者・教師の子ども支援認知に及ぼす効果, 2018年3月31日, 福岡県立大学心理教育相談室紀要10, 3-14,
- ・ 中藤広美、酒井志織, ペアレントトレーニングを保育現場に応用するための講座および研修会の実践報告, 福岡県立大学人間社会学部紀要 2016, Vol. 25, No2
- ・ 中藤広美、鷲野彰子「実習前教育における学生教育の課題と方法 —環境構成に関する学生の理解状況を踏まえて—」, 福岡県立大学人間社会学部紀要 2015, Vol. 24, No. 1, 17-31
- ・ 中藤広美「1部-4, 2部-1, 4, 5, 6, 3部-8」福田恭介編, 『ペアレントトレーニング実践ガイドブック-きつとうまくいく子どもの発達支援-』, あいり出版, 2011年
- ・ 「福岡県立大学における発達遅滞児の親訓練プログラムの評価」 福田恭介、中藤広美 2000年11月30日
- ・ 「福岡県立大学における発達遅滞児の親訓練プログラムの評価（2）」福田恭介、中藤広美、本多潤子、興津真理子 2005年3月17日

5. 所属学会

日本保育学会
日本発達心理学会
日本こども学会

九州心理学会

6. 担当授業科目

幼児と環境

保育内容の指導法 環境

保育・教職実践演習（幼稚園）

7. 社会貢献活動

社会福祉法人三和会評議員選任・解任委員

社会福祉法人三和会第三者委員

幸袋こども園保育アドバイザー

直方市巡回相談

NPO 福祉用具ネット理事

福岡県保健所運営協議会委員

8. 学外講義・講演

雙葉小学校附属幼稚園職員研修会（全5回）

幸袋こども園職員研修会（全10回）

直方市内A保育園職員研修会（全6回）

直方市子育て支援センター研修会「わたしとぼくの基本的な生活習慣」

9. 附属研究所の活動等

お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）

おもちゃとしゃかん・たがわ その他

所属	人間社会学部／社会福祉コース	職名	助教	氏名	畑 香理
----	----------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学大学院人間社会学研究科社会福祉専攻修士課程修了、修士（社会福祉）。

私は、これまで医療機関でソーシャルワーカーとして患者や家族への相談援助を行ってきた経験があることから、医療ソーシャルワーク実践について関心を持ち、研究に取り組んでいます。近年、日本の保健・医療・福祉の制度・政策面は大きく変化を遂げており、効率的な医療政策の下で、患者はもちろん、患者を支える家族への経済的・身体的・精神的負担は深刻です。また、入院患者の中には脳卒中・内臓疾患・骨折等の後遺症に伴う機能障害・介護者問題・住宅問題・金銭問題等、様々な理由で在宅生活を断念せざるを得なくなった方も少なくありません。入院患者が地域生活を再び安心して送れるような専門的支援やネットワーク構築等が求められています。医療ソーシャルワーカーは病院と地域社会をつなぎ、患者や家族を支援していく役割を担っており、今後ますます医療ソーシャルワーカーの専門的支援が求められると考えます。以上のことから、私は医療ソーシャルワークを基盤とした支援方法に関する研究をすすめる、実践上の課題等についてもこれから研究していきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・畑香理「第15章 社会福祉の実践事例：医療ソーシャルワーカーと多職種協働の実際」鬼崎信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論（第4版）』講談社，2019年2月。
- ・畑香理「被虐待高齢者への支援」日本医療ソーシャルワーク学会編『地域包括ケア時代の医療ソーシャルワーク実践テキスト』日総研，2018年9月。

<論文>

- ・畑香理・鬼塚香・住友雄資・平川明美「2019年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』－精神保健福祉士に必要な技能を習得するための教育の試行－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29（1），2020年10月。
- ・畑香理「大腿骨骨折患者の支援における医療ソーシャルワーカーの役割に関する一考察－回復期リハビリテーション病棟へのアンケート調査から－」『医療と福祉』53（2），2019年11月。
- ・畑香理「高齢の大腿骨骨折患者に対する支援の現状－男女別、経験年数別にみた医療ソーシャルワーカーの支援状況の差異－」『地域ケアリング』21（12），株式会社北隆館，2019年11月。
- ・畑香理・住友雄資・鬼塚香・平川明美「2018年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』－効果的な事前学習につなげる教育法の試みを中心に－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』28（1），2019年9月。
- ・畑香理・本郷秀和「退院援助からみる医療ソーシャルワーカーの役割と大腿骨骨折を経験した人への支援－先行研究の分析から－」『九州社会福祉学』15，日本社会福祉学会九州部会，2019年3月。
- ・畑香理・住友雄資・奥村賢一・平川明美・浦田愛「2017年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』－実習連絡協議会における意見を踏まえた取り組みを中心に－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』27（1），2018年9月。
- ・本郷秀和・村山浩一郎・松岡佐智・畑香理「フィンランドにおける高齢者虐待の関連機関の状況－2017年度ヒアリング調査結果の要約報告－」『地域ケアリング』20（5），株式会社北隆館，2018年5月。

②その他最近の業績

<辞書>

- ・九州社会福祉研究会編『21世紀の現代社会福祉用語辞典 第2版』学文社，2019年7月。

③過去の主要業績

<著書>

- ・畑香理「第15章 社会福祉の実践事例：医療ソーシャルワーカーと多職種連携」鬼崎信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論（第3版）』講談社，2017年2月。

<論文>

- ・本郷秀和・畑香理・鬼崎信好・永田千鶴「基礎資格別にみた高齢者虐待の認識に関する介護支援専門員の課題－6政令市における看護職・介護職・相談援助職の視点の検討－」『九州社会福祉学』14，日本社会福祉学会九州部会，2018年3月。

<その他>

- ・畑香理・住友雄資・奥村賢一・平林恵美・平川明美「2016年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』－事前学習の充実と実習報告会に向けた取り組みを中心に－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』26（1），2017年9月。

3. 外部研究資金

- ・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）若手研究，交付金額1,040千円
「大腿骨骨折を経験した女性高齢者に対する支援モデルの検討」2019年度～2021年度，研究代表者。

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本保健医療社会福祉学会、日本高齢者虐待防止学会、日本地域福祉学会、日本医療ソーシャルワーク学会、福岡県立大学社会福祉学会

6. 担当授業科目

「精神保健福祉援助実習指導」（3単位・3～4年・通年）、「医療ソーシャルワーク論」（2単位・3年・前期）、「精神保健福祉援助実習」（5単位・4年・通年）

7. 社会貢献活動

- ・日本社会福祉学会 九州地域ブロック 事務局
- ・福岡県立大学社会福祉学会 事務局
- ・田川市地域包括ケアシステム推進協議会 医療・介護・住まい部会 委員
- ・田川市国民健康保険運営協議会 副会長

8. 学外講義・講演

- ・令和2年度福岡県人権相談従事者職員研修～技能向上コース～ 講師，テーマ「記録表現講座（実習）」（会場：福岡県人権啓発情報センター），2020年9月。

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部／こどもコース	職名	助教	氏名	二見妙子
----	---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

障害学を土台としたインクルーシブ教育（保育）の研究を行っています。特に1970年代に日本各地で展開された障害児教育運動の通史的な調査を行ってきました。今後は、国内外の先進事例を基にインクルーシブ保育（教育）を発展させるための視点や方法について研究したいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- (1) 「田川郡川崎町における障害児のインクルージョン」『福岡県立大学重点領域研究地域教育課題研究会報告書』（単：2019年2月）。

②その他最近の業績

<報告書>

- (1) 「アドボチャイルド活動の報告」『福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター』（共：二見妙子、建部正雄：2019年10月）。
- (2) 「レッジョエミリアアプローチと障害児のインクルージョン」『福岡県立大学平成30年度研究奨励交付金研究成果報告書』（2020年3月）。
- (3) 「アドボチャイルド活動と『教育』—倉石／仁平の教育化に関する議論を手がかりに」『福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター事業報告書』7-9、（2020年10月）。

<書評>

「『独立子どもアドボカシーサービスの構築に向けて』（堀正嗣編、栄留里美、久佐賀眞里、鳥海直美、農野寛治）を読む」『公教育計画研究 11』177-179（2020年7月）。

<座談会報告>

「インクルーシブ教育を求める教育運動史の研究—豊中市の考察をめぐって—」（京都大学教育支援研究会、教育の包摂と排除に関する討論：2019年5月15日）。

<学会報告>

- (3) 「レッジョエミリアアプローチと障害児のインクルージョン」（公教育学会：埼玉共済会館2018年6月18日）。
- (4) 「インクルーシブ教育を推進するための実践に関する研究—北イタリアの『レッジョエミリアアプローチ』を事例に」（公教育計画学会：石川県金沢市石川勤労者福祉文化会館：2019年6月15日）。
- (5) 「山下栄一による『教育心理学への現象学的接近』とレッジョエミリアアプローチ」（障害学研究会九州沖縄部会熊本研究集会：2019年8月10日：熊本学園大学）。

<ポスター報告>

- (1) 「レッジョエミリアアプローチと障害児のインクルージョン」（令和元年度附属研究所研究奨励交付金事業成果報告会；2020年3月13日：福岡県立大学）。

③過去の主要業績

<著書>

- (1) 『インクルーシブ教育の源流—1970年代の豊中市における原学級保障運動』（単：現代書館：2017年4月15日出版）。

<論文>

- (1) 「インクルーシブ教育運動の構造分析—1970年代の大阪府豊中市における原学級保障運動の分析と教育運動を活性化させる戦略の解明」(熊本学園大学大学院社会福祉学研究科提出博士論文2016年1月)。
- (2) 「『共に生きる教育』の運動における条件整備論の陥穽」堀正嗣編『共生の障害学』(2012年:第6章、明石書店)。
- (3) 「子どもの声をどのように聞き、どのように伝えるか」堀正嗣編『子どもアドボカシー実践講座』(解放出版社;2013年:158-161頁)。

3. 外部研究資金 なし

4. 受賞 なし

5. 所属学会

障害学会、公教育計画学会 日本社会福祉学会

6. 担当授業科目

特別支援教育・1単位・2年・前期。

障害児保育・2単位・2年・半年。

演習・2単位・通年・3年

特別支援教育演習 2単位・大学院・前期。

教育課題演習B・2単位・大学院1年・後期・オムニバス。

7. 社会貢献活動

- (1) 家庭的保育室「はぐくみ・こころ・めばえ」苦情処理第3者委員会評価委員。
- (2) 障害児を普通学校へ全国連絡会会員。
- (3) 田川郡香春町子ども食堂「キッチン小春ちゃん」の運営に協力。

8. 学外講義・講演

- (1) 公開講座『インクルーシブな社会をめざす専門性の模索』(2021年2月19日)にて報告「日伊の障害児教育の特徴」。

9. 附属研究所の活動等

- (2) 公開講座『インクルーシブな社会をめざす専門性の模索』(2021年2月19日)企画。

所属	人間社会学部／地域社会コース	職名	助手	氏名	佐藤 繁美
----	----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

- ・大原孫三郎における地域社会構想の研究
- ・石井十次、岡山孤児院における地域社会構想の研究
- ・地域の権力構造の研究

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・石崎龍二、佐藤繁美「オンライン授業による統計演習の教育効果（2020）－学生の自己評価と授業改善点－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻第2号、2021年3月
- ・石崎龍二、佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における多変量解析に関する統計演習の教育効果（2019年度）」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻第1号、2020年10月
- ・池田孝博、中原雄一、陸麗君、松岡佐智、佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部紀要の査読制度導入後の現状と諸課題」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第28巻第2号、2020年2月
- ・石崎龍二、佐藤繁美「統計演習科目における学生の自己評価と授業改善点（2019）」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第28巻第2号、2020年2月
- ・石崎龍二、佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における多変量解析に関する統計演習の教育効果（2018年度）」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第28巻第1号、2019年9月
- ・石崎龍二、佐藤繁美「統計演習科目における学生の自己評価に基づいた教育効果の検証（2018）」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第27巻第2号、2019年2月
- ・石崎龍二、佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における多変量解析に関する統計演習の教育効果（2017年度）」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第27巻第1号、2018年9月
- ・石崎龍二、佐藤繁美「統計演習科目における学生の自己評価に基づいた教育効果の検証（2017）」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第26巻第2号、2018年2月

②その他最近の業績

- ・田代英美、佐藤繁美『公共社会学入門「公共性研究A（公共性の社会学）」テキスト』2018年4月

③過去の主要業績

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業(基盤研究(C))31年度～4年度 交付金額4,420千円

研究課題、「自立的地域社会」の構想と事業展開

—大原孫三郎・石井十次の理念の継承と再構成—（研究代表者）

4. 受賞

5. 所属学会

- ・日本社会学会、関西社会学会、社会分析学会

6. 担当授業科目

(学部)

- ・社会調査実習（補助） 2単位・3年・実習・通年

- ・ データ処理とデータ解析Ⅰ（補助） 1単位・3年・演習・前期
- ・ データ処理とデータ解析Ⅱ（補助） 1単位・3年・演習・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	石田 智恵美
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院人間環境学府 発達・社会システム専攻 教育学コース 博士後期課程 単位取得退学。

学習者に存在するであろう知識構造を想定し、知識の構造化を促進するための教授方略の研究・開発を行っている。具体的には、講義・演習・実習をつなぐための方略を授業で実践し、「わかる授業」を目指した授業研究を実施している。その他、卒後教育の一貫として、卒後1～2年目の看護職者を対象とした、タスクマネージメント研修や、臨床の看護師を対象とした研究指導を行っている。また、看護実習指導者講習会、認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）の研修において、看護職者の知識の構造化の促進を目指している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・石田智恵美 看護学生の知識の構造化を目指した演習・実習連携授業に関するアクションリサーチ, 福岡県立大学看護学研究紀要 2018年3月
- ・石田智恵美 中本亮 アクティブラーニングによる演習と看護学生の思考に関する研究, 福岡県立大学紀要 2020年3月

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・石田智恵美 中本亮 アクティブラーニングによる看護学生の思考を促す演習の開発 日本教育工学会 第34回全国大会 2018年9月 仙台
- ・石田智恵美 中本亮 アクティブラーニングによる演習と知識の活用に関する研究 日本教育工学会 2020年春季全国大会 2020年2月 長野
- ・石田智恵美 中本亮 e-learning を活用した知識の変容に関する考察 日本教育工学会 2021年春季全国大会 2021年3月 関西学院大学 (オンライン)

③過去の主要業績

- ・石田智恵美 久米弘 看護学生のための知識の構造化のための講義・演習・実習連携評価モデル 大学教育第10号 九州大学高等教育総合開発研究センター pp.77-97. 2004.
- ・石田智恵美 看護学実習における臨床指導者を含めた教材化と教師の役割 九州大学大学院教育学コース院生論文集 飛梅論集第6号 pp.23-48. 2006.
- ・石田智恵美 動的なプログラム学習による学習者の知識の構造化に関する研究—会話による知識構造推測型の発問生成ストラテジーの効果— 教育学習心理学研究 第3巻 第2号 pp.37-53. 2007.

3. 外部研究資金

科学研究費補助金(基盤研究C) 課題番号:19K10742 看護学生の知識の変容を目指したアクティブラーニングの構築 2019年～2021年

4. 受賞

5. 所属学会

日本教育工学会, 日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本教授学習心理学会, 日本赤十字看護学会 日本教育学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

教養演習・2単位・1年・前期, ケアリングサイエンス・2単位・人間社会学部3年&看護学部

4年・後期, 看護研究・2単位・3年・前期, 看護教育学・1単位・3年・前期, 看護実践論・1単位・3年・前期, 教師論・2単位・3年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・通年, 国際看護論・2単位・4年・後期, 看護管理論・1単位・4年・後期, 統合実習・2単位・4年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

<大学院>

看護教育学特論・2単位・1年・前期, 看護教育学演習・2単位・1年・後期, 看護教育学・2単位・1年・後期, 看護管理学・2単位・1年・後期, 基盤看護学特別研究・8単位・1～2年・通年, マネジメント助産学特論・2単位・2年・前期, コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期, 助産学課題研究・4単位・1～2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・福岡赤十字病院 事例研究・看護研究（論理的思考）ラダーレベルⅡの看護師対象：10月
- ・嘉麻赤十字病院 研究指導 5月～3月まで1回/月 院内研究発表会の講評
- ・地方独立行政法人川崎町立病院評価委員 2020年8月～2022年7月

8. 学外講義・講演

- ・純真学園大学 非常勤講師 「看護教育論」, 「国際看護論」
- ・ウエストジャパン看護専門学校 非常勤講師 「国際看護論」
- ・認定看護管理者教育課程 セカンドレベル講師 「ヘルスケアサービス管理論」, 「看護組織管理論」
- ・福岡県看護実習指導者講習会 「実習指導の評価」, 「実習指導の評価（リフレクション）」

9. 研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	江上 千代美
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

親のレジリエンスを高めるための家族支援に関する介入研究

親の養育レジリエンスの向上：親の養育レジリエンスの向上を目指す介入とそのメカニズムを明らかにする研究を行っています。また、子育てスタイル、ストレス（生体指標と質問紙）、子どもの行動等の関係性を明らかにすることも行っています。トリプルP (positive parenting program) という認知行動療法を用いて、トリプルPを学んだ親は「子育てが楽しくなった」、「子育てに自信がついた」、「怒らなくなった」、「子どもから笑顔が増えた」という感想がよく聞かれ、未来を担う健全な子どもの育成や少子化対策にもつながっています。トリプルPの名前にも反映しているように子どもをもつ全ての親が楽しく学ぶことで健全な家族づくり、ひいては健全な街づくりを目指すことができます。

観察力に反映する看護アセスメントのシュミレーションシステムの開発

「目は心の鏡」に、代表されるように、目の動きは人の精神生理的な指標であり、目の動きにはさまざまな人の行動理解や支援の手がかりが含まれています。これまで行ってきた発達障害の対人的視覚認知機能障害や不注意等の解明と支援につながる研究をもとに、現在、看護学生や看護師のセーフティ・マネジメント支援を目標とした臨床に活かせる研究を行っています。さまざまな看護場面におかれたときに看護学生や看護師はどのような目の動きをするのか、教育や経験により異なるのか、変化しない場合には何が影響しているのかという検討を基に、どのようなセーフティ・マネジメント支援の必要性があるのか、どのような集団教育および個人教育につなげる必要があるのか課題提示と支援プログラムの開発に取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- Egami C (2018). Triple P intervention support to improve caregiving resilience for caregivers with children with developmental problemspp. Science Impact Ltd,27-29(3).
- Okabe R, Egami C(3 番目 11 人中)et al(2017). Increased cortisol awakening response after completing the summer treatment program in children with ADHD. Brain Dev, 39(7), 583-592.
- 江上千代美,塩田昇(2020).Child Adjustment and Parent Efficacy Scale – Developmental Disability (CAPES-DD) の日本語版作成の試み福岡県立大学看護学研究紀要,17,37-45.
- 江上千代美,塩田昇,恵良友彦,田中美智子(2020).発達障がいのある児の母親の養育レジリエンスの向上を目指して –Stepping Stones Triple P (トリプルP) による RCT を用いた試行的介入–, 福岡県立大学看護学研究紀要,17,1-4.
- 江上千代美,田中美智子,松浦江美,安酸史子(2020).関節リウマチ患者に対する慢性疾患セルフマネジメントプログラムの効果 –唾液コルチゾール・RR 間隔・DAS28・VAS 指標を用いて –,福岡県立大学看護学研究紀要,17,27-35.
- 田中美智子,江上千代美,近藤美幸,長坂猛(2017).眼への温熱刺激による身体反応および主観的評価に対する加齢の違い,日本看護技術学会誌,16(1).
- Akira Y, Chiyomi E(3 番目 7 人中) et al(2016). Behavioral and Neural Enhancing Effects of a Summer Treatment Program in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder
- Egami C, et al(2015). Developmental trajectories for attention and working memory in healthy Japanese school-aged children.Brain Dev,37(9),840-8.
- 江上千代美,長坂猛,近藤美幸,井垣通人,田中美智子(2014).下腹部と腰部の温電法が生体に及ぼす効果の検討, 福岡県立大学看護学研究紀要,11(2),45-51.

- ・ 江上千代美,長坂猛,近藤美幸,井垣通人,田中美智子(2014).温罨法が末梢と心臓の自律神経系に及ぼす効果,日本看護技術学会,12(3),34-9,2014.
- ・ Ohya T, Morita K, Yamashita Y, Egami C, Ishii Y, Nagamitsu S, Matsuishi T. Impaired exploratory eye movements in children with Asperger's syndrome. Brain Dev. 36(3), 241-7, 2014.
- ・ 江上千代美,近藤美幸,福田恭介,田中美智子(2012).看護場面における看護学生の危険認知力評価-眼球運動指標の活用-.福岡県立大学看護学研究紀要,10:13-20.
- ・ 江上千代美,近藤美幸,福田恭介,田中美智子,他(2012).看護場面における看護学生の危険認知と眼球運動との関係.看護人間工学研究誌,12:15-20.

②その他最近の業績

- ・ 江上千代美,山下裕史朗(2015).発達障がい児をもった母親の養育レジリエンス向上に向けた支援~母親の変化と子どもの行動~,第24回日本LD学会,佐賀,349-350.

③過去の主要業績

- ・ Yushiro Yamashita, Chiyomi E et al. :Summer treatment program for children with attention deficit hyperactivity disorder: Japanese experience in 5 years. Brain Dev. 33, 260-7, 2011.
- ・ Egami C, Morita K, Ohya T, Ishii Y, Yamashita Y, Matsuishi T: Developmental characteristics of visual cognitive function during childhood according to exploratory eye movements. Brain Dev. 31(10), 750-7, 2009.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業(基金分)(基盤研究(C))2015年度~2018年度 交付金額4,810千円
研究課題、トリプルP介入によって発達障害児をもつ母親の子育てレジリエンスは向上するか
科学研究費助成事業(基金分)(基盤研究(C))2018年度~2021年度 交付金額4,290千円
発達障害の診断前の児の親の養育レジリエンス向上-基本的生活習慣の習得を目指して-

5. 所属学会

日本生理学会会員、日本小児神経学会会員、日本LD学会会員、日本看護学教育学会会員、日本看護研究学会会員、日本看護技術学会会員、看護人間工学部会員、日本看護科学学会会員

6. 担当授業科目

<学部>

生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年次・前期,生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年次・後期,生態・病態看護学実験2単位・2年次,専門看護学ゼミ・2単位・3年次・通年,総合実習・2単位・4年次・前期,生態機能看護学Ⅲ、卒業研究・2単位・4年次・通年,

<大学院>

Advanced生理学・病態生理学・2単位・1年次、基盤看護学特別研究8単位
実験看護学演習2単位・1年次 実験看護学特論2単位・1年次

7. 社会貢献活動

子育て支援活動:朝倉市・香春町・田川市・久留米市・志免町

8. 学外講義・講演

子育て支援、アンガーマネジメントに関する講演会の講師

9. 研究所の活動等

- ・ 久留米大学小児科学

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	教授	氏名	尾形 由起子
----	---------------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

1985年保健師として福岡県庁に勤務後、2004年広島大学大学院保健学研究科博士課程修了。同年、福岡県立大学看護学部地域看護学助教授、2009年同大学看護学部ヘルスプロモーション看護学教授に就任。

現在、超高齢多死社会において、高齢者が住み慣れた地域で療養生活を継続するための公衆衛生看護活動の検証を主な研究分野としている。具体的には、①地域住民が住み慣れた地域で暮らす続けることに対し住民が主体的に検討するための場を作ること②地域包括ケアシステムを構築するための多職種協働による研修のあり方を検討すること③医療依存度の高い人々が在宅で療養生活を継続のための地域づくりの検討を主な研究テーマとしている。

上記の実践的な研究活動を通して、住み慣れた地域で介護が必要になっても、安心して暮らし続けることができる地域社会になるよう、看護職（病院看護師、訪問看護師、保健師）や多職種の方々と共に研鑽している。そして、看護師、保健師になる学生に対し、この実践的研究活動をふまえ、地域における健康課題の解決方法について共に学びを深めている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・尾形由起子, 小野順子, 山下清香, 棟直美, 眞崎直子, 多職種による終末期までの療養生活に対する意思決定支援内容の検討, 福岡県立大学看護学紀要, 17巻, 13-20, 2021
- ・山口のり子, 福岡洋子, 中村美穂子, 猪狩崇, 尾形由起子, 官民学協働による地域住民を含めた「ケアカフェ」実践報告, 福岡県立大学看護学紀要, 17巻, 21-26, 2021
- ・檜橋明子, 中村美穂子, 小野順子, 山下清香, 手島聖子, 尾形由起子, 保健師の実践能力に対する公衆衛生看護実習の効果, 福岡県立大学看護学紀要, 17巻, 27-36, 2021
- ・尾形由起子, 社会・環境と健康 公衆衛生学 2020年度, 柳川洋, 尾島俊之編著, 医歯薬出版株式会社, 2020
- ・棟直美, 江上史子, 尾形由起子, 家族介護者の介護力構造因子における関連要因と介護負担感への影響, 日本看護研究学会雑誌, 42(1), 111-122, 2019
- ・眞崎直子, 松原みゆき, 林真二, 竹島正, 橋本修二, 三徳和子, 尾形由起子, 都市型準限界集落の防災健康危機管理についての住民の意識調査, 日本看護福祉学会雑誌, 25(2), 187-197, 2020
- ・尾形由起子, 山下清香, 編集, 地域包括ケアをすすめる公衆衛生看護学, クオリティケア, 2019
- ・棟直美, 尾形由起子, 江上史子, 家族介護者の介護力構造因子における関連要因と介護負担感への影響, 日本看護研究学会雑誌, 42(1), 111-122, 2019
- ・猪狩崇, 石崎龍二, 棟直美, 柴田雅博, 小野順子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 尾形由起子, 地域包括ケアシステム構築に向けた人的ネットワーク形成・運営に関する一考察, 福岡県立大学看護学紀要, 16巻, 121-128, 2019
- ・三徳和子, 伊藤弘人, 後藤忠雄, 尾形由起子, 眞崎直子, 要介護高齢者の10年転機と医療機関以外での死亡に関するコホート研究, 日本医療・病院管理学会誌, 55(2), 5-15, 2018
- ・眞崎直子, 橋本修二, 川戸美由紀, 尾島俊之, 竹島正, 松原みゆき, 三徳和子, 尾形由起子, 人口動態統計に基づく東日本大震災後の自殺死亡数: 岩手県・宮城県・福島県の沿岸部と沿岸部以外の推移, 日本公衆衛生学会会誌, 65(4), 164-169, 2018
- ・猪狩崇, 石崎龍二, 棟直美, 柴田雅博, 小野順子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 尾形由起子, 地域包括ケアシステム構築に向けた地域医療情報連携ネットワークシステム導入に関する一考察, 福岡県立大学看護学紀要, 15巻, 83-90, 2018

- ・清原智佳子, 梶原由紀子, 尾形由起子, 小野順子, 田中美樹, 石村美由紀, 江上千代美, 発達障がいをもつ子どもの親を対象に行ったステップングストーンズトリプル P 受講前後のパイロットスタディ, 福岡県立大学看護学紀要, 15 巻, 47-53, 2018
- ・尾形由起子, 社会・環境と健康 公衆衛生学 2018 年度, 柳川洋, 尾島俊之編著, 医歯薬出版株式会社, 2018
- ・尾形由起子, 岡田麻里, 榎直美, 野口忍, 山下清香, 松尾和枝, 眞崎直子, 三徳和子, 終末期がん療養者の満足な在宅看取りを行った配偶者の介護体験, 地域看護学会誌, 20(2), 2017
- ・尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子, 研究室からのメッセージ, 保健師ジャーナル, 45 (2), 2017
- ・尾形由起子, 榎直美, 小野順子, 吉田恭子, 杉本みぎわ, 阿部久美子, 岡田麻里, 終末期がん療養者の配偶者による在宅看取り実現のためのセルフマネジメントに対する支援方法の検討—多職種フォーカス・グループインタビューの結果より—福岡県立大学看護学紀要, 14 巻, 2017
- ・Kazuko Mitoku, Naoko Masaki, Yukiko Ogata, Kazushi Okamoto, Vision and Hearing Impairments, Cognitive Impairment, and Mortality among Long-Term Care, BMC Geriatrics, 16, 112-122, 2016
- ・山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 迫山博美, 尾形由起子, 地域の介護予防活動の推進における保健師の役割—高齢者サロンの世話役及び指導員の認識から—福岡県立大学看護学部紀要, 第 13 号, 2016
- ・迫山博美, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 山下清香, 尾形由起子, 地域における高齢者に対する介護予防活動の現状と課題—A 町のふれあい交流活動の分析を通して—, 福岡県立大学看護学部紀要, 第 13 号, 2016

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・尾形由起子, 矢津剛, (座長) 浦川雅広, 酒井智恵美, 平野頼子, コミュニティにおけるアドバンスケアプランニング, 日本在宅医療連合学会地域フォーラム シンポジウム, 2020年 10月
- ・山口のり子, 福岡洋子, 尾形由起子,
- ・山下清香, 榎直美, 小野順子, 中村美穂子, 廣瀬理絵, 尾形由起子, 訪問看護ステーションの連携強化における保健所保健師の役割における考察, 第 78 回日本公衆衛生学会, 高知, 2019
- ・榎直美, 小野順子, 中村美穂子, 廣瀬理絵, 山下清香, 尾形由起子, 在宅医療推進における訪問看護師の連携に関する研究—3 年間の連携強化事業を通して—, 第 78 回日本公衆衛生学会, 高知, 2019
- ・中村美穂子, 小野順子, 廣瀬理絵, 岩崎玲奈, 榎直美, 尾形由起子, A 県における退院支援部門の実態及び退院支援・退院調整に関する意識調査 —第一報—, 第 78 回日本在宅ケア学会, 宮城, 2019
- ・Yukiko Ogata, Kiyoka Ymasita, Naoko Masaki, Kazuko Mitoku, The Development of a Home Health care Education Program for Local Residents, EFONS 2018
- ・Kiyoka Ymasita, Yukiko Ogata, H Nakatani, Kimiko Nakayama, Akiko Kanefuji Tomoko Ogawa, Clarification of the Techniques of Public Health Nurses for Promoting Community Participation: Literature Study, EFONS 2018
- ・平塚淳子, 杉本みぎわ, 榎直美, 吉田恭子, 山下清香, 檜橋明子, 中村美穂子, 尾形由起子. A 県における訪問看護師の同行訪問研修と看護師間における連携に関する研究. 日本看護研究学会 九州・沖縄地方会学術集会, 長崎, 2018
- ・杉本みぎわ, 榎直美, 山下清香, 猪狩崇, 中村美穂子, 平塚淳子, 山本博美, 尾形由起子. A 県の訪問看護ステーション交流会事業を通して見えた連携のあり方と今後の課題. 日本看護研究学会 九州・沖縄地方会学術集会, 長崎, 2018 年
- ・許斐樹, 山下清香, 尾形由起子, 小出昭太郎. 乳がん検診の受診意識と知識との関連. 第 77 回

日本公衆衛生学会, 宮城, 2018

- ・岡田麻里, 矢吹正直, 横山美栄子, 清水めぐみ, 水馬朋子, 吉川ひろみ, 小出恵子, 尾形由起子, 地域包括ケアシステムづくりを目指したランチミーティング式地域ケア会議の成果—多職種連携の活動のプロセス—, 第77回日本公衆衛生学会, 宮城, 2018
- ・二宮愛璃香, 山口のり子, 尾形由起子, 地域住民の看取り意思決定に対するアプローチ—地区組織活動の促進をめざして—, 第77回日本公衆衛生学会, 宮城, 2018
- ・田中美智子, 江上千代美, 近藤美幸, 尾形由起子, 長坂猛, 働く更年期女性における睡眠評価と唾液ホルモン反応, 第17回日本看護技術学会, 青森, 2018
- ・榎直美, 尾形由起子, 小野順子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 中村美穂子, 猪毛尾和美, 馬場順子, 吉田恭子, 訪問看護師の在宅医療推進のための多職種連携に関連する要因の検討, 第76日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017
- ・尾形由起子, 岡田麻里, 眞崎直子, 榎直美, 小野順子, 山下清香, 三徳和子, 猪毛尾和美, 馬場順子, 在宅看取りの意思決定支援に対する訪問看護師の意識調査—第3報—, 第76日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017
- ・中村美穂子, 尾形由起子, 榎直美, 小野順子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 吉田恭子, 猪毛尾和美, 馬場順子, 在宅療養継続のための連携に対する訪問看護師の意識調査—第1報—, 第76日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017
- ・山下清香, 中谷久恵, 尾形由起子, 住民参加を促進する保健師の技術に関する文献検討, 第76日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017
- ・檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 中村美穂子, 看護系大学保健師選択制学生の効果的な教育方法の検討, 第76日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017
- ・中川清子, 山下清香, 尾形由起子, インスリン療法を勧められ在宅で注射を開始した時期の相違による2型糖尿病患者の特徴, 第76日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017

<報告書>

- ・尾形由起子, 榎直美, 小野順子, 吉田恭子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 中村美穂子, 福岡県訪問看護ステーション連携強化事業報告書, 2016—2019
- ・尾形由起子, 石崎龍二, 柴田雅博, 榎直美, 檜橋明子, 猪狩崇, 杉本みぎわ, 在宅医療推進における医療福祉情報に関する研究, 平成30年度研究奨励交付金(附属研究所重点領域研究)報告書, 2016—2019

③過去の主要業績

- ・尾形由起子, 岡田麻里, 榎直美, 野口忍, 山下清香, 松尾和枝, 眞崎直子, 三徳和子, 終末期がん療養者の満足な在宅看取りを行った配偶者の介護体験, 地域看護学会誌, 20(2), 2017
- ・尾形由起子, 榎直美, 小野順子, 吉田恭子, 杉本みぎわ, 阿部久美子, 岡田麻里, 終末期がん療養者の配偶者による在宅看取り実現のためのセルフマネジメントに対する支援方法の検討—多職種フォーカス・グループインタビューの結果より—福岡県立大学看護学紀要, 14巻, 2017
- ・尾形由起子, 社会・環境と健康 公衆衛生学 2019年度, 柳川洋, 尾島俊之編著, 医歯薬出版株式会社, 2019

3. 外部研究資金

- ・尾形由起子(研究代表者), 地域に密着した住民の主体的介護促進のための教育支援モデルの開発, 文科省科学研究(基盤C)2017—2019(期間延長)
- ・尾形由起子(研究代表者), 地域における住民の在宅医療セルフマネジメント教育プログラムの開発, 文科省科学研究(基盤C)2014—2017
- ・尾形由起子(研究分担者, 榎直美), 通所サービスにおける家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究, 文科省科学研究(基盤C)2018—2020

・尾形由起子, (研究分担者, 山下清香) 保健師の住民参加促進力向上教育プログラムの開発,
文科省科学研究(基盤C) 2018-2020

5. 所属学会

日本地域看護学会, 日本公衆衛生学会, 日本在宅ケア学会, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本公衆衛生看護学会, 日本学校保健学会, 日本看護技術学会

6. 担当授業科目

公衆衛生看護学Ⅰ(2単位) 2年後期, 家族看護論(1単位) 2年前期, 公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ(1単位) 3年後期, 公衆衛生看護学Ⅱ(2単位) 4年前期, 公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ(2単位) 4年前期, 公衆衛生看護技術論Ⅰ(2単位) 4年前期, 公衆衛生看護技術論Ⅱ(2単位) 4年前期, 公衆衛生看護学Ⅲ(1単位) 4年後期, 公衆衛生管理論(2単位) 4年生後期, 組織協働活動論(2単位) 4年後期, 公衆衛生看護学実習Ⅰ(1単位) 4年前期, 公衆衛生看護学実習Ⅱ(4単位) 4年後期,

〈大学院〉

地域看護学特別研究(2単位) 修士1年前期, 地域看護学特別演習(2単位) 修士1年後期, 看護研究法(2単位) 修士1年前期, 高齢者・地域看護論(2単位) 修士1年前期, 看護政策論(2単位) 修士1年前期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県地域在宅推進協議会委員(H20年度～現在に至る), 地域在宅医療推進協議会委員(京築保健福祉環境事務所, 嘉穂保健福祉環境事務所), 宗像医師会在宅医療連携拠点事業運営委員会(いづれもH20年度～現在に至る)
- ・福岡県訪問看護連携強化事業(委託事業)(平成28年度～現在に至る)
- ・田川市地域支え合い体制づくり検討委員会(平成26年度～現在に至る)
- ・香春町地域福祉計画策定委員(委員長)(平成27年度～現在に至る)
- ・みやこ町健康づくり推進委員会(委員長)(平成27年度～現在に至る)
- ・北九州市人権施策審議会委員(平成27年～現在に至る)
- ・田川保健福祉環境事務所運営協議会(平成30年度)
- ・築上町地域福祉計画策定委員会(令和元年度)
- ・北九州市立病院指定管理者検討会(平成30年度)
- ・日本公衆衛生看護学会 査読及び座長
- ・日本地域看護学会 評議委員および査読委員
- ・日本在宅ケア学会 査読委員
- ・日本看護研究学会 評議員
- ・一般財団法人 日本看護学教育評価機構(看護学分野) 理事

8. 学外講義・講演

- ・京築看看連携研修会(2019.2.25 行橋市)
- ・嘉穂保健所在宅推進研修会(2019.2.6 福岡県立大学)
- ・福岡県訪問看護連携強化事業報告会(2019.3.18 福岡市)

9. 附属研究所の活動等

- ・田川市在宅ケア座談会: 4回/年
- ・ケアカフェ田川(在宅医療多職種研修会): 4回/年

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	小池 祐子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

米国カンザス大学にて教育学 (TESL 専攻) 修士号、言語学博士号取得。主に語彙意味論、音韻学、第一言語獲得の研究を行ってきた。現在は、1) 日本人英語学習者に対する発音 (特に超文節音素) の指導、2) 第二言語／外国語学習者に対する明示的文法指導に焦点を置いた研究を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・ Koike, Y. (2019). English aspect: L1 transfer and explicit instruction. In P. Clements, A. Krause, & P. Bennett (Eds.), *Diversity and inclusion*, 205-213. Tokyo: JALT.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ Koike, Y. & Chamberlain, A. The acquisition of suprasegmentals in L2 English. The 46th Annual International Conference on Language Teaching and Learning. Online. Nov. 22, 2020.
- ・ Koike, Y. The effect of explicit instruction on learning English aspect. The 58th JACET International Convention. Nagoya. Aug. 29, 2019.
- ・ Koike, Y. L1 transfer and explicit instruction in SLA. 44th Annual International Conference on Language Teaching and Learning. Shizuoka. Nov. 24, 2018.

③過去の主要業績

- ・ Koike, Y. (2017). Grammar instruction: Teaching English aspect to Japanese learners of English. In P. Clements, A. Krause, & H. Brown (Eds.), *Transformation in language education*, 251-259. Tokyo: JALT.
- ・ Koike, Y. (2016). Survey of English pronunciation teaching: College teachers' practices and attitudes. In P. Clements, A. Krause, & H. Brown (Eds.), *Focus on the Learner*, 253-261. Tokyo: JALT.
- ・ Koike, Y. (2014). Explicit pronunciation instruction: Teaching suprasegmentals to Japanese learners of English. In N. Sonda & A. Krause (Eds.), *JALT 2013 Conference Proceedings*, 361-374. Tokyo: JALT.

5. 所属学会

言語科学会、全国語学教育学会、大学英語教育学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

教養演習・1単位・1年・前期、リーディングⅠ・1単位・1年・前期、ライティング・1単位・1年・後期、リーディングⅡ・1単位・2年・前期、オーラルコミュニケーションⅢ・1単位・2年・後期、グローバル社会論・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、リーディングⅢ・1単位・4年・後期

〈大学院〉

英語文献購読特論・2単位・1年・前期

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	永嶋 由理子
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

平成 18 年久留米大学大学院心理学研究科（博士課程）人間行動学専攻単位取得満期退学。

主な研究として、看護技術の熟達化を解明するために認知心理学を援用した実証研究に取り組んでいる。この研究は、平成 16 年度～平成 17 年度の科研(基盤研究(C))に採択されたが、引き続き平成 18 年度～平成 20 年度科研(基盤研究(C))においても採択されたことで、継続的に調査及び実験研究を進めてきた。関連研究で平成 23 年度～平成 25 年度科研(基盤研究(C))が採択されたことで、平成 24 年度は研究計画に沿って、看護技術の熟達化を思考の視点から客観的に解明するため、光イメージング脳機能測定装置を使用しプレ実験を行った。プレ実験を受け平成 25 年度は本実験を実施し、一部興味深い結果を得ることができた。平成 26 年度、新たに科研（平成 26 年度～平成 29 年度挑戦的萌芽研究）が採択され、引き続きメインテーマとしている看護技術の熟達化検証に取り組んだ結果、アイマークレコーダー装着での実験で視線の合理性（熟達に伴い無駄な視線の動きが減少する）が一部捉えられた。令和 1 年度に採択された科研（令和 1 年度～令和 3 年度基盤研究 C）においても、関連研究を引き続き実施し、実験の精度を高めつつ、科学的及び心理学的見地から研究に取り組んでいく予定である。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・ 渋野由夏,永嶋由理子,加藤法子,藤野靖博,於久比呂美,宮崎千尋. 基礎看護学教科書における人間の概念に関する検討,福岡県立大学看護学研究紀要,第 17 卷,2020.
- ・ 宮崎千尋,永嶋由理子.看護職を目指す学生の主体的学習活動と学習意欲および自己効力感の検討—公立大学と私立大学の比較—,福岡県立大学看護学研究紀要,第 16 卷,2019.
- ・ 松枝美智子,江上史子,渡邊智子,松井聡子,村田節子,永嶋由理子.A 県の医療機関等の看護管理者の高度実践看護師に対する雇用ニーズ,福岡県立大学看護学研究紀要,第 16 卷,2019.

②その他最近の業績

<報告書>

宮崎千尋,永嶋由理子,看護職を目指す学生の主体的学習活動に関する内的要因の検討～学習意欲と自己効力感に焦点をあてて～,平成 29 年度研究奨励交付金報告書, 2019.

<学会発表>

- ・ 宮崎千尋,永嶋由理子,看護職を目指す学生の学習意欲と自己効力感の検討～学年間の比較に焦点をあてて～,第 38 回日本看護科学学会学術集会,愛媛,2018.
- ・ 於久比呂美,宮崎千尋,永嶋由理子,看護師の自己教育力に影響を及ぼす要因の検討—自己効力感と心理的自立に焦点をあてて—,第 38 回日本看護科学学会学術集会,愛媛,2018.

③過去の主要業績

- ・ 永嶋由理子,特集 意欲と主体性を育てる 実習計画・指導・記録評価のポイント,患者アセスメントと看護過程に関する評価のポイント. 看護人材育成, 8・9 月号, p50-55, 2015.
- ・ 永嶋由理子,看護技術の熟達化における思考過程深化の解明,久留米大学大学院心理学研究科中間論文,P1・59,2006.

- ・永嶋由理子,山川裕子,血圧測定技術を構成する下位スキルの検討. 福岡県立大学看護学部紀要, 2(2),p1-8,2005.

3. 所属学会

日本看護学会, 日本看護科学学会, 本看護研究学会, 日本看護学教育学会, 日本教育心理学会, 日本協同教育学会

4. 授業科目

<学部>

基礎看護学概論・2単位・1年・前期, 基礎看護学実習I・1単位・1年・前期, 基礎看護技術論・2単位・1年・後期, フィジカルアセスメント論・1単位・2年・前期, 看護過程・1単位・2年・前期, 基礎看護学実習II・2単位・2年・前期, シンプトンマネジメント論・1単位・後期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 統合実習・2単位・4年・前期, 卒業研究2単位・4年・通年

<大学院>

看護理論・2単位・1年・前期, 看護心理学特論・2単位・1年・前期, Ad フィジカルアセスメント・2単位・1年, 基盤看護学特別研究・1～2年・通年

5. 社会貢献活動

- ・日本看護研究学会評議員
- ・田川市住宅政策審議会委員
- ・福岡ゆたか中央病院地域協議会委員

6. 学外講義・講演・その他

- ・永嶋由理子, 「看護論」の講義, 福岡県看護教員養成指導者講習会講師, 2020年5月

7. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	福田 和美
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として集中治療室、外科病棟、呼吸器内科病棟での臨床経験のあと、佐賀大学大学院医学研究科看護学専攻（看護学修士）に進学し、手術を受けた乳がん患者の看護を行う看護師の共感に関する研究を行いました。その後大学教員になり、九州大学大学院医学系学府保健学専攻に進学し、術後せん妄患者の家族への看護に関する研究を行い、博士課程を修了しました。現在は、術後せん妄の予防的ケアも含めたうえでの患者や家族の看護に関する研究を継続して行っています。また、高齢者施設での急変時の対応、成人看護学教育におけるシミュレーション教育の導入や効果的な教授方法について研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・村田和子,福田和美 (2020) :成人看護学におけるシミュレーション教育に関する文献検討, 福岡県立大学看護学紀要, 第17巻, p63-70.
- ・坂田英実子, 坂本貴子, 福田和美 (2018) :看護学生の術後患者の観察に関する調査—術後患者のシミュレータのスケッチ内容の分析, 純真学園大学雑誌第7号, p73-78.
- ・一宮絵美, 福田和美, 坂田扶実子 (2017) :成人看護学実習前のICU看護に対する学生のイメージ, 純真学園大学雑誌, 第6号, p35-41.
- ・金山正子, 福田和美, 石飛マリコ, 渡邊美保, 大川法子, 有松美佐緒, 佃 和恵 (2017) :看護学生のための疾患別看護過程1 ナーシングプロセス第2版 第5章「運動器の疾患」, メヂカルフレンド社, p334-351, p356-373, p378-396.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・村田和子, 福田和美 (2020年) :看護基礎教育における患者教育に関する文献検討, 第46回日本看護研究学会学術集会 (大阪市:オンライン).
- ・Kazumi Fukuda, Hisako Nakao (2020) : Experience of families visiting patients immediately after the operation, the 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (Osaka : オンライン) .
- ・村田和子, 福田和美 (2019) :成人看護学におけるシミュレーション教育に関する文献の検討, 第45回日本看護研究学会学術集会 (大阪市) .
- ・Kazumi Fukuda, Hisako Nakao (2017) : An overview of how nurses interact with the families of postoperative patients, The2nd Asia-Pacific Nursing Research Conference (Taipei) .
- ・中尾久子, 酒井久美子, 福田和美 (2017) :高齢者のアドバンス・ケア・プランニング(ACP)に関する国内の文献検討, 第22回日本老年看護学会学術集会 (名古屋) .
- ・一宮絵美, 坂田英実子, 福田和美 (2017) :ICU看護実習前後のICUに関するイメージの変化, 第43回日本看護研究学会学術集会 (東海市) .
- ・坂田英実子, 一宮絵美, 福田和美 (2017) :ICU看護実習において実習指導を行った看護師の経験, 第43回日本看護研究学会学術集会 (東海市) .

③過去の主要業績

〈論文〉

- ・福田和美, 中尾久子 (2015) :術後せん妄を発症した高齢患者の家族の体験, The Journal of Nursing Investigation, 第13巻1,2号, p20-27.
- ・渡邊美保, 福田和美 (2014) :がん患者を対象とした全人的苦痛に対するタクティールケアの効果, 日本看護医療学会雑誌, 第16巻2号, p40-48.

- ・ Kazumi Fukuda, Hisako Nkao (2013) : Effects of post-operative delirium of patients on family members and their response, *The Journal of Nursing Investigation*, 11 (1,2) , p 1-13.

<学会発表>

- ・ 福田和美、中尾久子 (2016) : 術後せん妄を発症した患者に対する家族の表情と行動第 35 回日本看護科学学会学術集会 (広島) .
- ・ Kazumi Fukuda, Hisako Nakao (2014) : Experience of family members of patients who exhibited postoperative delirium, 7th International Nurse Practitioner /Advanced Practice Nursing Network Conference (London) .

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業 (基金分) 基盤研究 (C) 令和 2 年~5 年, 交付金額 3,120 千円, 研究課題: 情報提供を基盤とした術後せん妄に対する看護師と家族の協働的ケアプログラムの開発 (研究代表者)

4. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本クリティカルケア学会、日本がん看護学会、日本看護医療学会、日本老年看護学会、Sigma Theta Tau International

5. 担当授業科目

<学部>

成人看護学概論・1 単位・2 年・前期、チーム医療・1 単位・2 年・前期、成人慢性看護学・2 単位・2 年・後期、成人急性看護学・2 単位・2 年・後期、成人看護学演習 I・1 単位・3 年・前期、成人看護学演習 II・1 単位・3 年・前期、成人急性看護学実習・3 単位・3~4 年・後前期、成人慢性看護学実習・3 単位・3~4 年・後前期、専門看護学ゼミ・1 単位・3 年・通年、看護研究・2 単位・3 年前期、統合実習・2 単位・4 年・通年、卒業研究・1 単位・4 年生・通年

<大学院>

Advanced 臨床薬理学・2 単位・1 年・通年、成人看護学特論・2 単位・1 年前期、成人看護学演習・2 単位・1 年後期、看護研究法・2 単位・1 年前期、終末期高齢者看護論・2 単位・1 年前期、臨床看護学特別研究・1~2 年・8 単位・通年、課題研究・1~2 年・4 単位・通年

6. 社会貢献活動

- ・ 福岡県看護協会 教育研修体系再構築プロジェクト委員
- ・ 福岡県看護協会 第 20 回福岡県看護学会 座長
- ・ 済生会福岡総合病院 特定行為研修管理委員会 外部委員
- ・ 飯塚市立病院看護部研修会 (看護過程) 講師
- ・ 九州大学大学院医学系学府 研究員

7. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

8. 学外講義・講演

9. 研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	松浦 賢長
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

母子保健学者，思春期保健学者，性教育学者。保健学博士（東京大学）

東京大学を卒業後，同大学院に進学し，東京大学医学系研究科博士課程を修了（保健学博士）。日本総合愛育研究所母子保健研究部に研究員として勤務後，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部母子保健学教室に研究助手として勤務。帰国後，京都教育大学教育学部にて衛生学（学部）および学校保健学（大学院）を担当する助教授として教員養成に10年間携わる。再度，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部人口・家族計画学教室に助手として勤務し，平成15年度から本学看護学部開設と同時に地域看護学講座教授として着任した。その後，学部改組によりヘルスプロモーション看護学系学校保健領域（養護教諭養成課程を含む）教授を経て現職（看護学部教授）。また，本学の附属図書館長を平成20年度から21年度まで兼務。平成22年度～23年度には，本学の4つのセンターを有する附属研究所長を兼務。平成24年度，不登校・ひきこもりサポートセンター長。平成25年度から，教員兼務理事を務める。

母子保健学：全国学会レベルでは，日本小児保健学会が10年に一度行う幼児健康度調査（令和2年）の委員長を務めている。国レベルでは，わが国の母子保健（健やか親子21）については，第1回中間評価時（2005年），第2回中間評価時（2009年），最終評価時（2014年）に評価研究メンバーとして九州から只一人参画し，健やか親子21（第2次）策定に係った。また，長年にわたり厚生労働科学研究（山縣然太郎班）のメンバーとして政策研究を遂行してきている。わが国の産後うつ病の頻度の把握をはじめとして，研究成果が厚生労働行政政策に反映されている。わが国の乳幼児健診の標準化にいてもグランドデザインから関わり（山崎嘉久班），わが国で初めての全国標準問診項目の開発を担当した。県レベルにおいても，福岡県の乳幼児健診マニュアルの開発委員長を務めた。現在は，福岡県青少年問題協議会委員長，福岡県性暴力対策会議座長，福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会副委員長，福岡市こども子育て審議会委員長，北九州市思春期保健連絡会会長などを拝命している。平成25年度（12月1日）には，第26回日本保健福祉学会学術集会を主催。本学を保健福祉学の拠点とするべく業績を発信中である。

思春期学：学会レベルでは，日本思春期学会の常務理事および性の健康医学財団の幹事を務める傍ら，九州思春期研究会の会長として，山積する思春期の課題に取り組んでいる。国レベルでは，健やか親子21の指標の見直しを担当し，厚生労働省と文部科学省の協力のもと，慎重な性行動を予測する指標の開発を行い，国の施策に反映させた。また，思春期やせ症予防のためのマニュアル（全国版）を開発・出版した。さらに，平成20年度からは文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に不登校の子どもたちへの援助力を養成するためのプログラムが採択され，推進責任者としてプログラムを実行した（～平成22年度）。県レベルでは，福岡県エイズ・性感染症対策委員を拝命し，また，北九州市の性感染症対策のための大規模調査（2007年）、久留米市の思春期問題調査（2014年）を担当した。平成23年度（8月26日～28日）には，第30回日本思春期学会学術集会を主催した。

性教育学：学会レベルでは，いまだ学問として発展途上にあることから，性教育学を確立するべく，全国の若手研究者とともに性教育学構築フォーラムを主催し，わが国で初めてとなる性教育学の書籍を出版した。国レベルでは， Kaplan・マイヤー法を初めて用いた日本人の性行動の分析をおこない，厚生労働省人口問題研究所等から評価を受けた。また，新しい学校性教育のスタイルである「カフェテリア方式」を開発し，全国に導入されている。現在は全国の若手研究者とともに「思いやり」と「共感」の違いに着目しつつ，脳科学・進化心理学の成果を利用し，性教育学モデルを組み立てている。県レベルでは，福岡県の性教育関連事業の委員等を務め，小集団学習福岡方式の開発に寄与した。現在は特別支援学校の性教育に取り組む。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・近藤洋子 (編著) . (2021.3) . 「生命と性」の教育. 東京: 玉川大学出版部.
- ・日本小児保健協会幼児健康度調査委員会 (委員長: 松浦賢長) . (2020.11) . 子どもの保健. 東京: ジアース教育新社.
- ・松浦賢長 (編著) . (2018.3) . ワークシートから始める特別支援教育のための性教育. 東京: ジアース教育新社.
- ・松浦賢長, 小林康毅, 荻田香苗 (編著) . (2018.3) . コンパクト公衆衛生学. 東京: 朝倉書店.

<主要著書>

- ・荒堀憲二, 松浦賢長 (編著) . (2012.4) . 性教育学. 東京: 朝倉書店.
- ・松浦賢長, 笠井直美, 渡辺多恵子 (編著) . (2017.3) . 学校看護学. 東京: 講談社.

3. 外部研究資金

- ・厚生労働科学研究費補助金, 健やか次世代育成総合研究事業「母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究」班: 60万円, (主任研究者: 山梨大学 山縣然太郎教授). 分担研究者.
- ・厚生労働科学研究費補助金, 成育疾患克服等次世代成育基盤研究事業「乳幼児の身体発育及び健康度に関する調査実施手法及び評価に関する研究」班: 770万円, (主任研究者: 国立保健医療科学院 横山徹爾部長). 分担研究者.
- ・厚生労働科学研究費補助金, 成育疾患克服等次世代成育基盤研究事業「身体的・精神的・社会的 (biopsychosocial) に健やかな子どもの発育を促すための切れ目のない保健・医療体制提供のための研究」班: 80万円, (主任研究者: 東京大学 岡明教授). 分担研究者.
- ・AMED, 成育疾患克服等総合研究事業「思春期健診およびモバイルテクノロジーによる思春期のヘルスプロモーション」研究: 50万円, (主任研究者: 久留米大学 永光信一郎准教授). 分担研究者.

5. 所属学会

日本思春期学会 (常務理事), 日本保健福祉学会 (理事), 日本看護科学学会 (社員), 日本公衆衛生学会, 日本小児保健学会 (幼児健康度調査委員長), 日本母性衛生学会, 日本健康教育学会, 日本学校保健学会, 日本民族衛生学会, 日本性感染症学会, 日本性科学学会

6. 担当授業科目

<学部>

公衆衛生学, 保健統計学, 学校保健学, 性教育学, 教育方法論, 健康教育論, 養護実習 (教育実習), 養護実習事前事後指導, 教職実践演習, 不登校ひきこもり援助論, 子供学習支援論

<大学院>

看護研究法, ヘルスプロモーション科学, ヘルスプロモーション看護学特別研究, 思春期ヘルスプロモーション特論/同演習

7. 社会貢献活動

- ・日本思春期学会・常務理事
- ・財団法人性の健康医学財団・幹事
- ・九州思春期研究会・会長
- ・福岡県青少年問題協議会・委員長
- ・福岡県性暴力対策会議・座長
- ・福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会・副委員長
- ・北九州市思春期保健連絡会・会長
- ・福岡市こども子育て審議会・委員長
- ・ケアリングアイランド九州沖縄大学コンソーシアム・取組担当者

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	石村 美由紀
-----------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

不妊支援、妊婦教育、助産師教育に関する研究に取り組んでいる。特に不妊支援においては、不妊専門相談センターのあり方に関する研究を行うとともに、不妊当事者のおしゃべり会を定期的に開催したり、行政の不妊相談員として活動している。妊婦教育においては、マタニティサロン・ムーンという妊婦教室の企画・運営に携わっている。助産師教育においては、助産学実習における学生のパワーレスに関する研究や、分娩介助技術習得過程に関する研究を行い教育の質の向上に努めている。また小中高校生対象の性教育も積極的に行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 金子あやみ, 鳥越郁代, 石村美由紀 (2020). 「進まない分娩」に対する開業助産師の助産ケア. 日本助産学会誌 34 (2), 204-215.
- 道園亜希, 古田祐子, 佐藤繭子, 石村美由紀 (2019). 小学生の子どもをもつ保護者が家庭で行った就学前後の性教育の実態. 福岡県立大学看護学部紀要 16 (1),

②その他最近の業績

- 橋本優, 石村美由紀, 佐藤香代 (2018). 有効性と安全性の高い骨盤位矯正法—温灸・膝胸位・施行なし群の比較—. 第59回日本母性衛生学会学実集会, , 2018.10.
- 針持萌, 鳥越郁代, 石村美由紀, 古田祐子 (2018). 看護学生の基礎体温の変動パターンおよび月経随伴症状とそのセルフケア行動の実態調査. 第 33 回日本助産学会学実集会, 福岡, 2019.3.
- 金子あやみ, 鳥越郁代, 石村美由紀 (2018). 「進まない分娩」に対する開業助産師の分娩進行を促すための助産ケア. 第 33 回日本助産学会学実集会, 福岡, 2019.3.
- 安河内静子, 古田祐子, 石村美由紀, 吉田静, 鳥越郁代 (2018). 助産所での継続ケア実習が助産師としてのアイデンティティ形成に及ぼす過程. 第 33 回日本助産学会学実集会, 福岡, 2019.3.

③過去の主要業績

- 石村美由紀, 佐藤香代, 吉田静, 道園亜希, 林千絵, 清田哲子 (2017). 死産を体験した母親の次子の妊娠・出産・育児に関する研究(第2報)—次子の出産・育児体験の語りから—. 母性衛生 58(2), 346-354.
- 道園亜希, 佐藤香代, 石村美由紀 (2017). 小学校教諭が行う性教育の体験—助産師との連携を目指して—. 母性衛生 58(2), 412-419.
- 石村美由紀 (2017). 不妊専門相談センターの認知と利用の実態. 第 58 回日本母性衛生学会学実集会, 神戸, 2017.10.
- 石村美由紀, 古田祐子 (2017). A 大学における「不妊のおしゃべり会」開催に関する実践報告. 第 58 回日本母性衛生学会学実集会, 神戸, 2017.10.
- 石村美由紀, 古田祐子, 佐藤繭子, 道園亜希 (2017). 小・中学生をもつ保護者の学校性教育と家庭性教育に対する認識. 第 32 回日本助産学会学実集会, 横浜, 2018.3.
- 道園亜希, 古田祐子, 佐藤繭子, 石村美由紀 (2017). 小学生をもつ保護者の家庭での性教育の実態. 第 32 回日本助産学会学実集会, 横浜, 2018.3.
- 古田祐子, 道園亜希, 佐藤繭子, 石村美由紀 (2017). 就学前の子どもに対する保護者の家庭における性教育の実態—小学生を持つ保護者を対象とした後方視的調査より—. 第 32 回日本助産学会学実集会, 横浜, 2018.3.

- ・石村美由紀, 佐藤香代, 吉田静, 林千絵, 清田哲子(2016). 死産を体験した母親の次子の妊娠・出産・育児に関する研究(第1報)一次子妊娠の体験の語りからー. 母性衛生 56(4), 692-700.
- ・石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代, 鳥越郁代(2016). 学士課程における助産実践能力(分娩介助技術および健康教育)の到達状況と課題. 福岡県立大学看護学部紀要 13(1), 1-10.
- ・石村美由紀. (2016). 「自治体ウェブサイトから得られる不妊専門相談センター事業の情報と課題」. 日本生殖看護学会誌 13(1), 21-27.
- ・石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代(2015). 助産実習における学生のパワーレス状態に関する研究—その要因と回復の促進—. 福岡県立大学看護学部紀要 12(1), 13-23.

3. 外部資金

科研費：「行政が担う不妊専門相談センターを活用した不妊支援システムの構築」
 基盤研究C（課題番号17K12311）
 事業期間：平成29年度から令和2年度まで（延長して令和3年度まで）
 交付金額：1,076,425円

4. 受賞 特になし

5. 所属学会

日本母性衛生学会, 日本助産学会, 日本不妊カウンセリング学会, 日本生殖看護学会（査読委員）, 日本思春期学会（代議員）, 日本看護科学学会ほか

4. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護学概論(1)・2年前期, 女性看護学(2)・2年後期, 女性看護学演習Ⅰ(1)・3年前期, 女性看護学演習Ⅱ(1)・3年後期～4年後期, 女性看護学実習(2)・3年後期～4年前期, 専門看護ゼミ(2)・3年通年, 卒業研究(2)・4年通年, 統合実習(2)・4年前期,

〈大学院〉

助産学特論(2)・1年前期, 助産学演習(2)・1年後期, ウイメンズヘルスト論(1)・1年前期, ウイメンズヘルス演習(1)・1年後期, 基礎助産学特論(2)・1年前期, 基礎助産学演習(2)・1年通年, 助産実践学Ⅰ(2)・1年前期, 助産実践学Ⅱ(4)・1年通年, 助産実践学Ⅲ(2)・1年後期, 助産実践学Ⅳ(2)・1年後期, ホリスティック助産学特論(1)・1年前期, ホリスティック助産学演習(2)・1年後期, コミュニティ助産学特論(1)・1年前期, コミュニティ助産学演習(2)・1年後期, マネジメント助産学特論(2)・2年前期, 助産学実習Ⅰ(1)・1年前期, 助産学実習Ⅱ(8)・1年後, 助産学実習Ⅲ(2)・2年前期, 助産学実習Ⅳ(1)・2年前期, 助産学実習Ⅴ(2)・2年後期, 特別研究(8)・通年, 課題研究(4)・通年,

5. 社会貢献活動

- ・北九州市不妊専門相談センター 不育症相談担当
- ・不妊カウンセラー（日本不妊カウンセリング学会認定）
- ・アドバンス助産師
- ・妊婦教室（マタニティサロン・ムーン）（香春町共催）全5回シリーズ

6. 学外講義・講演

- ・性教育「大切なあなたの性 - “こころ” と “からだ” を正しく知ろうー」. 福岡市立多々良中学校1年生. (2020.12)

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	櫛 直美
-----------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

北九州市立大学社会システム研究科地域社会システム専攻博士後期課程修了、博士（学術）。研究分野は「地域・在宅で生活する療養高齢者とその家族の支援」をテーマとし、特に近年は認知症を抱える家族介護者の“持てる介護力”に着目して、その潜在的介護力を引き出し向上させていくための多職種協働による効果的な介入方法について研究中です。介護保険制度が施行され家族の身体的介護負担は軽減された側面もありますが、孤立した家族介護者の寂しさや閉塞感は以前と変わっていないように感じます。本当に必要な看護支援を見出すためには、自ら介護家族者と触れ合いその苦悩を感じ取る感性が必要だと考えます。そのために介護する側とされる側の方々に寄り添った医療・福祉連携の多職種研修会や介護関係の研修会講師など地域での実践活動を積極的に行い、その活動を通して、介護保険制度にはないインフォーマルな関係性を構築していきたいと思えます。そして目指すはエビデンスに基づいた家族介護者のエンパワメント向上への看護支援です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

《著書》

- ・尾形由紀子, 山下清香監修, 櫛直美. 地域包括ケアをすすめる公衆衛生看護学演習・実習. 第2章地域の健康課題のアセスメント. クオリティケア, 2019年9月.

《論文》

- ・尾形由起子, 小野順子, 山下清香, 櫛直美, 眞崎直子. 多職種による終末期までの療養生活に対する意思決定支援内容の検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第18巻. 2021, 3月.
- ・櫛直美・尾形由起子・江上史子. 家族介護者の介護力構造因子における関連要因と介護負担感への影響. 日本看護研究学会雑誌, Vol. 42 No. 1. 2019. 3月.
- ・櫛直美. 多職種連携による協同的ケアを組み込んだ地域包括ケア推進に向けての一考察. 地域ケアリング. 北隆館, Vol. 21 No. 11. 2019. 10月.
- ・櫛直美. 認知症を抱える家族介護者への地域支援の取り組みへの提言—認知症を抱える家族介護者と専門職者による語り合いの場を通して—. 地域ケアリング. 北隆館, Vol. 21 No. 6. 2019. 6月.
- ・猪狩崇・石崎龍二・櫛直美・柴田雅博・小野順子・檜橋明子・杉本みぎわ・尾形由紀子. 地域包括ケアシステム構築に向けた人的ネットワーク形成・運営に関する一考察. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第16巻. 2019. 3月.
- ・久保哲郎・櫛直美・和田和人・杉本みぎわ・原田和昭・小林繁・濱崎順子・奥田晶子・田中美奈子・中村英敏・吉村和代・黒木みよ子・武田諭志・浪花真子・吉井仁美. 地域包括ケアに向けて多職種連携の在り方の検討—多職種連携研修会を通して—日本ホスピス・在宅ケア研究会雑誌, 第26巻2号. pp. 83~90, 2018.
- ・櫛直美・大野麻衣子. 高齢者の死生観に関連する要因の検討. 日本ホスピス・在宅ケア研究会雑誌, 第26巻2号. pp. 335~341, 2018.
- ・猪狩崇, 石崎龍二, 櫛直美, 柴田雅博, 小野順子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 尾形由紀子. 地域包括ケアシステム構築に向けた地域医療情報連携ネットワークシステム導入に関する一考察. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第15巻. 2018. 3月.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・櫛直美, 雪松和子, 江上史子, 廣瀬理恵. 認知症カフェ開設に向けた人材育成の取り組みの効果について. 第40回日本看護科学学会. Web開催. 2020年. 12月.

- ・ 榎直美, 小野順子, 中村美穂子, 廣瀬理絵, 山下清香, 尾形由起子. 在宅医療推進における訪問看護師の連携に関する研究—連携強化事業を通して(第1報)—. 第78回日本公衆衛生学会総会. 高知. 2019. 10月.
- ・ 山下清香, 尾形由起子, 榎直美, 小野順子, 迫山博美. 訪問看護ステーションの連携強化における保健所保健師の役割に関する考察. 第78回日本公衆衛生学会総会. 高知. 2019. 10月.
- ・ 中村美穂子・小野順子・廣瀬理絵・岩崎玲奈・榎直美・尾形由起子 A 県における退院支援部門の実態及び退院支援・退院調整に関する意識調査 —第一報—. 第24回日本在宅ケア学会学術集会. 仙台, 2019年7月.
- ・ 江上史子・丸山泰子・榎直美. デイサービスでの BPSD の軽減に関連する効果的なケアの要因. 第24回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会. 大分. 2019. 11月.
- ・ 丸山泰子・榎直美. 認知症高齢者の生活機能の維持・改善に関する研究—デイサービスにおけるケア効果についての—考察—. 第23回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会. 長崎. 2018. 11月.
- ・ 杉本みぎわ, 榎直美, 山下清香, 猪狩崇, 中村美穂子, 平塚淳子, 山本博美, 尾形由起子. A 県の訪問看護ステーション交流会事業を通して見えた連携の在り方と今後の課題. 第23回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会. 長崎. 2018. 11月.
- ・ 平塚淳子, 杉本みぎわ, 榎直美, 吉田恭子, 山下清香, 檜橋明子, 中村美穂子, 尾形由起子. A 県における訪問看護師の同行訪問研修と看護師間における連携に関する研究. 第23回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会. 長崎. 2018. 11月.

<報告書>

- ・ 「平成31年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業」報告書, 2020年3月.
- ・ 「平成30年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業」報告書, 2019年3月.
- ・ 「平成29年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業」報告書, 2018年3月.
- ・ 「平成29年度附属研究所重点領域研究:在宅医療推進における医療福祉情報に関する研究」報告書, 2018年3月.

③ 過去の主要業績

『博士論文』家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究 - 家族介護者の介護力向上のために必要な看護支援の検討. 全115頁. 2015年3月.

3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省科学研究費補助金、基盤 C (平成 30～33 年)「認知症カフェにおける家族介護者の介護力獲得支援モデルの開発」研究代表者
- ・ 福岡県訪問看護連携強化事業受託金 (2020～2022 年) 研究分担者(代表;尾形由起子)
- ・ 文部科学省科学研究費補助金、基盤 C (平成 29～32 年)「簡易型認知行動療法プログラムの生活習慣改善への効果検証」研究分担者 (代表;田中美加)
- ・ 文部科学省科学研究費補助金、基盤 C (平成 29～32 年)「地域に密着した住民の主体的介護促進のための教育支援モデル」研究分担者 (代表;尾形由紀子)

5. 所属学会

日本看護協会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本在宅ケア学会、日本老年看護学会、日本公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本看護医療学会、日本在宅ホスピスケア研究会

6. 担当授業科目

老年看護学・2単位・2年・後期,老年看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期,老年看護学演習Ⅱ,

1 単位・3～4 年・通年, 老年看護実習Ⅰ・1 単位・2 年・通年, 老年看護実習Ⅱ・2 単位・3～4 年・通年, 専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年, 統合実習・2 単位・4 年・前期, 卒業研究・2 単位・4 年・後期, 老年看護学特論・2 単位・修士 1 年, 老年看護学演習・2 単位・修士 1 年, 高齢者医療保健福祉政策・ケアシステム論 2 単位・修士 1 年,

7. 社会貢献活動

- ・ NPO 法人「ヘルスアイランドライツサポートうりずん」第三者評価委員会委員長
- ・ 北九州市生きがい・働き方検討会委員
- ・ 田川市地域包括ケアシステム推進協議会委員
- ・ 田川市高齢者保健福祉計画有識者会議委員
- ・ NPO 法人「福祉・医療機関教育評価機構」理事・第三者評価委員
- ・ NPO 法人「生涯現役支援センター」高齢者健康相談員
- ・ 平成 30 年度「人に優しい町・田川をつくる会」理事
- ・ 北九州在宅医療・介護塾世話人として年間を通して多職種連携研修会やフォーラム等開催による実践活動.
- ・ 筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」参画し年間を通し地域住民との協同的实践活動.

8. 学外講義・講演

- ・ 北九州市介護従事者研修会オンライン開催講師「高齢者の誤嚥予防～あきらめない食事へのアプローチ～」ウェル戸畑, 2021 年 2 月.
- ・ NPO 法人生涯現役支援センター講師「健やかに老いる」行橋, 2020 年 8 月.

9. 附属研究所の活動等

- ・ 附属研究所奨励研究令和 2 年度 (附属研究所重点領域研究), 地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データの GIS 分析による地域診断モデルの開発.
- ・ 筑豊市民大学ヘルシーエイジングゼミアドバイザー.

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	芋川 浩
-----------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1987年に大阪大学 大学院医学研究科を修了後(医科学修士)、名古屋大学 大学院理学研究科博士後期課程修了(理学博士)を経て、岡崎国立共同研究機構・基礎生物学研究所にて日本学術振興会・特別研究員(PhD)、科学技術振興機構(JST) ERATO 吉里再生機構プロジェクト・グループリーダー、University College London (UCL) 上級研究員、RIKEN 発生再生総合科学研究センター上級研究員を経て、2005年本学に着任。

現在、再生医療に関する研究を、脊椎動物で唯一手足などを再生できるイモリやプラナリアなどを用いて解析している。ヒトなどは、一度手足や臓器・器官を失うと、元通りに再生させることはできないが、アカハライモリという有尾両生類は、手足や水晶体、網膜などを一度失っても、その後完全に再生できる(イモリ(井守)はヤモリ(家守)とは違いますよ!)。また、近年のめざましい生命科学の進歩により、手足をつくる主な遺伝子群もわかってきた。実は、手足をもつ脊椎動物は、全く同じ遺伝子を用いて手足を形成している。では、同じ遺伝子を持っているのに、なぜヒトは再生できず、イモリは再生できるのか?その難問を解明しようと研究を進めている。

近年注目されているiPS細胞を使っても、3次元臓器・器官の形成に世界で誰もまだ成功していない。このような夢の再生医療の実現を再生能力のキングであるプラナリアやイモリから教えてもらいたいと考え、2017年、世界で2例目となる「イモリの培養細胞株」の樹立に成功した。日本初の樹立である。このイモリの細胞株を使って、試験管内での3次元組織構築に挑んでいる。

さらに、このような再生医学的アプローチばかりではなく、独自で「スキนครリーム」を開発し、2016年、福岡県立大学初の特許取得にも成功した。さらに、医療に使える殺菌抗菌効果の解析も進めており、ヨーグルトやニンニク、長ネギなどに加え、キムチや味噌などでも興味深い結果が得られている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・ 芋川 浩, 藤野真璃花. 『味噌の殺菌・抗菌効果の解析』
福岡県立大学看護学研究紀要, 18 : 1-11, (2021)
- ・ 芋川 浩, 古谷弥椰. 『常在菌に対する生ワサビ抗菌効果の解析』
福岡県立大学看護学研究紀要, 17 : 17-25, (2020)
- ・ 芋川 浩, 有馬萌美, 水城明美. 『ショウガの殺菌・抗菌効果とその実用化に向けた解析』
福岡県立大学看護学研究紀要, 16 : 83-94, (2019)
- ・ 鳥越郁代, 加藤法子, 松井聡子, 許棟翰, 芋川 浩, 清原智佳子, 松浦賢長.
『韓国、大邱韓医大学校における韓方医学及び看護短期研修プログラムの開発』
福岡県立大学看護学研究紀要, 16 : 111-119, (2019)
- ・ 芋川 浩, 二松沙耶菜, 伊藤みゆき. 『純粋ハチミツが必ずしも抗菌効果をもつとは限らない』
福岡県立大学看護学研究紀要, 15 : 25-34, (2018)
- ・ 加藤法子, 鳥越郁代, 吉村美奈子, Ian Stuart Gale, 芋川 浩, 許棟翰, 岡本雅享, 松浦賢長.
『本学学生の国際交流に関する意識調査』
福岡県立大学看護学研究紀要, 15 : 73-82, (2018)

②その他最近の業績

〈国内学会〉

- ・ 芋川 浩. 『味噌の殺菌・抗菌効果の解析』 日本看護研究学会 第46回学術集会 (2020年オンライン)

- ・ 芋川 浩.『ヨーグルトの抗菌効果の解析』 日本看護研究学会 第 45 回学術集会 (2019 年 大阪)
- ・ 芋川 浩.『梅干しには本当に殺菌抗菌効果があるのか?!』 日本看護研究学会 第 44 回学術集会 (2018 年 熊本)
- ・ 加藤法子、松井聡子、清原智佳子、芋川 浩、松浦賢長.『海外短期語学研修への参加による学生の学びの検討』 日本看護研究学会 第 23 回九州・沖縄地方会学術集会 (2018 年 長崎)
- ・ 松井聡子、加藤法子、清原智佳子、芋川 浩、松浦賢長.『留学生との交流事業に参加した学生の学び』 日本看護研究学会 第 23 回九州・沖縄地方会学術集会 (2018 年 長崎)
- ・ 芋川 浩.『大震災時に、簡易消毒薬として何が使えるのだろうか?』 日本看護研究学会 第 43 回学術集会 (2017 年 東海市)

③過去の主要業績

<著書>

- ・ 芋川 浩 (単著)『ライフサイエンス 生命の神秘』 木星舎, p1-144, 2017 年
- ・ 芋川 浩 (分担)再生一甦るしくみー 吉里勝利編 (第 4-5 章 担当) 羊土社 第 4-5 章(p82-136), 1997 年

<論文>

- ・ Imokawa Y., Seikoba M., & Akiyoshi Y. 『Sterilization effect of the alcoholic beverages which aimed at the disaster medical care.』 JISRI 2016, OB6, p1-4, (2016)
- ・ 芋川 浩.『皮膚創傷部治癒用組成物及び同皮膚創傷部治癒用組成物の製造方法』 日本国特許庁・特許公報(B2) p1-20, 2016 年
- ・ Y. Imokawa, A. Simon & J. P. Brockes. A Critical Role for Thrombin in Vertebrate Lens Regeneration. Philos. Trans. R. Soc. Lond. B. Biol. Sci., **359**, 765-776 (2004).
- ・ Y. Imokawa, P. B. Gates, Y-T Chang, H-G. Simon & J. P. Brockes. Distinctive Expression of Myf5 in Relation to Differentiation and Plasticity of Newt Muscle Cells. Int. J. Dev. Biol., **48**, 285-291 (2004).
- ・ Y. Imokawa & J. P. Brockes. Selective Activation of Thrombin is a Critical Determinant for Vertebrate Lens Regeneration. Curr. Biol. **13**, 877-881 (2003).
- ・ Y. Imokawa & K. Yoshizato. Expression of Sonic Hedgehog Gene in Newt Regenerating Limb Blastemas Recapitulates That in Developing Limb Buds. Proc. Natl. Acad. Sci. USA **94**, 9159-9164 (1997).

5. 所属学会

日本発生生物学会、日本分子生物学会、日本動物学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

生物学・2単位・1年・前期、教養演習・2単位・1年・前期、遺伝学・2単位・1年・後期、看護生化学・2単位・1年・後期、化学・2単位・1年・後期、生態病態看護学実験 A・2単位・2年生・前期、生態病態看護学実験 B・2単位・2年生・前期、グローバル社会論・2単位・2年生、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、日本事情(科学事情 I&II)・2単位・交換留学生・後期、老年病診断治療学・2単位・大学院修士 1 年・前期、老年看護学特論・2単位・大学院修士 1 年・前期

7. 社会貢献活動

- ・ J-stage での月間アクセスランキング 全日本 2 位。 (J-stage 日本看護研究学会雑誌 月間アクセス数ランキング 2020 年 04 月)
- ・ 宗像市(教育委員会)・福津市(教育委員会)による青少年育成事業の委員として、海とマリンスポーツに親しむ推進事業を小中学生等に指導している
- ・ 西南学院大学・非常勤講師 (科目名：生命科学 I(7), 生命科学 I(8), 生命科学 II(7), 生命科学 II(8))
- ・ 聖マリア学院大学・非常勤講師 (科目名：生物学)

8. 学外講義・講演

<インターネット記事>

日時：令和 2 年 5 月 18 日 オンライン発行

媒体：日本の身土不二 (<https://shindofuji-nippon.com>)

記事タイトル：すりおろした本ワサビの抗菌効果に注目！災害緊急時の感染症予防に家庭の食品を利用 福岡県立大 (写真付き)

URL：[https://shindofuji-](https://shindofuji-nippon.com/?s=%E7%A6%8F%E5%B2%A1%E7%9C%8C%E7%AB%8B%E5%A4%A7%E5%AD%A6)

[nippon.com/?s=%E7%A6%8F%E5%B2%A1%E7%9C%8C%E7%AB%8B%E5%A4%A7%E5%AD%A6](https://shindofuji-nippon.com/?s=%E7%A6%8F%E5%B2%A1%E7%9C%8C%E7%AB%8B%E5%A4%A7%E5%AD%A6)

<学外講義>

- ・ 令和 02 年 04 月 24 日 エルガーラビル(入試説明会、新型コロナのため中止)
- ・ 令和 02 年 07 月 15 日 福岡県立嘉穂東高等学校 (Zoom での高校への入試説明)
- ・ 令和 02 年 09 月 08 日 ホテル日航熊本 (入試説明会)

9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	四戸 智昭
-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

アルコール依存症などの依存症問題、児童虐待、不登校・ひきこもりなど主に家族機能に関する行動病理学を主な研究対象としています。具体的には、①不登校・ひきこもりの子を抱えた親の問題、②幼児期に児童虐待を受けた人の複雑性 PTSD に関する問題、③生活保護受給世帯におけるアルコール依存症の問題 などに関して調査研究をしています。

家族のあり方が多様化している一方で、その家族が地域から孤立してしまっているような悲しいニュースを聞かない日はありません。地域保健活動などでこういった分野に関わっていらっしゃる方や学校関係者の方、また、福祉関係者の方、ご要望があればいつでもお話を伺いに参ります。お気軽にメールでご連絡ください。

(E-MAIL : shinohe@fukuoka-pu.ac.jp)

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

四戸智昭著. "第3章資料を探そうー上手に本を探すテクニクー". 『旅する大学生のガイドブックーレポートの書き方2020年度版』. (2020). 福岡、福岡県立大学教養演習テキスト出版会.

②その他の業績

<シンポジウム>

日本嗜癡行動学会第29回学術集会、「ひきこもりの表層と深層を架橋するーひきこもりと嗜癡・ひきこもりからの回復ー」シンポジスト、福岡、2018年10月

③過去の主要業績

- ・四戸智昭著. (単著). 『浪費を止める小さな習慣』. (2001). 光文社.
- ・丸山久美子編著. 柏木哲夫、佐藤禮子、吉井光信、楯林義孝、石谷邦彦、平山正実、日野原重明、萬代隆、宮崎貴久子、小林美智子、丸山久美子、加藤淳、竹村和久、須田誠、南隆男、木島恒一、四戸智昭、大塚健樹、鈴木則子、小泉晋一、松井洋、西村洋一、作田明、小谷みどり. "第14章家族の孤立という危機ーディスコミュニケーションが生む家族の苦悩ー". 『21世紀の心の処方学ー医学・看護学・心理学からの提言と実践ー』. (2008). 東京、アートアンドブレイン出版.
- ・西日本新聞朝刊連載、家族百景II、四戸智昭、「不登校・ひきこもり考ー親子の視点から」2013年8月13日～12月24日(全19回)

3. 外部研究資金

科学研究費補助金(基盤研究C) R1(H31)～R3「不登校・ひきこもり当事者家族に変化を促す支援者のためのフローチェックリストの研究」(研究代表者 四戸智昭)

4. 受賞

5. 所属学会

日本嗜癡行動学会(学会誌編集委員)、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本アルコール関連問題学会、日本看護アディクション学会、子ども虐待防止学会

6. 担当授業科目

情報処理演習Ⅰ・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、現代社会と嗜癖・2単位・1年・後期、不登校ひきこもり援助論・2単位・1年・前期、看護学研究・2単位・3年・後期、家族看護学・1単位・3年・前期、保健医療福祉行政論Ⅰ・1単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、保健医療福祉行政論Ⅱ・2単位・4年・後期、日本事情B・留学生・前期、日本事情A・留学生・後期、大学院看護学研究法・2単位・1年・前期、大学院家族社会学特論・2単位・1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県北九州市地域薬物関連問題連絡会議・委員
- ・福岡県覚せい剤・麻薬禍対策協議会・委員
- ・田川市いじめ問題対策委員会・委員長
- ・グリーンコープ福岡生活困窮者自立支援事業相談対応・アドバイザー
- ・北九州市依存症対策連携会議・委員
- ・福岡県薬物再乱用対策推進会議・委員

8. 学外講義・講演

- ・ビハーク福岡、講演：引きこもり依存症と家族～家族に変化を促す支援とは～、2020年6月
- ・福岡県発達障がい者支援センターゆう・もあ、講演、2020年10月
- ・嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所、講演、ひきこもり支援者地域ネットワーク研修、2020年11月
- ・楠の会、講演、～コロナ禍とひきこもり依存症、2020年11月
- ・北九州市ひきこもり支援講演会、2020年12月
- ・筑紫保健福祉環境事務所、講演、ひきこもり支援者地域ネットワーク研修、2020年12月
- ・糸島保健福祉環境事務所、講演、ひきこもり支援者地域ネットワーク研修、2020年12月
- ・宗像・遠賀保健福祉環境事務所、講演、ひきこもり支援者地域ネットワーク研修、2020年12月
- ・北筑後保健福祉環境事務所、講演、ひきこもり支援者地域ネットワーク研修、2021年1月
- ・筑後ブロック民生委員児童委員協議会会長研修会、2021年1月
- ・田川福祉事務所、講演、ひきこもり支援者地域ネットワーク研修、2021年1月
- ・京築保健福祉環境事務所、講演、ひきこもり支援者地域ネットワーク研修、2021年2月
- ・南筑後保健福祉環境事務所、講演、ひきこもり支援者地域ネットワーク研修、2021年2月
- ・水巻看護助産学校、特別講義、2021年2月

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	杉野 浩幸
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

広島大学大学院工学研究科博士課程後期修了、博士（工学）。細菌学演習を中心とした授業改善・教材開発、看護職を対象とした学会発表支援・情報機器操作支援（Microsoft Office Specialist 取得）など、ICT テクノロジーを活用した研究・教育を行っている。現在の研究テーマは、1) 看護系教育機関における効果的な細菌学演習マニュアルの作成、2) 中堅看護従事者のための学会参加支援プログラムの開発、3) 看護師、看護学部教員を対象とした細菌培養実験の指導、4) 看護系教育機関における効率的な細菌学演習を支援するデータベースの構築と運用、5) 効率的な看護研究・教育を支援するデジタル素材無償配信システムの構築と運用

2. 研究業績

③過去の主要業績

- ・ H. Sugino, M. Sasaki, H. Azakami, M. Yamashita, and Y. Murooka, A monoamine-regulated *Klebsiella aerogenes* operon containing the monoamine oxidase structural gene (*maoA*) and the *maoC* gene. 1992, *J. Bacteriol.* **174**:2485-2492
- ・ H. Sugino, Y. Terakawa, A. Yamasaki, K. Nakamura, Y. Higuchi, J. Matsubara, H. Kuniyoshi, and S. Ikegami, Molecular characterization of a novel nuclear transglutaminase that is expressed during starfish embryogenesis. 2002, *Eur. J. Biochem.* **269**: 1957-1967
- ・ H. Sugino, S. Furuichi, S. Murao, M. Arai and T. Fujii, Characterization of a *Rhodotorula* lytic enzyme from *Paecilomyces lilacinus* having β -1,3-mannanase activity. 2004, *Biosci. Biotechnol. Biochem.* **68**:757-760

3. 外部研究資金

文部科学省学術研究助成基金（科研費（基盤C））、効率的な看護研究・教育を支援するデジタル素材無償配信システムの構築と運用、継続中、（2019年4月～2022年3月）

5. 所属学会

日本看護学教育学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、感染・免疫看護学演習・1単位・1年・後期、生態・病態看護学実験 A, B・1単位・2年・前期、看護研究・2/15単位・3年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	田中 美樹
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

名古屋大大学院医学系研究科修了《修士（看護学）》。2011年より本学に着任する。主な研究内容は、地域で生活する子どもたちの健康を支える看護職や保育士に対する教育的支援に関する研究、小児科外来におけるプレパレーションに関する研究、入院中の子どもの生活を支える保育士と看護師の協働に関する研究および幼稚園・保育所など地域で生活する子どもや家族に対する健康維持支援に関する研究などである。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 杉野寿子、田中美樹、吉川未桜、中原雄一、吉田麻美、池田孝博「保育士養成課程における保健・健康に関する学びの研究」福岡県立大学人間社会学部紀要、第29巻、第1号、2020年10月1日
- ・ 清原智佳子、尾形由起子、梶原由紀子、田中美樹、江上千代美「発達障害をもつ子どもの親を対象に行ったステッピング・ストーンズトリプルP 受講前後のパイロット・スタディ」福岡県立大学看護学部研究紀要、Vol.15.no.1、2018年

②その他最近の業績

- ・ 川添優、吉川未桜、吉田麻美、田中美樹「予防接種を受ける子どもの親の意思決定に要因とその過程で生じる不安・迷いに関する文献研究」第67回日本小児保健協会学術集会、2020年11月、久留米（オンライン）
- ・ 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、道園亜希、宮城由美子「年長クラスの子どもの対象に“いのち”をテーマにした健康教育実施の効果～保護者へのアンケート調査からの検討～」第25回日本保育保健学会、2019年5月、神戸
- ・ 田中美樹 招待講演「子どもと家族のプリパレーション～外来で子どもの”こころの準備”を支えるために～」第29回日本外来小児科学会、2019年8月、福岡
- ・ 吉田麻美、吉川未桜、田中美樹「小児看護学実習における学生のインシデント 傾向の分析と課題」第20回九州・沖縄小児看護教育研究会、2019年8月、福岡
- ・ 宮城由美子、横尾美智代、田中美樹、青野広子「発達支援センターに通園する家族の医療機関受診に関するニーズ」、第65回小児保健協会学術集会、2018年6月、鳥取

③過去の主要業績

- ・ 田中美樹、吉川未桜、柿木里香、宮城由美子、北野昭人「外来で検査・処置を受ける子どもと家族の力を引き出すプリパレーションツールの作成」、第34回 熊本県小児科医会学術集会、2017年7月、熊本
- ・ 田中美樹、横尾美智代、青野広子、宮城由美子「“気になる子ども”を含む発達障がい児の母親が外来受診時に感じる困難感～母親の受診時の思いに対するインタビューの検討から～」、第64回日本小児保健協会学術集会、2017年6月、大阪
- ・ 吉川未桜、青野広子、田中美樹、宮城由美子「赤ちゃん先生を活用した小児看護技術演習の効果」福岡県立大学看護学部研究紀要、Vol.13.no.1、2016年
- ・ 田中美樹、「保育所における慢性疾患をもつ子どもへの支援」保育と保健、vol.19 no.2.pp68-72、2013年

5. 所属学会

日本小児保健協会、日本外来小児科学会、日本子ども健康科学学会、日本保育園保健協議会、九州・沖縄小児看護教育研究会、日本看護研究学会、日本小児看護学会

6. 担当授業科目

- 「小児看護学概論」・1単位・2年前期、「小児看護学」・2単位・2年・後期
- 「小児看護学演習Ⅰ」・1単位・3年、「小児看護学演習Ⅱ」・1単位・3年、
- 「小児看護学実習」・2単位・3年、「統合実習」・2単位・4年、
- 「専門看護学ゼミ」・2単位・3年前・後期、「卒業研究」・2単位・4年、
- 「小児看護特論」・2単位・大学院1年前期、「小児看護学演習」・2単位・大学院1年後期
- 「子どもの保健Ⅱ」・1単位・2年前期（人間社会学部）

7. 社会貢献活動

田川市中央保育所内会議の中で「小児看護の基礎知識」に関するお話 2020～2021年

8. 学外講義・講演

- ・北九州市保育士等キャリアアップ研修「保健計画の作成と活用」「事故防止および健康安全管理」講師 2020年11月
- ・田川市育て支援事業「にこにこ子育て講座：こんなときどうする？小児看護の基礎知識」講師 2020年12月

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	原田 直樹
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科を卒業、同志社大学大学院文学研究科社会福祉学専攻を修了。社会福祉士、精神保健福祉士。

障害者福祉の現場を経験した後、福岡県立大学附属研究所不登校・ひきこもりサポートセンターに専門研究員として勤務し、不登校・ひきこもりの児童生徒や家族、学校の支援に従事しました。その後2010年より看護学部の教員として着任しました。

主な研究分野は、①不登校・ひきこもり支援の理論と実践に関する研究、②不登校・ひきこもり支援における大学生ボランティアの有効性に関する研究、③学校を中心とした地域社会における子育て環境に関する介入的研究です。

とりわけ不登校・ひきこもり支援の理論と実践に関する研究では、個人因と環境因との関係性に焦点を当て、様々な角度から不登校・ひきこもりへの支援実践理論の構築に向けた研究に取り組んでいます。学校保健福祉の視点から、学校内において養護教諭が果たす支援者としての役割とその具体的な実践内容についての研究を進めたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・原田直樹. 3章1事故, コラム事故と虐待, コラム環境整備の重要性. 日本小児保健協会幼児健康度調査委員会編著. 1980年から10年ごとの幼児健康度調査の結果と分析 子どもの保健小児保健に携わるすべての人に. 東京: ジアース教育新社. 2020: 44-45, 48-49.
- ・原田直樹. 40 喫煙, 41 飲酒, 42 薬物. 永光信一郎他. ティーンズ健診思春期のこどもへの健康指導マニュアル. 福岡: 学校法人久留米大学. 2019: 40-42.
- ・原田直樹. 第9章 学習指導要領, 第18章 発達障害, 第22章 不登校. 松浦賢長, 笠井直美, 渡辺多恵子編著. 学校看護学. 東京: 講談社サイエンティフィック. 2016: 65-74, 134-140, 164-170.
- ・原田直樹. 第4章4節 非行立ち直り支援の取り組み, 第4章5節 思春期における不登校児童生徒の支援. 日本保健福祉学会編. 保健福祉学. 東京: 北大路書房. 2015: 65-73.

②その他最近の業績

<報告書等>

- ・松浦賢長, 原田直樹, 梶原由紀子, 高橋雪子. 外部専門家による学校性教育の実践に関する方法論に関する研究～性教育導入シートおよび性教育方法ガイドの開発～. 厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業)). 令和2年度総括・分担研究報告書. 2020
- ・原田直樹. 17 タバコ, 18 飲酒. ティーンズ健診ハンドアウト. 平成30年度日本医療研究開発機構成育疾患克服等総合研究事業-BIRTHDAY-思春期健診およびモバイルテクノロジーによる思春期のヘルスプロモーション」研究班編. 2019: 17-18
- ・原田直樹. 参考資料 DVD 製作. 国立研究開発法人国立成育医療研究センター編. 平成29年度子ども・子育て支援推進調査事業 乳幼児健康診査のための「保健指導マニュアル(仮称)」及び「健康診察マニュアル(仮称)」作成に関する調査研究 乳幼児健康診査事業実践ガイド. 2019: 参考資料 DVD
- ・原田直樹. 平成26年度～平成29年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C) 不登校児童生徒への効果的な支援方法を検討する追跡調査—大学生の関わりを中心に—研究成果報告書. 2018
- ・松浦賢長, 大矢崇志, 梶原由紀子, 田中祥一郎, 岡松由記, 田原千晶, 増満誠, 原田直樹, 山崎喜久, 山縣然太郎. すべての子どもを対象とした要支援情報の把握と一元化に関する研究.

厚生労働科学研究補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）母子の健康改善のための
母子保健情報利活用に関する研究. 平成 29 年度総括・分担研究報告書. 2018

<学会発表等>

- ・松浦賢長, 原田直樹. シンポジウム 24-4 学校保健の指標. 第 78 回日本公衆衛生学会総会, 高知. 2019.
- ・原田直樹. シンポジウム当事者に真に必要な学際的支援を考える. 第 32 回日本保健福祉学会
学術集会. 山梨. 2019.
- ・原田直樹, 梶原由紀子, 田原千晶, 増満誠, 松浦賢長. 学童保育における発達障害及びその
傾向を有する児童と支援者の対応困難感に関する研究. 第 30 回日本保健福祉学会学術集会,
和歌山. 2017

③過去の主要業績

<論文>

- ・原田直樹, 野見山晴佳, 三並めぐる, 梶原由紀子, 松浦賢長. (2012). 中学校における発達
障害が疑われる生徒に対する生徒指導に関する研究. 福岡県立大学看護学部紀要, 第 10 巻第
1 号, 1-12
- ・原田直樹, 梶原由紀子, 吉川美桜, 樋口善之, 江上千代美, 四戸智昭, 杉野浩幸, 松浦賢長.
(2011). 不登校児童生徒の状況と対応に苦慮する点に関する調査研究—家庭支援へ向けての考
察—. 福岡県立大学看護学部紀要第 8 巻第 1 号, 11-18
- ・原田直樹, 梶原由紀子, 吉川美桜, 樋口善之, 江上千代美, 四戸智昭, 杉野浩幸, 松浦賢長.
(2011). 学校の児童生徒への大学生ボランティアによる支援のニーズに関する研究. 福岡県立
大学看護学部紀要第 8 巻第 1 号, 1-9
- ・原田直樹, 松浦賢長. (2010). 学習面・行動面の困難を抱える不登校児童・生徒とその支援
に関する研究. 日本保健福祉学会誌, 第 16 巻第 2 号, 13-22

3. 外部研究資金

文部科学省, 科学研究費補助金（基盤研究 C）, 不登校を防止する準不登校児童生徒への効果
的な支援方法の検討に関する研究, 平成 30 年度～令和 3 年度

4. 受賞

- ・平成 27 年度福岡県立大学ベストティーチャー賞
- ・第 30 回日本保健福祉学会学術集会 優秀学会発表賞

5. 所属学会

日本保健福祉学会, 日本思春期学会, 日本小児保健協会, 日本学校ソーシャルワーク学会, 日
本学校保健学会, 日本看護科学学会 等

6. 担当授業科目

不登校・ひきこもり援助論・2 単位・1 年・前期, 情報処理演習 I・1 単位・1 年・前期, 情報
処理演習 II・1 単位・1 年・前期, 公衆衛生学・2 単位・1 年・後期, 教育と社会・地域・1 単
位・1 年後期, 子供学習支援論・1 単位・1 年後期, 保健統計学・2 単位・2 年・前期, 養護概
説・2 単位・2 年・後期, 教育方法論・1 単位・2 年・後期, 専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・
通年, 学校保健学・1 単位・3 年・前期, 健康教育論, 2 単位・3 年・前期, 性教育学・2 単
位・3 年・前期, 卒業研究・2 単位・4 年・通年, 養護実習事前事後指導・1 単位・4 年・前期,
養護実習・1 単位・4 年・前期, 教職実践演習(養護教諭)・2 単位・4 年・後期, 思春期ヘルス
プロモーション特論・2 単位・大学院 1 年・前期, 思春期ヘルスプロモーション演習・2 単位・
大学院 1 年・後期

7. 社会貢献活動

日本保健福祉学会幹事長, 日本思春期学会理事・幹事, 九州思春期研究会理事, 赤村子ども・子育て会議会長, 特定非営利活動法人ひこうせん理事長, 田川市立鎮西小学校 学校評議員・学校関係者評価委員

8. 学外講義・講演

- ・小郡市要保護児童対策地域協議会関係者研修会「不登校・ひきこもりの現状と課題～よりよい支援のために～」講師, 2020
- ・日本保健福祉学会研究セミナー「研究初心者のための研究入門セミナー：学会・論文発表までのいろはのい」講師, 2021
- ・小学校での薬物乱用防止教室（複数） 他

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	涇野 由夏
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

・基礎看護学教育に関する研究

- ①看護技術の習得過程や習得に関わる諸要因について科学的に検証し、看護技術習得を促進するための効果的な看護技術教育方法の開発を行っている。
- ②基礎看護学実習の実習前後の思考動機、看護師イメージ、学習意欲などの変化の比較から基礎看護学実習の教育効果の検証および評価を行っている。

・看護職の職業性ストレスおよび職場環境に関する研究

- ①訪問看護師の職業性ストレス測定尺度を開発し、活用法等について検討を行っている。
- ②看護職の職業性ストレスおよび職場環境等について、法律学的アプローチを加えながら検討を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・涇野由夏, 永嶋由理子, 加藤法子, 藤野靖博, 於久比呂美, 宮崎千尋: 基礎看護学教科書における人間の概念に関する検討, 福岡県立大学看護学研究紀要, 17, 2020.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・涇野由夏, 加藤法子: 病院勤務看護師の看護職業務に関連した心理的負荷の実態, 日本産業衛生学会九州地方会学会, 2019.

③過去の主要業績

- ・涇野由夏, 永嶋由理子, 加藤法子: 在宅酸素療法患者の健康管理行動の実態. 福岡県立大学看護学部紀要, 3(1), p. 33-37, 2005.
- ・涇野由夏: リフレイミング. 安酸史子編著, 目からウロコの新人ナースプリセプティ指導術, メディカ出版, 2007.
- ・涇野由夏: 健康診断で肝機能障害を指摘されアルコール性脂肪肝と診断された労働者. 安酸史子, 奥祥子編, 患者がみえる成人看護の実践, メディカ出版, 2007.
- ・涇野由夏, 永嶋由理子, 中野榮子, 山名栄子, 加藤法子, 津田智子: 基礎看護実習Ⅱの実習前・後における看護学生の思考動機の実態. 福岡県立大学看護学研究紀要, 4(2), p. 82-87. 2007.
- ・涇野由夏, 加藤法子, 中野榮子, 永嶋由理子, 津田智子, 山名栄子: 基礎看護実習Ⅰの実習前後における看護師イメージ変化の比較検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 5(2), p. 89-96, 2008.
- ・涇野由夏: 労働者のメンタルヘルスと労災補償—厚生労働省「労災認定基準」の検討を中心として—, 法学論集, 21(1・2・3), p. 71-133, 2015.

5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本看護技術学会, 日本公衆衛生学会, 日本産業衛生学会

6. 担当授業科目

基礎看護学概論・2単位・1年・前期, 基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期, 基礎看護技術論・2単位・1年・後期, 基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年, フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期, 看護過程・1単位・2年・前期, シンptomマネジメント論・1単位・2年・後期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 統合実習・2単位・4年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年, 看護理論・2単位・1年・前期, 基礎看護学特論・2単位・1年・前期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県看護学会研究発表支援員 (2019年4月～2021年3月)

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	古庄 夏香
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

佐賀医科大学医学部看護学科卒業、大学病院・総合病院で臨床経験を積んだ後、佐賀大学（佐賀医科大学より名称変更）大学院医学系研究科看護学専攻修了、修士（看護学）。血液透析を受ける患者の看護に関する研究、看護師の実践知に関する研究、看護学生のリフレクションに関する研究、看護過程に関する研究を行っています。透析を受ける患者は近年高齢化してきており、それに伴い原疾患や既往歴も複雑化してきています。また、透析を行うことによる様々な合併症により全身状態が悪化している場合や、体調不良により日常生活に支障をきたしていることもあり、QOL が低下している状態にあります。そのため、多職種が協働し介入を行うことで、患者の全身状態の改善やQOLの向上につながるのではないかと考え研究を行っています。現在、患者のQOLの向上を目的として透析を受けている患者を対象に九州歯科大学との共同研究を行っています。

2. 研究業績

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・清原智佳子、平塚淳子、古庄夏香、外来通院中のウイルス性肝炎患者の療養生活に対する思い、第46回日本看護研究学会学術集会、オンライン開催、2020年
- ・古庄夏香、前田ひとみ、血液透析患者の口腔乾燥および衛生状態、栄養状態並びに健康関連QOLの実態調査、第40回日本看護科学学会学術集会、オンライン開催、2020年

③過去の主要業績

- ・Kumi Uchiyama、Hiroko Kukihara、Natsuka Furusho、Meaning of an Amyotrophic Lateral Sclerosis Patient's and his Main Caretaker's Worldview in Home Care、International Nursing Care Research、11(2)、p.69～81、2012
- ・古庄夏香、二重作清子、大学入学時における看護学生の看護専門職としての目標に対する取り組み、キャリアと看護研究2巻1号、p.55～62、2012
- ・編集者：小田正枝共著者：小田正枝、井出裕子、山勢博彰、藤野成美、伊東美佐江、小田日出子、焼山和憲、下舞紀美代、古川秀敏、宇佐美しおり、窪田恵子、穴井めぐみ、古庄夏香（執筆順）、事例でわかる看護理論を看護過程に生かす本、照林社、2008
- ・古庄夏香、黒田裕子、安藤敬子、小田正枝、林みよこ、中木高夫、山勢博彰、柏木公一、伊藤美佐江、電子カルテ稼働中の施設における看護師の思考過程の分析、看護診断13巻2号、p.5～12、2008

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究(C)）2019年度～2021年度 交付金額4,290千円
研究課題「高齢血液透析患者の唾液分泌促進と口腔内衛生改善に向けた口腔ケアプログラムの開発」（研究代表）

5. 所属学会

日本看護学教育学会、日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本看護診断学会、日本腎不全看護学会、質的統合法研究会、日本がん看護学会

6. 担当授業科目

<学部>

成人看護学概論・1単位・2年・前期、成人慢性看護学・2単位・2年・後期、成人急性看護学・2単位・2年・後期、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単

位・3年・前期、成人慢性看護学実習・3単位・3～4年・後前期、成人急性看護学実習・3単位・3～4年・後前期、専門看護学ゼミ・1単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・1単位・4年生・通年

<大学院>

成人看護学特論・2単位・1年・前期、成人看護学演習・2単位・1年・後期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	山下 清香
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1989年から2002年まで福岡県保健師として保健所及び県庁で勤務し、保健師業務、看護行政及び福岡県立大学看護学部開設準備に携わった。兵庫県立看護大学大学院修士課程修了後、2004年福岡県立大学看護学部に着任し、地域看護学及び公衆衛生看護学の教育研究に携わっている。

行政保健師の活動、保健師教育を主な研究分野としており、現在、行政保健師の住民参加促進技術及びその教育プログラムの開発に取り組んでいる。住民との協働による健康な地域づくりを推進する保健師の技術を明らかにし、効果的な基礎教育及び現任教育プログラムを開発したいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・尾形由起子・山下清香編集。地域包括ケアをすすめる公衆衛生看護学演習・実習。2019年9月。クオリティケア
- ・尾形由起子・小野順子・山下清香・榎直美・眞崎直子。2021年3月。多職種による終末期までの療養生活に対する意思決定支援内容の検討。福岡県立大学看護学研究紀要, 第18巻第1号。2021年3月
- ・檜橋明子・中村美穂子・小野順子・山下清香・手島聖子・尾形由起子。保健師の実践能力に対する公衆衛生看護学実習の効果—学生の自己評価に着目して—。福岡県立大学看護学研究紀要, 第18巻第1号。2021年3月

②その他最近の業績

<報告書>

尾形由起子, 榎直美, 山下清香, 吉田恭子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 山本博美, 平塚淳子, 猪狩崇, 中村美穂子, 平成30年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業報告書, 2019年3月。

尾形由起子, 榎直美, 山下清香, 吉田恭子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 山本博美, 平塚淳子, 猪狩崇, 中村美穂子, 令和元年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業報告書, 2020年3月。

尾形由起子, 榎直美, 山下清香, 田中美樹, 吉川美桜, 小野順子, 平塚淳子, 猪狩崇, 大場美緒, 吉田麻美, 中村美穂子, 令和2年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業報告書, 2021年3月。

<学会発表>

- ・許斐樹, 尾形由起子, 山下清香, 小出昭太郎。乳がん検診の受診意識と知識との関連—年齢による相違の検討。日本公衆衛生学会。郡山市。2018年10月
- ・杉本みぎわ, 榎直美, 山下清香, 猪狩崇, 中村美穂子, 平塚淳子, 山本博美, 尾形由起子。A県の訪問看護ステーション交流会事業を通して見えた連携の在り方と今後の課題。第23回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会。長崎。2018。11月。
- ・平塚淳子, 杉本みぎわ, 榎直美, 吉田恭子, 山下清香, 檜橋明子, 中村美穂子, 尾形由起子。A県における訪問看護師の同行訪問研修と看護師間における連携に関する研究。第23回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会。長崎。2018。11月。
- ・Yamashita K・Nakatani H・Ogata Y・Nakayama K・Kanefuji A・Ogawa T。Clarification of The Techniques of Public Health Nurses for Promoting Community Participation:Literature Study。The 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars Conference.Singapore。2019年1月

- ・ 楳直美, 小野順子, 中村美穂子, 廣瀬理絵, 山下清香, 尾形由起子. 在宅医療推進における訪問看護師の連携に関する研究—連携強化事業を通して(第1報)—. 日本公衆衛生学会. 高知市. 2019年10月
- ・ 山下清香, 尾形由起子, 楳直美, 小野順子, 迫山博美. 訪問看護ステーションの連携強化における保健所保健師の役割に関する考察. 日本公衆衛生学会. 高知市. 2019年10月

③過去の主要業績

- ・ 尾形由起子・岡田麻里・楳直美・野口忍・山下清香・松尾和枝・眞崎直子・三徳和子. 終末期がん療養者の満足な在宅看取りを行った配偶者の介護体験. 2017年8月. 日本地域看護学会誌 20巻2号, p64-72, 2017年
- ・ 山下清香・尾形由起子・小野順子・手島聖子・檜橋明子・迫山博美. . 地域の介護予防活動の推進における保健師の役割について—高齢者サロンの世話役および指導員の認識から—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第13巻第1号. 2015年3月

3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費助成事業(基金分)(基盤研究(C))30年度~32年度. 研究課題 行政保健師の住民参加促進力量向上教育プログラムの開発(研究代表者)
- ・ 科学研究費助成事業(基金分)(基盤研究(C))29年度~31年度. 研究課題地域に密着した住民の主体的介護促進のための教育支援モデルの開発(研究代表者, 尾形由起子), 分担研究者

5. 所属学会

日本地域看護学会, 日本公衆衛生学会, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本糖尿病教育・看護科学学会, 日本公衆衛生看護学会

6. 担当授業科目

公衆衛生看護学Ⅰ(2単位, 2年後期), 専門看護学ゼミ(2単位, 3年通年), 家族看護学(1単位, 3年前期), 公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ(1単位, 3年後期), 統合実習(2単位, 4年通年), 卒業研究(2単位, 4年通年), 公衆衛生看護学Ⅱ(2単位, 4年前期), 公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ(2単位, 4年前期), 公衆衛生看護技術論Ⅰ(2単位, 4年前期), 公衆衛生看護技術論Ⅱ(2単位, 4年前期), 公衆衛生看護学実習Ⅰ(1単位, 4年前期), 組織協働活動論(2単位, 4年後期), 公衆衛生看護学Ⅲ(1単位, 4年後期), 公衆衛生看護管理論(2単位, 4年後期), 公衆衛生看護学実習Ⅱ(4単位, 4年後期), 地域看護学特論(2単位, 大学院), 看護政策論(2単位, 大学院), 地域看護学演習(2単位, 大学院), ヘルスポモーション看護学特別研究(6単位, 大学院)

7. 社会貢献活動

- ・ 田川市「田川市民健康づくり推進協議会」委員
- ・ 田川市「田川市防災会議」委員
- ・ 田川市「田川市地域包括ケアシステム推進協議会 保健(予防)・生活支援部会」委員
- ・ 飯塚市「飯塚市健康づくり・食育推進協議会」副委員長
- ・ 福岡県看護協会保健師職能委員会 委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

- ・ 保健師スキルアップ事業

看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	准教授	氏名	吉田 恭子
---------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

高齢社会を支える一つの方法としての介護保険法は、在宅療養者やその家族、その人々を取り巻く保健福祉医療職種の在り方を再考する機会となりました。要援護者の増加への対策を中心に介護保険法は改正を繰り返しており、介護予防への取り組みと同時に、多死時代を迎えるにあたり、死にゆく人と家族へのケアも重要になってきます。そのため、在宅療養中の高齢者とその家族のケアマネジメントをテーマとして、質の高い生活を維持できるような看護実践の検討について考えています。また、病歴が長い糖尿病を抱える高齢者への関わりを検討しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・吉田恭子. (2019). 小規模多機能型居宅介護の従事者に生じる終末期ケアに係る課題の検証, 福岡県立大学看護学研究紀要, 95-101
- ・吉田恭子. (2018). 小規模多機能型居宅介護職員の介護経験と職場満足と終末期ケアに与える影響, 九州社会福祉研究, 第42号, 1-12
- ・尾形由起子, 櫛直美, 小野順子, 吉田恭子, 杉本みぎわ, 阿部久美子, 岡田麻里. (2017). 終末期がん療養者の配偶者による在宅看取り実現のためのセルフマネジメントに対する支援方法の検討—多職種フォーカス・グループインタビューの結果より—, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第14巻, 41-47

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・吉田恭子, 小規模多機能型居宅介護における看取りの経過—援助者の視点から—, 日本社会福祉学会第68回秋季大会, オンライン, 2020.
- ・吉田恭子, 小規模多機能型居宅介護における終末期ケアの実態調査—疾病およびケア内容の実態—, 日本看護研究学会学術集会, 大阪, 2019.
- ・吉田恭子, 小規模多機能型居宅介護の従事者が考える看取りの必要に影響すること, 日本老年看護学会学術集会, 福岡, 2018.
- ・吉田恭子, 小規模多機能型居宅介護における職場満足と近親者への看取り介護経験との関連, 日本社会福祉学会九州地域部会, 熊本, 2017.
- ・Tsuyako Hidaka, Satsuki Obama, Kyoko Yoshida, Naoki Harada, Kencho Matsuura: The effects of Nursing Career Café for undergraduate students to cultivate their sense of resilience to become nursing professional —introducing the effective of Inter-University Collaborative Education—, The 3rd International Conference on Caring and Peace in Fukuoka, 2017.
- ・増満 誠, 吉田恭子, 嘉手苺英子, 日高艶子, 正野逸子, 照屋典子, 金城祥教: 看護大学生の「しなやかな使命感」尺度開発～大学間連携共同教育推進事業の評価指標として～, 日本看護学教育学会第27回学術集会, 沖縄, 2017.

③過去の主要業績

- ・吉田恭子, 渡邊智子. (2014). 10年後もその先も, 住みたいところに住み続ける互助・共助—地域住民の支え合いを活用した支援プログラムの効果と課題—, 認知症ケア事例ジャーナル, 第6巻第4号, 391-396

5. 所属学会

日本看護福祉学会、日本老年看護学会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会、日本社会

福祉学会、日本看護科学学会

6. 担当授業科目

在宅看護学概論・1単位・2年・前期、在宅看護学・2単位・2年・後期、キャリア像確立講義Ⅰ・1単位・1～2年・後期、在宅看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、在宅看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・通年、在宅看護学実習・2単位・3～4年・通年、キャリア像確立講義Ⅱ・1単位・3～4年・後期、専門看護学ゼミ・1単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・1単位・4年生・通年、在宅看護学特論・1単位・1年・前期、在宅看護学演習・1単位・1年・後期

7. 社会貢献活動

・認定NPO 法人日本セラピューティック・ケア協会危機管理委員

8. 学外講義・講演

・福岡県消防学校、「在宅医療法患者の処置」, 2021年2月

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	小野 順子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院人間環境学府を修了（人間環境学修士）。福岡市で保健師として勤務し、地域保健（公衆衛生看護）活動に従事する。その後、大学教員として保健師養成に従事し、2010年に福岡県立大学看護学部に着任。

公衆衛生（地域）看護学分野で、地域診断に関する研究、在宅医療の推進に関する研究、保健師教育に関する研究を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

著書

- ・尾形由紀子, 山下清香, 櫛直美, 江上千代美, 岡田麻里, 小野順子, 香月眞美, 迫山博美, 高原洋城, 中村美穂子, 檜橋明子, 山口のり子, 地域包括ケアをすすめる公衆衛生看護学 演習・実習, 2019年9月, クオリティケア, p37-53, 62-68, 77-84, 85-93

論文

- ・尾形由起子, 小野順子, 山下清香, 櫛直美, 眞崎直子, 多職種による終末期までの療養に対する意思決定支援内容の検討, 福岡県立大学看護学研究紀要, 18巻, 2020
- ・檜橋明子, 中村美穂子, 小野順子, 山下清香, 手島聖子, 尾形由起子, 保健師の実践能力に対する公衆衛生看護学実習の効果 - 学生の自己評価に着目して - 福岡県立大学看護学研究紀要, 18巻, 2020
- ・猪狩崇, 石崎龍二, 櫛直美, 柴田雅博, 小野順子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 尾形由起子, 地域包括システム構築に向けた人的ネットワーク形成・運営に関する一考察, 福岡県立大学看護学研究紀要, 16巻, 2019
- ・猪狩崇, 石崎龍二, 櫛直美, 柴田雅博, 小野順子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 尾形由紀子, 地域包括ケアシステム構築に向けた地域医療情報連携ネットワークシステム導入に関する一考察, 福岡県立大学看護学研究紀要, 15巻, 2018
- ・清原智香子, 梶原由起子, 尾形由起子, 小野順子, 田中美樹, 石村美由紀, 江上千代美, 発達障がいを持つ子どもの親を対象に行ったステップングストーンズトリプル P 受講前後のパイロット・スタディ, 福岡県立大学看護学研究紀要, 15巻, 2018

②その他最近の業績

<報告書>

- ・令和2年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業 報告書, 2021
- ・令和元年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業 報告書, 2020
- ・平成30年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業 報告書, 2019

5. 所属学会

看護協会、日本公衆衛生学会、地域看護学会、公衆衛生看護学会

6. 担当授業科目

<学部>

公衆衛生看護学Ⅰ（2単位, 2年後期）, 公衆衛生看護学Ⅱ（2単位, 4年前期）, 公衆衛生看護学Ⅲ（1単位, 4年後期）, 公衆衛生看護学Ⅳ（1単位, 4年後期）, 公衆衛生看護学Ⅴ（1単位, 3年後期）, 公衆衛生看護学Ⅵ（2単位, 4年前期）, 公衆衛生看護学Ⅶ（2単位, 4年前期）, 公衆衛生看護学Ⅷ（2単位, 4年前期）, 公衆衛生看護学Ⅷ（2単位, 4年前期）, 組織協働活動論（2単位, 4年後期）, 公衆衛生看護学Ⅸ（2単位, 4年後期）, 公衆衛生看護学Ⅹ（1単位, 4年前期）, 公衆衛生看護学Ⅺ（4単位, 4年後期）, 家族看護学（1単位, 3年前期）, 専門看護学ゼミ（2単位, 3年通年）, 卒業研究（2単位, 4年通年）, 統合実習（2単位, 4年通年）,

〈大学院〉

地域看護学特論 (2単位, 修士1年前期), 地域看護学演習 (2単位, 修士1年後期)

7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県田川保健所感染症の審査に関する協議会委員 (2017年4月～)
- ・ 田川市男女共同参画審議会委員 (2019年4月～)
- ・ 田川市老人ホーム入所判定委員会 (2019年～)

8. 学外講義・講演

- ・ 行橋市包括支援センター職能研修会 講師

9. 附属研究所の活動等

- ・ 地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データのGIS分析による地域診断モデルの開発 (附属研究所重点領域研究)

看護学部/看護学科	職名	講師	氏名	加藤 法子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

平成15年4月より本学に着任し、基礎看護学の教育に携わっています。

研究は、看護技術・看護教育をキーワードに、看護技術の科学的検証や科学的根拠に基づいた技術教育プログラムの開発、実習による教育効果の検討など、看護基礎教育の充実を目指した研究に取り組んでいます。現在は主に、吸引技術に関する基礎的研究や吸引技術教育に関する研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 淵野由夏、永嶋由理子、加藤法子、藤野靖博、於久比呂美、宮崎千尋、基礎看護学教科書における人間の概念に関する検討、福岡県立大学看護学研究紀要、17巻、57-61,2020.
- ・ 鳥越郁代、加藤法子、松井聡子、許棟翰、芋川浩、清原智佳子、松浦賢長.(2019). 韓国、大邱韓医科大学における韓方医学及び看護短期研修プログラムの開発. 福岡県立大学看護学研究紀要. 16巻, 111-19,2019.

②その他最近の業績

<学会報告>

- ・ 加藤法子、松井聡子、清原智佳子、芋川浩、松浦賢長：海外短期語学研修の参加による学生の学びの検討、第23回日本看護研究学会九州・沖縄学術集会地方会、2018.
- ・ 松井聡子、加藤法子、清原智佳子、芋川浩、松浦賢長：留学生との交流事業に参加した学生の学び、第23回日本看護研究学会九州・沖縄学術集会地方会、2018.

<調査研究報告書>

- ・ 加藤法子、松井聡子、Ian Stuart Gale、鳥越育代、清原智佳子、芋川浩、許棟翰、檜橋明子、岡本雅享、松浦賢長：国際交流プログラムによる学生の学びの検討（平成29年度研究奨励交付金横断型プログラム報告書）
- ・ 加藤法子、鳥越育代、吉村美奈子、Ian Stuart Gale、芋川浩、許棟翰、岡本雅享、松浦賢長：国際交流プログラムの教育効果と学びの構造に関する検討（平成28年度研究奨励交付金全学横断型プログラム報告書）（研究代表者）

③過去の主要業績

- ・ 加藤法子、呼吸困難感により自宅にこもりかちな在宅酸素療養患者.安酸史子,奥祥子編,患者がみえる成人看護の実践,メディカ出版,2007.
- ・ 加藤法子.呼吸器系器官に問題のある対象へのフィジカルアセスメント.臨床看護,34(4),457-490.2008.
- ・ 加藤法子,淵野由夏,永嶋由理子,津田智子,山名栄子,中野榮子:基礎看護実習Iにおける教育効果の検討:実習前後の学習意欲の変化から.福岡県立大学看護学研究要,5(2),52-60.2008.
- ・ 加藤法子:高齢者の栄養管理. 三原博光,松本百合美編著,豊かな老後生活を目指した高齢者介護支援,関西学院大学出版会,2013.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究(C)）29年度～31年度 交付金額2,470千円
研究課題、経験知に基づいた吸引技術教育の検討（研究代表者）

5. 所属学会

日本看護協会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本産業衛生学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

基礎看護学概論・2単位・1年・前期, 基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年・前期, 基礎看護技術論・2単位・1年・後期, フィジカルアセスメント論・1単位・2年・前期, 看護過程・1単位・2年・前期, 基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期, シンptomマネジメント論・1単位・2年・後期, 統合実習・2単位・4年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

〈大学院〉

看護理論・2単位・1年・前期 看護心理学演習・2単位・2年・後期

7. 社会貢献活動

- ・ 田川市男女共同参画委員会委員
- ・ ゆめっせフェスタ実行委員会
- ・ 福岡県看護学会研究発表支援員

9. 附属研究所の活動等

- ・ 看護実践教育センター
- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	小出 昭太郎
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

教育については、学生が、社会学的な研究方法や「ものの見方」を臨床や政策などの実践に生かすことができるようになることを目標にしています。

主な研究分野は、第1に、保健医療・社会保障の制度・政策に関して、制度・政策策定者サイドの視点よりも市民・患者サイドの視点に基づいた歴史研究・理論的研究・調査研究を行ってきました。現在は、イギリスの医療保障財源の設計根拠に関する歴史研究を行っており、この研究においても主に市民・患者サイドの視点に着目しています。第2に、健康の社会的不平等に関する研究を行ってきました。特に、性・年齢層別の検討を行っています。

2. 研究業績

②その他の業績

- ・石川千香恵・渡邊智子・小出昭太郎、「一般病棟におけるがん患者の家族看護実践に関連する要因に関する研究」、第44回日本看護研究学会学術集会、2018年。
- ・許斐樹・山下清香・尾形由起子・小出昭太郎、「乳がん検診の受診意識と知識との関連——年齢による相違の検討」、第77回日本公衆衛生学会総会、2018年。

③過去の主要業績

- ・小出昭太郎・田村誠、「1991年英国NHS改革後の政府規制とその背景——「病院サービスの購入者」の設定に関する問題」、『病院管理』、第36巻第1号、1999年。
- ・小出昭太郎・田村誠、「イギリスNHS成立時における財源調達方式の設計の根拠に関する考察」、『医療政策に関わる一般市民・医療従事者の価値判断とその論拠（平成10年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（2））研究成果報告書）（研究代表者：田村誠）』、2001年。
- ・小出昭太郎・山崎喜比古、「収入と general health perceptions との関連の性・年齢による差異」、『要介護状態及び健康の形成過程における社会経済的要因の役割に関する実証的研究（平成14年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（A））研究成果報告書）（研究代表者：武川正吾）』、2006年。

5. 所属学会

日本保健医療社会学会、日本社会福祉学会、日本医療・病院管理学会、日本公衆衛生学会、東北哲学会

6. 担当授業科目

<学部>

教養演習・1単位・1年・前期、保健社会学・1単位・1年・後期、保健医療福祉行政論Ⅰ・1単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、看護研究・2単位・3年・前期、保健医療福祉行政論Ⅱ・2単位・4年・後期

<大学院>

データ解析特論・2単位・修士1年・前期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部/看護学科	職名	講師	氏名	塩田 昇
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

産業医科大学医療技術短期大学看護学科卒業後、産業医科大学病院（集中治療室）で看護師として6年、その後、専門学校、大学で18年勤務、平成29年4月に着任しました。

子育て支援による親と子どもへの効果について、発達障がいのある子を持つ親に睡眠質問紙を用いた研究をしています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・江上千代美、塩田昇、恵良友彦、田中美智子、発達障がいのある児の母親の養育レジリエンスの向上を目指して－Stepping Stones Triple P（トリプルP）によるRCTを用いた試行的介入－. 福岡県立大学看護学研究紀要Vol17, p1-4, 2020年
- ・江上千代、塩田昇、Child Adjustment and Parent Efficacy Scale-Developmental Disability (CAPES-DD) の日本語版作成の試み、福岡県立大学看護学研究紀要, p37-45, 2020年

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・塩田昇、江上千代美、石橋美穂、山下裕史朗、定型発達児・発達障がい児をもつ親と養育レジリエンス・子育て経験の検討、小児保健研究、久留米、2020年
- ・江上千代美、塩田昇、石橋美穂、山下裕史朗、地域で生活する保護者の養育レジリエンスと子育てとの関係、小児保健研究、久留米、2020年
- ・塩田昇、江上千代美、田中美智子、定型発達児の親の養育レジリエンスと親に及ぼす効果：親の効力感、子どもと家庭への適応、日本看護研究学会、札幌、2020年
- ・江上千代美、塩田昇、田中美智子、発達障がい児をもつ親の養育レジリエンスとその効果—子どもの情緒と行動の問題の認知とその対応への自信—、日本看護研究学会、札幌、2020年
- ・塩田昇、田中美智子、江上千代美、発達障がいのある子をもつ親の養育レジリエンスの変化とその効果-トリプルPによる介入効果-、第45回 日本看護研究学会学術集会、大阪、2019年
- ・塩田昇、江上千代美、発達障がいのある児をもつ親への子育て支援(ステッピングストーンズトリプルP)介入による睡眠の位相、質、量に関する報告、第39回 日本看護科学学会学術集会、金沢、2019年
- ・C.Egami,M.Tanaka, N.Shiota,Y.Ogata,Y.Yamashita, Improve the resilience of parents with children with developmental disorders by using triple P - Changes in cognition and self-confidence for children's emotional and behavior problems -, ICN Congress, Singapore, 2019
- ・C.Egami,M.Tanaka,N.Shiota, Does Parenting, Resilience change Parenting adaptation, and Mental health?, The East Asian Forum of Nursing Scholars 23rd, Chaing Mai, 2020
- ・塩田昇、江上千代美、田中美智子、薬害被害根絶に向けた看護師教育の検討、第44回 日本看護研究学会学術集会、熊本、2018年

③過去の主要業績

- ・塩田昇.セルフケア行動の神経行動学的・神経化学的研究. 九州工業大学大学院博士論文.2016.年
- ・Shiota N, Narikiyo K, Masuda A, Aou S. Water spray-induced grooming is negatively correlated with depressive behavior in the forced swimming test in rats. J Physiol Sci.vol66 no3,p265-73. 2016.
- ・小田日出子,清村紀子,高橋甲枝,水原美地,塩田昇. 安全・安楽な下肢温熱刺激法に関する検討

- クロスオーバースタディによる準実験研究・西南女学院大学紀要 Vol.21 ,p9-18, 2017 年
- ・一期崎直美, 石井美紀代, 吉原悦子, 小野正子, 布花原明子, 村山由起子, 鹿毛美香, 塩田昇, 松尾綾, 小田日出子. デイブートを活用した初年次教育の試み—看護学生のクリティカルシンキング志向性に着目して—. 日本看護学会論文集. 看護教育 Vol46,p71-74, 2016 年

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業 (基金分) (若手 29 年度～令和 3 年度 交付金額 4,160 千円)
研究課題、継続的なトリプル P 介入による睡眠の質、量の改善とメラトニン分泌・代謝に関する研究 (研究代表者: 塩田昇)

5. 所属学会

日本看護学教育学会会員、日本看護技術学会会員、日本生理学会会員、日本看護科学学会会員、日本心身医学会会員、日本小児保健協会

6. 担当授業科目

〈学部〉

生態機能看護学Ⅰ・2 単位・1 年・前期、生態機能看護学Ⅱ・2 単位・1 年・後期、生態機能看護学Ⅲ・1 単位・4 年・後期、生態・病態看護学実験・1 単位・2 年・前期、基礎看護学実習Ⅰ・1 単位・1 年・前期、基礎看護学実習Ⅱ・2 単位・2 年・後期、専門看護学ゼミ・1 単位・3 年・通年、卒業研究・1 単位・4 年生・通年

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	中井 裕子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

桜美林大学大学院国際研究科博士前期課程修了、修士（老年学）。主に成人看護学の教育に携わっています。主な研究分野は周術期看護、高齢者看護、看護教育です。主な研究テーマは周術期患者のニーズ、高齢者に対する急性期看護、臨床での看護学生のリアリティショックを緩和するための演習方法の検討です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・中井裕子、笹山万紗代、政時和美、松井聡子、手術室見学実習における看護学生の学び、2020年3月、第17巻、pp71-77、福岡県立大学看護学研究紀要、2020年
- ・政時和美、大久保友樹、松井聡子、村田節子、笹山万紗代、中井裕子、看護学生の適正な救急車要請に関する知識と判断、2018年3月、第15巻、pp35-46、福岡県立大学看護学研究紀要、2018年

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・本田優季、中井裕子、手術室新人看護師に対する支援の現状と課題についての文献検討、日本看護研究学会第46回学術集会、Web開催、2020年
- ・平田美結、中井裕子、手術室看護師と医師の連携の現状と手術室看護師に必要な能力についての文献検討、日本看護研究学会第46回学術集会、Web開催、2020年
- ・笹山万紗代、中井裕子、政時和美、松井聡子、手術室見学実習における学生の学び、日本看護研究学会第45回学術集会、大阪、2019年
- ・鎌田美乃里、中井裕子、救急看護師のストレスについての文献検討、日本看護研究学会第45回学術集会、大阪、2019年
- ・假屋真帆、中井裕子、外国人患者の看護における看護師の困難に関する文献検討—コミュニケーションに注目して—、日本看護研究学会第45回学術集会、大阪、2019年
- ・竹井智史、中井裕子、看護学生のインシデントに関する文献検討、日本看護研究学会第44回学術集会、熊本、2018年
- ・新名桃子、中井裕子、ICUにおける褥瘡予防の取り組みについての文献検討、日本看護研究学会第44回学術集会、熊本、2018年

③過去の主要業績

- ・中井裕子、榎本麻里、三枝香代子、堀之内若名、成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討（第二報）、千葉県立衛生短期大学紀要、27(1・2)、pp143-151、2009年
- ・三枝香代子、榎本麻里、中井裕子、堀之内若名、クリティカルケアの演習における教育方法の検討—患者急変時デモンストラーションの有効性についての分析—、千葉県立衛生短期大学紀要、27(1・2)、pp109-115、2009年
- ・中井裕子、堀之内若名、三枝香代子、榎本麻里、成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討、千葉県立衛生短期大学紀要、26(2)、pp105-112、2008年
- ・大谷則子、堀之内若名、中井裕子、榎本麻里、手術室見学実習における学び—二つの実習形態の比較検討による考察—、OPE NURSING、21(6)、pp98-108、2006年

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本看護技術学会、日本老年社会科学学会

6. 担当授業科目

成人慢性看護学・2単位・2年・後期、成人急性看護学・2単位・2年・後期、成人看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、成人慢性看護学実習・3単位・3年・通年、成人急性看護学実習・3単位・3年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・2単位・4年・後期、成人看護学演習・2単位・修士1年・後期

7. 社会貢献活動

なし

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

・なし

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	藤野 靖博
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

生理学的指標などを用いて、看護技術がひとの体に及ぼす影響について明らかにして、臨床における看護援助に還元できるように努めていきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

瀧野由夏、永嶋由理子、加藤法子、藤野靖博、於久比呂美、宮崎千尋：基礎看護学教科書における人間の概念に関する検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 17, p.57-61, 2020.

③過去の主要業績

- ・藤野靖博：ウォームアップが歩行運動時の循環応答・深部温度に及ぼす影響. 日本人間工学会看護人間工学会誌 (8), 15-20. 2007.
- ・矢崎義雄、篠山重威、藤野靖博他：心不全下巻－最新の基礎・臨床研究の進歩. 日本臨床社. 2007.

3. 外部研究資金

研究代表者：文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究 C）「カプサイシンジエルとサーキレーターを用いた睡眠導入効果に関する実験検証」、2019～2021 年度

5. 所属学会

日本看護研究学会、日本看護科学学会、看護人間工学会、日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期、基礎看護技術論・2単位・1年・後期、看護過程・1単位・2年・前期、フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	政時 和美
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

主な研究分野は災害や救急に関する研究を行っている。また、2012年には、リンパ浮腫指導技能者の資格を得、「リンパ浮腫」を通じてスキンケアなど皮膚に関する勉強会を開催している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・ 政時和美,大久保友樹,松井聡子,村田節子,笹山万紗代,中井裕子：看護学生の適正な救急車要請に関する知識と判断,福岡県立大学看護学部紀要,2018
- ・ 政時和美,笹山万紗代,大場美緒,村田和子：A地区における看護師のリンパ浮腫ケアを実践するために必要な教育,福岡県立大学看護学部紀要,2019
- ・ 松井聡子,清水夏子,永尾寛子,笹山万紗代,政時和美：実習施設を就職先として意識するきっかけとなった看護師の魅力的な態度,福岡県立大学看護学部紀要,2019
- ・ 中井裕子,笹山万紗代,政時和美,松井聡子：手術室見学実習における看護学生の学び,福岡県立大学看護学研究紀要 第17巻,2020

②その他最近の業績

〈示説〉

- ・ 山本千尋,政時和美,村田節子：看護師に行うトリアージ教育についての文献検討,第44回日本看護研究学会学術集会,熊本,2018
- ・ 松井聡子,清水夏子,永尾寛子,笹山万紗代,政時和美：実習施設を就職先として意識するきっかけとなった看護師の魅力的な態度,第44回日本看護研究学会学術集会,熊本,2018
- ・ 政時和美,笹山万紗代,村田和子,大場美緒：A地区におけるリンパ浮腫患者のケアに関する実態調査,第38回日本看護科学学会学術集会,愛媛,2018
- ・ 笹山万紗代,中井裕子,政時和美,松井聡子：手術見学実習における学生の学び,第45回日本看護研究学会学術集会,大阪,2019
- ・ 石橋小春,政時和美,矢野優香：術前患者の心理と看護についての文献検討,第45回日本看護研究学会学術集会,大阪,2019
- ・ 矢野優香,政時和美,石橋小春：ICUの患者家族が抱くニーズに関する文献検討,第45回日本看護研究学会学術集会,大阪,2019
- ・ 政時和美,中井裕子,笹山万紗代：病院前救護の実践と教育に関する課題,第46回日本看護研究学会学術集会,Web開催,2020
- ・ 大久保綾,政時和美：プリパレーションの実践と教育に関する課題について,第46回日本看護研究学会学術集会,Web開催,2020

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本リンパ学会、日本看護研究学会、日本看護医療学会

6. 担当授業科目

成人看護学概論・1単位・2年・前期、成人急性看護論・2単位・2年・後期、成人急性看護学実習・3単位・3年～4年・前期～後期、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・3単位・3年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年～4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期、統合実習・2単位・4年、災害看護・1単位・2年、成人看護学演習・

2単位・修士1年・後期

8. 学外講義・講演

- ・福岡県立大学出前講義 福岡県立朝倉高等学校 (2020.7.2)

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	増満 誠
-------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

鹿児島大学医療技術短期大学部看護学科卒業後、名古屋大学医学部附属病院（集中治療部・救急部）、医療法人同心会杉田病院（精神科）で看護師として6年、鹿児島大学医学部保健学科、国際医療福祉大学福岡看護学部で教員としての9年を経て、平成25年4月より本学に着任しました。また平成22年に本学看護学研究科を修了しました。

主な研究は、看護における「間」（時間や空間）をどのように解釈するのか、演出するのか、とくに沈黙を中心に探究しています。また、教材としてのコミュニケーション感性トレーニングを開発中です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書（分担執筆）>

・増満 誠：「学びを止めない」オンライン授業の工夫と課題：日本看護協会出版会編集部編；新型コロナウイルススナースたちの現場レポート、日本看護協会出版会、p648-652、2021

<論文>

- ・木村涼平、山崎不二子、増満 誠、一原由美子、田出美紀、上田智之、松浦賢長：看護系大学新卒看護師の大学訪問時期と大学教員への相談状況に関する実態調査、日本看護学教育学会誌、30(1)、33-42、2020
- ・増満 誠、大塚まり子、安田 緑、山川光子、八尋万智子、野田和美、宮尾久美子、野口さとみ：ちょっと気になる学生・新人ナースの支援を考える グループワークにおいて意識化された学生・新人看護師の強み 看護学校と職場の情報交換会の成果から、第50回日本看護学会論文集：看護教育、p51-54、2020.
- ・恵良友彦、松枝美智子、江上千代美、増満 誠：抑うつ状態に対するアロマセラピーを用いた介入研究の現状と課題、福岡県立大学看護学研究紀要、17、5-15、2020.
- ・中本亮、増満 誠、別城佐和子、佐多愛子、生駒千恵、松浦賢長：2型糖尿病患者を対象としたうつ状態とQOLとの相関分析、福岡県立大学看護学研究紀要、16、55-61、2019.

②その他最近の業績

<研究報告>

- ・増満 誠、岡村祥子、森雄太、阿南沙織、上田智之、緒方浩志、木村涼平、田出美紀、松浦賢長、山崎嘉久：乳幼児健診データを活用した被災地における乳幼児の健康状況の検討～小規模自治体におけるデータ収集と分析～、厚生労働行政推進調査事業費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業））分担研究報告書、2020.
- ・増満 誠、中本亮、生駒千恵、石本佐和子、佐多愛子、松浦賢長、劉宇、赤司千波：2型糖尿病患者におけるうつ傾向とQOLとの関連に関する日中比較研究と予防介入プログラムの構築、福岡県立大学平成29年度研究奨励交付金研究成果報告書、2019.
- ・松枝美智子、本郷秀和、増満 誠、中本亮、宮崎初、鬼塚香、池田智、山本智之：精神医療の質評価指標の数値と精神医療福祉従事者数との関連、福岡県立大学平成30年度研究奨励交付金研究成果報告書、2020.

<学会報告>

- ・Tomoyuki Ueda, Miwa Shimojo, Mayumi Hamasaki, Makoto Masumitsu, Hiroshi Ogata and Ryohei Kimura ; IMPACT OF THE WELLNESS RECOVERY ACTION PLAN ON THE MENTAL HEALTH OF NURSES、24rd East Asian Forum of Nursing Scholars、2021.
- ・松枝美智子、増満 誠、中本亮、池田智、宮崎初：各医療機関の精神病床の平均在院日数と看護のゼネラリスト数との関連、第40回日本看護科学学会学術集会、東京(Web開催、ライブ口頭発表)、2020.

- ・小浜さつき、日高艶子、梅崎節子、石本祥子、増満 誠、北川明、安酸史子：発達障害傾向にある看護師に対する支援の現状を効果的な支援についての看護管理者の認識、第40回日本看護科学学会学術集会、東京(Web開催、ポスター発表)、2020.
- ・太田里枝、藤川真紀、照屋典子、宮林郁子、増満 誠、松浦賢長、原田直樹、山住康恵、日高艶子、西村優紀美、北川明、安酸史子：看護教員が行った発達障害傾向のある看護学生への支援、第40回日本看護科学学会学術集会、東京(Web開催、ポスター発表)、2020.
- ・照屋典子、太田里枝、藤川真紀、宮林郁子、増満 誠、松浦賢長、原田直樹、山住康恵、日高艶子、西村優紀美、北川明、安酸史子：発達障害と診断された看護学生に対する支援・合理的配慮に関する検討—看護教員を対象とした調査結果から—、第40回日本看護科学学会学術集会、東京(Web開催、ポスター発表)、2020.
- ・増満 誠、中本亮、生駒千恵、別城佐和子、佐多愛子、松浦賢長、劉宇、赤司千波：2型糖尿病患者におけるうつ傾向とQOLとの関連に関する日中比較研究、第32回日本保健福祉学会学術集会、オンライン発表(東京)、2020.
- ・増満 誠：コミュニケーション教育における「4つの指示での描画課題」で描かれた描画のパターン分析による教材化研究～第2報 高校生を対象として～、第33回日本看護福祉学会学術大会(誌上发表)、2020.
- ・増満 誠、松枝美智子、中本亮、池田智、宮崎初：看護師配置数による病院種別と精神病床の平均在院日数の関連、日本看護研究学会九州・沖縄地方会、誌上发表、2020.
- ・増満 誠、大塚まり子、安田緑、山川光子、八尋万智子、野田和美、宮尾久美子、野口さとみ：「ちょっと気になる学生・新人ナースの支援を考える」グループワークにおいて意識化された学生・新人看護師の強み、第50回日本看護学会—看護教育—学術集会、和歌山、2019.
- ・Tomoyuki Ueda, Makoto Masumitsu, Ryohei Kimura, Miki Taide, Fujiko Yamasaki, Yumiko Ichihara, Kencho Matsuura : Study on factors comprising the mentoring function of nursing college faculty members required by new nurse graduates, The6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka of Japan, 2020.
- ・Michiko Matueda, Makoto Masumitsu, Ryo Nakamoto, Hajime Miyazaki, Satoshi Ikeda, Tomoyuki Yamamoto, Kaori Onitsuka, Hidekazu Hongo : Relationship between average of psychiatric hospital stay and number of Advanced Practice Nurses (APNs) worldwide: Literature review, The6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka of Japan, 2020.
- ・Junko Hiratsuka, Makoto Masumitsu, Chikako Kiyohara : Eximination of factors influencing medical safety climate among ward nurses, The6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka of Japan, 2020.
- ・Tomohiko Era, Michiko Matsueda, Chiyomi Egami, Makoto Masumitsu : Current status and Issues of intervention research using Aromatherapy for depressive state : Comparison of prior researches in Japan and foreign countries, The6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka of Japan, 2020.
- ・Tomoyuki Ueda, Yoshihiko Saito, Miwa Shimojo, Makoto Masumitsu, Mayumi Hamasaki : The Effect of the Wellness Recovery Action Plan on the Mental Health of Nurses-A Comparison of Feelings of Hope and Self-Affirmation, 23th East Asian Forum of Nursing Scholars, Thailand, 2020.
- ・松枝美智子、宮崎 初、増満 誠、中本 亮、池田 智：精神医療の質評価と精神医療福祉人材数との関連に関する日本の研究の現状と今後の課題、日本看護科学学会第 39 回学術集会、石川、2019.
- ・高野美菜、増満 誠：精神科外来におけるプライバシー保護と患者の思い、第 65 回九州精神医療学会、長崎、2019.
- ・増満 誠、上田智之：統合失調症患者とうつ病患者の看護師との対話場面における沈黙の意味の共通性と相違性、日本精神保健看護学会第 28 回学術集会、名古屋、2018.

- ・増満 誠：精神看護学演習科目における紙面による情報提供のない対話中心型看護過程演習展開の効果，第 28 回日本看護教育学会学術集会，神奈川，2018.
- ・上田智之，齋藤嘉宏，増満 誠：日本の精神科領域における Wellness Recovery Action Plan の優勝性に関する文献検討，日本精神保健看護学会第 28 回学術集会，名古屋，2018.
- ・松枝美智子，池田 智，増満 誠，宮崎 初，中本 亮，畑辺由起子，入江正光：各都道府県の自殺率と各精神保健医療に携わるリソースナース数との関連，日本精神保健看護学会第 28 回学術集会，名古屋，2018.
- ・松枝美智子，池田 智，増満 誠，宮崎 初，中本 亮，畑辺由起子，入江正光：自殺率と各都道府県の精神保健医療に携わる看護師をはじめとするゼネラリスト数との関連，日本精神保健看護学会第 28 回学術集会，名古屋，2018.
- ・池田 智，松枝美智子，増満 誠，宮崎 初，中本 亮，畑辺由起子，入江正光：各都道府県における精神科病院の平均在院日数、病床数と精神保健医療職者数の関連，日本精神保健看護学会第 28 回学術集会，名古屋，2018.
- ・池田 智，松枝美智子，増満 誠，山下真範，畑辺由起子，四本優子：看護系大学大学院の教育課程の違いによる精神看護学の教員数の有意差，第 44 回日本看護研究学会学術集会，熊本，2018.
- ・松枝美智子，池田 智，四本優子，山下真範，畑辺由起子，増満 誠；精神看護専門看護師教育課程の有無による精神看護学の教員数の有意差，第 44 回日本看護研究学会学術集会，熊本，2018.
- ・眞鍋祐介，増満 誠：長期隔離患者への介入からみえたもの～ラポール形成の難しさ～，第 64 回九州精神医療学会，福岡，2019.
- ・原香織，増満 誠：精神科看護におけるラポール形成～陰性症状の強い統合失調症患者とのかかわりを通して～，第 64 回九州精神医療学会，福岡，2019.
- ・小林朋子，増満 誠：自傷を繰り返す適応障害患者の看護～CES-D でみる患者の理解～，第 64 回九州精神医療学会，福岡，2019.
- ・恵良友彦，松枝美智子，江上千代美，増満 誠：抑うつに対するアロマセラピーを用いた介入研究の現状と課題，第 38 回日本看護科学学会学術集会，愛媛，2018.

<交流集会>

- ・松枝 美智子，池田 智，増満 誠，山下真範，恵良友彦，中島充代，畑辺由起子，南 裕子：不確かな時代を確かな看護で切り拓く人材確保の方略・精神看護の APN 育成に必要な教員確保に焦点を当てて，第 38 回日本看護科学学会学術集会，愛媛，2018.
- ・増満 誠，有安直貴：若手看護教師力向上プロジェクト（第 5 弾）～学生カンファレンスで求められる教師のち・か・ら～，日本看護学教育学会第 28 回学術集会，神奈川，2018.

<パネルディスカッション>

- ・増満 誠，池田 智，山下真範，山本智之，熊本勝治：第 4 回田川市障害福祉セミナーパネルディスカッション，2019 年 3 月 16 日.

<雑誌特集>

- ・増満 誠：特集 1 救急現場の新人教育 新人教育・指導でやる気と成果を導くコメント力，救急看護，6(5)，2-10，2017.

<寄稿>

- ・増満 誠：保健学科が教師としての原点，鹿児島大学医学部保健学科設置 20 周年記念誌，2019.

<報告書>

- ・増満 誠編著：令和元年度「看護学校と職場の情報交換会」実施報告書，福岡県看護協会看護の進路・進学支援委員会，2020.

<ガイドライン>

- ・COVID-19の対応に従事する医療者を組織外から支援する人のための相談支援ガイドライン(作成メンバー) (参照HP：<https://www.japmhn.jp/remotePFAGuide>)

<ポータルサイト>

・厚生労働省受託事業「新型コロナウイルス感染症に対応する障害者施設等の職員のためのサポートガイド作成業務等一式」における、新型コロナウイルスの流行下に障害福祉施設等で働く方のためのポータルサイト「新型コロナ 障害のある人 共に歩む人」(セルフケア班メンバー)
参照HP:<https://cdcwf.jp/>

③過去の主要業績

<論文>

- ・増満 誠：看護場面における沈黙に関する看護研究の動向と課題，国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部・福岡看護学部紀要，6，21-29，2010.
- ・増満 誠，堀尾良弘：児童期の学校ストレスの実態と学校心理的ストレス尺度の作成．鹿児島大学医学部保健学科紀要（17），55-63，2007.

<学会報告>

- ・増満 誠：統合失調症患者の看護師との対話場面における沈黙の意味の検討，第34回日本看護科学学会学術集会，名古屋，2014.
- ・増満 誠：精神看護師が語った患者との沈黙場面における沈黙経験の意味（第一報）沈黙の意味の解釈と対応，第30回日本看護科学学会学術集会，札幌，2010.
- ・増満 誠：精神科看護師が語った患者との沈黙場面における沈黙経験の意味（第二報）沈黙の解釈と対応の変化要因，第30回日本看護科学学会学術集会，札幌，2010.
- ・増満 誠：精神科看護師が語った患者との沈黙場面における沈黙経験の意味（第三報）～場に規定される沈黙の意味と対応の相違～，第15回日本看護研究学会九州沖縄地方会学術大会，福岡，2010.

3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金，基盤研究(C)，仮設住宅を退去した被災者の生理学及び心理学的影響と回復を促す集団プログラムの開発，令和2～4年度，研究分担者（研究代表者：緒方浩志）。

4. 受賞

第33回日本保健福祉学会学術集会「優秀演題発表賞」受賞(2020年10月31日)

5. 所属学会

日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本看護研究学会，日本心理学会
日本精神保健看護学会（社会貢献委員・30周年事業委員），国際ケアリング学会（広報委員）

6. 担当授業科目

<学部>

教養演習・1単位・1年・前期，不登校ひきこもり援助論・2単位・1年・前期，基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期，基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・前期，看護情報学・1単位・2年・後期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，統合実習・2単位・4年・通年，疫学・2単位・2年・後期，卒業研究・2単位・4年・後期

<大学院>

データ解析演習・2単位・1年・後期，精神看護関連法規・制度・政策論・2単位・1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・国際ケアリング学会（広報委員）
- ・日本精神保健看護学会（社会貢献委員・30周年事業委員）
- ・福岡県看護協会教育委員会委員長
- ・ケアリング・アイランド大学コンソーシアム・戦略連携室教員
- ・日本精神科看護協会教育認定委員会査読委員

- ・日本保健福祉学会査読委員
- ・日本精神科看護協会福岡県支部広報委員長・こころの日実行委員長・査読委員
- ・九州思春期研究会 代表理事
- ・介護労働安定センター福岡支部嘱託ヘルスカウンセラー
- ・鹿児島市立皇徳寺中学校同窓会長
- ・福岡県立大学大学院看護学研究科ナーシングネットワーク代表
- ・第30回日本精神保健看護学会執行役員（広報副委員長）
- ・Nursing EDU café Dandelion 主宰
- ・看護教師力向上塾「かんてら」主宰

8. 学外講義・講演（2020年度のみ）

- ・福岡県立大学出前講義（全3回）「看護の道も一歩から～看護職へのキャリアデザインを考える～」，福岡県立嘉穂高等学校；令和2年10月29日，福岡県立伝習館高等学校(オンラインにて)；令和2年11月11日，福岡県立小倉南高等学校；令和2年12月22日.
- ・福岡県看護協会出前授業（全1回）「看護の道も一歩から～看護職へのキャリアデザインを考える」，大和青藍高等学校；令和2年12月5日.

9. 附属研究所の活動等

- ・不登校ひきこもりサポートセンター教員スタッフ（家族交流会・訪問支援担当）
- ・公開講座小部会（小部会長）

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	安河内 静子
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

1990年より、5年間、九州大学医学部附属病院周産母子センターで勤務後(助産師)、1996年より8年間、福岡市保健福祉センターで勤務(保健師)、地域母子保健活動の実践を経験し、2004年4月より本学に着任、現在に至る。同年3月国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻課程修了(保健医療学修士)。

女性がエンパワーメントしていく過程を支援するマザークラスの開催、育児サロンの開催、小中学校での性教育など思春期保健から女性のライフサイクルを見据えた教育活動を行っている。研究分野は、妊産婦の禁煙プログラムに関する研究、乳児の皮膚と洗浄法に関する研究などに取り組んできた。今後は大学院での助産師教育の発展のために臨床指導者と協同した研究に取り組んでいきたいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

鳥越郁代, 古田祐子, 石村美由紀, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 小林絵里子, 道園亜季. 日本助産師会機関誌, 助産師教育機関シリーズ福岡県立大学大学院看護学研究科看護学専攻助産学領域一, 日本助産師会, Vol.72, No.1,56-58. 2017.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 安河内静子, 古田祐子, 鳥越郁代, 石村美由紀, 吉田静. (2019). 助産所での継続ケア実習が助産師としてのアイデンティティ形成に及ぼす過程. 第33回日本助産学会学術集会, 福岡.

③過去の主要業績

〈教材開発〉

佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. 身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラスの哲学と実践. 2012年.

〈論文〉

- ・ 古田祐子, 安河内静子. (2016) 簡易型S皮膚洗浄法が肌トラブルを有する乳児と実施者である養育者に及ぼす影響, 福岡県立大学看護学部紀要15, 福岡県立大学, 11-20.
- ・ 安河内静子, 古田祐子, 佐藤香代. (2015) 大学院における助産師教育に対するニーズ調査, 福岡県立大学看護学部紀要14, 福岡県立大学, 53-62.
- ・ 安河内静子, 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀, 森純子, 鳥越郁代. (2010) 医療者が「身体感覚活性化マザークラス」を体験した効果-体験録の分析から-. 福岡県立大学看護学部紀要7(2), 63-71.

5. 所属学会

日本助産師会、日本母性衛生学会、日本助産学会、日本看護科学学会、日本禁煙科学会、日本思春期学会、日本看護技術学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護学・2単位・2年・後期, 女性看護演習Ⅰ・1単位・3年・前期, 女性看護学演習Ⅱ・3~4年・通年, 女性看護学実習・2単位・3~4年・通年, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

〈大学院〉

ホリスティック助産学特論・1単位・1年・前期, ホリスティック助産学演習・1単位・1年・

後期, 助産学特論・2単位・1年・前期, 基礎助産学特論・1単位・前期, 基礎助産学演習・1単位・1年・前期, 助産実践学Ⅱ・4単位・通年, 助産実践学Ⅲ・2単位・1年・後期, コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期, コミュニティ助産学演習・2単位・1年・後期, 助産学実習Ⅰ・2単位・1年・前期, 助産学実習Ⅱ・8単位・1年・後期, 助産学実習Ⅲ・2年・前期, 助産学実習Ⅳ・2年・前期, 助産学実習Ⅴ・2年・2単位・後期

7. 社会貢献活動

- ・ マタニティサロン:産前・産後サポート事業:安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 道園亜希. (香春町共催), 香春町. (4回開催)
- ・ 福岡県田川保健所感染症診査協議会委員

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	安永 薫梨
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2004年3月に福島県立医科大学大学院看護学研究科修士課程修了。

2004年4月より本学に着任。

現在、研究に関しては、「精神科看護師の自己の安全空間に関する質問紙の開発」を目指し、研究に取り組んでいます。

教育に関しては、学生が自分自身の内と外の安全感を確かめながら、自己理解、他者理解を深めると共に、オレム－アンダーウッドのセルフケアモデルを、精神疾患を持つ患者に対し、展開できるよう講義、演習、実習を行っています。

今後も、さらに精神疾患を持つ患者の力動的な理解を深め、患者が本当に求めているものは、何かを探求し、患者が望む生活の実現に向け、日々、トレーニングを積みながら、教育、研究に取り組んでいきたいと思っております。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・松枝美智子, 宮崎初, 安藤愛, 坂田志保路, 安永薫梨, 宮野香里.(2018). 精神看護学の「経験型実習教育」における「患者ケアへの内発的動機付け」と「学生の観点から見た教授－学習活動」の自己評価の理由. 福岡県立大学看護学部研究紀要. 13-23.
- ・松枝美智子, 坂田志保路, 宮崎初, 安藤愛, 安永薫梨, 宮野香里.(2018). 精神看護学の「経験型実習教育」における「学生の患者ケアへの内発的動機付け」と「学生の観点から見た教授－学習活動」との相関. 福岡県立大学看護学部研究紀要. 1-11.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・安永薫梨.(2020). 心的安全空間維持に関する構成概念妥当性の検証. PASセルフケアセラピー看護学会第3回大会抄録集,p19.
- ・安永薫梨, 宇佐美しおり.(2019). 精神科看護師が患者に怒りを向けられた際の心的安全空間維持を構成する概念の明確化. PASセルフケアセラピー看護学会第2回大会抄録集,p17.
- ・安永薫梨, 宇佐美しおり.(2019). 精神科看護師の心的安全空間維持に関する質問紙の信頼性の検証. PASセルフケアセラピー看護学会第2回大会抄録集,p17.
- ・安永薫梨, 宇佐美しおり.(2019). 精神科看護師の心的安全空間の維持に関する質問紙の開発～エキスパートパネルによる内容妥当性、表面妥当性の検証～. 国際力動的な心理療法学会第24年次大会抄録,p32.

〈国家試験問題の解説〉

- ・松枝美智子, 安永薫梨, 他.(2020). 第109回看護師国家試験問題解説. メディカ出版.
- ・松枝美智子, 安永薫梨, 他.(2019). 第108回看護師国家試験問題解説. メディカ出版.
- ・松枝美智子, 安永薫梨, 他.(2018). 第107回看護師国家試験問題解説. メディカ出版.

③過去の主要業績

- ・安永薫梨.(2015). 「精神科看護における患者から看護師への暴力(Violence)」に関する文献レビュー. 日本精神保健看護学会誌, 24(1), 1-11.
- ・安永薫梨.(2011). 精神疾患をもつ患者が看護師への暴力を思いとどまったその思いと試み. 日本精神保健看護学会誌. 20(2), 21-27.
- ・安永薫梨.(2006). 精神科閉鎖病棟における患者から看護師への暴力の実態とサポート体制. 日本精神保健看護学会誌, 15(1), 96-103.

3. 所属学会

PASセルフケアセラピィ看護学会、日本看護研究学会、日本精神保健看護学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護協会

*PASセルフケアセラピィ看護学会第3回大会の実行委員

4. 担当授業科目

<学部>

精神看護学概論・2単位・2年・前期、医療安全・2単位・2年・前期、精神看護学・2単位・2年・後期、精神看護学演習Ⅰ・1単位・3年前期、精神看護学演習Ⅱ・1単位・3年後期~4年前期、精神看護学実習・2単位・3年後期~4年前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・通年、卒業研究・2単位・4年

<大学院>

(1) 研究コース(臨床看護学領域精神看護学)

精神看護学特論・2単位・1年次・前期

(2) 精神看護専門看護師コース

リエゾン精神看護論・2単位Ⅱ・通年、精神看護専門看護師直接ケア実習・2単位・通年、精神看護専門看護師役割実習・2単位・通年、精神科診断治療実習・2単位・通年、Advanced精神看護専門看護師直接ケア実習・2単位・通年、Advanced精神看護専門看護師役割実習・2単位・通年

5. 社会貢献活動

R2.12-R3.3 日本精神保健看護学会：厚生労働省委託事業「新型コロナウイルス感染症に対する障害者施設等の職員のためのサポートガイド作成業務一式」における相談事業(電話相談担当)

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	吉川 未桜
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

小児看護学教育に関する研究や看護と保育の連携、看護職による子育て支援に関する研究を行っている。小児看護学教育では、子どもと関わる機会の少ない近年の学生が、子どもを具体的にイメージし、子どもと家族へ根拠をもって適切な看護を実践する能力を身につけられるよう教育方法の探求を行っている。また、地域の幼稚園・保育園における健康教育や病棟における保育と看護の連携に関する研究に取り組んでいる。子育て支援に関する研究では、病棟・外来クリニック・子育て支援センター・保育所等地域の子育て支援の現場における子育て相談・プリパレーションなど、身近な看護職による支援を探求することで、あらゆる健康段階の子どもと家族がより健康で健やかに成長発達できる子育て支援の充実を目指している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

・杉野寿子・田中美樹・吉川未桜・中原雄一・吉田麻美・池田孝博. 保育士養成課程における保健・健康に関する学びの研究. 福岡県立大学人間社会学部紀要、第29巻1号、2020年10月.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・川添優、吉川未桜、吉田麻美、田中美樹、「予防接種を受ける子どもの親の意思決定要因とその過程で生じる不安・迷いに関する研究」、第67回日本小児保健協会学術集会、2020年11月、福岡（Web開催）
- ・吉田麻美、吉川未桜、田中美樹、「小児看護学実習における学生のインシデント～傾向の分析と課題～」、第20回九州・沖縄小児看護教育研究会、2019年8月、福岡
- ・田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・道園亜希・宮城由美子、「年長クラスの子どもの対象に”いのち”をテーマにした健康教育実施の効果～保護者へのアンケート調査からの検討～」、第25回日本保育保健学会、2019年5月、神戸

③過去の主要業績

- ・吉川未桜・青野広子・仲村彩・吉田麻美・田中美樹・宮城由美子、赤ちゃん先生プログラムを取り入れた小児看護技術演習の効果. 福岡県立大学看護学部紀要13巻1号. 2016年3月.
- ・青野広子・吉川未桜・田中美樹・江上千代美・宮城由美子、小児看護技術支援における看護学部4年生の看護技術動作の傾向と感想の検討. 福岡県立大学看護学部紀要13巻1号. 2016年3月.
- ・吉川未桜・青野広子・田中美樹・宮城由美子、小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み. 福岡県立大学看護学部紀要12巻1号. 2015年3月.

3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金（基盤研究C）研究代表者、「先天性心疾患の乳幼児・家族への包括的地域子育て支援に関する研究」、260万円、平成29年度～令和2年度.

5. 所属学会

日本看護科学学会・日本小児看護学会・日本看護研究学会・日本小児保健協議会・日本保育園保健学会・九州小児看護教育研究会・子ども健康科学学会

6. 担当授業科目

〈看護学部〉

小児看護学概論・1単位・2年・前期、小児看護学・2単位・2年・後期、小児看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、小児看護学演習Ⅱ・1単位・3年・後期、小児看護学実習・2単位・3年前期～4年後期、統合実習・2単位・4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・

通年、卒業研究・2単位・4年・通年

8. 学外講義・講演

- ・ 吉川未桜、田川市ファミリーサポートセンター会員養成講習会、「小児看護の基礎知識」、2020年10月8日、田川市。
- ・ 吉川未桜、出前講義「小児科の看護師さんって?」、筑紫女学園高等学校、2020年11月16日、福岡市。

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	吉田 静
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1998年から7年間、助産師として九州労災病院に勤務。2005年から1年間本学に臨時職員として勤務後、2007年本学に着任。2009年3月、福岡県立大学大学院修士課程修了、修士（看護学）。2021年3月、国際医療福祉大学大学院博士課程修了、博士（助産学）。

現在、子供の喪失経験を持つ者の悲嘆過程と提供されるケアや支援、また医療者の支援を主な研究分野としている。特に、子供の喪失経験を持つ人々へのケアやサポートの中心は「母親」にあり、「父親」は母親を支える役割を期待され、支援も等閑されやすい。そのためニーズを把握した上で子どもの喪失経験を持つ父親へ提供できるケアモデルを開発し、医療者の役割、課題等を明らかにする。また子どもを喪失した家族に携わる看護者へのケアや支援も検討している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈学術論文〉

- ・吉田静. (2021). 子どもを喪失した父親が看護者に求めるケアに関する研究. 国際医療福祉大学大学院博士論文, A4版, 全134頁.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・吉田静, 佐藤香代, 山下恵子, 藤木久美子. (2019). 「子どもを喪失した家族に携わる看護者の会」に参加した看護者の気持ちの変容. 第60回母性衛生学術集会, 千葉.
- ・藤木久美子, 佐藤香代, 江島峰子, 吉田静. (2019). 「身体感覚活性化マザークラス医療者セミナー」に参加した医療者の気づき. 第60回母性衛生学術集会, 千葉.
- ・安河内静子, 古田祐子, 鳥越郁代, 石村美由紀, 吉田静. (2019). 助産所での継続ケア実習が助産師としてのアイデンティティ形成に及ぼす要因. 第33回日本助産学会, 福岡.

③過去の主要業績

〈教材開発〉

- ・佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. 身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスの哲学と実践. 2012年.
- ・吉田静, 佐藤香代. わが国における「おむつ」の起源. (2012). 第53回母性衛生学術集会, 福岡.
- ・吉田静. (2009). 子どもを喪失した父親の体験. 福岡県立大学大学院修士論文, A4版 全68頁.

5. 所属学会

日本助産学会, 日本母性衛生学会, 日本死の臨床研究会

6. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護学概論・1単位・2年・前期, 女性看護学・2単位・2年・後期, 女性看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期, 女性看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・後期～前期, 女性看護学実習・2単位・3～4年・後期～前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

〈大学院〉

ウイメンズヘルステ論・1単位・1年・前期, ウイメンズヘルス演習・1単位・1年・後期, 基礎助産学特論・2単位・1年・前期, 基礎助産学演習・2単位・1年・通年, 助産学特論・2単位・1年・前期, 助産学演習・2単位・1年・後期, 助産実践学Ⅰ（妊娠期）・2単

位・1年・前期, 助産学実践Ⅲ(産褥期)・2単位・1年・後期, 助産学実習Ⅰ(外来ケア実習)・1単位・1年・前期, 助産学実習Ⅲ(助産所実習・継続ケア実習)・2単位・2年・前期, 助産学実習Ⅳ(ハイリスクケア実習)・1単位・2年・前期, 助産学実習Ⅴ(マザークラス実習)・2単位・2年・後期

7. 社会貢献活動

- ・第3回マタニティサロンムーン(2020.9-10)
- ・第14回東アジアグリーフの集いプレセッション(2020.11)

8. 学外講義・講演

- ・福岡県立香椎高等学校(2020.6.9)

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

研究内容

1. 子どもを喪失した父親と夫婦に関する研究
2. 子どもを喪失した夫婦に携わる看護者に関する研究
3. 身体感覚活性化マザークラスに関する研究

保有学位

博士(助産学)

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	猪狩 崇
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

平成 28 年度より着任しました。宮崎県立看護大学看護学部・同大学院を修了し、専攻は理論看護学ですが、その応用となる直接の実践・研究フィールドとしては地域・在宅看護学が中心です。大学では在宅看護学を担当しています。研究分野は、理論看護学（看護哲学）、地域・在宅看護学、補完代替看護学ですが、看護教育学や、栄養学、看護史の分野にも興味を持ち研究しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・山口のり子、福岡洋子、中村美穂子、猪狩 崇、尾形 由起子「官民学協働による地域住民を含めた『ケア・カフェ』実践報告」福岡県立大学看護学部紀要 第18巻、2021
- ・猪狩 崇、石崎 龍二、櫛 直美、柴田 雅博、小野 順子、檜橋 明子、杉本 みぎわ、尾形 由紀子「地域包括ケアシステム構築に向けた人的ネットワーク形成と運営に関する一考察」福岡県立大学看護学部紀要 第16巻、2019
- ・猪狩 崇、石崎 龍二、櫛 直美、柴田 雅博、小野 順子、檜橋 明子、杉本 みぎわ、尾形 由紀子「地域包括ケアシステム構築に向けた地域医療情報連携ネットワークシステム導入に関する一考察」、福岡県立大学看護学部紀要 第15巻、2018

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・増満 誠、松枝美智子、中本 亮、恵良友彦、猪狩 崇、安藤 愛、脇崎 裕子、中島 充代、池田 智、児玉 ゆう子、津田 絵美「リカバリー・カレッジの意味の探求」第40回日本看護科学学会交流集会、WEB開催、2020年12月13日
- ・猪狩 崇「F.ナイチンゲールのみいだした休息（夜間の睡眠と昼間の休息）の意義について考える」第40回ナイチンゲール研究学会総会・研究懇談会、東京、2019年10月6日
- ・猪狩 崇「癒しの原点をF.ナイチンゲールの看護観で明らかにする試み」、第39回ナイチンゲール研究学会総会・研究懇談会、東京、2018年10月7日
- ・杉本 みぎわ、櫛 直美、山下 清香、猪狩 崇、中村 美穂子、平塚 淳子、山本 博美、尾形 由起子：「A県の訪問看護ステーション交流会事業を通して見えた連携のあり方と今後の課題」日本看護研究学会 第23回九州・沖縄地方会学術集会、長崎、2018年11月3日

<教材開発>

- ・学問的な人間論に基づく講義資料第2版、福岡県立大学看護学部「ホリスティック人間論」授業、2018年度1年生前期
- ・「いのちの歴史」から説く、看護にとっての癒し（回復過程支援）論教材第2版、福岡県立大学「ホリスティック人間論」授業、2018年度1年生前期、2017年度1年生前期
- ・補完代替看護論講義資料（テキストブック）、福岡県立大学看護学部「ヒーリング論」授業、第2版 2018年度1年生前期
- ・「ナーシングタッチケアマニュアル」〈ペア版〉〈セルフケア版〉、福岡県立大学看護学部「ヒーリングセラピー演習」用教則本、2018年前期

③過去の主要業績

- ・博士学位論文 「対応困難な事例にしないための対象理解の構造—地域包括支援センター保健師の在宅療養患者への支援過程の分析を通して—」猪狩 崇、看護科学研究、Vol.8 p.25～40、2013年
- ・学会発表（ワークショップ事例提供）「理論を用いるとはどうすることかを考える」猪狩 崇、看護科学研究学会第12回学術集会、2012年、10月6日、学士会館（東京）
- ・学会発表 「ナイチンゲール看護論に基づく現代の地域看護実践」猪狩 崇、ナイチンゲール

研究学会大 29 回研究懇談会、2008 年、10 月 5 日、学士会館（東京）

5. 所属学会

看護科学研究学会、ナイチンゲール研究学会、日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本看護教育学会、宮崎県立看護大学看護学研究会、日本教師学学会

6. 担当授業科目

在宅看護学概論（補助）1 単位・2 年、災害看護学（補助）1 単位・2 年、在宅看護学（補助）2 単位・2 年、在宅看護学演習Ⅰ・Ⅱ（補助）それぞれ1 単位・3 年、在宅看護実習（補助）2 単位・3 年、基礎看護学実習Ⅱ（補助）2 単位・2 年、成人看護学急性期実習（補助）2 単位・3 年、専門看護学ゼミ（補助）・2 単位・3 年、卒業研究（補助）・2 単位・4 年

7. 社会貢献活動

- ・添田町社会福祉協議会、協議体委員
- ・添田町公共施設指定管理者選定委委員会委員
- ・添田町地域包括支援センター運営協議会委員（議長）
- ・添田町、添田町社会福祉協議会「そえだ縁ジョイプロジェクト」アドバイザー
- ・添田町、添田町社会福祉協議会「認知症カフェ」アドバイザー
- ・添田町社会福祉協議会「認知症カフェ」立ち上げ開催講師 2021 年 3 月 15 日

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・附属研究所重点領域研究「保健医療福祉連携による地域ネットワーク構築に関する研究」共同研究者
- ・附属研究所研究奨励交付金研究（若手奨励・期間延長）「食の改善とタッチケアが健康に及ぼす効果の研究」代表研究者
- ・附属研究所ヘルスプロモーション実践研究センター令和元年度報告書編集
- ・ケアリング・アイランド大学コンソーシアム事業「ナーシング・キャリア・カフェ」事務担当

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	江上 史子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

精神科看護の場における認知症高齢者の看護や、家族支援、リハビリテーション看護に関心があります。精神科における認知症ケアについては、これからも取り組んでいきたい課題の一つです。認知症高齢者と家族の支援に関する研究では、相談活動を通して、対象が築いてきた人生や価値観に寄り添う関わりの重要性を実感しています。

老いや病に向き合うことは、本人にも援助者にも哀しみや苦しみを伴うことがあります。しかし同時に、人生の先輩としての豊かな人間性に触れ、教えられることや励まされることも多く、多様なライフスタイルのある現代の高齢社会において、人生の最後の時期である老年期を、その人らしい生活、尊厳ある人生を送るための支援に携わりたいと思っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・松枝美智子、江上史子、渡邊智子、松井聡子、村田節子、永嶋由理子. 高度実践看護師 (APN) のキャリア形成支援システム構築のあり方：APN 雇用ニーズ質問紙の信頼性の検証と A 県の医療機関等の看護管理者の雇用ニーズ. 福岡県立大学看護学研究紀要、2019 年 3 月.
- ・榎直美、尾形由起子、江上史子. 家族介護者の介護力構造因子における関連要因と介護負担感への影響、日本看護研究学会誌 42(1)、2019 年

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・江上史子、丸山泰子、榎直美、デイサービスでの BPSD の軽減に関連する効果的なケアの要因、一般社団法人日本看護研究学会第 24 回九州・沖縄地方会学術集会 (大分)、2019 年 11 月
- ・榎直美、雪松和子、江上史子、廣瀬理恵、認知症カフェ開設に向けた人材育成の取り組みの効果について、第 40 回日本看護科学学会学術集会 (オンライン)、2020 年 12 月

③過去の主要業績

- ・平林美保、江上史子、梅垣順子、松岡千代、水谷信子、高齢者看護が担う痴呆症相談活動の課題と方向性「高齢者もの忘れ看護相談」を通して、兵庫県立看護大学 附置研究所推進センター研究報告集 Vol.1、p39-45、2003 年 3 月
- ・南裕子 (主任研究者)、水谷信子 (分担研究者)、松岡千代、平林美保、江上史子、梅垣順子 (研究協力者)、「高齢者もの忘れ看護相談」の効果-継続的利用により介護家族に生じた変化について-平成 17 年 3 月厚生労働科学研究研究費補助金 医療技術評価総合研究事業、平成 16 年度総括・分担研究報告書 p31-51、2005 年 3 月
- ・江上史子. 精神病院に勤務する看護師の認知症高齢者の持つ力へのアプローチ-認知症高齢者の表現する力に焦点をあてて-、兵庫県立大学大学院 修士論文、2007 年 3 月

5. 所属学会

日本老年看護学会、日本災害看護学会、日本認知症ケア学会、日本教師学学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

老年看護学概論・1 単位・2 年・前期、老年看護学・2 単位・2 年・後期、老年看護学実習 I・1 単位・2 年・通年、老年看護学演習 I・1 単位・3 年・前期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、老年看護学演習 II・1 単位・3~4 年・後期~前期、老年看護学実習 II・3 単位・3~4 年・後期~前期、統合実習・2 単位・4 年・通年、専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期、卒業研究・2 単位・4 年・後期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	於久 比呂美
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

1) 看護技術に関する研究

看護技術の科学的検証を行い、エビデンスに基づいた看護技術教育方法の開発に取り組んでいます。

2) 看護師の自己成長に関する研究

これまで看護師の成長力をもたらす促進因子の一部について検討してきました。今後は、得られた研究知見に詳細な分析を積み重ねるとともに、他の促進因子の解明を引き続き進め、看護師に向けた教育プログラムの開発などを考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

・ 瀧野由夏, 永嶋由理子, 加藤法子, 藤野靖博, 於久比呂美, 宮崎千尋: 基礎看護学教科書における人間の概念に関する検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 17, 2020.

②その他最近の業績

〈学会報告〉

- ・ 於久比呂美, 宮崎千尋, 永嶋由理子: 看護師の自己教育力に影響を及ぼす要因の検討—自己効力感と心理的自立に焦点をあてて—. 第38回 日本看護科学学会学術集会, 2018年12月.
- ・ 於久比呂美: 看護師の自己効力感および心理的自立が自己教育力に及ぼす影響—臨床経験10年以上の看護師に焦点をあてて—. 第45回 日本看護研究学会学術集会, 2019年8月.

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期, 基礎看護技術論・2単位・1年・後期, 基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年, フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期, 看護過程・1単位・2年・前期, シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 統合実習・2単位・4年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学コース 養護教諭サブコース	職名	助教	氏名	梶原由紀子
-----------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学大学院看護研究科看護学専攻修士課程修了，修士（看護学）。

看護師として，重心障害児（者）病棟，消化器内科・小児科，大学保健室，高等学校で養護助教諭として勤務しました。児童生徒が心身共に健康で安全に学校生活を送ることができ、発達段階に応じた自己管理能力を身に付けるための支援や，また現場の養護教諭の先生方の支援のために研究を進めていきたいと考えています。

【養護教諭の研修プログラムの開発に関する研究】

養護教諭の危機管理力の研修の開発に関して取り組んでいます。昨今，重度の障害がありつつ地域で暮らす子どもが増加し，地域の学校に通学する子どもたちが増加しています。学校においては，緊急時には専門的な対応が求められ，保健管理の中核を担う養護教諭の役割も大きいと考えます。養護教諭の資質の向上のために，具体的な対策の現状や課題，また，研修においてどのようなプログラムが必要か等，養護教諭の研修プログラムの開発を行っています。

【特別支援学校養護教諭の特定行為におけるリスク認識に関する研究】

制度の改正に伴い教員を含む介護職員等が限定された特定行為を実施できるようになり，特別支援学校では，看護師と連携しながら教員が医療的ケアを実施しています。このような特別支援学校の養護教諭における特定行為に関する専門的な対応や事故やリスクに関する現状について調査研究を行いました。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

- ・衛藤隆，松浦賢長，近藤洋子，原田直樹，梶原由紀子他（26名）（2020）；1980年から10年ごとの幼児健康度調査の結果と分析 子供の保健 小児保健に携わるすべての人に，食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、喘息 解説p53，コラムp41，p54，p56，ジヤース教育新社。
- ・永光信一郎，坂下和美，作田亮一，岡田あゆみ，松浦賢長，重安良枝，藤井智香子，大谷良子，松島奈穂，北島翼，原田直樹，梶原由紀子，松岡美智子，千葉比呂美，石井隆大（2020）；ティーンズ検診 思春期のこどもへの健康指導マニュアル，リスク因子33 p 33，久留米大学。
- ・松浦賢長，笠井直美，渡辺多恵子編者（2017）；保健の実践科学シリーズ 学校看護学，第12章 感染症対策 I 93-97，第13章 感染症対策 98-103，第15章 救急処置 112-118，第26章 特別支援教育・医療的ケア 187-192，講談社サイエンティフィック。

〈論文・報告書〉

- ・梶原由紀子（2019）. 科研（若手B）「インクルーシブ教育における養護教諭の危機対応力向上に関する短期研修プログラム開発」研究成果報告書，1-67.
- ・梶原由紀子.（2019），養護教諭の危機対応力の研修プログラムに関する研究，平成29年度福岡県立大学研究奨励交付金研究成果報告書，120-125.
- ・梶原由紀子.（2018），養護教諭の危機対応力の研修に関する調査研究，平成27-28年度福岡県立大学研究奨励交付金研究成果報告書，38-39.
- ・清原智佳子，梶原由紀子，尾形由起子，小野順子，田中美樹，石村美由紀，江上千代美（2018）. 発達障がいをもつ子どもの親を対象に行ったステップングストーンズトリプルP受講前後のパイロット・スタディ. 福岡県立大学看護学研究紀要 15，47-53.
- ・松浦賢長，大矢崇志，梶原由紀子，田中祥一郎，岡松由記，田原千晶，増満誠，原田直樹，山崎喜久，山縣然太郎. すべての子どもを対象とした要支援情報の把握と一元化に関する研究 厚
- ・生労働科学研究補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究（2018）. 平成 29 年度総括・分担研究報告書，194-197.

③過去の主要業績

〈著書〉

- ・松浦賢長, 笠井直美, 渡辺多恵子編者(2015); 保健の実践科学シリーズ 学校看護学, 第12章 感染症対策 I 93-97, 第13章 感染症対策 98-103, 第15章 救急処置 112-118, 第26章 特別支援教育・医療的ケア 187-192, 講談社サイエンティフィク.

〈論文〉

- ・梶原由紀子, 原田直樹, 三並めぐる, 増満誠, 松浦賢長. 特別支援学校教員の特定行為実施における期待感・不安感に関する研究. (2013). 日本保健福祉学会誌, 2013.Vol.20, No. 1 (学会発表)
- ・江上千代美, 梶原由紀子, 久保江里子. (2017, 10) 養育レジリエンスを高める介入支援トリプルPを用いた支援とその効果, 日本LD学会第26回大会, 栃木
- ・梶原由紀子, 中山晃光, 秦野環, 照屋典子, 木村弘江, 佐藤千春, 原田直樹, 松浦賢長. (2015. 12) 看護学生を対象とした国際看護実施施設における短期研修プログラムの学生の学びと課題, 第35回日本看護科学学会学術集会, 広島.

5. 所属学会

日本思春期学会, 日本学校保健学会, 日本保健福祉学会, 日本看護研究学会, 日本看護科学学会, 日本公衆衛生学会, 日本LD学会, 日本学校救急看護学会, 九州学校保健学会, 九州思春期研究会.

6. 担当授業科目

不登校・ひきこもり援助論・2単位・1年・前期, 教育と社会・地域・1単位・1年・前期, 子ども学習支援論・1単位・1年・後期, 公衆衛生学・2単位・1年・後期, 保健統計学・2単位・2年・前期, 養護概説・2単位・2年・後期, 教育方法論・2単位・看護2年/人社3年・後期, 健康科学・2単位・2年・後期, 学校保健学・1単位・3年・前期, 健康教育論, 2単位・3年・前期, 性教育学・2単位・看護3年/人社3年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 養護実習事前事後指導・1単位・4年・前期, 養護実習・4単位・4年・前期, 教職実践演習(養護教諭)・2単位・4年・後期, 統合実習・2単位・4年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年,

7. 社会貢献活動

- ・日本思春期学会, 理事
- ・九州思春期研究会, 理事
- ・筑豊地区教育相談ネットワーク会議, 委員

8. 学外講義・講演

- ・大和青藍高等学校教職員研修会講師(令和2年10月)

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	清原 智佳子
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

総合病院、大学病院、JAICA 海外関連施設で勤務し、2017 年度より本学に着任致しました。国内・海外での看護経験を生かし、教育に携わることができれば幸いです。主な研究は、慢性疾患を持つ患者様の身体活動量および子育て支援に関する研究を検討中です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

〈学会示説〉

- ・清原智佳子 肝疾患を持つ患者の運動習慣について 第22回日本看護医療学会学術集会 2020
- ・清原 智佳子, 平塚 淳子, 古庄 夏香 外来通院中のウイルス性肝炎患者の療養生活に対する思い 日本看護研究学会第46回学術集会 2020
- ・Jyunko Hirathuka, Makoto masumithu, Chikako kiyohara, Examination of factors influencing medical safety climate among ward nurses. 6th WANS Japan academy of Nursing Science Feb 28 2020
- ・清原智佳子, 江上千代美 健常発達の子どもの親を対象に行ったグループトリプルP ; 受講後の効果 日本看護研究学会雑誌 Vol. 41 No. 3 2018 P291

③過去の主要業績

〈論文〉

- ・清原智佳子, 梶原由紀子, 尾形由起子, 小野順子, 田中美樹, 石村美由紀, 江上千代美, 実践報告 発達障がいをもつ子どもの親を対象に行ったステップングストーンズトリプルP受講前後のパイロット・スタディ, 2017 年, 福岡県立大学紀要
- ・清原智佳子, 古賀明美, 藤田君支, 研究報告, C 型慢性肝炎患者の疲労感, QOL と身体活動量に関する研究日本看護研究学会雑誌, Vol37, No2, 2014, p63 ~70

〈学会口演〉

- ・清原智佳子, 江上千代美, トリプルP の受講前後の親のストレス変化と子育て技術に関する研究 日本看護研究学会第 22 回九州・沖縄地方学会口演 3 群-1, 2017 p41
- ・清原智佳子, 古賀明美, 藤田君支, 慢性 C 型肝炎患者の疲労感・QOL と身体かつ同僚の実態調査と影響要因, 日本看護研究学会雑誌, Vol34, No3, 2011, p191

5. 所属学会

日本看護学研究学会、日本看護教育学会 日本慢性看護学会 日本看護医療学会

6. 担当授業科目

授業：基礎看護技術論、フィジカルアセスメントⅠ、ケアリング・サイエンス

実習：統合実習、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、老年実習Ⅱ、精神看護学実習Ⅱ、小児看護学実習Ⅱ

7. 社会貢献

田川市香春町（子育て支援チーム） 健康診断補助 トリプルP 受講後の面接

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	佐藤 繭子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として5年間外科系病棟、助産師として産婦人科・小児科病棟を8年勤務後、その経験を生かし、2009年より本大学看護学部臨床看護学系助手として着任。2011年3月、福岡県立大学大学院看護学研究科修了、修士（看護学）。現在に至る。

臨床では母乳育児支援の推進に携わり、母親・医療スタッフへの情報提供や知識の啓蒙に努めてきた。現在は母乳育児支援に関する研究だけでなく、ウイメンズ・ヘルス、性教育（幼児～大学生、子を持つ親、成人）にも積極的に取り組んでいる。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・佐藤繭子, 鳥越郁代. 西オーストラリア州における妊産婦支援～帝王切開準備教育・母乳育児支援に焦点を当てて～. 福岡県立大学看護学研究紀要 2021; 18: 37-44.
- ・メディカコンクール委員会. メディカコンクール第110回看護師国家試験対策テスト第1回解答・解説. メディカ出版 2020. (母性看護学執筆)
- ・メディカコンクール委員会. メディカコンクール第109回看護師国家試験対策テスト第3回解答・解説. メディカ出版 2019. (母性看護学執筆)
- ・森本 眞寿代, 前原 宏美, 佐藤 繭子. わが国の家庭で親が行う性教育に関する研究の動向—看護関連の文献のエビデンスレベル—. 日本看護研究学会雑誌 2019; 42 (2): 231-240.
- ・道園亜希, 古田祐子, 佐藤繭子, 石村美由紀. 小学4～6年生の子どもを持つ保護者が家庭で行った就学前後の性教育の実態. 福岡県立大学看護学研究紀要 2019; 18(1): 63-72.

②その他最近の業績

<小冊子>

- ・古田祐子, 佐藤繭子, 道園亜希, 石村美由紀(2019). 性～なぜなぜ? どうして? 13のQ&A～. 田川市教育委員会.

③過去の主要業績

佐藤繭子. 助産師の母乳育児支援の実践に影響する要因の検討. 福岡県立大学大学院看護学研究科修士論文. 2011年3月.

5. 所属学会

日本助産学会, 日本母乳哺育学会, 日本助産師会, 思春期学会, 日本母性衛生学会, 日本性科学会, 日本ラクテーション・コンサルタント協会

6. 担当授業科目

<学部>

女性看護学・2単位・2年・後期, 女性看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期, 女性看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・後期～前期, 女性看護学実習・2単位・3～4年・後期～前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

<大学院>

ウイメンズヘルステ論・1単位・1年・前期, ウイメンズヘルス演習・1単位・1年・後期, 基礎助産学特論・2単位・1年・前期, 基礎助産学演習・2単位・1年・通年, 助産学特論・2単位・1年・前期, 助産実践学Ⅰ(妊娠期)・2単位・1年・前期, 助産学実践Ⅱ(分娩期)・4単位・1年・通年, 助産学実践Ⅲ(産褥・新生児期)・2単位・1年・後期, コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期, コミュニティ助産学演習・2単位・1年・後期, 助産学実習Ⅰ(外来ケア実習)・1単位・1年・前期, 助産学実習Ⅱ(周産期ケア実習)・8単位・1年・後期, 助産学実習Ⅲ(継続ケア実習)・2単位・2年・前期, 助産学実習Ⅳ(ハイリスクケア実習)・1単位・2年・前期, 助産学実習Ⅴ(マザークラス実習)・2単位・2年・後期

7. 社会貢献活動

- ・ 日本ラクテーション・コンサルタント協会 出版・販売事業部員
 - ・ 母乳育児に関する学習会の開催「母乳育児支援を学ぶ九州教室」代表・運営
 - ・ 福岡県助産師会子育て・女性健康支援センター相談員
 - ・ 日本助産師会九州・沖縄地区研修会実行委員
 - ・ マタニティサロン・ムーン 企画・運営 (2020.9-10)
 - ・ 田川市教育委員会 家庭教育講座企画検討委員
- 〈母乳育児支援に関するセミナー企画・運営〉
- ・ 第21回母乳育児支援を学ぶ九州教室, 福岡市 (2021.3)

8. 学外講義・講演

- ・ 福岡市立柏原小学校4年生「育ちゆく体とわたし」ゲストティーチャー. 福岡市 (2020.10)
- ・ グリーンコープ生協ふくおか福岡西支部子育て講演会 こどもの『せい』教育 講師.
- ・ 福岡県助産師会主催研修会「女性への健康支援～月経異常、家族計画への支援」講師. 福岡市 (2021.1)
- ・ 一般社団法人ガールスカウト福岡県連盟主催オンラインセミナー「わたしがつくる、わたしの未来」内『「ジェンダー」ってなあに?』講師. (2021.1)
- ・ 福岡市草ヶ江公民館「プレ思春期の子に性教育を伝えよう!」講師. (2021.1)

9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・ 性の健康に関する事業
- ・ 奨励研究「看護職が求める母乳育児支援に関するリカレント教育」

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	清水 夏子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2010年3月福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を卒業。専攻は看護教育学で、経験型実習教育における教員の教授行動と学生に与える影響に関する研究を行った。現在は、看護学生の東洋（漢方）医学のイメージと受講意欲に関する調査を継続的に実施し、看護基礎教育における東洋（漢方）医学教育の必要性についての検討を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈大学紀要〉

- ・清水夏子, 松山美幸, 塩田昇, 江上千代美: 統合実習における学生が嬉しかったと感じた実習指導者の言動 - 経験型実習教育の研修を受けた実習指導者のかかわりを通して - . 福岡県立大学看護学研究紀要. 16 (1) . 2019.
- ・松井聡子, 清水夏子, 永尾寛子, 笹山万紗代, 政時和美. 実習施設を就職先として意識するきっかけとなった看護師の魅力的な態度. 福岡県立大学看護学研究紀要. 16 (1) . 2019.

②その他最近の業績

〈国内：学会発表〉

- ・松井聡子, 清水夏子, 永尾寛子, 笹山万紗代, 政時和美. (2018) 実習施設を就職先として意識するきっかけとなった看護師の魅力的な態度. 第44回日本看護研究学会学術集会. 熊本.
- ・松山美幸, 清水夏子, 塩田昇, 江上千代美. (2018) 経験型実習教育を実践する実習指導者の言動の検討. 第44回日本看護研究学会学術集会. 熊本.
- ・清水夏子. (2018). 看護基礎教育における東洋（漢方）医学教育の必要性の検討—漢方を譲り受けた者の内服経験とイメージ—. 第28回日本看護学教育学会学術集会. 神奈川.

〈国内：招聘講演〉

清水夏子. (2018). 漢方教育導入から9年 - 福岡県立大学における東洋医学概論のあゆみ -. 共催セミナー. 第28回日本看護学教育学会学術集会. 神奈川.

③過去の主要業績

- ・安酸史子編集. 清水夏子, 他. 経験型実習教育. pp240-252. 東京. 医学書院. 2015.
- ・清水夏子. 看護大学生に対する「東洋医学概論」の試み. 麻生飯塚漢方診療研究会150回記念講演会（招待講演）. 福岡. 2011
- ・清水夏子, 安酸史子, 中野榮子, 佐藤香代, 豊田謙二, 申鎬. 韓医学を取り入れた予防医学の構築事業. 看護学における西洋医療と東洋医療の融合に関する日韓比較研究 訪韓報告書. 2008

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）

【研究種別・研究期間・交付金額】 若手研究（B）, 平成29年～平成32年度, 2,730千円

【研究課題】 看護基礎教育における東洋（漢方）医学教育の必要性の検討

5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本東洋医学会, 日本看護研究学会, 日本教師学学会

6. 担当授業科目

<学部>

専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 卒業研究・2単位・4年生・通年, 東洋医学概論・1単位・2年・前期, フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期, 看護実践論・1単位・3年・前期, 看護教育学・1単位・3年・前期, 教師論・2単位・3年・前期, 基礎看護技術論・2単位・1年・後期, 看護管理論・1単位・4年・後期,

<臨地実習>

老年看護学実習Ⅱ・3単位・3年・通年, 統合実習・3単位・4年・通年, 基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期, 基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・後期,

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	手島 聖子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

養育者が安心して育児ができる環境を構築するために、子どもの発達過程に応じた養育者の育児ストレスや育児不安、育児ストレスに影響を与える個人的・社会的要因を短時間に把握できる質問紙を作成し、4カ月児の養育者と1歳6カ月児の養育者を対象に調査を実施してきました。近年は、被養育体験を基礎に形成された内的ワーキングモデルがどのようにして養育者に世代間伝達されるのか、養育者の成育歴における被虐待歴や親から愛されなかった思い、親との対立、厳格な親に育てられたなど環境要因が養育者自身の育児にどのような影響を与えられるのかについて検討しています。児童虐待予防における保健師の実践活動に活かせるよう研究を進めていきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

- ・尾形由起子、山下清香 編集、地域包括ケアをすすめる公衆衛生看護学 演習・実習、2019年9月、クオリティケア
- ・檜橋明子、中村美穂子、小野順子、山下清香、手島聖子、尾形由起子、保健師の実践能力に対する公衆衛生看護学実習の効果、2021年3月、vol.18、27-35、福岡県立大学看護学研究紀要、2021年

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・手島聖子、虐待の世代間伝達に関する文献検討。日本子ども虐待防止学会。日本子ども虐待防止学会第24回学術集会。2018年12月、岡山。
- ・手島聖子、「愛着障害」に関する文献検討。日本子ども虐待防止学会。日本子ども虐待防止学会第25回学術集会。2019年12月、兵庫。

③過去の主要業績

- ・手島聖子。(2002)。養育者の育児ストレスと育児支援システム：乳幼児健康診査を通した子育て支援と児童虐待の予防について。(財)安田生命社会事業団2001年度研究助成論文集、37、30-38。
- ・手島聖子、原口雅浩。(2003)。乳幼児健康診査を通した育児支援：育児ストレス尺度の開発。福岡県立大学看護学部紀要、1(1)、15-27。
- ・手島聖子、原口雅浩。(2004)。育児不安の構造。久留米大学心理学研究、3、83-88。

5. 所属学会

日本公衆衛生学会、日本看護科学学会、日本地域看護学会、日本心理学会、日本発達心理学会、日本公衆衛生看護学会、日本子ども虐待防止学会

6. 担当授業科目

公衆衛生看護学Ⅰ・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ・1単位・3年・後期、卒業研究・2単位・4年・通年、公衆衛生看護学Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅰ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅱ・2単位・4年・前期、精神看護学実習・2単位・3・4年生・通年、統合実習・2単位・4年・通年、公衆衛生看護学実習Ⅰ・1単位・4年・前期、組織協働活動論・2単位・4年・後期、公衆衛生看護管理論・2単位・4年・後期、公衆衛生看護学実習Ⅱ・4単位・4年・後期

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	道園 亜希
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学大学院看護学研究科にて修士を取得。

主な研究分野は、幼少期・思春期における性の健康に関する研究（助産学分野）である。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

道園亜希、古田祐子、佐藤繭子、石村美由紀、小学4～6年生の子どもを持つ保護者が家庭で行った就学前後の性教育の実態、2019年、福岡県立大学紀要、16、P63～71

②その他最近の業績

〈学会発表〉

道園亜希、古田祐子、石村美由紀、佐藤繭子、小学生の子どもをもつ親の家庭での性教育の実態、第32回日本助産学会学術集会、横浜、2018年

③過去の主要業績

道園亜希、古田祐子、佐藤繭子、石村美由紀、小学4～6年生の子どもを持つ保護者が家庭で行った就学前後の性教育の実態、2019年、福岡県立大学紀要、16、P63～71

5. 所属学会

日本助産学会、母性衛生学会

6. 担当授業科目（補助）

《看護学部女性看護学》

女性看護学・2単位・2年・後期、女性看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期、女性看護学演習Ⅱ・1単位・3年後期～4年前期、女性看護学実習・2単位・3年後期～4年前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年

《助産学》

基礎助産学特論・2単位・1年(補助)、基礎助産学演習・2単位・1年(補助)、助産実践学Ⅱ・4単位・1～2年、ホリスティック助産学演習・2単位・1～2年、助産学実習Ⅴ(マザークラス実習)・2単位・2年

7. 社会貢献活動

中学生への性教育講演会（今年度は1回）

8. 学外講義・講演

幸袋中学校での性教育講演会

9. 附属研究所の活動等

なし

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	中本 亮
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

精神科病院で看護師として、その後2年課程看護専門学校、3年課程専門学校で看護学生の教育に従事した。2015年福岡県立大学大学院看護学研究科看護教育学を修了し、2016年に精神看護学領域に着任。

専門分野は看護教育学、精神看護学で現在は主に精神看護学実習教育に携わっている。学習上の課題に対して学生との対話を通して、学生が「わかる」経験を積み重ねていき、「もっと知りたい」という意欲を高められるよう支援していきたいと考えている。

現在取り組んでいる研究テーマについて、看護教育学分野では学習者の主体的学習行動を促進するための方略に関する研究を行っている。精神看護学分野では、推論の規範的モデルであるベイズ推定をもとに妄想の発生要因について検討している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・中本亮, 増満誠, 別城佐和子, 佐多愛子, 生駒千恵, 松浦賢長. 2型糖尿病患者を対象としたうつ状態とQOLとの相関分析, 福岡県立大学看護学研究紀要, 16, 55-61.2019年3月.
- ・石田智恵美, 中本亮. アクティブラーニングによる演習と看護学生の思考に関する研究, 福岡県立大学看護学研究紀要, 2020年3月.

<その他執筆>

- ・第107回看護師国家試験「精神看護学」解説(分担). メディカ出版. 2018年3月
- ・第108回看護師国家試験「精神看護学」解説(分担). メディカ出版. 2019年3月
- ・第109回看護師国家試験「精神看護学」解説(分担). メディカ出版. 2020年3月

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・池田智, 松枝美智子, 増満誠, 宮崎初, 中本亮, 畑部由起子, 入江正光. 各都道府県における精神科病院の平均在院日数、病床数と精神保健医療職者数の関連. 日本精神保健学会第28回学術集会・総会 東京. 2018年6月
- ・松枝美智子, 池田智, 増満誠, 宮崎初, 中本亮, 畑辺由起子, 入江正光. 自殺率と各都道府県の精神保健医療に携わる看護師をはじめとするゼネラリスト数との関連. 日本精神保健学会第28回学術集会・総会 東京. 2018年6月
- ・松枝美智子, 池田智, 増満誠, 宮崎初, 中本亮, 畑辺由起子, 入江正光. 各都道府県の自殺率と各精神保健医療に携わるリソースナース数の関連. 日本精神保健学会第28回学術集会・総会 東京. 2018年6月
- ・石田智恵美, 中本亮. アクティブラーニングによる看護学生の思考を促す演習の開発. 日本教育工学会第34回全国大会 宮城, 2018年9月
- ・中本亮, 宮崎千尋, 井田真実. 実習指導者の研修転移を目指した研修プログラム開発のための文献研究. 日本看護科学学会第39回学術集会 石川, 2019年11月.
- ・松枝美智子, 宮崎初, 増満誠, 中本亮, 池田智, 山本智之. 精神医療の質評価と精神医療福祉人材数との関連に関する日本の研究の現状と今後の課題. 日本看護科学学会第39回学術集会 石川, 2019年11月.
- ・石田智恵美, 中本亮. アクティブラーニングによる演習と知識の活用に関する研究. 日本教育工学会2020年春季国大会 長野, 2020年2月.
- ・Michiko Matsueda, Makoto Masumitsu, Ryo Nakamoto, Hajime Miyazaki, Satoshi Ikeda, Tomoyuki Yamamoto, Kaori Onitsuka, Hidekazu Hongo. Relationship between average of psychiatric hospital stay and number of Advanced Practice Nurses (APNs) worldwide:

Literature revue. Poster Session4,Nursing Policy,P2-251,The 6th International Nursing Research conference of World Academy Nursing Science, Osaka,2020.2.29.

- ・増満誠, 中本亮, 生駒千恵, 別城佐和子, 佐多愛子, 松浦賢長, 劉宇, 赤司千波.2型糖尿病患者におけるうつ傾向とQOLとの関連に関する日中比較研究.日本保健福祉学会第33回学術集会(オンライン開催).2020年10月..
- ・松枝美智子, 増満誠, 安保寛明, 高橋葉子, 後藤優子, 高野歩, 光永憲香, 稲垣晃子, 安田妙子, 中本亮, 児玉ゆう子, 中島充代, 池田智, 恵良友彦, 清田由紀子, 宮崎初, 津田絵美.感染症の時代に医療崩壊を防ぐために精神看護の専門家として何ができるのか, 何をなすべきなのか.日本看護科学学会第40回学術集会(オンライン開催).2020年12月.
- ・増満誠, 松枝美智子, 中本亮, 恵良友彦, 猪狩崇, 中島充代, 池田智, 安藤愛, 脇崎裕子, 清田由紀子, 児玉ゆう子, 津田絵美.参加者其々にとってのリカバリー・カレッジの意味の探求.日本看護科学学会第40回学術集会(オンライン開催).2020年12月.
- ・松枝美智子, 増満誠, 中本亮, 池田智, 宮崎初.各医療機関の精神科平均在院日数と看護のゼネラリスト数との関連.日本看護科学学会第40回学術集会(オンライン開催).2020年12月.
- ・石田智恵美, 中本亮. e-learning を活用した知識の変容に関する研究.日本教育工学会 2021年春季全国大会(オンライン開催).2021年3月.

③過去の主要業績

<論文>

- ・中本亮, 石田智恵美. 自己調整学習を導入した授業を経験した学生の自己効力感の特徴 — 自由記述をコレスポネンス分析して —, 福岡県立大学看護学研究紀要, 13, 67-74. 2016年3月
- ・増満 誠, 松村智大, 中本亮, 馬場保子, 谷多江子, 小浜さつき, 石本祥子, 姫野深雪, 佐藤亜紀. 看護大学生の所属大学を超えた交流の効果の検討, 福岡県立大学看護学研究紀要, 13, 51-56, 2016年3月

<学会発表>

- ・中本亮, 石田智恵美. 自己調整学習を導入した精神看護学の授業効果. 日本教育工学会 第31回全国大会, 東京. 2015年9月
- ・石田智恵美, 中本亮. 看護学生の知識の構造化を目指した講義・演習・実習連携授業に関する研究. 日本教育工学会 第31回全国大会 東京, 2015年9月

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業(基金分)(基盤研究(C))31年度~33年度 交付金額3,120千円

研究代表者: 石田智恵美 研究課題: 看護学生の知識の変容を目指したアクティブラーニングの構築(研究分担者)

4. 受賞

- ・「優秀演題発表賞」・増満誠, 中本亮, 生駒千恵, 別城佐和子, 佐多愛子, 松浦賢長, 劉宇, 赤司千波.2型糖尿病患者におけるうつ傾向とQOLとの関連に関する日中比較研究.日本保健福祉学会第33回学術集会(オンライン開催).2020年10月

5. 所属学会

日本教育工学会, 日本看護科学学会, 日本精神保健看護学会, PAS セルフケアセラピー看護学会

6. 担当授業科目

<学部>

精神看護学概論・1単位・2年・前期、精神看護学・2単位・2年・後期、看護倫理学1単位2年・前期、精神看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、精神看護学演習Ⅱ・1単位・3年・通年、精神看護学実習・2単位・3~4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

- ・PASセルフケアセラピィ看護学会第4回大会大会事務局

8. 学外講義・講演

- ・独立行政法人労働者健康安全機構九州労災病院門司メディカルセンター「看護倫理」2021年1月12日（オンライン開催）.

9. 附属研究所の活動等

- ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

研究内容

1. 学習者の主体的な学修行動を促進するための方略に関する研究
2. ベイズ推定を基盤とした妄想の発生要因の検討に関する研究

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	平塚 淳子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

病院の看護師として勤務した後、平成 27 年に福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を修了し、平成 29 年より看護学部の助手として着任いたしました。

主な研究分野は、健康管理行動に関する研究、看護管理に関する研究、在宅看護についてです。

健康管理行動の研究では、高齢者が住み慣れた地域で、その人らしい生活を送ることができるように、地域における高齢者のサルコペニアに関する研究を行っています。

看護管理に関する研究では、病院に勤務する病棟看護師の、医療安全風土および個々の看護師が講じる患者安全行動に影響する要因についての調査を行っています。よりよい医療安全風土の醸成と安全な看護実践を行うための支援の方法について、臨床で活躍されている看護管理者の方と共同で検討していきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈学術論文〉

- ・平塚淳子. 医療安全風土と医療エラーに関する海外文献レビュー. (2019). 福岡県立大学看護学研究紀要. 第 16 巻, p103-109.
- ・平塚淳子. 倫理的風土と職務満足に関する海外文献レビュー. (2018) 福岡県立大学看護学研究紀要. 第 15 巻, p91-96.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ Junko hiratsuka, Makoto masumitsu, Chikako kiyohara. Examination of factors influencing medical safety climate among ward nurses. (2020) . The 6 th international nursing research conference of world academy of nursing science. Osaka.
- ・平塚淳子, 杉本みぎわ, 榎直美, 吉田恭子, 山下清香, 檜橋明子, 中村美穂子, 尾形由起子. A 県における訪問看護師の同行訪問研修と看護師間における連携に関する研究. (2018) . 日本看護研究学会第 23 回九州・沖縄地方会学術集会. 長崎.
- ・吉田恭子, 平塚淳子. 小規模多機能型居宅介護職員の看取り介護経験と地域連携との関連. (2016) . 第 35 回日本看護科学学会・学術集会, 東京.
- ・平塚淳子, 原田直樹, 松浦賢長. 保健信念モデルと大学生女子の子宮頸がん検診受診行動との関連. (2016) . 第 35 回日本思春期学会学術集会, 東京.

5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本看護倫理学会, 日本保健福祉学会.

6. 担当授業科目

専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年, 在宅看護学概論・1 単位・2 年・前期, 在宅看護学・2 単位・2 年・後期, 在宅看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期, 在宅看護学演習Ⅱ・1 単位・3 年生・後期～4 年・前期, 在宅看護学実習・2 単位・3 年・後期～4 年・前期, 統合実習・2 単位・4 年.

7. 社会貢献活動

福岡県立大学大学院看護学研究科ナーシングネットワーク交流会企画委員

8. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	廣瀬 理絵
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2009年3月、福岡県立大学大学院修士課程修了し、12月にがん看護専門看護師を取得しました。その後、超高齢社会である筑豊地域にある医療機関で5年間、がん看護専門看護師として活動してきましたが、「がん」と共に生きる方だけでなく、「若い」を生きる人、高齢者を対象としたエンド・オブ・ライフ・ケアの必要性和困難さを痛感するとともに、ケアの喜びを実感してきました。高齢者が尊厳をもって生を全うするためには、家族や医療者の代理意思決定だけでなく、たとえ認知機能が低下していても、高齢者自身を尊重し、安心して意志を表現できるように過程を支えることが必要です。

今後も若いや病をもちながらも高齢者がその人らしく生活できるためにどのような支援が必要であるか、高齢者を対象としたエンド・オブ・ライフに関する研究に取り組んでいきたいと考えています。

2. 研究業績

②その他最近の業績

- ・ 廣瀬理絵, 仲村亜依子, 井原資子, 渡邊智子 (2018). 急性期病院における看護師を対象とした倫理教育方法の検討, 日本臨床倫理学会 第6回年次大会, 東京.
- ・ 榎直美, 小野順子, 中村美穂子, 廣瀬理絵, 山下清香, 尾形由起子 (2019). 在宅医療推進における訪問看護師の連携に関する研究—連携強化事業を通して(第1報)—, 第78日本公衆衛生学会, 高知.
- ・ 榎直美, 雪松和子, 江上史子, 廣瀬理絵 (2020). 認知症カフェ開設に向けた人材育成の取り組みの効果について, 第40回日本看護科学学会.

③過去の主要業績

- ・ 廣瀬理絵. (2009). 乳がん術前後化学療法中の患者に対する心理・社会的グループ療法の有効性・前向きな療養態度を獲得していく契機とその要因, 福岡県立大学看護学研究科修士論文.
- ・ 廣瀬理絵, 渡邊智子, 小島リヨ子, 浦田真澄美, 藤本弘美. (2010). 一般病棟における緩和ケアに携わるリンクナースのサポートシステムづくり—リンクナースへの教育と啓発にむけての現状分析, 第40回日本看護学会論文集:看護管理, p51-53.
- ・ 廣瀬理絵, 渡邊智子, 藤本弘美, 安永一美, 伊福セツ子, 小島リヨ子. (2010). リンクナースの教育と啓蒙に向けたサポートシステムの構築, 看護展望, Vol35 (9), p0842-0847.
- ・ 廣瀬理絵. (2010). がん看護専門看護師としての活動, 福岡県病院協会, ほすびたる (No. 630), p4-6.
- ・ 廣瀬理絵, 渡邊智子. (2012). 終末期がん患者の意思決定への支援—意思決定内容とプロセスからの考察, 第26回日本がん看護学会学術集会, 島根.
- ・ 廣瀬理絵, 伊福セツ子, 藤本弘美, 渡邊智子. (2012). 医療チームとしての課題～がん相談内容からの分析～, 日本看護倫理学会 第5回年次大会, 東京.
- ・ 渡邊智子, 御手洗裕子, 生駒千恵, 石本佐和子, 廣瀬理絵, 江上史子, 出口敏江, 藤澤美奈, 松枝美智子. (2016). M-Testを活用した高齢者健康サロンでの看護師ヘルス・ボランティア活動の可能性, 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京.
- ・ 森崎直子, 工藤昌子, 廣瀬理絵. (2016). 在宅要介護高齢者の口腔関連QOLと栄養状態, 日本老年看護学会第21回学術集会, 埼玉.
- ・ 廣瀬理絵, 渡邊智子 (2017). がん看護専門看護師が行う高齢がん患者の意思決定支援, 日本看護科学学会第37回学術集会, 仙台.

5. 所属学会

一般社団法人日本がん看護学会, 特定非営利活動法人日本緩和医療学会, 日本 CNS 看護学会, 日本看護倫理学会, 日本老年看護学会, 日本看護科学学会, 日本臨床倫理学会, 日本公衆衛生学会, 日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

老年看護学概論・1 単位・2 年・前期、老年看護学・2 単位・2 年・後期、老年看護学実習 I・1 単位・2 年・通年、老年看護学演習 I・1 単位・2 年・前期、老年看護学演習 II・1 単位・3~4 年・後期~前期、老年看護学実習 II・3 単位・3~4 年・後期~前期、統合実習・2 単位・4 年・前期・前期、卒業研究・2 単位・4 年、チーム医療論・1 単位・2 年・後期

〈大学院〉

コンサルテーション論・2 単位・修士 1 年・前期

7. 社会貢献活動

- ・一般社団法人福岡県社会保険医療協会社会保険病院 がん看護専門看護師活動
- ・飯塚市立病院 がん看護専門看護師活動
- ・臨床倫理認定士 (臨床倫理アドバイザー)
- ・介護認定審査委員 (2 回/月)
- ・地域包括ケアシステム推進協議会専門部会員

8. 学外講義・講演

- ・「看護研究指導」, 飯塚市立病院 講師, 2020 年 7 月, 8 月, 10 月, 12 月
- ・「看護研究講義」, 飯塚市立病院 講師, 2021 年 1 月
- ・「看護研究発表会」, 一般社団法人福岡県社会保険医療協会社会保険病院 講評, 2021 年 2 月
- ・「看護研究発表会」, 飯塚市立病院 講評, 2021 年 3 月

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	松山 美幸
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

清潔援助や罨法による援助技術、月経随伴症状に関する研究を主な研究分野としている。罨法については、温罨法を貼用した際の人体の生理学的な反応を、体温変化や自律神経活性の変化等を測定し、明らかにする試みを行っている。現在は、月経関連片頭痛に関する実態調査と月経関連片頭痛に対するセルフケアのあり方やその支援についての研究を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ Influence of the menstrual cycle on sleep parameters and autonomic nervous response. Tanaka M., Nagasaka M., Egami C., Kondo M., Yamashita K., Sakakibara Y., Journal of Ergonomic Technology. 18(1), 8-18, 2018.

3. 外部研究資金

文部科学省学術研究助成基金（科研費 若手研究），月経関連片頭痛に対するケアの検討，令和 2～5 年度、研究代表者

文部科学省学術研究助成基金（科研費 基盤研究（C））更年期女性への睡眠を促すケア導入と日常生活の質改善プログラム，令和元年～令和 4 年度，分担研究者（研究代表者：田中美智子）

5. 所属学会

日本看護技術学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

<学部>

生態機能看護学Ⅰ・2 単位・前期、生態機能看護学Ⅱ・2 単位・後期、フィジカルアセスメント論・1 単位・1 年・前期、基礎看護実習Ⅰ・1 単位・1 年・前期、生態・病態看護学実験・1 単位・2 年・前期、基礎看護実習Ⅱ・2 単位・2 年・前期、専門看護学ゼミ・1 単位・3 年・通年、卒業研究・1 単位・4 年生・通年、統合実習・2 単位・4 年生、生態機能看護学Ⅲ・2 単位・4 年・後期

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	村田 和子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護基礎教育終了後、総合病院、大学病院で看護師としてICU, CCU, 心臓外科病棟で勤務しました。その後、大分大学大学院医学系研究科看護学専攻を修了し、総合病院で院内教育、新人教育などの現任教育に携わりました。看護師のキャリア形成や循環器疾患を抱える患者の看護に興味をもっています。当大学には2018年に着任し、成人看護学の教育に携わっています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・政時和美, 笹山万紗代, 大場美緒, 村田和子, A地区における看護師のリンパ浮腫ケアを実践するために必要な教育, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第16巻, 2019
- ・村田和子, 福田和美, 成人看護学におけるシミュレーション教育の文献検討, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第17巻, 2020

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・政時和美, 笹山万紗代, 村田和子, 大場美緒, A地区におけるリンパ浮腫患者のケアに関する実態調査, 第18回日本看護科学学会・学術集会, 愛媛, 2018年
- ・村田和子, 福田和美, 成人看護学におけるシミュレーション教育の文献検討, 日本看護研究学会第45回学術集会, 大阪, 2019年
- ・村田和子, 福田和美, 看護基礎教育における患者教育に関する文献検討, 日本看護研究学会第46回学術集会, Web開催, 2020年

③過去の主要業績

- ・小田正枝, 下舞紀美代, 安藤敬子, 中西順子, 村田和子, 古川秀敏, 古庄夏香他, 『大特集 看護計画まで見せます! 実習でよく挙げる看護診断ベスト10』, プチナース, 第18巻, 第13号, 2009年, 照林社
- ・宇井進, 中川晋, 樺山幸彦, 広谷隆, 田畑稔, 安藤恵美子, 川渕いづみ, 相良恭子, 星まき子, 菊川智恵, 伊勢田礼子, 村田和子, 中島千夏代, 立石由紀子, 『心疾患テクニカルチェックークリニカルパスにみるナーシングケア』, 第I章(4)「大動脈弁膜症」, 第I章(8)「心不全」, 第I章(9)「感染性心内膜炎」, 第III章(3)「IABP」を担当, メディカ出版

5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

医療安全・1単位・2年・前期, 成人急性看護学・2単位・2年・後期, 成人慢性看護学・2単位・2年・後期, 成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期, 成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 成人急性看護学実習・3単位・3~4年・後期~前期, 成人慢性看護学実習・3単位・3~4年・後期~前期, 統合実習・2単位・4年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

8. 出前講義

- ・あなたの勇気が命を救う! やってみよう救急処置, 福岡雙葉高等学校

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	大場 美緒
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

産業医科大学産業保健学部看護学科卒業。熊本大学医療技術短期大学部助産学特別専攻過程修了。看護師として内科系の臨床で勤務後、看護小規模多機能型居宅介護事業所に勤務。2018年に本学に着任し、成人看護学に携わっている。

臨床では、難病や脳梗塞後の麻痺などで介助が必要となった患者が、住み慣れた自宅に戻ることの困難さを感じていた。そのため、慢性疾患患者が在宅復帰する際に必要となる支援や他職種との連携について探求していきたいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

政時和美, 笹山万紗代, 大場美緒, 村田和子. A地区における看護師のリンパ浮腫ケアを実践するために必要な教育. 福岡県立大学看護学研究紀要, 16, 2019.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

政時和美, 村田和子, 笹山万紗代, 大場美緒. A地区におけるリンパ浮腫患者のケアに関する実態調査. 第38回日本看護科学学会学術集会. 愛媛. 2018

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護学教育学会

6. 担当科目（補助）

成人看護学概論・1単位・2年・前期、成人急性看護学・2単位・2年・後期、成人慢性看護学・2単位・2年・後期、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、成人慢性看護学実習・3単位・3～4年・後期～前期、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	笹山 万紗代
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として手術室・SICUでの臨床経験を経て、2017年より本学に着任し、成人看護学領域に携わっている。技術演習では、学生が患者の状態をイメージ化し、臨床の看護技術を習得できるように関わっている。

研究では、手術室における新人看護師教育についての方法や有効性などを明らかにしていきたいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・中井裕子、笹山万紗代、政時和美、松井聡子：手術室見学実習における看護学生の学び、福岡県立大学看護学研究紀要 第17巻,2020
- ・政時和美、笹山万紗代、大場美緒、村田和子：A地区における看護師のリンパ浮腫ケアを実践するために必要な教育、福岡県立大学看護学研究紀要 第16巻,2019
- ・松井聡子、清水夏子、永尾寛子、笹山万紗代、政時和美：実習施設を就職先として意識するきっかけとなった看護師の魅力的な態度、福岡県立大学看護学研究紀要 第16巻,2019
- ・政時和美、大久保友樹、松井聡子、村田節子、笹山万紗代、中井裕子：看護学生の適正な救急車要請に関する知識と判断、福岡県立大学看護学研究紀要 第15巻,2018

②その他最近の業績

〈示説〉

- ・政時和美、中井裕子、笹山万紗代：病院前救護の実践と教育に関する課題、日本看護研究学会第46回学術集会、Web開催、2020
- ・笹山万紗代、中井裕子、政時和美、松井聡子：手術室見学実習における学生の学び、日本看護研究学会第45回学術集会、大阪,2019
- ・政時和美、笹山万紗代、大場美緒、村田和子：A地区におけるリンパ浮腫患者のケアに関する実態調査、第38回日本看護科学学会学術集会、愛媛,2018
- ・松井聡子、清水夏子、永尾寛子、笹山万紗代、政時和美：実習施設を就職先として意識するきっかけとなった看護師の魅力的な態度、日本看護研究学会第44回学術集会、熊本,2018

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本手術看護学会

6. 担当授業科目（補助）

成人看護学概論・1単位・2年・前期、成人急性看護学・2単位・2年・後期、成人慢性看護学・2単位・2年・後期、成人急性看護学成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、成人急性看護学実習・3単位・3年後期～4年前期、成人慢性看護学実習・3単位・3年後期～4年前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、統合実習・2単位・4年・通年など

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	田原 千晶
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として、小児病棟・GCUに勤務し、平成29年度より本学に着任する。

臨床では、急性期から慢性期、内科から外科に至るまで幅広い小児看護に携わり、医療の発展に伴い医療機器を使用した子供達が、在宅へと帰る場面を多く目にしてきた。子供が病院を退院し、自宅療養となる過程において、家族の負担・不安は測りしれないほど大きい。また、これまでの家族のライフスタイルにも大きな影響をもたらし得る。

そこで、障害や疾病を抱えた子供達やその家族の困っている現状や思いを把握し、支援体制や支援内容についての検討・構築を行い、これまでに私が関わってきた子供達や家族が在宅生活を安全に安心して行えるような一助となる研究に着手していきたいと考えている。

5. 所属学会

日本看護協会,

6. 担当授業科目 (補助)

子供学習支援論・1単位・1年・後期, 教育と社会・地域・1単位・1年・後期, 公衆衛生学・2単位・1年・後期, 健康科学・2単位・2年・後期, 養護概説・2単位・2年・後期, 基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年, 教育方法論・2単位・看護2年/人社3年・後期, 成人慢性看護学実習・3単位・3年・後期～前期, 小児看護学実習・2単位・3年・後期～前期, 卒業研究・2単位・4年・後期, 教職実践演習(養護教諭)・2単位・4年・後期,

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	中村 美穂子
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として、呼吸器内科病棟、緩和ケア病棟に勤務、その後 2015 年度より本学へ着任する。これまでの経験の中で、がんを患い、がんによる症状および治療に伴う副作用を持ちながら自宅で過ごす方、そして残された時間や最期の時を住み慣れた自宅で過ごしたいという患者家族の想いに触れてきた。しかし現実ではそのほとんどが病院での看取りとなり、患者家族の願いを叶えるためには、病院から在宅への移行支援及び地域における社会資源の充実や人材育成の必要性を感じている。がん、非がんに関わらず、院内外の看護師及び多職種による退院支援や意思決定支援における職種間の連携の促進をテーマに、地域包括ケアシステムの視点も合わせ探究していきたいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 榎橋明子, 中村美穂子, 小野順子, 山下清香, 手島聖子, 尾形由起子. 保健師の実践能力に対する公衆衛生看護学実習の効果—学生の自己評価に着目して—, 福岡県立大学看護学紀要, 18 巻, 27-35, 2020.
- ・ 山口のり子, 福岡洋子, 中村美穂子, 猪狩崇, 尾形由起子. 官民学協働による地域住民を含めた『ケア・カフェ』実践報告～多職種フォーカス・グループ・インタビューの結果より～, 福岡県立大学看護学紀要, 18 巻, 21-26, 2020.
- ・ 尾形由起子, 山下清香編, 山下清香, 中村美穂子. 第 5 章 演習から実習の展開, 地域包括ケアをすすめる公衆衛生看護学 演習・実習, クオリティケア, 2019.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 中村美穂子, 小野順子, 廣瀬理絵, 岩崎玲奈, 櫛直美, 尾形由起子. A 県における退院支援部門の実態及び退院支援・退院調整に関する意識調査—第一報—. 日本在宅ケア学会, 仙台, 2019 年
- ・ 櫛直美, 小野順子, 中村美穂子, 廣瀬理絵, 山下清香, 尾形由起子. 在宅医療推進における訪問看護師の連携に関する研究 連携強化事業を通して(第 1 報). 第 77 回日本公衆衛生学会総会, 高知, 2019 年
- ・ 平塚淳子, 杉本みぎわ, 櫛直美, 吉田恭子, 山下清香, 榎橋明子, 中村美穂子, 尾形由起子. A 県における訪問看護師の同行訪問研修と看護師間における連携に関する研究. 日本看護研究学会第 23 回九州・沖縄地方会学術集会, 長崎, 2018 年
- ・ 杉本みぎわ, 櫛直美, 山下清香, 猪狩崇, 中村美穂子, 平塚淳子, 山本博美, 尾形由起子. A 県の訪問看護ステーション交流会事業を通して見えた連携のあり方と今後の課題. 日本看護研究学会第 23 回九州・沖縄地方会学術集会, 長崎, 2018 年

〈報告書〉

- ・ 尾形由起子, 櫛直美, 小野順子, 吉田恭子, 榎橋明子, 杉本みぎわ, 中村美穂子, 福岡県訪問看護ステーション連携強化事業報告書, 平成 30 年 3 月.

③過去の主要業績

- ・ 中村美穂子, 尾形由起子, 櫛直美, 小野順子, 榎橋明子, 杉本みぎわ, 吉田恭子, 猪毛尾和美, 馬場順子. 在宅療養継続のための連携に対する訪問看護師の意識調査—第一報—. 第 75 回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017 年
- ・ 櫛直美, 尾形由起子, 小野順子, 榎橋明子, 杉本みぎわ, 中村美穂子, 猪毛尾和美, 馬場順子, 吉田恭子. 訪問看護師の在宅医療推進のための多職種連携に関連する要因の検討—第二

報一. 第75回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017年

- ・ 檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 中村美穂子. 看護系大学保健師選択制学生の効果的な教育方法の検討. 日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017年

5. 所属学会

日本公衆衛生学会、日本看護研究学会、日本在宅ケア学会

6. 担当授業科目(補助)

〈学部〉

公衆衛生看護学Ⅰ・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、家族看護学・1単位・3年・前期、公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ・1単位・3年・後期、公衆衛生看護技術論Ⅰ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護学Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生アセスメント論Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護学実習Ⅰ・1単位・4年・前期、公衆衛生看護学Ⅲ・1単位・4年・後期、公衆衛生看護管理論・2単位・4年・後期、組織協働活動論・2単位・4年・後期、公衆衛生看護学実習Ⅱ・4単位・4年・後期、統合実習・2単位・4年・後期

9. 附属研究所の活動等

- ・ ケアカフェ田川 (在宅医療多職種研修会) : 年間4回開催

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	山口 馨子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

総合病院の内科系病棟と3年課程の看護専門学校の実験を経て2019年に本学に着任し、成人看護学に携わっています。授業リフレクションに関する研究を継続しており、演習や実習で学生と共に考え、様々な対象者や療養の場で、より良い看護を探究していきたいと考えています。

2. 研究業績

②その他最近の業績

- ・前田(山口)馨子、監修：目黒悟、永井睦子(2019)：授業デザイン・授業リフレクションの実際 No.7 基礎看護学における授業デザイン・授業リフレクション①～基礎・授業デザイン編～、看護展望、メヂカルフレンド社、vol.44 no.3、pp60-66.
- ・前田(山口)馨子、監修：目黒悟、永井睦子(2019)：授業デザイン・授業リフレクションの実際 No.8 基礎看護学における授業デザイン・授業リフレクション②～基礎・授業リフレクション編～、看護展望、メヂカルフレンド社、vol.44 no.5、pp68-78.
- ・前田(山口)馨子、監修：目黒悟、永井睦子(2020)：授業デザイン・授業リフレクションの実際 No.28 最終回 実り豊かな看護教育のために 看護展望、メヂカルフレンド社、vol.45 no.14、pp49.

③過去の主要業績

〈学会発表〉

- ・角折末樹、尾田嘉代子、山口馨子、陰山淑江、永井睦子、目黒悟、看護教員による成人看護学概論と老年看護学概論の授業リフレクションに関する研究—その1、日本看護学教育学会・第30回学術集会、オンライン開催、2020年
- ・尾田嘉代子、角折末樹、陰山淑江、山口馨子、永井睦子、目黒悟、看護教員による成人看護学概論と老年看護学概論の授業リフレクションに関する研究—その1、日本看護学教育学会・第30回学術集会、オンライン開催、2020年

5. 所属学会

日本看護学教育学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目(補助)

成人看護学概論・1単位・2年・前期、成人急性看護学・2単位・2年・後期、成人慢性看護学・2単位・2年・後期、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、成人慢性看護学実習・3単位・3年・後期～前期、統合実習・2単位・4年・通年など

7. 社会貢献活動

令和2年度長崎県実習指導者講習会 演習支援

看護学部/看護学科	職名	助手	氏名	吉田 麻美
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として、小児科病棟・NICU・障害児訪問保育現場での訪問看護で、退院を見据えた関わりや在宅生活支援に携わってきた。これまでの経験の中で、医療的ケアを必要とする子どもその家族の想いや生活に触れ、地域で生活するための支援不足を日々感じてきた。そのため、子どもやその家族が、住み慣れた地域であたりまえに日常生活を送り社会参加できるための支援について探究したいと考えている。

2. 研究業績

〈学会発表〉

- ・田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、道園亜希、宮城由美子「年長クラスの子どもの対象に“いのち”をテーマにした健康教育実施の効果～保護者へのアンケート調査からの検討～」第25回日本保育保健学会、2019年5月、神戸
- ・吉田麻美・吉川未桜・田中美樹：小児看護学実習における学生のインシデント 傾向の分析と課題。第20回九州・沖縄小児看護教育研究会。福岡。2019年
- ・田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・仲村彩・宮城由美子・柿木里香・松岡知美：外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプリパレーションツール。第27回日本外来小児科学会年次集会。津。2017年
- ・田中美樹・吉川未桜・青野広子・吉田麻美・仲村彩・宮城由美子・柿木里香：外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプリパレーションツール。第26回日本外来小児科学会年次集会。高松。2016年
- ・吉川未桜・青野広子・仲村彩・吉田麻美・田中美樹・宮城由美子：赤ちゃん先生プログラムを取り入れた小児看護学演習の意義と課題～参加したママ講師・トレーナーへのアンケートより～。第17回九州・沖縄小児看護教育研究会。沖縄。2016年

3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金（基盤研究C）研究協力者、「先天性心疾患の乳幼児・家族への包括的地域子育て支援に関する研究」、260万円、平成29年度～平成31年度。

5. 所属学会

日本看護研究学会、日本小児保健協会、九州・沖縄小児看護教育研究会

6. 担当授業科目（補助）

小児看護学概論・1単位・2年・前期、小児看護学・2単位・2年・後期、子どもの保健Ⅱ・1単位・2年・前期、小児看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、小児看護学演習Ⅱ・1単位・3年、小児看護学実習・2単位・3年・後期、統合実習（小児）・2単位・4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年

8. 学外講義・講演

- ・田中美樹・吉川未桜・佐藤繭子・吉田麻美、子どもの健康見守り隊、健康保育（年長）「いのちってすごい～みんなの誕生日のお話」。田川市中央幼稚園。2019年1月25日。田川市
- ・田中美樹・吉川未桜・吉田麻美、子どもの健康見守り隊、健康保育（年少～年長）。田川市中央幼稚園。2018年6月21日。田川市。
- ・田中美樹・吉川未桜・仲村彩・吉田麻美：保育看護 in 田川。田川郡保育士会学習会。「もしものときの対応の仕方～アレルギー検査について～」。2017年7月29日。田川市
- ・田中美樹・吉川未桜・仲村彩・吉田麻美：子どもの健康見守り隊：健康教育（年少～年長）。田川市立幼稚園。田川市。2017年6月21日

- 田中美樹・吉川未桜・仲村彩・吉田麻美：保育看護 in 田川. 田川郡保育士会学習会. 「もしものときの対応の仕方～アレルギー検査について～」. 2016年7月30日. 田川市
- 田中美樹・吉川未桜・仲村彩・吉田麻美：子どもの健康見守り隊：健康教育（年少～年長）. 田川市立幼稚園. 田川市. 2016年6月22日

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部/看護学科	職名	助手	氏名	雪松 和子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

急性期病院の整形外科・腫瘍内科で勤務した後、3年課程の看護専門学校の経験を経て、2020年に着任しました。臨床ではあらゆる健康レベルの高齢者とかかわる中で、介護予防から看取りまでできる地域の居場所の必要性を感じていました。そこで、介護保険制度にはないインフォーマルなサービスを活用した居場所づくりについての研究に着手したいと考えています。そして、高齢者が自分らしい暮らしを最後まで送れるよう、もてる力を引きだす支援を目指します。

2. 研究業績

②その他最近の業績

〈紙表〉

- ・ 楳直美、雪松和子、江上史子、廣瀬理絵：認知症カフェ開設に向けた人材育成の取り組みの効果について、日本看護科学学会学術集会、2020年

5. 所属学会

日本老年看護学会、日本看護科学学会

6. 担当授業科目（補助）

老年看護学概論・1単位・2年・前期、老年看護学・2単位・2年・後期、老年看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、老年看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・後期～前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、老年看護学実習Ⅰ・1単位・2年・前期～後期、老年看護学実習Ⅱ・3単位・3～4年・後期～前期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員